



ERINA REPORT

Economic Research Institute for Northeast Asia

PLUS

特集:コロナ禍を通して見たロシア経済の特徴

Special Feature: The Russian Economy through the Prism of the COVID-19 Pandemic

■危機下におけるロシアの国家-企業間関係

—新型コロナ危機と政府の基幹企業支援策を中心に— 安達祐子

State Support for "System-forming Enterprises" during Economic Crises under the Putin Administration (Summary) ADACHI Yuko

■ロシアにおける新型コロナウイルス感染拡大と外国人労働者 堀江典生

COVID-19 Pandemic and Migrant Workers in Russia (Summary) HORIE Norio

■ロシアにおける経済活動と新型コロナウイルス感染拡大 岩崎一郎

Economic Activities and COVID-19 Pandemic in Russia (Summary) IWASAKI Ichiro

■コロナ禍に対峙する極東経済特区:企業の入居と退出の現状 志田仁完

Russian Far East Special Economic Zones in the Face of the COVID-19 Pandemic:

Resident Companies Moving In and Out (Summary) SHIDA Yoshisada

2021

OCTOBER

No. 162

本誌の目指すもの

ERINA REPORTは135号よりERINA REPORT（PLUS）として、現実の経済交流という視点を取り入れた新たな編集形態をとり、多角的視点から北東アジア経済に切り込む総合的な学術雑誌となりました。本誌が目指すのは、北東アジア経済に関する独自性の高い学術論文に加えて、この地域における各国の最新の政策動向、実態に肉薄した現地調査レポートや有識者の視点などを掲載することで、理論と現実を結合させた総合的な情報を提供するとともに、北東アジア研究に質の高い研究素材を提供していくことです。

目 次

特集：コロナ禍を通して見たロシア経済の特徴

Special Feature: The Russian Economy through the Prism of the COVID-19 Pandemic

■特集にあたって	1
ERINA 調査研究部部長代理・主任研究員 志田仁完	
On the Special Feature	2
SHIDA Yoshisada, Deputy Director and Senior Research Fellow, Research Division, ERINA	
■危機下におけるロシアの国家-企業間関係 —新型コロナ危機と政府の基幹企業支援策を中心に—	3
上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授・ERINA 共同研究員 安達祐子	
State Support for “System-forming Enterprises” during Economic Crises under the Putin Administration (Summary)	10
ADACHI Yuko, Professor, Graduate School of Global Studies, Sophia University Collaborative Researcher, ERINA	
■ロシアにおける新型コロナウイルス感染拡大と外国人労働者	11
富山大学極東地域研究センター教授・ERINA 共同研究員 堀江典生	
COVID-19 Pandemic and Migrant Workers in Russia (Summary)	21
HORIE Norio, Professor, Center for Far Eastern Studies, University of Toyama Collaborative Researcher, ERINA	
■ロシアにおける経済活動と新型コロナウイルス感染拡大	22
一橋大学経済研究所教授・ERINA 共同研究員 岩崎一郎	
Economic Activities and COVID-19 Pandemic in Russia (Summary)	34
IWASAKI Ichiro, Professor, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University Collaborative Researcher, ERINA	
■コロナ禍に対峙する極東経済特区：企業の入居と退出の現状	35
ERINA 調査研究部部長代理・主任研究員 志田仁完	
Russian Far East Special Economic Zones in the Face of the COVID-19 Pandemic: Resident Companies Moving In and Out (Summary)	41
SHIDA Yoshisada, Deputy Director and Senior Research Fellow, Research Division, ERINA	

■インタビュー

◎「地域に根ざした中小企業の発展戦略 —不連続性への挑戦—」 フジコーポレーション株式会社代表取締役 藤井大介氏に聞く	42
--	----



■イベント

◎国際人材フェア・にいがた2022開催報告 45
ERINA 経済交流部経済交流推進員 蔡聖錫

◎ERINA Web セミナー「ウィズコロナ下の経済見通し ―世界・日本・新潟―」 49
株式会社三菱総合研究所政策・経済センター研究員 田中康就
ERINA 調査研究部研究主任 李春霞
一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター主管研究員 近由夏

■活動報告

◎インターンシップ報告 59
国際大学国際関係学研究科 バラリ・ルデュラキー

■海外ビジネス情報 61

■列島ビジネス前線 69

■北東アジア動向分析 72

■研究所だより 94



特集：コロナ禍を通して見たロシア経済の特徴

ERINA 調査研究部部長代理・主任研究員

志田仁完

新型コロナウイルス感染症の発生以来、ロシアは世界で最も深刻にその影響を受け続けている国の一つである。2021年9月末現在、感染者数は750万人、死亡者数は20万人を超え、「超過」死亡者数は60万人を超えるという推計もある。2021年夏以降、感染拡大は第三波に突入し、1日あたりの新規感染者数が2万人を超える状況が続いている。また、1日あたりの死亡者数を見ると、700人を超える状況が約3カ月にわたって続き、コロナ危機の発生以来、最も深刻な状況にある。ロシア政府は、感染予防対策として国産ワクチンの開発と国民へのワクチン接種を進めているが、ワクチン生産の遅れや国民の不信を背景に遅々として進んでいない。

このようなさきわめて深刻な状況と予防接種に対する積極的な姿勢とは裏腹に、ロシアではコロナ禍初期を除いて全国的な制限措置が実施されていないという矛盾した状況が生じている。制限措置の回避は、さらなるコロナ死を生み出す。このことから、ロシア政府は経済を優先し、救命を後回しにしているとも理解できる。他方で、国民も制限措置を支持しないばかりか、ワクチン接種を回避して、自身の生存をリスクにさらしているように見える。このように、コロナ禍はロシアの経済、社会、国家と人々との関係を浮き彫りにしている。

この現状を踏まえて、本特集号は、コロ

ナ禍を通してロシア経済の特徴はどのように理解できるか、コロナ禍がロシア経済にどのような影響を与えているか、について多面的に議論した4本の論文を収録した。

1本目の論文、安達祐子・上智大学教授による「危機下におけるロシアの国家-企業間関係—新型コロナ危機と政府の基幹企業支援策を中心に—」は、ロシアの国家主導型の経済に注目している。ロシアでは、非常事態ともいえる経済危機に際して、政府として支援すべき企業のリストが作成される。このリストには、ロシア経済を支えるような重要性を有する「基幹企業」が含まれる。安達論文は、この「基幹企業」リストづくりを解説するとともに、今次コロナ禍と過去の危機の際に作成されたリストとを比較分析することで、プーチン時代における国家と企業の間関係を明らかにしている。

2本目の論文、堀江典生・富山大学極東地域研究センター教授による「ロシアにおける新型コロナウイルス感染拡大と外国人労働者」は、ロシアが直面した労働力不足問題を分析している。コロナ感染拡大と防疫上の理由による陸上国境の閉鎖は、近隣諸国からの外国人労働力の供給を途絶し、ロシアの産業に大きなダメージを与えている。また、ロシアにいる多くの外国人労働者を滞留させ、不法移民化させる状況を生み出した。本論文は、中国人労働力に依存するロシア極東の大豆生産の詳

細についても紹介しながら、コロナ禍を通して外国人労働力に依存するロシア経済の構造的な問題の深刻さを議論するとともに、そこから教訓を導こうとする内容となっている。

3本目の論文、岩崎一郎・一橋大学経済研究所教授による「ロシアにおける経済活動と新型コロナウイルス感染拡大」は、日本を含め、多くの国では感染拡大に過敏に反応し、制限措置が実施されているが、ロシアはそのような選択をしなかったことに注目し、このことを感染症拡大メカニズムの解明の貴重な機会ととらえ、どのような経済活動の維持がどのように感染拡大につながるか、ということについて連邦構成主体レベルのパネルデータを用いて、実証的に分析している。本論文の分析結果は、一般市民をより多く巻き込むような経済活動ほど感染拡大につながるという政策的示唆を導き出している。

最後に、拙稿「コロナ禍に対峙する極東経済特区:企業の入居と退出の現状」は、コロナ禍に直面した極東経済特区の現状を把握しようとする内容になっている。企業の財務データ、法人登記、特区入居企業台帳などのマイクロデータを用いながら、極東の経済特区を活用しようとする企業に対してコロナショックがどのように影響しているかを議論している。

On the Special Feature : The Russian Economy through the Prism of the COVID-19 Pandemic

SHIDA Yoshisada

Deputy Director and Senior Research Fellow, Research Division, ERINA

As of September 2021, with 7.5 million cases and a death toll exceeding two hundred thousand, Russia ranks fifth globally in the severity of the pandemic outbreak. The infection-related excess death is estimated to exceed six hundred thousand people. Since the summer of 2021, Russia has entered the third wave of the pandemic, which can be considered most serious since the outbreak, keeping up a pace of more than twenty thousand new infections and seven hundred death per day for about three months. The Russian government develops domestic vaccines and pursues the national vaccination program to prevent the pandemic. However, insufficient supply of vaccines coupled with public distrust has hampered the program and slowed vaccination rates. The Russian government is not opting for restriction measures such as lockdown, in contradiction to the fact that Russia is facing a very severe pandemic, and the government is active in promoting vaccination. This situation is surprising given the fact pandemic-related death will undoubtedly increase without restrictions. It implies that the Russian leadership may prioritize keeping the economy working without interruption over reducing the life-threatening risk. At the same time, the Russian people are firmly against the restrictive measures nor opting for vaccination, potentially putting themselves at risk of infections and death. This way, the pandemic etches the shapes of the Russian society, the state, its people, and their relationship. In light of this situation, this special issue contains four papers discussing various and fundamental aspects through the prism of the COVID-19 pandemic to deepen the understanding of the Russian economy.

In the first paper titled “State Support for ‘System-forming Enterprises’ during Economic Crises under the Putin Administration,” Yuko Adachi, professor at Sophia University, studies the government’s role in tackling the COVID-19 pandemic. The Russian government composes lists of companies which come under the state support in times of crises. The companies includ-

ed in the lists are ones with national importance. Professor Adachi describes the characteristics of the lists and compares the recent list for the pandemic shock with those of the past to clarify the current relationship between the state and companies under the Putin administration.

In the second paper titled “COVID-19 Pandemic and Migrant Workers in Russia,” Norio Horie, professor at the Center for Far Eastern Studies, University of Toyama, deals with the labor shortage issues during the pandemic. The quarantine of coronavirus infection necessitates the closure of land borders, which causes noticeable interruption to the foreign labor supply from neighboring countries on the one hand, and generates illegal immigrants that cannot return to their home countries on the other hand. Professor Horie, who sheds light on a Far East agriculture sector that is heavily dependent on Chinese workers, discusses how critical the foreign migrant workers are for the Russian economy and how the pandemic affects the economy.

In the third paper titled “Economic Activities and COVID-19 Pandemic in Russia,” Ichiro Iwasaki, professor at the Institute of Economic Research, Hitotsubashi University, examines how economic activities shape the spread of the COVID-19 infections. Russia is among the few countries that do not restrict economic activities for quarantine reasons, which provides a unique opportunity for empirically studying the relationship between them. Analysis using panel data at the level of the federal subject leads to the policy implication that economic activities that involve more of the general public result in the spread of infection.

In the final paper titled “Russian Far East Special Economic Zones in the Face of the COVID-19 Pandemic: Resident Companies Moving In and Out,” I describe the Far East special economic zones’ current situation during the pandemic. Descriptive analysis using firm-level data explains how the pandemic affects moving in and out of companies in the zones.

危機下におけるロシアの国家-企業間関係 —新型コロナ危機と政府の基幹企業支援策を中心に—

上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授・ERINA 共同研究員

安達祐子

要旨

本稿では、経済危機下におけるロシア政府による基幹企業支援について考察する。ロシア政府はこれまで、経済危機を経験した際に、「システム形成企業」と呼ばれる「基幹企業」を支援する目的で、「基幹企業リスト」を作成している。初めて基幹企業リストとなるものが登場したのは、2008年である。米国発世界的金融危機の影響を受け、ロシア経済が危機に直面した際に経済対策の一つとして発案されたのが、基幹企業リスト作成であった。次に、2014-2015年のウクライナ・クリミア危機にかかわる時にリストが改訂され、そして今回3度目となるのが、2020年に新型コロナ危機対策の一環として作成されたリストである。このような経済危機対応としての基幹企業リスト策は、プーチン政権下においてロシア政府の重要な企業支援の方法の一つとなっている。本稿では、これらの基幹企業リストを概観し、リスト作りが、プーチン時代のロシアの国家主導型の経済を反映していることを示す。

キーワード：経済危機、企業支援、国家と企業、ロシア

JEL Classification Codes: L51, P16, P26, P31

1. はじめに

世界各地で、新型コロナウイルスが経済・社会活動に大きな影響を与えている。ロシアも例外ではなく、ロシア政府は、新型コロナ危機経済対策を講じている。2020年3月に緊急対策案を発表し、4月以降、具体策を打ち出した。経緯と内容については、新井・志田(2021)に詳しい。

ロシア政府の経済対策の一つとして重要項目と位置づけられたのが、「システムを形成する企業」に対する支援策である。ロシアでは、ロシアの経済システムにとって重要で、ロシア語で「システムを形成する」(sistemooobrazuiushchii)と形容される企業組織が存在する。これは、ロシアの経済発展と成長に大きな影響を与え、その業界で最大の雇用提供と納税を行う「基幹企業」のことをいう¹。

ロシア政府はこれまで、経済危機を経験した際に、「システム形成企業」と呼ばれる「基幹企業」を支援する目的で、「システム形成企業(基幹企業)リスト」を作成している。この企業リストに掲載されて

いる「システム形成企業」が、危機下における政府支援の対象になるという趣旨の基幹企業リストである。なお本稿では、「基幹企業リスト」を「システム形成企業リスト」と同じ意味で使うこととする。

最初に「基幹企業リスト」なるものが登場したのは、2008年である。リーマン・ショックとして知られる米国発世界的金融危機の影響を受け、ロシア経済は危機に直面した。その際に経済対策の一つとして発案されたのが、システム形成企業リスト作成であった。当時「プーチンのリスト」とよばれた基幹企業リストには、300社ほど含まれた。その後、第2回目、2014-2015年のウクライナ・クリミア危機にかかわる時点で、200社弱の会社が基幹企業リストに入った。そして今回3度目となる、2020年に新型コロナ対策の一環として作成されたリストには、1000社を超える企業が含まれている。

本稿では、この「システム形成企業リスト」を軸に、危機下における政府による基幹企業支援について考察する。経済危機対応としての基幹企業リスト策は、ロシ

ア政府の重要な企業支援の方法の一つとなっている。しかしながら、基幹企業リストをめぐる動きについてはあまり研究が進んでいない。そもそも「システム形成企業リスト」とはどのようなものか。そしてこのリスト作りから見えてくることはなにか。本稿ではこれらの問いを検討する。

本稿の構成は以下の通りである。次節では、新型コロナ危機下の基幹企業リスト策を概観する。第3節は3つの項から成り、これまで3度の経済危機ごとに作成された3つの基幹企業リストについて解説する。第1に2008年のリスト、第2に2015年のリスト、そして第3に、過去2つのリストと比較しながら2020年のリストを検討する。第4節では、これらリスト作りから見えてくることはなにか、その含意を考察する。

2. 基幹企業支援：新型コロナ危機対策

新型コロナ危機の対策として、ロシア政府は2020年春、システム形成企業一覧表である基幹企業リストをつくり、基幹企

¹ ロシア連邦政府・新型コロナ危機対策ウェブサイト、“Podderzhka sistemooobrazuiushchikh predpriatii”: <https://stopkoronavirus.rf/what-to-do/business/> (2021年8月1日最終アクセス)。

業支援を講じることを決定した。2008年と2015年につづく、経済危機に対応するための基幹企業リスト政策である。

具体的な基幹企業支援については、政府が政策の詳細を公表している²。新型コロナウイルス危機における基幹企業に対する支援内容の柱は、企業の運転資金の補充と雇用維持のための譲許的融資である。雇用維持については、基幹企業に対し無利子ローンの政府保証が行われる。運転資金については、借入れへの特別補助として利子の一部援助と借入れ金額の50%に対する政府保証がある。ローンの半額に政府保証がつくこの措置は、基幹企業の子会社にも該当する。企業グループへの融資額は最大30億ルーブルで、金利は最大で5%とされている。また、ローンは最長36か月間付与され、優遇金利は最初の12か月に適用される³。

2020年版の基幹企業リストには、公表時1151社が含まれた。経緯をたどると、新型コロナウイルス対応の基幹企業リスト作成の指示が正式にあったのは2020年3月であった。基幹企業リストを承認する担当の政府委員会(「ロシア経済の持続発展性改善に関する政府委員会」)を率いる第一副首相のアンドレイ・ペロウソフが指示を出した(Adamchuk and Trifonova, 2020)。

3月末には同政府委員会が基幹企業リストを一旦は承認した。626社を含むリストであった。しかし、新型コロナウイルス危機の影響が大きいことから、支援を必要とする企業のリスト入りの基準について改めて見直すことになった(Ibid.)。

4月になってから同政府委員会がリスト入りに関する新たな基準を承認した(基準については後述する)。その結果、基幹企業数が1000社以上に拡大することになった。4月10日を目処に完成させる予定が若干遅れ、4月中旬にはプーチン大統領が、基幹企業リストには「ロシア経済にとって極めて重要」な企業が入るこ

とを強調し、リスト作成を完了するよう政府会合で作業を促した(Filipenok and Levinskaia, 2020)。リストが経済発展省のウェブサイトで公開されたのは4月末になってからであった。

基幹企業支援については、経済発展省のウェブサイトに関連情報が公開されている⁴。基幹企業リストの作成にあたり、2008年と2015年の過去2回とも、ロシア政府がリスト入り企業を検討し、統一的にリストを作成していた。今回はこの方式を改め、業界ごとのリストとした。当該企業を管轄する各関連省庁が業界ごとにリストを検討および調整し、最終的に政府委員会が承認するという形をとっている。

経済発展省が、各関連省庁によって業界別に調整する基幹企業リストをまとめて公表している(1prime.ru, 2020)⁵。当初の合計は1151社であったが、リストは随時見直すというスタンスである。2021年8月現在、2020年12月3日付のデータとして1392社が政府支援の対象としてリストアップされている。

リスト入りの基準は、業界ごとに個別に決定された業界指標にもとづいている⁶。いくつか例をあげると、航空業界の場合、基準指標は売上高と従業員数からなる。売上高が100億ルーブル以上で、従業員が1000人以上の企業がリスト入りの基準となる。管轄はロシア産業商務省である。おなじくロシア産業商務省管轄の自動車業界の場合、基準は売上高(200億ルーブル以上)と従業員(1000人以上)である。ロシア産業商務省管轄からもう一例挙げると、冶金の場合、基準は売上高が1000億ルーブル以上、および従業員が3500人以上となっており、基準値が航空や自動車部門よりも高く設定されている。ロシア経済を支える石油・天然ガス関連企業については以下の基準が設定されている。石油採掘業界の場合、基準は生産量が200万トンであり、天然ガス・ガスコンデンセートの場合、基準は生産量が15億立方メートルとなっ

ている。どちらもエネルギー省の管轄である。(その他の業界については、後述する。)

1000社を超える規模であることや、リスト入りの基準が業界指標にもとづいていることなど、2020年版リストは過去のリストと比較すると相違点がある。では過去のリストはどのような特徴があるのか、振り返ってみよう。

3. 3度の危機・3つの基幹企業リスト

3.1 2008年リスト:世界金融危機(リーマン・ショック)版

2008年、リーマン・ショックとしても知られる米国発世界的金融危機の影響を受け、ロシア経済は危機に直面した。ロシア国内の金融システムは緊張下に置かれ、ロシアはいわゆるBRICs諸国(ブラジル・ロシア・インド・中国)の中で最悪の落ち込みを経験するなど1998年以來の深刻な危機を迎えた。2008年9月以降資本流出が加速し、外国人投資家はロシアから資金を引き上げ、株価の急落が起きた。金融不安の影響は実体経済に及び、株価低迷の中で企業の資金調達が困難になり、厳しい状況が続いた。ロシア政府は、金融危機対策のための優先政策を発表した。

実体経済の面で、政府の危機対策の一つとして注目されたのが、企業支援対象の企業を一覧表にするという試みである。「プーチンのリスト」とよばれた「システム形成企業リスト」の作成である。経済危機において優先的に政府支援を受けられる資格を有する企業リストをロシア政府が作成する予定であることが報道などにより明らかになったのは、2008年12月初旬のことであった。当時首相であったプーチン氏が経済関係閣僚らと実体経済への支援を議題とした会議を行い、リストについて議論したとの情報があった。この頃の報道によると、リスト入りの基準に

² ロシア連邦政府・新型コロナウイルス危機対策ウェブサイト、「Mery podderzhki biznesa»: <https://stopkoronavirus.pf/what-to-do/business/> (2021年8月1日最終アクセス)。

³ 同上。これらの政府保証措置はロシア政府系金融機関「ロシア開発対外経済銀行(VEB)」を通じて行われる。ちなみにVEBはあとで言及する「国家コーポレーション」の一つである。

⁴ ロシア連邦経済発展省ウェブサイト、「Sistemoobrazuiushchie predpriiia»: <https://data.economy.gov.ru/> (2021年8月1日最終アクセス)。

⁵ Ibid.

⁶ Ibid.

についてはまだ定まっていないが、150から200社が含まれ、経済発展省や産業貿易省などが作業しているという話であった (Ivanitskaia et al., 2008)。

295社が掲載された基幹企業リストが12月25日に公表された⁷。担当の政府委員会(「ロシア経済の持続可能な発展の向上に関する政府委員会」)によって承認された基幹企業リストである。基準については公表時には明確なものは発表されなかった。リスト作成の間、企業はリスト入りを望み、所管省庁は働きかけを行う、といった攻防が水面下で行われていたようである⁸。

政府の発表によると、リスト入りは財政的支援を保証するものではない、ということが強調されている。政府の主な任務は、なによりも安定性を維持することであると表明し、貸付、政府保証、金利の補給などいくつかの手段により、リスト掲載企業を支える意向を示した。必要に応じて、企業活動の終了による社会経済的悪影響は最小限に抑えられようと表明した。リストは最終的なものではなく、リストへの追加もあるとのことだった⁹。

リストをみると、295社が部門ごとに整理されている。リスト掲載順に列挙すると、運輸部門が30社、エネルギー(電力)26社、石油ガス10社、石炭産業6社、通信10社、情報(マスコミ)8社、冶金・採取産業32社、化学(石油化学含)産業17社、自動車産業5社、防衛産業7社、航空機製造3社、造船13社、エンジン製造6社、農業機械製造2社、電力機械製造5社、ロケット・宇宙産業19社、無線電子産業7社、運輸機械4社、工作機械5社、

建築資材産業7社、木材コンプレクス5社、薬局チェーン・医薬品産業11社、小売(スーパーマーケット)チェーン7社、食品工業・農工コンプレクス34社、そして住宅建設6社となっている¹⁰。

その後、2009年5月にリスト第2段として補充プラス9社が発表され、計304社となった。内訳は、石油ガス分野から1社、冶金分野から2社、エンジン製造分野から1社、食品工業・農工コンプレクス分野から3社に加え、2008年初版にはなかった宝石産業から1社、そして「その他」の分野として紙幣・硬貨・切手製造を担う企業が304番目にリスト入りした¹¹。

なお、初版公表当時、リスト入りの基準が不透明だと批判があったが、2009年4月にはリストに含む企業選定にかんするガイドラインが公表されている¹²。ガイドラインでは、質的基準と量的基準が示された。リストと照らし合わせてみると、質的より量的側面がより反映しているとみられる。

質的基準については、5つの要素が挙げられ、そのうちの1つの要素を満たす必要があると定められた。それらは以下の5点である: (1) 2008年の政府決定により確認された技術ポテンシャルの存在(主に社会経済的重要性や国家防衛・安全保障に関するもの)、(2) 社会的安定への影響(雇用維持や大量解雇回避)、(3) インフラや生産チェーン維持への重要性、(4) 投資プロジェクトへの参加、(5) 国際的契約や条約の遂行、である¹³。量的基準については、3つの要素が挙げられ、3つ全てを満たすことが求められた。それらは以下の3点である: (1) 2007年の年間売上高が100億ルーブル以上(農業部門につ

いては40億ルーブル以上)、(2) 過去3年間の納税額が50億ルーブル以上(農業部門については20億ルーブル以上)、(3) 従業員数が4000人以上(農業部門については1500人以上)¹⁴。

ロシア政府は、いくつかの手段により、リスト掲載企業を支える意向を示したが、具体的な支援策のうち、もっとも実現性の高いものが、融資の政府保証であると考えられていた。金利の一部補給や、追加資本提供、債務再編という手段に比べ、政府が直接的に企業にあてた措置だからである。2009年にかけて2000億ルーブルを超える金額の政府保証が提供される決定がされ、翌2010年も継続されると報告されている (Simachev and Kuzyk, 2010)。

現実問題として、実際の支援供与の実行のプロセスは決してスムーズではなかったことがうかがえる。当時のロシア政府の定例会議の記録から、プーチン首相(当時)がスピード感の欠如に対し細かい指示をしている様子がわかる¹⁵。融資の政府保証措置の適用が本格的に動き出したのは2009年8月になってからのことであった。自動車産業への適用が2009年8月に公表されている¹⁶。2009年9月には、政府委員会が、リストに入っても支援をするケースがありうると表明している (Simachev and Kuzyk, 2010)。

Simachev and Kuzyk (2010) が指摘するように、政府保証の手段は、危機の最も深刻な段階である2009年の初めに企業に信用を供与できなかったという点で必要な効果をもたらさなかったといえる。当時、とりあえず政府の姿勢を示すためにリストをつくり、細かいことは後からフォローし

⁷ ロシア連邦経済発展省ウェブサイト、「Perechen' sistemoobrazuiushchikh organizatsii」: <http://old.economy.gov.ru/minec/press/doc1230226284366#> (2021年8月1日最終アクセス)。

⁸ 2009年3月放映のNHKのドキュメンタリー番組に、ある企業家が基幹企業リスト入りをめぐり奔走する様子を追ったものがある。「プーチンのリスト」というタイトルの番組である。なお取材内容が書籍として出版されている (NHK取材班, 2009)。

⁹ ロシア連邦経済発展省ウェブサイト、「Perechen' sistemoobrazuiushchikh organizatsii」: <http://old.economy.gov.ru/minec/press/doc1230226284366#> (2021年8月1日最終アクセス)。

¹⁰ ロシア連邦経済発展省ウェブサイト、「Perechen' sistemoobrazuiushchikh organizatsii」: <http://old.economy.gov.ru/minec/activity/sections/macro/politic/doc1239955370334> (2021年8月1日最終アクセス)。

¹¹ ロシア連邦経済発展省ウェブサイト、「Perechen' sistemoobrazuiushchikh organizatsii」(2009年5月12日追加版): <http://old.economy.gov.ru/minec/press/doc1242311886548> (2021年8月1日最終アクセス)。

¹² ロシア連邦経済発展省ウェブサイト、「Metodicheskie rekomendatsii」(2009年4月16日): <http://old.economy.gov.ru/minec/activity/sections/macro/politic/doc1239893148108> (2021年8月1日最終アクセス)。

¹³ Ibid.

¹⁴ Ibid.

¹⁵ ロシア連邦政府ウェブサイト、「V.V. Putin provel soveshchanie po ekonomicheskim voprosom」(2009年4月22日): <http://archive.government.ru/docs/3936/> (2021年8月1日最終アクセス)。

¹⁶ 例えば、タタルスタンにあり、トラック製造で代表的なカマズ社に29億ルーブルのクレジットと14.5億ルーブルの政府保証が認められている。

よう、ということだったのかもしれない。ただ、保証支援メカニズムは、基幹企業への政府保証を提供するにあたり、企業・政府・金融機関などさまざまな当事者の利害を調整し、折衝や合意にむけて進んでいくプロセスを踏んだ。そのプロセス自体が、危機下の経済における重要な安定要因になったといえるだろう (Simachev and Kuzyk, 2010)。このように、基幹企業リスト公表によって、国家が支援を表明するというシグナル効果は十分にあったといえそうである。

3.2 2015年リスト：ウクライナ・クリミア危機版

2008年の危機を乗り越えたロシアは、その後2010年になると、経済成長は安定期を迎え、4%前後の成長が続くのではないかと予測されるまでになった。しかし、2012年後半になると、原油価格の低下やルーブル安を背景にロシア経済は再び失速するようになった。それに加え、2014年からウクライナ問題をめぐって米国とEUが対ロシア経済制裁を実施していることが逆風となった。実際にロシア経済は、2015年に2%落ち込み、リーマン・ショック後の2009年にマイナス7.8%を記録して以来のマイナス成長となった。

2014年の経済低迷を受け、政府は「システム形成企業リスト」、すなわち基幹企業リストを改訂することを決定した。2015年2月初旬に担当の政府委員会(「経済発展と統合に関する政府委員会」)が承認し、リストが公表された。担当省庁である経済発展省が、情報発信をした。

リスト内の企業は197社が含まれた。政府文書には、政府が基幹企業リストを承認した目的として、ロシア経済の安定性を向上させ、起こりうる危機的現象による悪影響を低下させるため、と明記されている¹⁷。

前回2008年のリストと違い、2015年リストは部門別に記載されていない。貿易財と非貿易財とに分かれ、それぞれ企業がアルファベット順に並んでいる。197社のうち、貿易財グループが152社、非貿易財グループが45社である。

リスト内企業の収益の合計(2013年)は、GDPの6割相当を占め、従業員数の合計は経済で雇用されている総人口の2割を上回るとのことであった。リスト作成に考慮された要素は以下の通りとされた。すなわち、2013年の企業の売上、過去3年の納税額、従業員数である。その後、基準ガイドラインが公表された¹⁸。前回のガイドラインと比較すると、固有名詞や年月を除き、世界金融危機(リーマン・ショック)版に適用された基準とほぼ同じである。

リストに記載された企業で、実際に政府支援を受けたい企業は、政府に申請を行い、担当の政府委員会が最終決定を行う。政府と基幹企業との間に生じる作業形態としては、政府側は、基幹企業に対し、企業の財務を中心とした状況をモニタリングし、政府支援提供手段の検討、申請内容の検討、などを適宜おこなっていく。

これも前回と同様に、リスト入りは政府支援を保障するものではない、と政府は強調した。また、リストに入っていないからといって、政府の支援が受けられないわけではないと付け加えている¹⁹。

3.3 2020年リスト：新型コロナ危機版

そして、今回の新型コロナ危機をうけて、2020年春に1151社からなる「基幹企業リスト」が公表された。ロシア政府が「ストップ・コロナウイルス」という専用ウェブサイトを立て上げていて、上述の支援内容をふくめ、詳細が公開されている²⁰。システム形成企業リストそのものは、経済発展省のサイトにリンクづけられ、2021年8月現在

2020年12月3日付の情報として、1392社が政府支援の対象としてリストアップされている²¹。

以前の2つのバージョンのリストと比較して、今回はさまざまな業界の詳細が考慮されている。管轄の省庁がそれぞれ存在するが、表1に、管轄組織とリストの基幹企業数を示した。産業商務省がもつとも多い。2020年春の時点では、1151社の担当の内訳が、産業商務省が532社、運輸省が162社、エネルギー省が98社、農業省が96社、デジタル発展・通信・マスコミ省が91社、建設・住宅公営事業省が76社であり、6省が1151社を担当するものであった。2020年12月のリストでは、管轄省庁の数が6から19と大幅に増えている。文化省や教育省、保健省や観光庁も加わった。その他、ロスアトムやロスコスモスといった、「国家コーポレーション」とよばれるロシアの特殊法人が原子力関連、宇宙関連企業のリストを調整している²²。

表1 担当省庁/機関と企業数 (2020年12月)

担当省庁・機関	担当企業数
産業商務省	591
運輸省	189
エネルギー省	112
デジタル発展・通信・マスコミ省	102
農業省	88
建設・住宅公営事業省	76
文化省	67
ロスアトム	50
教育省	42
ロスコスモス	25
保健省	12
観光庁	10
スポーツ省	9
財務省	7
保安庁(FSB)	6
防衛省	3
Rosreestr	1
労働省	1
天然資源省	1

出所: <https://data.economy.gov.ru>

¹⁷ ロシア連邦経済発展省ウェブサイト、「Gosudarstvennaia podderzhka sistemoobrazuiushchikh organizatsii」(2015年2月8日): <http://old.economy.gov.ru/minec/about/structure/depSectorEconomy/2015020801> (2021年8月1日最終アクセス)。

¹⁸ ロシア連邦経済発展省ウェブサイト、「Metodicheskie rekomendatsii po vkluceniiu v perechen' sistemoobrazuiushchikh organizatsii」: <http://old.economy.gov.ru/minec/about/structure/depSectorEconomy/2016061202> (2021年8月1日最終アクセス)。

¹⁹ ロシア連邦経済発展省ウェブサイト、「Gosudarstvennaia podderzhka sistemoobrazuiushchikh organizatsii」(2015年2月8日): <http://old.economy.gov.ru/minec/about/structure/depSectorEconomy/2015020801> (2021年8月1日最終アクセス)。

²⁰ ロシア連邦政府「ストップ・コロナウイルス」ウェブサイト: <https://stopkoronavirus.rf> (2021年8月1日最終アクセス)。

²¹ ロシア連邦経済発展省ウェブサイト、「Sistemoobrazuiushchie predpriiatiia」: <https://data.economy.gov.ru/> (2021年8月1日最終アクセス)。

²² 「国家コーポレーション」については、安達・岩崎(2021)、安達(2016)を参照。

リスト入りの基準は毎回注目を集めるが、今回は過去2回と比較し、条件がリスト公表当初からはっきりし、曖昧さが減少し、基準がより正確になった。すでに述べたように、リスト入りの基準は、業界ごとに個別に決定された業界指標の最小値を上回るのが条件である。産業商務省管轄の自動車、航空、冶金部門の基準、およびエネルギー省管轄の石油、天然ガス部門の基準については第2節で述べた。これらの部門は過去2回のリストにも含まれている。今回の新型コロナ対策版リストには、新型コロナ危機の影響をふまえ、過去に含まれていなかった分野が目立っている。教育省が管轄する研究開発活動や教育分野を担う組織や、文化省管轄の博物館・美術館・文化財事業、アニメ制作、映画制作、劇場などの企業・組織がリスト入りしている。また、新型コロナ感染拡大で打撃をうけた旅行関連の企業も含まれている。

リスト入りの基準をみると、教育分野だと、収入が20億ルーブル、就業者数2000人が基準値となっていて、大学を中心に40ほどの組織が入っている。劇場（演劇）の場合、基準値がスタッフ数100人、来客数6500人、収入7500万ルーブルであり、15の劇場が含まれている。観光庁管轄の旅行関連では、ホテル・宿泊施設を運営するホテル会社が10社リスト入りしている。条件として、1月1日から12月31日の暦年の売上高が20億ルーブル、従業員1200人、部屋数1000室、運営宿泊施設2件が基準値とされている。参考までに、表2に本稿で紹介した分野と基準値を示す。

さらにリスト入りに関しては、以下の理由がある場合、経済発展省が担当の政府委員会（「ロシア経済の持続発展性改善に関する政府委員会」）にリスト入りの提案を提出することができる²³。たとえば、企業の特徴が地域の発展に大きな影響を与える「都市形成」型企業の場合である。都市形成企業とは、おおむね企業城下町の中心企業を指す。また、国防発注

表2 リスト入り基準値（参考）

分野・部門	管轄	基準	
自動車	産業商務省	売上高・200億ルーブル	従業員・1000人
航空	産業商務省	売上高・100億ルーブル	従業員・1000人
冶金	産業商務省	売上高・1000億ルーブル	従業員・3500人
石油	エネルギー省	生産量・200万トン	
天然ガス・ガスコンデセート	エネルギー省	生産量・15億立方メートル	
劇場	文化省	スタッフ・100人 収入・7500万ルーブル	来客数・6500人
教育	教育省	収入・20億ルーブル	就業者・2000人
ホテル	観光庁	売上高・20億ルーブル（暦年） 部屋数・1000	従業員・1200人 運営施設・2

出所：https://data.economy.gov.ru をもとに筆者作成

の遂行に実質的にかかわる企業も対象となる。その他、企業の活動の種類が、クリミア共和国、セバストポリ市、クリミア半島州、極東連邦管区における主要インフラの運用や安全確保に関する事業の実施に該当するものと判断されると、リスト入りの可能性が高くなる。また、重要なテクノロジー開発と導入、ソフトウェアの開発、および情報セキュリティの確保、国家情報システムの開発と運用のためのサービスの提供、インターネット上の社会的に重要なサービスなどの活動も該当する。さらに、遠隔地への交通アクセスを確保する活動に従事している企業がリスト入りの提案をうけることができる²⁴。このように、国防部門や、ソフトウェア開発関連、そしてクリミアやセバストポリのインフラ事業に携わる企業を重視していることがわかる。

リスト掲載企業を地域的にみると、圧倒的に多いのはモスクワ市であり、サンクトペテルブルク市とモスクワ州がそれぞれ2位と3位である。トップ3地域に続くのは、スベルドロフスクやタタルスタンである。表3に上位14地域を示した。ちなみにクリミアには13社ある。

付け加えておくと、基幹企業リストは、当然ながらロシアを代表するトップ大企業群を含んでいる。例えば『ERINA

REPORT (PLUS)』2021年4月号で安達・岩崎(2021)が言及したロシアの大企業ランキングのトップ20をみると、それら企業はほぼ網羅されている。

以上のように、3回目の基幹企業リストは、過去2つのバージョンよりも基準が明確なものに加え、リスト掲載社数も格段に多い。現行リストに分野として掲載されている項目は実に91にも及ぶなど、分野が多岐にわたっているのが特徴である。

表3 地域別リスト掲載企業数（上位14地域）

モスクワ市	498
サンクトペテルブルク市	115
モスクワ州	113
スベルドロフスク	34
タタルスタン共和国	33
ニジェゴロド	29
チェリャビンスク	29
クラスノダールスク	25
ロストフ	24
サマール	23
バシコルスタン共和国	19
クラスノヤールスク	19
ペルミ	19
レニングラード州	18

出所：https://data.economy.gov.ru

²³ ロシア連邦経済発展省ウェブサイト、「Sistemoobrazuiushchie predpriiatiia」: https://data.economy.gov.ru/ (2021年8月1日最終アクセス)。提案後、リスト入りの決定は、同政府委員会が行う。

²⁴ Ibid.

4. 基幹企業リスト作りからみえてくること

システム形成企業を一覧表にするという基幹企業リスト政策からみえてくるものはなにか。本節では互いに関連しあう2点に注目する。まず、リスト作りによる支援政策が、ロシアにおける国家主導型経済を反映する現象といえる点である。そして同時に、一連のリスト作り政策から、ロシアにおける政府と企業の間には存在する特徴的な相互関係を観察することができる点である。

第一に、基幹企業リスト政策は、プーチン政権下ですすむロシアの国家主導型経済を反映しているといえる。安達・岩崎(2021)でも示したように、2000年に始動したプーチン政権下では、経済への国家関与が強化されている。ロシア政府の経済への影響力が拡大していることから、ロシアではロシア型国家資本主義が形成されているといわれる。

経済への国家関与強化は、ロシアにとって特に「戦略的」とみなされる分野で顕著なごきである。2008年に最初にシステム形成企業リストが発表された際、ロシア政府はシステム形成企業のことを「戦略的意義を有する」企業と説明していた²⁵。当時はちょうど、ロシアにおける「戦略的企業」や「戦略的分野」の国家管理についての関心が高まっている時期であった。同じ2008年に、「戦略産業法」とよばれる法律が発効している。これは、政府がロシア経済における戦略的分野を指定し、戦略的分野としてリストされた40ほどの分野における外資参入を規制する法律である。戦略産業法制定の議論がすすんでいた頃は、ロシアでも「資源ナショナリズム」の高揚がみられたタイミングと重なっていた。戦略産業法は、戦略的分野で国家管理を強化する政権の意向が反映したものである(安達、2016)²⁶。

戦略的分野をリストしたのが「戦略産業法」であれば、それとは別に「戦略企業リ

スト」なるものも存在する。「戦略的な意義を有する企業および株式会社のリスト」である。これは、2004年のプーチン大統領による大統領令で、民営化が認められない企業・組織がリストアップされたものである²⁷。民営化が禁止されている企業のリストということは、これら戦略企業の民営化が可能になるためには、一旦戦略企業リストから外されなければならず、別途大統領令が必要ということになる。2004年公表当時は1000社を超え、その後適宜変更が加えられている。

このような背景のなかで、2008年に「プーチンのリスト」と呼ばれた経済危機対応のシステム形成企業リストが出現したのであった。戦略企業リストや戦略分野を選定するリストなど、政権の方向性として、「リスト作り」が国家主導型の経済運営の手段となっているといえるだろう。

ロシア政府が経済システムに重要な基幹企業をリスト化することとは、どのようなインパクトがあるだろうか。基幹企業を選定することにより、結果的に、国家にとって重要な企業はどの企業かということ、市場ではなく政府が明示することになる。また、もしも危機により基幹企業が困難な財政状況に陥った場合、企業の支配権は政府に移される可能性がある。

システム形成企業リストの目的は、基幹企業を支援し救うことにある。しかし、政府が初めから支援をする主要企業をピックアップすることは、市場メカニズムを歪めることにつながる可能性がある。リスト入りした企業とそうでない企業との間で、競争環境がアンフェアになりかねない。リスト入りした企業にモラルハザードが起こることもありうる。

企業側にとっては、政府から「承認」を受けた、というある種の「承認欲求」めいたものが満たされることが、リスト入りによって企業が得られるメリットとして挙げられるかもしれない。システム形成企業として認められるということは、その企業がロシア経

済の安定性にとって重要で、政治社会的な重要性も確認されることを意味するからである。基幹企業と認定されていることが主要企業としての「看板」の役割を果たす。実際に、基幹企業の経営トップが社員にむけたスピーチなどで「我が社はシステム形成企業であり…」と付け加えたりしている²⁸。

承認される側に欲求があるとすれば、政府は政府で「承認したい欲求」のようなものが存在するといえる。経済の国家管理ツールとしての「リスト作り政策」は、「承認」の慣行と親和性がありそうである。

この「承認」の議論と関わるのが、2つめの指摘、一連のリスト作り政策が、ロシアにおける政府と企業との間に特徴的な相互関係が示唆される点である。

ソ連解体後、経済体制転換30年を経て、ロシアでは市場経済化の進展とともに、企業セクターが形成された(安達・岩崎、2021)。ソ連末期にさかのぼると、当時企業活動が許されていたのはビジネス活動を行う上で特権や許可をもった一部の人間であった。新生ロシアとなりエリツイン大統領のもと本格的に市場移行が始まったが、特に大企業の発展過程をみると、企業の成功の重要な要因となったのは、政権との結びつきによって、企業側に有利なビジネスの機会と権利が与えられたことであった(安達、2016)。「授權階級」という概念があるが、これは、当局側からビジネス上の特恵や認可が与えられた一部の人間のなかからビジネスエリートが形成されていったという議論である(Kryshantnovskaya, 2005)。すなわち、ロシアを代表する財閥・企業グループの発展において、多くの場合、国家がその成長を「認可」したことが重要だったのである。エリツイン時代、大統領府や政府は、財閥を「承認」し、ときに庇護的な「クリーシャ(屋根)」としての役割を果たした。そのかわり、財閥・企業集団は、政権が権力を維持するための資源やサポートを提供

²⁵ ロシア連邦政府ウェブサイト、「Pravitel' stvennaia komissiiia po povysheniiu ustoiichivosti razvitiia rossiiskoi ekonomiki utverdila perechen' sistemooobrazuiushchikh organizatsii, imeiushchikh strategicheskoe znachenie,」(2008年12月25日): <http://archive.government.ru/special/docs/2883/> (2021年8月1日最終アクセス)。

²⁶ 戦略産業法の制定過程や、戦略的分野の国家主導については、安達(2016)の第5章を参照されたい。

²⁷ 大統領府ウェブサイト、「Ukaz Prezidenta Rossiiskoi Federatsii ot 04.08. 2004g. No. 1009」: <http://www.kremlin.ru/acts/bank/> (2021年8月1日最終アクセス)。

²⁸ 例えば、先述のカマズ社のケースについて、2020年4月に社長が従業員にむけたスピーチ内で参照している: <https://kamaz.ru/press/releases/> (2021年8月1日最終アクセス)。

した。このような、持ちつ持たれつの互酬的な相互関係は、主要登場人物の交代を伴いつつ、プーチン時代も引き継がれている (Adachi, 2010, 2015)。

この種の政府企業間相互関係は、基幹企業リスト作りにもどのようにあてはまるのであろうか。システム形成企業と認定された基幹企業リストを政府の「承認」の一例とすると、承認された企業は、それなりの役目を果たすことが期待されているとみなすことができる。たとえば、雇用を守る、地域に貢献する、政府の投資計画に積極的協力をする、などである。新型コロナ危機対応のリストに含まれる基幹企業数が1300以上と過去2回のリストと規模が違うので、この点は、過去2回のほうがあてはまるかもしれない。しかしながら、一連のリスト作りは、政府と企業の相互関係が観察できるものとして捉えることができる。

それでは具体的にどのような企業がリスト入りの承認をうけやすいのであろうか。明確に断言することは難しいが、政権との繋がりが強いとみられる大企業集団 (ビジネス・グループ) に属している企業の方がリストに入りやすいという結果が報告されている (Kislitsyn, 2013)。Kislitsyn (2013) は、2008年版のリストを分析し、売上高と従業員数など企業の「社会的重要性」を反映するデータに加え、政権と政治的な繋がりをもち16の大企業グループに属していることが、リスト入りに影響しているという結果を示した。

関連して、国家と関係が深い企業が、危機下における政府支援を受ける可能性が高いという研究結果がある (Yakovlev et al., 2020)。Yakovlev et al. (2020) は、2008–2009年 および2014–2015年

の危機の下で製造業における大企業・中企業に対する国家支援の優先順位の変化を検証し、サポートを受けた企業は次の特徴をもつ企業に集中したことを報告している。すなわち、国家が資本に参加している国家参加型企業のように国家との距離が比較的近い企業、そして業界団体・経済団体に属しているなどロビー活動に必要な資源にアクセスのある企業である。2015年を過ぎると、ロシアの地方、地域 (連邦構成主体)、連邦という政府のすべてのレベルで、地域の社会開発において当局を支援しただけでなく、大規模な投資を実施した企業に対して、企業への支援がより頻繁に提供されるようになったという (Yakovlev et al., 2020)。上述の政府と企業の互酬的關係が垣間見られる結果である。

業界団体について付け加えると、ロシアの代表的な経済団体にロシア産業家企業家同盟 (RSPP) がある。大規模企業の経済団体であり、政府と企業・企業家とのパイプ役を果たしている。コロナ禍における基幹企業リスト作成のプロセスにおいても、RSPP の役割が確認されている。リスト公表後も、現リストに対し、政府保証を得るための条件緩和や融資総額の拡大について政府側に大企業がRSPPを介して働きかけたりしている (Chervonnaia et al., 2020)。なお、基幹企業リストを最終承認する担当政府委員会のメンバーには、RSPP の代表を長年勤めるアレクサンドル・ショーヒンも加わっている²⁹。このように、政府企業間の相互関係の観点からすると、経済団体の役割に注目することも必要であろう。

5. おわりに

本稿では、「システム形成企業リスト」を軸に、経済危機下における政府による基幹企業支援について考察した。本稿で示したように、プーチン政権下において、経済危機対応としての基幹企業リスト策は、ロシア政府の重要な企業支援の方法の一つとなっている。過去3回のリストを比較すると、1回目のリーマン・ショック版、2回目のウクライナ・クリミア危機版と比べ、3度目の新型コロナ危機版の基幹企業リストは、リスト入りの基準が明確なのに加え、リスト掲載社数も格段に多く、分野が多岐にわたっているのが特徴である。

基幹企業リスト政策から共通してみえてくることとして注目し値するのが、リスト作りによる支援政策が、ロシアにおける国家主導型経済を反映していることである。同時に、本稿では、一連のリスト作り政策から、ロシアにおける政府と企業との間に存在する特徴的な相互関係を観察することができる点を示した。

リストされた基幹企業のうち、実際に企業が受けた支援の詳細についてはなかなか情報が入手しにくいのが現状である。コロナ禍における現行リストについては、企業が支援を得るための手続きがかなり複雑で、提示が求められる必要情報も多いようである (HSE, 2021)。政府に対して細かな情報提供を控えたい企業が、支援申請の二の足を踏むという報道もある (Shokhina, 2020)。実際の運用とその効果についての分析は、今後の検討課題としたい。

(謝辞)

本稿は、科学研究費助成事業国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B)) 「国際制裁下ロシアの国家、地域および企業社会:日米露共同研究プロジェクト」 (課題番号:19KK0036) および科学研究費補助金基盤研究 (C) 「ロシアの国家資本主義 (ステート・キャピタリズム) の政治経済的研究と他新興国比較」 (課題番号:18K11825) の研究成果である。

²⁹ ロシア連邦政府ウェブサイト、「Sostav Pravitel'stvennoi komissii,」 (2020年4月15日): <http://government.ru/info> (2021年8月1日最終アクセス)。

<参考文献>

- 安達祐子・岩崎一郎 (2021) 「危機下ロシアの大企業体制と国家産業支配」『ERINA REPORT (PLUS)』、第159号、pp. 36-46。
- 安達祐子 (2016) 『現代ロシア経済—資源・国家・企業統治』、名古屋大学出版会。
- 新井洋史・志田仁完 (2021) 「COVID-19のロシア経済への影響と政府の対応:2021年6月」『北東アジア情報ファイル』、No. EJ2101、環日本海経済研究所。
- NHK取材班 (2009) 『揺れる大国プーチンのロシア』、NHK出版。
- Adachi, Y. (2010) *Building Big Business in Russia: Impact of Informal Corporate Governance Practices*, Routledge: Abingdon and New York.
- Adachi, Y. (2015) "Dynamics of State-Business Relations and the Evolution of Capitalism in Russia in an Age of Globalization," In: Hirai, T. (ed.), *Capitalism and the World Economy: The Light and Shadow of Globalization*, Routledge: Abingdon and New York, pp. 254-277.
- Adamchuk, O., and P. Trifonova (2020) "Pravitel'stvo v 3 raza uvelichilo spisok sistemoorazuiushchikh kompanii, *Vedomosti*, April 9, 2020.
- Chervonnaia, A., P. Trifonova, and A. Safiullina (2020) "Biznes prosit rasshchirit' podderzhku sistemooobrazuiushchim kompaniiam. *Vedomosti*, June 15, 2020.
- Filipenok, A., and A. Levinskaia (2020) "Putin poruchil dorabotat' spisok sistemooobrazuiushchikh predpriatii," *RBK Daily*, April 15, 2020.
- HSE (2021) (Simachev, Iu., N. Akindinova, M. Glukhova, T. Dolgopiatova, N. Ershova, M. Kuzyk, A. Fediunina, and A. Yakovlev) *Otsenka vliianiia krizisa, sviazannogo s pandemiei COVID-19, na otrasli rossiiskoi ekonomiki i ikh postkrizisnoe razvitie*, Moscow: HSE.
- Ivanitskaia, N., E. Pis'mennaia, and A. Dagaeva (2008) "Spisok Putina," *Vedomosti*, December 9, 2008.
- Kislitsyn, D. (2013) "Politika gospodderzhki predpriatii v period krizisa 2008-2009 gg: kriterii otneseniia k 'sistemooobrazuiushchim'," *Voprosy ekonomiki*, No.6, pp. 84-99.
- Kryshchanovskaya, O. (2005) *Anatomiia rossiiskoi elity*, Moscow: Zakharov.
- IPrime.ru (2020) "Minekonomrazvitiia svelo voedino spiski sistemooobrazuiushchikh predpriatii," *IPrime.ru*, April 29, 2020.
- Shokhina, E. (2020) "Sekret vazhnee deneg," *Vedomosti*, July 6, 2020.
- Simachev, Iu., and M. Kuzyk (2010) "Gosudarstvennaia garantiinaia podderzhka sistemooobrazuiushchikh kompanii kak instrument rossiiskoi antikrizisnoi politiki: osobennosti, problemy, uroki na budushchee," *Ekonomicheskaiia politika*, No.3, pp 64-89.
- Yakovlev, A., E. Ershova, and O. Uvarova (2020) "Kakim firmam gosudarstvo okazyvaet podderzhku: analiz izmeneniia prioritetov v krizisnykh usloviakh," *Voprosy ekonomiki*, No.3, pp. 47-62.

State Support for “System-forming Enterprises” during Economic Crises under the Putin Administration (Summary)

ADACHI Yuko

Professor, Graduate School of Global Studies, Sophia University
Collaborative Researcher, ERINA

Under the Putin administration, the policy of supporting so-called “system-forming enterprises” has become one of the key measures during times of economic crisis. The Russian government compiles a list of system-forming enterprises, i.e., those companies considered essential to sustain Russia’s economic system, with a view to prioritizing companies in need of government support. The first such list emerged in the wake of the 2008 financial crisis. The second one appeared in the aftermath of the 2014–2015 Ukraine-Crimea predicament. Then in response to the COVID-19 pandemic, the third version of the list was formulated in 2020. This paper analyses those lists and shows that this list-making policy reflects Russia’s state-led economic management under Putin’s leadership.

Keywords: COVID-19 pandemic, enterprise support, state-business relation, Russia

JEL Classification Codes : L51, P16, P26, P31

ロシアにおける新型コロナウイルス感染拡大と外国人労働者

富山大学極東地域研究センター教授・ERINA 共同研究員

堀江典生

要旨

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、国境を越えた人の移動は著しく制限され、2020年4月から1年間、近隣諸国からの外国人労働力供給は絶たれた。ロシアへの外国人の入国は、空港に集約され、陸上国境を通じた入国が停止した。陸上国境閉鎖は、近隣諸国にとって労働力移動の大動脈を切断することを意味し、多くの外国人労働者がロシアに滞留するとともに、ロシアへの新規の外国人労働力供給を制約した。移民登録に計上された者の中には、特別に斡旋され入国を許された者の他に、帰国せず滞留する外国人や不法移民化していた外国人の合法化も含まれていた。一方、農業部門では、外国人労働者の確保に苦しんでいる。ロシア極東の大豆生産地域では、中国人労働力の供給が得られないこと、また、大豆生産を担う中国人経営者が入国できないことで、自然災害を凌駕する影響を受けた。新型コロナウイルス感染拡大に起因する国境を跨ぐ人の移動の制限は、糊口を凌ぐための就労も叶わずロシアに滞留、もしくは不法移民化する外国人労働者を生み出すとともに、外国人労働者に依存する産業において甚大な被害を与えた。

キーワード：新型コロナウイルス感染拡大、外国人労働者、国境、ロシア

JEL Classification Codes: F22, I18, J15, J61

1. はじめに

わたしたちがすでに経験しているように、新型コロナウイルス感染拡大は、人の移動の自由を著しく制約する。本誌同号掲載の岩崎(2021)で論じられているように、ロシアは未曾有の新型コロナウイルスの感染拡大を経験しながらも、経済活動を強く抑制せず、過去にロシアで生じた経済危機と較べても、国際的にも、景気後退を穏やかな程度に収めた。一方、防疫上の観点から、後に論じるように、ほぼ1年間、国境を閉鎖し、経済活動維持に不可欠な外国人労働者の流入を制限した。我が国においても、2020年2月頃から外国人技能実習生の受け入れが滞り始めるとともに、すでに入国していた外国人技能実習生が帰国できずに日本に滞留する事態が生じていた。外国人労働力への依存の程度の差はあれ、コロナ禍のもとで必要とする外国人労働者の供給が滞り、同時に、帰国できない外国人労働者が国内に滞留する事態は、多くの国で発生した。

ロシアで就労する外国人は、ウズベキスタン、タジキスタン、キルギス共和国、カザフスタンなど中央アジア諸国、アルメニアやアゼルバイジャンなどコーカサス諸国、ウク

ライナ、ベラルーシ、モルドヴァなど旧ソ連欧州諸国、そして、中国、北朝鮮、ベトナムといった東アジア諸国からやってくる人々である。特に、ウズベキスタン、タジキスタン、ウクライナの三国は、ロシアへの三大労働力供給国であり、その地理的隣接性から、人の移動は、空路だけでなく、陸路を経由した大移動である。

では、どれだけの外国人がロシアで例年就労しているかとなると、その答えはなかなか難しい。ロシアで合法的に就労に関する許可を取得して就労している外国人労働者の数は、2018年時点で約177万人である。日本で働く外国人労働者数は、同じ2018年時点で146万人であるから、移民大国であるロシアの外国人労働者数はそれほど多いように見えないが、そもそも外国人労働者の数え方の発想が異なる。日本では、資格外活動(留学生のアルバイト等)や身分に基づく在留資格(永住者や日系人等)といった資格をもつ外国人労働者が全体の6割近くを占める。また、技能実習生も外国人労働者として勘定されている。ロシアの場合、留学生はもちろん、定住外国人も上記の外国人労働者数の勘定に入れていない。ロシアにおいて統計上外国人労働者として勘定されるのは、一

時的滞在型の外国人がロシアで就労する場合に必要と定められている許可証を取得した数である。ロシアにしてみれば、日本の外国人労働者数の統計は、本来、外国人労働者として区別されない人々を含めて「てんこ盛り」に表現しているように見える。逆に、ロシアの外国人労働者数の統計は、実際に就労している外国人の数が見えにくい。たとえば、ユーラシア経済連合加盟国であるカザフスタン、キルギス共和国、アルメニアからの外国人労働者は、就労に関わる許可証を取得する必要はなく、自由にロシアの労働市場に参加できる。また、一時居住許可や定住許可を取得した旧ソ連諸国の外国人労働者は、就労に関わる許可証の取得が免除されるため、彼らが実際にどのくらい就労しているかは、わからなくなる。そのため、外国人労働者の実態を把握するため、移民労働者活用に関する標本調査が行われている。その2019年の標本調査でも、ロシアに居住している外国人のうち、就労目的での外国人住民数(約83万人)よりも定住地への来訪目的の外国人住民数(168万人)のほうが遥かに多い。それゆえ、ロシアで働く外国人労働者の数は、就労に関わる許可証を取得している外国人の数より、遥かに多

い。日本の場合は、労働市場のなかで日本人でない者を特定しようとしているが、ロシアの場合は、安全保障上および移民政策上管理すべき一時的滞在型の外国人労働者の数を特定しようとしている。

ロシアでは、外国人労働者が一時的滞在のもとで就労する場合、ビザを必要とする国からの外国人労働者は労働許可証を取得し、ビザを必要としない国からの外国人労働者の場合はほとんどが特別労働許可（労働パテント）を取得し就労する。特別労働許可は、非常に簡素化された手続きによって取得でき、ロシアで就労する旧ソ連諸国からの一時滞在型外国人労働者のために設計された許可証である。一方、労働許可証は、高度専門人材は別として、連邦構成主体毎に割当が毎年決められ、また、労働許可証の取得がビザ取得の条件となるため、ロシアに入学し自由に就職活動を行うことは前提としておらず、著しく管理された外国人労働者枠である。就労に関する許可を取得して就労している合法的な外国人労働者数というのは、こうした労働許可証および特別労働許可証を取得した一時滞在型外国人を指している。

ロシア内務省の統計によれば、2019年に就労目的でロシアに入学した外国人は、延べ約548万人であった。外国人労働者の国境往来が頻繁であることが垣間見られる。2020年に同目的でロシアに入学した外国人は延べ約236万人で、56.9%の減少を経験している。これまでも経済危機に直面すると、ロシアへの主要な労働力供給国であるタジキスタンやウズベキスタンからの特別労働許可を取得した合法的な外国人労働者の数は10%から30%ほど減少したことはあっても、それはロシアの移民労働者数が減少したのではなく、雇用者が危機に伴うリスクを回避するため合法的に雇用する移民労働者の数を減少させたためと言われている（Флоринская, 2020）。しかし、2020年の移民労働者数の減少は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として検疫上の理由から国境が閉鎖され、外国人労働者が入学できない

がゆえに生じた減少である。

本稿では、まず新型コロナウイルス感染拡大に伴う外国人労働力移動の停止の経緯を次節において概観し、第3節では、従来あまり論じられていないロシアと近隣諸国との間の陸上国境に着目し、頻繁な往来を支えてきた陸上国境が防疫のための長城のように労働力移動を制約している様子を観察し、第4節では、移民関連統計を用いて、外国人の入学が著しく制限されていた時期にどれほどの外国人労働者がロシアへ供給され、また、滞留していたかを考察する。第5節では、新型コロナウイルス感染拡大により新規外国人労働力供給が制約されたために経済活動に多大な影響を与えた農業部門、特にロシア極東の大豆生産地域に着目し、その影響の度合いを明らかにし、最終節を結論としたい。

2. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う国境を跨ぐ労働力移動の停止

ロシアにおいて最初に新型コロナウイルス感染者が報告されたのは、2020年1月31日であるが、国境を跨ぐ人の移動が最初に制限されたのは、中露間の陸上国境であった。当初、中国由来の新型コロナウイルスが脅威とされていたために、1月30日に中露間陸上国境16箇所での通過制限が課され、陸上国境を通じた中国人の入学が著しく制限された。それに続き、モンゴルとの陸上国境を経由した中国人の入学が禁止されたように、2月末まではロシア東部陸上国境の人の移動に防疫上の関心が注がれた。その後、欧州経由の感染が明らかになるにつれ、ロシア西部国境まで防疫上の関心が広がっていった¹。この時点で、まだロシアが労働力を依存する中央アジア諸国やコーカサス諸国からの外国人労働者は、例年通り、ロシアに入学し始めていた。

2020年3月16日付政令635-r号「外国市民および無国籍者のロシア連邦への入学の一時的な制限ならびに、登録、ビザおよび招待状の発行の一時的な停止につい

て」に基づき、2020年3月18日よりロシアは国境を閉鎖し、外国人はロシアへの入学ができなくなった。2020年3月27日付政令763-r号により、陸上国境（自動車道路、鉄道、歩行者道路、河川、複合出入国検査場）も閉鎖された。そのため、中央アジア諸国やコーカサス諸国からの新規外国人労働者の供給は、3月末にストップした。その後、2020年6月6日付政令1511-r号により、ロシア国民は、海外での就労のためにロシアから出国できるようになったものの、外国人労働者のロシアへの入学は規制されたままであった。

新型コロナウイルス感染が拡大するなか、外国人労働者の確保が自国の経済活動の維持に不可欠な欧州各国は、チャーター便を利用して外国人労働力を確保する動きがあった。ロシア政府は、外国人労働者が自国にとって不可欠な存在であることを認識しつつも、防疫と外国人労働者の確保とを両立させるような積極的な施策はとらなかった。ロシアへの最大の労働力供給国であるウズベキスタンやタジキスタンからの労働者がロシアに入学できるようになったのは、2021年3月31日付政令第814-r号「2020年3月16日付ロシア連邦政府令635-r号の改正について」以降のことである。しかも、陸路での入学はできず、限られた便数の航空路での入学を余儀なくされている。たとえば、タジキスタンとロシアとの間の定期航空便は、2021年4月1日からドゥシャンベとモスクワ間でUT エアとサモンエアそれぞれ週一便運航が再開されたが、直行便は少ないため、航空チケットが高騰し、利用者の不満を誘った²。つまり、この入学再開は、タジキスタンやウズベキスタンからの労働力確保のために急がれたものではなかった。

ユーラシア経済連合は、地域内単一労働市場を形成しており、加盟国の国民はロシアにおいて労働許可および特別労働許可の取得を必要とすることもないため、加盟国以外の国民がロシアで就労する場合に必要な諸手続きが免除されている。移民登録において入学目的を申請し

¹ 初期の外国人出入国制限措置については、新井・志田（2021）を参照されたい。

² Sputnik Tajikistan: <https://tj.sputniknews.ru/20210405/vlasti-tajikistan-somon-air-utair-stoimost-bilet-1033132761.html>（2021年7月8日閲覧）。

なければならないが、ロシアにビザなしで入国することができ、入国後はロシア国民と同じように求職活動を行い、就職することができる。ただし、ユーラシア経済連合は、加盟国が域内において出入国管理を放棄したわけではないので、安全保障上必要となればいつでも国境を閉じ、域内の人の移動を制限することができる(堀江、2021)。当初より加盟国のなかでは、ベラルーシのみが、国境閉鎖などの厳しい制限措置をとらなかった。ベラルーシのルカシェンコ大統領は、ユーラシア経済連合加盟国が新型コロナウイルス感染拡大において、貿易や労働力移動に関して加盟国の連携がとれていないことが、経済に悪影響を及ぼしていると指摘している³。それに対し、ユーラシア経済連合条約第97条を楯に、防疫上、ベラルーシを除く加盟国が行った労働力移動の制限は、合法的であり、単一的労働市場の安定的発展のための条件を維持することを目的としていたとして、ロシアの政策を弁護する研究もある(Иванов & Левина, 2021)。ただし、ユーラシア経済連合のロールモデルであるEUが、一時的に国境を閉じることはあっても、域内国境において人の移動の制限を最小限に留めようとする相対的に連携のとれた対応と比較すれば、ルカシェンコ大統領の指摘は的をえていると言わざるをえない。というのも、ロシアは、自国の防疫上の理由から、ユーラシア経済連合の単一労働市場における労働力移動を特別扱いすることなく、一斉に越境を制限してきたからである。EUが、新型コロナウイルス感染拡大が続くなか、なんとか域内の人の移動の自由の維持を図ろうと試行錯誤を重ねていたのとは対照的に、ユーラシア経済連合においては、加盟国国民の入国再開を、連合の単一労働市場維持および域内の人の移動の自由を優先課題にしていたようには見えない。

加盟国のなかで域内経済交流と労働

力移動の停滞を恐れて国境を閉鎖しなかったベラルーシを除き⁴、加盟国のなかで最も早くロシアへの入国が可能になったのは、カザフスタンとキルギスだった(2020年9月20日の法改正2406-r号)。ちなみに、日本は、2020年10月14日法改正(2649-r号)で11月1日以降ロシアへの入国が可能になっている。単一労働市場らしく域内経由での移動が可能になったのは、2021年1月26日の法改正(140-r号)からで、2021年2月1日からユーラシア経済連合加盟国国民はアルメニアおよびベラルーシ経由でロシアの指定20空港(表1)から入国することができるようになった。2021年3月31日の法改正(792-r号)では、アルメニアとベラルーシに加えキルギス共和国も経由できるようになり、人の自由な移動に支えられたユーラシア経済連合の単一労働市場をようやく再開させた。

このように、ロシアにとって主要な労働力輸出国からは、2020年4月から2021年3月まで1年間、新規労働力の供給が停止していた。法的には、ロシアに滞在していた外国人の帰国は制約を受けないはずであったが、中央アジア諸国政府が用意した帰国用チャーター便は、帰国希望者を受け入れるには便数も少なく⁵、多くの近隣諸国の外国人労働者がロシアに滞留した。

3. 長城化する陸上国境

近隣諸国からの外国人労働者は、空路に加え、バスや鉄道などで陸路からロシアに入国する。空路に比べ、時間もかかり、必ずしも快適とは言えないが⁶、陸上国境を経由した安価な移動は、ロシアへの外国人労働者の供給を支えている。しかし、これまで述べてきた新型コロナウイルス感染

表1 アルメニア共和国、ベラルーシ共和国、キルギス共和国経由でロシアに入国するユーラシア経済連合国民の指定空港

都市名	空港名	連邦主体名	連邦管区
モスクワ市	ブスコヴォ	モスクワ市	
モスクワ市	シェレメティエヴォ	モスクワ市	
チカロフスキー		モスクワ州	中央連邦管区
ジュコーフスキー		モスクワ州	
エカテリンブルク	カリツォヴォ	スヴェルドロフスク州	
サンクトペテルブルク	プルコヴォ	サンクトペテルブルク	北西連邦管区
カリーニングラード	フラブプロヴォ	カリーニングラード州	
カザン		タタルスタン共和国	
ニジネカムスク	ベギシェヴォ	タタルスタン共和国	沿ヴォルガ連邦管区
ウファ		バシコルトスタン共和国	
サマラ	クルモチ	サマラ州	
クラスノダール	パシコフスキー	クラスノダール地方	
ソチ		クラスノダール地方	南部連邦管区
アナバ	ヴィチャゼヴォ	クラスノダール地方	
ロストフ・ナ・ドヌー	プラトフ	ロストフ州	
グローズヌイ	セヴェルニー	チェチェン共和国	北カフカス連邦管区
クラスノヤルスク	エメリヤノヴォ	クラスノヤルスク地方	
ノヴォシビルスク	トルマチョヴァ	ノヴォシビルスク州	シベリア連邦管区
ウラジオストク	クネヴィッチ	沿海地方	極東連邦管区

出所: 2020年3月16日付政令635-r号より作成

³ Interfax: https://interfax.by/news/policy/vneshnyaya_politika/1274565/ (2021年7月22日閲覧)。

⁴ ベラルーシは、2020年11月1日以降に陸上国境からの入国が禁止されたが、空港からの外国人労働者の受け入れは続けている。また、陸上国境からの入国禁止については、ロシア国民には適用されなかった。2020年12月7日付ベラルーシ共和国閣僚会議決定705号およびベラルーシ共和国国境委員会: <https://gpk.gov.by/news/gpk/77911/> (2021年7月26日閲覧)。

⁵ Fergana: <https://en.fergana.news/news/118119/> (2021年8月27日閲覧)。

⁶ キルギス共和国ピシテクからモスクワまでの4日間のバス移動や北部タジキスタンのホジェンドからウズベキスタン、カザフスタンの国境を経由したロシアへの鉄道移動の様子は、堀江・リヤザンツェフ(2010)を参照されたい。

拡大に伴う移動の制限において、入国は限られた空港に限定されていた。旧ソ連諸国も含め、あまり触れられることのない陸上国境の状況を見てみよう。

IOM (国際移住機関) が調査している上陸地点 (空港・海港・陸上) 別での上陸地点の運用状況をロシアと周辺諸国に限ってまとめたものが、表2である。まず、ロシアは、空港については、通常運用するか閉鎖するかの二者択一の運用になっていて、海外からの入国者の防疫を限られた空港に集中させようとしていることが看取できる。陸上国境においても海港においても制限付き運用となっているが、これらはほぼ帰国者に限定した運用となっていることを表している。中央アジア諸国で興味深いのは、キルギス共和国である。キルギス共和国は、ウズベキスタンとタジキスタンと接する西側陸上国境の多くを閉鎖する一方で、カザフスタンと接する北側国境と中国と接する東側国境は通常運用されている。タジキスタンは、IOM が把握している地点はすべて閉鎖されており、海外の市民の入国はドゥシャンベ国際空港のみである。鉄道による越境はできない。表2では、ウズベキスタンは、陸上国境は条件付き運用、空港は閉鎖となっている。アフガニスタンとの国境地域にあるウズベキスタンのテルメズには、免税ショッピングセンターがあり、IOM の資料ではアフガニスタン側は出入国ができる完全運用の地点となっているが、アフガニスタンの感染状況悪化により、ウズベキスタン側の国境が閉じられており、ウズベキスタン市民および居住者、貨物運送者、外交官のみ入国できるが⁷、外国市民の入国は制限されている。コーカサス諸国では、アルメニアとジョージアはどの地点も100%通常運用となっているし、アゼルバイジャンも空路は完全運用で確保されている。アゼルバイジャンとトルコとの国境は、アゼルバイジャン側 (サダラク) が自国民の帰国のみを認めているのに対し、トルコ側 (アラリク) は通常運用になっている。

フェルガナ盆地は、ウズベキスタン、タジキスタン、キルギス共和国の国境未画

定問題も抱えているし、三カ国間の国境管理も野放図の状態である。直近でも、2021年4月29日にタジキスタンとキルギス共和国との国境地帯で両国軍の衝突が生じている。タジキスタンとキルギス共和国との間には、一般道が国境になっている箇所もあり、日常生活において往来がある。封鎖されている陸上国境が両国に多くあるといっても、人の移動が厳密に規制できるわけではない。陸上国境は、防疫にとって脆弱な境界である。

出入国管理を空港に限定するほうが、防疫上の対策を立てやすいことは、世界の空港のうち、通常運用されている空港の比率が71%であるのに対し、海港では52%、陸上国境では42% (IOM, 2021) と著しく比率が下がることから想像できよう。ただ、欧州経済領域においては、シェ

ンゲン圏と重なることから、およそ77%の陸上国境 (531地点のうち408地点) が通常運用されている。

防疫上の陸上国境の脆弱さが明らかになった事件があった。今年6月にロシアのサンクトペテルブルクで開催されたUEFA EURO 2020 (サッカー欧州選手権: 昨年の延期により今年開催) を観戦したフィンランド市民が陸上国境を越えて帰国し、感染拡大を引き起こした事件である。国営鉄道は国際線を運用していなかったため、多くのフィンランドからの観戦者は、国際航空便を利用するのが最も手堅く、その他にチャーターしたバスや自家用車で陸上国境を越えてロシアに入国した。フィンランド政府は、ロシアへの旅の自粛を求め、保健福祉研究所は自宅での観戦を強く推奨したものの⁸、感染者を

表2 空港・海港・陸上別上陸地点運用状況 (2021年7月8日現在)

国	立地	上陸地点運用状況 (実数)					上陸地点運用状況 (百分率)			
		通常運用	制限付き運用	完全閉鎖	不明	合計	通常運用	制限付き運用	完全閉鎖	不明
カザフスタン	空港	0	2	1	0	3	0	67	33	0
	陸上国境	0	17	0	2	19	0	89	0	11
ウズベキスタン	海上国境	0	0	0	3	3	0	0	0	100
	空港	0	0	1	0	1	0	0	100	0
タジキスタン	陸上国境	0	1	0	0	1	0	100	0	0
	海上国境	0	0	0	0	0	-	-	-	-
キルギス	空港	1	2	1	0	4	25	50	25	0
	陸上国境	0	0	19	9	28	0	0	68	32
アルメニア	海上国境	0	0	0	0	0	-	-	-	-
	空港	6	0	0	0	6	100	0	0	0
アゼルバイジャン	陸上国境	13	5	6	0	24	54	21	25	0
	海上国境	0	0	0	0	0	-	-	-	-
ジョージア	空港	2	0	0	0	2	100	0	0	0
	陸上国境	4	0	0	0	4	100	0	0	0
ウクライナ	海上国境	0	0	0	0	0	-	-	-	-
	空港	4	0	0	0	4	100	0	0	0
ベラルーシ	陸上国境	0	11	1	0	12	0	92	8	0
	海上国境	0	4	0	0	4	0	100	0	0
ロシア	空港	3	0	0	0	3	100	0	0	0
	陸上国境	4	0	0	0	4	100	0	0	0
世界	海上国境	2	0	0	0	2	100	0	0	0
	空港	27	0	1	0	28	96	0	4	0
世界	陸上国境	105	0	53	1	159	66	0	33	1
	海上国境	14	0	0	0	14	100	0	0	0
世界	空港	2	0	6	0	8	25	0	75	0
	陸上国境	0	0	26	0	26	0	0	100	0
世界	海上国境	0	0	0	0	0	-	-	-	-
	空港	41	0	45	0	86	48	0	52	0
世界	陸上国境	0	104	1	1	106	0	98	1	1
	海上国境	0	40	0	0	40	0	100	0	0
世界	空港	840	87	130	109	1166	72	7	11	9
	陸上国境	1081	803	509	189	2582	42	31	20	7
世界	海上国境	377	223	67	59	726	52	31	9	8

出所: IOM, COVID-19 Mobility restrictions mapping as of 8 July 2021 : <https://migration.iom.int/countries/russian-federation>

⁷ Tashkent Times: <https://tashkenttimes.uz/national/7099-uzbekistan-closes-border-with-afghanistan-due-to-coronavirus-spike> (2021年9月1日閲覧)。

⁸ Yle Uutiset: https://yle.fi/uutiset/osasto/news/vr_no_passenger_trains_to_russia_during_football_championship/11942249 (2021年7月9日閲覧)。

増やす結果となった。フィンランドのロシアとの陸上国境は、帰国者のみ通過することが許され、ロシア側も同様の措置をとっているものの、EURO 2020の開催において、EURO 2020の感染者が必ず携帯しなければならない個人情報記録したFAN IDと入国まで72時間以内のPCR検査陰性証明書を携帯したものは、陸上国境の通過が認められたことが背景にある。共同通信の報道では、6月22日のフィンランド対ベルギー戦を観戦した約3,000人のサポーターが陸路バスで帰国し、約800人が検査や隔離をすり抜けたという⁹。陸上国境の防疫の難しさを、このニュースは物語っている。

新型コロナウイルスが感染拡大する以前、ロシアで就労するタジキスタンの労働者は、空路以外では、鉄道やバスなどでウズベキスタン、そして、カザフスタンを経由してロシアに入国する。タジキスタン国内にはドゥシャンベを中心とした南部地域とホジェンドを中心とした北部地域とを直接接続する国内鉄道網がない。南部地域からの移動は、ドゥシャンベから西部国境を通じてウズベキスタンに入り、北部地域の人々は北部のウズベキスタンとの陸上国境チェックポイントを通じて出国する。タジキスタンとウズベキスタンとの間の国境は、2018年まで国境チェックポイントは、ドゥシャンベ西方にあるサリオシオ〜トルズンゾダのチェックポイントと、ホジェンドからタシケントに向かう幹線のホテハバード〜オイベックのチェックポイントの2箇所しかなかったが、その後、鉄道1箇所、道路8箇所、その他国境検問所1箇所が運用再開したとの報道がある¹⁰。2018年以前から運用されていたホテハバード〜オイベックのチェックポイントを利用してウズベキスタンに入国したタジク国民は2018年時点で299,729人、このチェックポイントを利用して帰国したタジク国民は297,610人にのぼり、新たに稼働し始めたタジキスタンのソグ

ド州とウズベキスタンのタシケント州との間の他2箇所チェックポイントを合わせると、タジキスタン国民の実に21.5%がこれらの国境を移動したことになる(ADB, 2021)。これらのすべてがウズベキスタンを経由してロシアに向かう訳ではないが、ユーラシアにおける労働力移動において陸上国境は重要な移動経路である。新型コロナウイルスに対する防疫においては、こうした陸上国境の人の流れを断ち切ることが重要な対策とされていた¹¹。

法的に陸上国境を通じて近隣諸国から労働者がロシアに入国できないとしても、陸上国境を通じての移動が報じられることもある。ロシアに接するウクライナのルハーンシク州にある歩行者道路用の陸上国境では、新型コロナウイルス感染拡大以前よりもはるかに少ないものの、国境を越える人々がいることが報道されている¹²。ベラルーシは、ロシアとの国境を閉鎖していないため、EU やロシアへの経由地になっているという(Рязанцев et al., 2020)。2020年9月にロシアとベラルーシ、カザフスタン、キルギス共和国との間の航空路が再開されると、ベラルーシ経由でロシアに入国しようとタジキスタンの航空券売り場で行列ができた様子が報道されている¹³。

このように、ロシアへの労働力供給国であるロシア近隣諸国にとって、わたしたちに馴染みのない陸上国境は欠かせない重要な移動経路である。しかし、防疫上、閉鎖されやすく、また、同時に、厳格に管理しづらい経路でもある。この陸上国境という移動経路が閉鎖されたことは、帰国経路と労働供給の大動脈を断ち切ったに等しい。このことが多くの外国人労働者をロシアに滞留させるとともに、ロシアの一部地域で不足する外国人労働力供給に与えた影響は大きい。

4. コロナ禍で滞留する外国人労働者

すでに冒頭で述べたように、ロシアは国内の新型コロナウイルスの感染拡大が顕著となった2020年3月から主要な近隣労働力供給国からの労働力受け入れを事実上停止し、2021年3月まで一年間、新規外国人労働者の供給が停止していたと見なすことができる。また、移動手段は、陸上国境が閉鎖されており、航空路を利用しての労働力の供給に限られ、外国人労働力の供給は、制度的に著しく制約を受けていた。同時に、多くの近隣諸国の外国人労働者がロシアに滞留することとなった。それらの規模を明らかにすることは難しいが、入手できるデータから、外国人労働者の滞留および新規供給状況を間接的に探ってみよう。

図1は、ロシアの月別新規感染者数の推移と月別特別労働許可発行数の推移を重ね合わせたものである。2020年3月までは順調に発行数を増やしていたが、4月以降に発行数は激減している。伝統的にロシアで働く旧ソ連諸国の外国人労働者数は、季節の変動をもつ。冬期に働く人々は少なく、1月の就労が最も少ない。彼らは、3月から5月の間に入国し、11月頃になると母国に帰る傾向がある。2020年3月から外国人労働者の越境移動が制限されたため、例年ならば特別労働許可証の発行がピークを迎える5月に新規外国人労働者の受け入れができなかったことが、この図から窺える。旧ソ連諸国からの外国人労働者がロシアに入国できるようになった2021年4月以降、急速に特別労働許可証の新規発行数が伸びている。

2020年4月から2021年3月まで新規外国人労働者受入が事実上停止していた2020年3月以前に入国した外国人労働者およびロシアに滞留していた外国人労働者がいる。2020年4月18日の大統領

⁹ 共同通信: <https://www.jiji.com/jc/article?k=2021062900206&g=int> (2021年7月9日閲覧)。

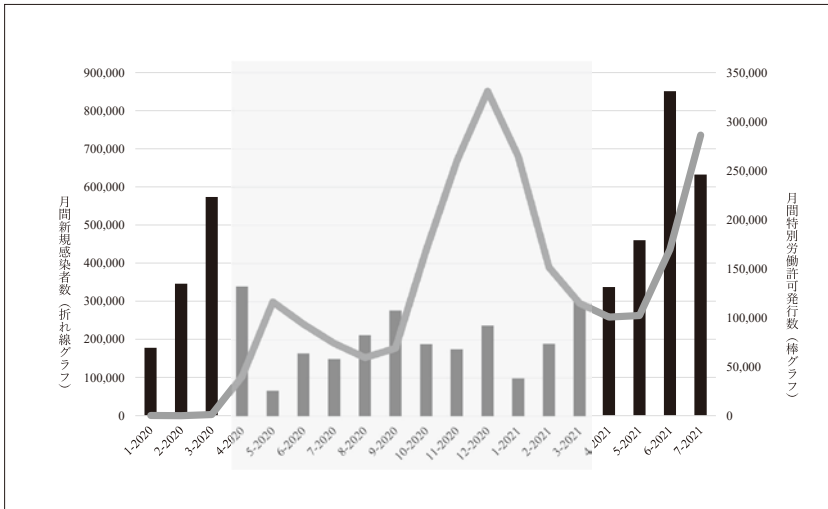
¹⁰ TAG news: <https://tajikta.tj/ru/news/na-tadzhiksko-uzbekskoy-granitse-segodnya-nachnut-funktsionirovat-desyat-ranee-zakrytykh-kpp> (2021年7月19日閲覧)。

¹¹ タジキスタン労働者がロシアから陸路帰国しようとする、カザフスタンとウズベキスタンとの陸上国境で足止めされる。それぞれ入国は自国民の入国しか許していないため、これらの国を経由して帰国しようとするタジキスタン国民は、入国を許されないからである。Radio Free Europe: <https://www.rferl.org/a/tajiks-stranded-on-kazakh-uzbek-border-amid-coronavirus-fears/30491531.html> (2021年7月28日閲覧)を参照。CIS諸国の国境が閉鎖された後に生じた国境地域での帰還移民たちの混乱は、Рязанцев et al. (2020) が詳しい。

¹² Euronews: <https://www.euronews.com/2021/05/14/one-country-two-wars-how-covid-19-is-fighting-against-ukraine> (2021年7月28日閲覧)。

¹³ Radio Ozodi: <https://rus.ozodi.org/a/30850457.html> (2021年7月28日閲覧)。

図1 特別労働許可発行数と新型コロナウイルス新規感染者数の推移



出所: 特別労働許可発行数はロシア内務省資料より収集し、新規感染者数はジョンズホプキンス大学 (<https://data.humdata.org/dataset/novel-coronavirus-2019-ncov-cases>) より収集

領令274号「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のさらなる蔓延の脅威に関連するロシア連邦における外国人市民および無国籍者の法的地位規制に関する一時的措置について」では、当初は2020年7月15日まで、2020年6月15日の改正392号では9月15日まで、2020年9月23日の改正580号では12月15日まで、2020年12月15日の改正第791号では、2021年6月15日まで、就労関連書類の有効期限の延長が認められた。この措置により、一時的滞在者は、滞在地の変更がなければ、ビザ延長の手続きを行うことなくロシアに滞在することができ、労働許可証および特別労働許可証 (労働パテント) が期限切れになっている者は、そのままロシア国内に滞在延長しながら、特別労働許可証の再発行を受けることができるようになった。図1に見られるように、新規外国人労働者が国境閉鎖によって受け入れられない時期にも、特別労働許可証の発行が記録されているのは、特別に入国が許可された近隣諸国の外国人労働者に加え、こうした滞留した外国人労働者の特別労働許可証の再発行に関係があると考えられる。

さらに、2021年6月15日付大統領令364号「新型コロナウイルス (COVID-19)

感染拡大状況克服期におけるロシア連邦における外国人市民および無国籍者の法的地位規制に関する一時的措置について」により、すでに入国している一時滞在外国人のロシアにおける在留期間延長がさらに12月31日まで認められるようになった。また、ロシアにおいて法的地位をすでに失っている外国人に法的地位を与えることが可能になり、不法移民化している外国人へのアムネ스티が、この大統領令による一時的措置で実現した。また、ビザ免除国からの外国人には、期間中、滞在地の目的いかんにかかわらず、労働許可証および特別労働許可証の発行を受けることが可能になった。これらは、事実上、コロナ禍でロシア国内に滞留する不法移民を強制送還せずに合法化する人道的措置であるとともに、不足する外国人労働者を確保する狙いもあったと見ることもできよう。

移民登録統計における移民登録実数は、居住地登録と到着地登録の合計である。居住地登録者は、永住外国人であるか一時的居住許可 (3年間)¹⁴をもつ外国人であり、彼らは就労において労働許可や特別労働許可を取得する必要がない。それゆえ、移民登録においては一時的滞在外者とは区別されている。一時的

滞在外者は、最初の目的地で入国目的を登録する。2020年までの移民登録統計には、一時滞在外者による到着地登録の内数に初回移民登録者数が記録されており、その内数として入国目的別登録者数が記載されていた¹⁵。到着地移民登録者数 (つまり、一時滞在型移民入国数) に占める初期登録者数の割合は、2019年で73.2%であったが、2020年で44.7%と、大幅に減少している。2020年の4月以降1年間、原則、新たな外国人労働者の入国は著しく制約されていたために、初期登録者や就労目的と初回申告した到着地登録者数は、2019年に較べて著しく減少しているはずであるし、また、母国に帰国できず滞留した者や滞在地を変更した者の数が到着地登録者数に反映されていると推察できる。そこで、著しく入国が制限され、しかも、労働需要の高い期間として、第2および第3四半期の移民登録統計を取り上げ、2019年同時期の移民登録統計と比較してみよう。

表3で示されている到着地移民登録者数は、2020年の第3四半期のデータから第1四半期登録分を除いた登録者数であり、第2および第3四半期の登録増加数を表している。Хасанова et al. (2020) によれば、移民登録は、到着地登録、居住登録に基づいて記録されるが、ロシアの統計制度では、登録が解除されると形式的にその者は出国していることになり、再登録により再び到着が記録されていたという。このことから、当該期間に到着地移民登録数が増加している理由として、到着地移民登録者数には、在留期間延長が認められた者、許可された在留期間を過ぎた者の再登録、それまで働いていた地域を離別の場所で働き始めた者の登録など、滞留人口の再登録分が含まれていると考えるのが妥当である。

初回登録者は、本来、入国後最初の目的地に到着したときの申請に基づく。ただし、先の Хасанова et al. (2020) の指摘に従えば、一度登録抹消されながらも

¹⁴ 一時的居住許可は、ロシア国籍取得の最初のステップであり、労働許可や特別労働許可を取得することなく、就労することが許される。一時的居住許可を取得し、少なくとも一年間ロシアに居住した後、労働や社会的権利においてロシア市民と同様の権利を有する永住許可の申請を行うことができる。

¹⁵ 2021年から移民登録書類の書式が変更になり、受け入れ側の移民登録抹消手続きなどが整備され、移民登録統計においても初回登録者数は記載されなくなった。2021年になってから、到着地登録者数と入国目的別登録者数合計とは一致している。それゆえ、2020年までの移民登録データと2021年以降の移民登録データとの連続性については、注意が必要である。

表3 第2・第3四半期の到着地移民登録者数(2019年・20年比較)

	2019年4-9月						
	到着地 移民登録者 (A)	その前年比 (%)	初回登録者 (B)	その前年比 (%)	到着地 移民登録者数 に占める 初回登録者数 (%)	移民登録 抹消者数 (C)	(A)-(C)
アルメニア	338,244	-	192,417	-	56.9	261,431	76,813
カザフスタン	373,416	-	311,457	-	83.4	338,906	34,510
キルギス共和国	522,175	-	303,477	-	58.1	503,219	18,956
ベラルーシ	279,775	-	248,528	-	88.8	220,682	59,093
タジキスタン	1,480,985	-	889,099	-	60.0	1,193,880	287,105
ウズベキスタン	2,669,411	-	1,437,901	-	53.9	2,273,786	395,625
ウクライナ	789,183	-	601,303	-	76.2	708,942	80,241
ベトナム	52,058	-	42,633	-	81.9	40,840	11,218
中国	1,565,353	-	1,525,807	-	97.5	1,442,898	122,455
	2020年4-9月						
アルメニア	136,958	40.5	34,034	17.7	24.8	143,279	-6321
カザフスタン	122,558	32.8	61,131	19.6	49.9	148,393	-25835
キルギス共和国	282,176	54.0	65,084	21.4	23.1	267,550	14626
ベラルーシ	101,564	36.3	72,195	29.0	71.1	96,277	5287
タジキスタン	825,222	55.7	186,373	21.0	22.6	848,558	-23336
ウズベキスタン	1,581,818	59.3	347,027	24.1	21.9	1,586,448	-4630
ウクライナ	286,308	36.3	124,131	20.6	43.4	314,014	-27706
ベトナム	14,830	28.5	6,244	14.6	42.1	14,509	321
中国	54,319	3.5	29,414	1.9	54.2	62,701	-8382

出所：ロシア内務省資料より筆者作成

ロシアに滞留し、再登録を行った者も、初期登録者として記録されていると考えられる。また、在留期間延長申請の場合は、到着地移民登録者数に勘定されるが、初回登録者とは見なされない、と考えるのが妥当であろう。従来、近隣諸国からの外国人労働者はおおむね、最長1年間の特別労働許可証を取得し、一回だけ特別労働許可の再発行を申請することができたが、2020年4月の法改正で、2年を超えない限り回数制限なく特別労働許可の再発行を申請できるようになっている。新規入国が著しく制限されているなかでも、到着地移民登録者数および初期登録者数が伸びているのは、単純に新規入国者数増加を反映したものではない。

新型コロナウイルスの影響がなかった2019年、到着地移民登録者数に占める初回登録者数の比率は、在留期間延長の難しいビザを必要とする諸国（ベトナムや中国）やビザ免除国でありながら往来が容易なカザフスタンやベラルーシやウクライナにおいて高く、特別労働許可再発行と在留期間延長が容易な主要労働力供給国（アルメニア、キルギス共和国、タジキスタン、ウズベキスタン）の比率が相対

的に低かった。2020年、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、新規入国が著しく制限されたため、どの国もその比率を大幅に低下させたが、特に、主要労働力供給国におけるその比率は20%台と著しく低下した。このことから、アルメニア、キルギス共和国、タジキスタン、ウズベキスタンからの外国人労働者は、第2・第3四半期において、在留期間延長などでロシア国内に滞留していた者が他の国より相対的に多かったことが看取できる。ロシア科学アカデミー社会学研究所とロシア国立研究大学院経済高等学院がモスクワ市とモスクワ州で移民約8,000人に対して2020年6月に実施した調査によれば、キルギス共和国、ウズベキスタン、タジキスタンからの滞留移民のうち7割以上が母国に帰還せずロシアに滞留すると回答している（Denisenko & Mukomel 2020）。

到着地移民登録数は、当該期間に積算されていくが、一方でロシアを出国したり、許可された在留期間を過ぎて不法滞在している者は、移民登録から抹消される。2019年のデータを見れば、当該期間、登録抹消者よりも到着地移民登録者の方が多く、労働力の供給が不断に行われて

いることがわかる。2020年は、新型コロナウイルス感染拡大による影響で、ほとんどの国で登録抹消者数が到着地移民登録者数を凌駕している。これには、母国へ帰還した者と許可された在留期間が過ぎ、登録を抹消された者も含まれていると考えられる。この時期、ベラルーシ、カザフスタン、アルメニア、ウクライナからの外国人労働者は、モスクワで雇用削減の影響を受けなかったものの、キルギス共和国、タジキスタン、ウズベキスタンからの外国人労働者は、就労に苦勞していた（Denisenko & Mukomel, 2020）。移民労働者が直面していた問題は、賃貸している住居の支払ができず、仕事も見つからず、食費にも困窮し、ロシア政府からも十分な補助が期待できない状態にあった（Ryazantsev et al., 2020）。こうした状況から、帰国を余儀なくされたり、不法移民化したりする外国人労働者は、多かったと推察できる。

5. ロシアが直面する季節労働者確保の問題：中露国境農業地帯に着目して

これまで論じてきたように、国境の閉鎖によりロシアには多くの外国人労働者が滞留するも、彼らは新型コロナウイルス感染拡大のなか、経済活動の停滞から雇用を見いだすことができずにいた。一方で、新規の外国人労働者が事実上入国できなかったことによる労働力不足が、地方において問題になっている。多くの報道で共通して論じられているのは、建設労働者と農業労働者の不足である。大統領府およびプーチン大統領自身も、この問題への関心は高く、大統領府報道官はロシアの「野心的なプロジェクトを遂行するうえで十分な移民の数が確保できていない」¹⁶ことを認めているし、プーチン大統領はタジキスタン大統領との首脳会談（2021年5月8日）において、それを解決するために移民達が安心して働ける環境を提供できるよう努力すると述べている¹⁷。

ロシア政府は、2020年は、4月から5月の種播期に合わせて入国する外国人農

¹⁶ TASS: <https://tass.ru/politika/11096635> (2021年8月6日閲覧)。

¹⁷ Gazeta.ru: https://www.gazeta.ru/politics/2021/05/08_a_13586420.shtml (2021年8月6日閲覧)。

業労働者が獲得できず、ロシアは農産物の市場への供給を安定させるために、2020年4月1日から6月30日まで主要農産物の輸出を700万トンに制限する割当を導入し、農業生産者への補助金を増やした。非労働日の適用を農業から外し、他の産業部門から農業部門への労働移動を促そうとした(Ломовцева & Пятаева, 2020)。連邦農業省の試算では、2020年4月段階で23,000人の外国人季節農業労働者の補充が必要とし、農業大学の学生約11,000人を充てるとともに、連邦刑務局と協力して受刑者の活用まで計画されたが¹⁸、彼らにできる農作業は単純な手作業であり、外国人季節労働者に代替するにはスキルも数も不足していた(Потапова, 2021)。外国人農業労働者が担っている仕事は、単純労働だけではなく、農業機械のオペレータ、農業エンジニア、農業専門家、熟練農業労働者など、資格や熟練を必要とする労働に及んでいたからである¹⁹。

穀物生産においては、機械化による省力化で人手不足を補う方法もあるが、野菜や果物の生産においては機械化による省力化効果は低く、季節労働者の不足は収穫に大きな影響を与える。労働力不足は、農業部門の賃金上昇圧力や種播計画削減などにより農産物価格の上昇に帰結し、経済停滞に苦しむ国民に追い打ちをかける。それゆえ、ロシアの外国人農業労働者は、パンデミック下のエッセンシャル・ワーカーであると言える。新型コロナウイルスの感染拡大は、中央アジアからの外国人労働者が農業部門、ひいてはロシア国民の食料安全保障にとって構造的に不可欠な存在であることを再認識する契機となった。

EUにおいては、150万人もの東欧諸国の季節労働者の供給がなければ欧州の食品サプライチェーンは崩壊すると憂慮し、ロシア同様に主要な東欧諸国の国境が閉鎖されていた2020年4月から5月の

間に、オランダ、ドイツ、ベルギーはルーマニアやハンガリーから農業労働者をチャーター便で輸送している(Cosma et al., 2020)。EU諸国内での農業労働者確保だけでなく、ウクライナからもチャーター便で労働者を招致している。内外からの農業労働者の確保は、防疫上十分な措置を伴わなければならない。食料安全保障にも関わる農業生産労働者は、エッセンシャル・ワーカーであるとともに、新型コロナウイルスの感染リスクにさらされる労働者であるからである²⁰。それゆえ、コロナ禍のもとでは、企業の都合だけで外国人労働者の誘致ができるわけではなく、企業、政府、地方自治体の連携、協力が不可欠である。

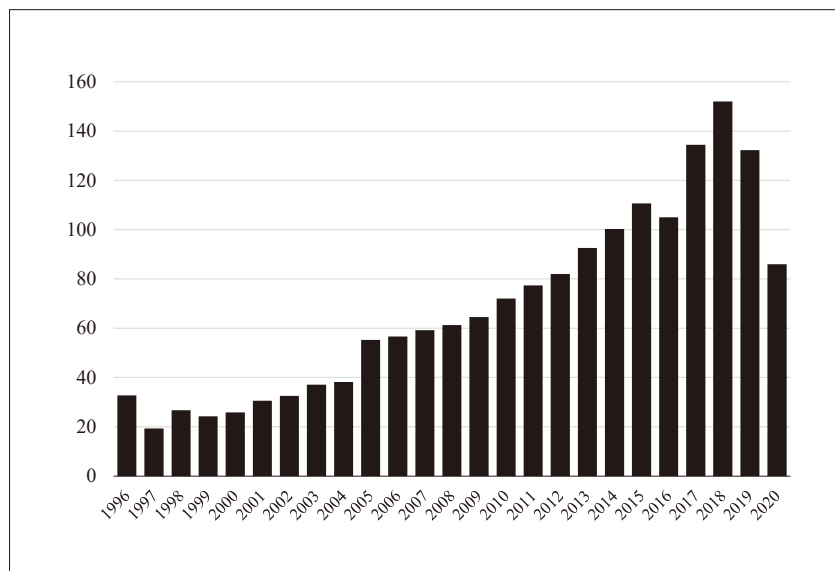
ロシアでも同様の動きは見られた。アストラハン州では、外国人労働者を雇用できない場合は、農産物生産量が7割減少する可能性があるとして、2020年春の季節労働者推定数をもとに、国境がまだ閉鎖されている2021年1月にウズベキスタンからの労働者11,000人を特別に入国させたという²¹。ただ、こうした緊急の外国人労働者誘致が、ロシア政府および農業省主導

で全国的に行われているわけではなく、外国人労働者を緊急に誘致するか、国内人材を優先するかで、農業省の態度は固まっていない。2021年2月に農業省第一副大臣は2022年の外国人季節労働者誘致数を減らし、ロシア人学生の活用を優先する方針に言及している²²。

極東地域の農業地帯に目を向けると、状況はより複雑である。ロシア極東の国境地域で盛んなのは、大豆生産である。ロシアの大豆生産は、大規模な機械化による生産が中心で、中国との隣接性を活かし、中国へ輸出されている。そうした生産地は、都市部から離れた人口過少な地域にあり、地域の労働力だけでは生産を維持できない。従来、その労働力は、主に中国からの農業労働者によって確保されている。中露国境の閉鎖は、そうした労働力供給に多大な影響を与えたことは、想像に難くない。具体的にユダヤ自治州の事例で考察しよう。

ロシア極東地域では市場経済化以降で大豆播種面積が最大となったのは、2019年である。ユダヤ自治州では2018年を播種面積拡大のピークとし、2019年に

図2 ユダヤ自治州大豆播種面積の推移(単位:1000ha)



出所: EMICCよりデータ取得

¹⁸ ロシア連邦農業省: <https://mcx.gov.ru/press-service/news/minselkhoz-rossii-obespechit-uborochnuyu-kampaniyu-neobkhodimymi-trudovymi-resursami/> (2021年8月6日閲覧)。

¹⁹ Kommersant: <https://www.kommersant.ru/doc/4628224> (2021年8月6日閲覧)。

²⁰ 米国では、移民農業労働者が多い州ほど、新型コロナウイルスへの感染リスクが高いとする研究事例がある(Lusk and Chandra, 2021)。

²¹ Arbut today: <https://arbuttoday.ru/nexvatka-migrantov-mozhet-obernutsya-katastrofoj-dlya-selskogo-xozyajstva-regiona/> (2021年8月6日閲覧)。

²² TASS: <https://tass.ru/ekonomika/10880701> (2021年8月18日閲覧)。

やや減少する。そして、2020年には大幅に播種面積が減少している(図2)。2019年比で2020年の大豆播種面積は、ユダヤ自治州で35.0%減で、沿海地方(12.9%減)、ハバロフスク地方(10.6%減)、アムール州(2.9%減)と較べても顕著な減少である。2019年は、アムール河氾濫による大規模な農地浸水があった。しかし、2020年の播種面積の減少は、洪水の影響とはいえない。2019年の洪水は7月末に生じたが、2013年の洪水が翌年の播種に影響を与えていないことから、2020年の播種面積の急激な減少は、環境要因ではなく、播種計画が実行されなかったがゆえの結果であると想定できる。

播種計画が実行できなかった要因で考えられるのは、播種に必要な労働力不足である。ユダヤ自治州にとって大豆は2020年の播種面積の9割を占める主要産品であり、主に中露国境沿いの地域で行われている。特に、レーニンスキー地区、オクチャプリスキー地区において大豆生産が盛んであり、このふたつの地区だけでユダヤ自治州の大豆の約9割を収穫している。大豆生産は、機械化が進んだ生産であり、大量の労働者を必要とするものではない一方、熟練や資格を有する人材を必要としていた。レーニンスキー地区、オクチャプリスキー地区は、州都ビロビジャンから100キロ以上離れており、人口密度が極端に低い超疎化地域である。同地区において季節農業労働者を州内で確保することは難しく、中国や中央アジアからの労働力供給に依存している。それゆえ、播種計画の遂行には、外国人労働力の確保が不可欠のはずであるが、新型コロナウイルス感染拡大による国境閉鎖によって、外国人季節労働者の供給が断られたと想像できる。ユダヤ自治州の2019年の就労目的の移民登録者数は、5,754人だったが、2020年はわずか890人であった。

このことを、ユダヤ自治州の報道で確かめてみよう。タス通信の2020年5月12日の報道²³では、新型コロナウイルス感染拡大

により国境が閉鎖されたために、ユダヤ自治州において播種期の労働力が不足している状況が報道されている。ユダヤ自治州政府の農業部門責任者の話として、2019年までは中国人が大豆の播種作業に参加していたが、2020年5月の播種期には地元住民と「近い外国」(旧ソ連諸国)からの移民労働者が播種に参加していたという。大豆を生産している地元農業生産者からの要望では、外国人労働者1,323人(この数字は、他の報道と照合すると労働許可割当数にあたる)が必要とされているが、中国からの労働者受入が期待できないために、旧ソ連諸国からの移民労働者を確保するとともに、州都ビロビジャンで労働者を募集している状態であった。さらに興味深いのは、播種作業に必要な季節労働者としての中国人労働者の供給が受けられないだけでなく、農地を借りて大豆生産をしている中国人が入国できないために、春の播種計画に参加できない事態が生じており、中国人が管理する農地を地元生産者に転貸する作業をユダヤ自治州政府が行っていると報道している。

春の播種が終わって、ユダヤ自治州地元メディア EAOMedia.ru の2020年8月28日の報道²⁴では、播種計画の達成度が報じられている。2020年の各種播種は全体で16万6千ヘクタールであったが、結局、播種計画は達成できず、春の播種面積は前年比64%、大豆は63%に減少したとされている。前述の公式統計とはほぼ一致している。オクチャプリスキー地区では前年比73%で播種を行い、レーニンスキー地区では前年比45%しか播種できなかったという。その原因を、この報道では、新型コロナウイルス感染拡大によるものと断じている。その理由として、第一に挙げられている理由は、国境が閉鎖され入国できなくなった外国人労働者を代替する人材を地元で探すことができなかったことである。報道では、オクチャプリスキー地区ナギボヴォ村のフェルメル(自営農家)の話として、例年雇っている12人の外国人

労働者を確保できず、なんとか播種計画を達成できたものの、自身が畑に張り付いて仕事をしていたため、本来良い収穫を得るためにやるべき他の仕事ができなかったとの苦労話が紹介されている。第二の理由は、州には外資系農企業44社があるが、そのすべての企業で企業経営者がユダヤ自治州で春の播種を指揮できなかったことを理由に挙げている。地元農家のほとんどが、多くの困難に直面しながらも、9割以上の播種計画を実現したとされていることから、中国人経営者による播種計画の未達成が、2020年度の播種実績減少を生み出したと示唆している。

このように、ユダヤ自治州のような人口過少な中露国境地域では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う国境を跨ぐ人の移動の制限により、播種、栽培、収穫を担う人材を確保できないだけでなく、中国企業・農家が農地を借用している場合には、播種計画そのものを立案できず、大幅に生産を縮小させる結果となった。陸上国境を共有する地域であるがゆえに、中国人労働者や企業経営者の頻繁な往来が可能な国境地域においては、中国人労働者や資本への依存は、陸上国境を通じた人の往来への依存と表裏一体であった。この陸上国境への依存が、新型コロナウイルス感染拡大において、ユダヤ自治州の対中国主要輸産品である大豆生産を停滞させることになったのである。2020年のユダヤ自治州の大豆収穫量は、ロシア統計庁報道発表によれば5.9トン、前年比97.2%だった²⁵。播種面積の減少を生産性で相殺することに成功したように見えるが、そうではない。2019年は、春の播種は計画どおり行われたものの、7月後半に発生したアムール河の大規模な氾濫による農地浸水のため、大幅に収穫を減らした年であった。洪水のなかった2018年の大豆収穫(14.8万トン)に較べると、2019年の大豆収穫量は、6.1万トン、前年の40.9%に過ぎなかった。新型コロナウイルス感染拡大の大豆生産への影響は、アムール河の大規模な氾濫、つ

²³ TASS: <https://tass.ru/obschestvo/8449107/> (2021年8月26日閲覧)。

²⁴ EAOMedia.ru: <https://eaomedia.ru/news/989138/> (2021年8月26日閲覧)。

²⁵ ROSSTAT: <https://habstat.gks.ru/storage/mediabank/12uklbr2/Пресс%20выпуск%200%20посевных%20площадях.валовом%20сборе%20и%20урожайности.pdf> (2021年8月26日閲覧)。

まり、大規模な自然災害を凌駕するレベルであったと言える。

6. おわりに

ロシア経済の維持には、近隣諸国の外国人労働者の活用が不可欠である。新型コロナウイルス感染拡大による国境を跨ぐ人の移動の制限は、そうした近隣諸国の外国人労働者の往来を停めた。防疫上の観点から、外国人の入国は空港に集約され、陸上国境は閉鎖された。陸上国境の閉鎖は、陸上国境を通じた移動が、相対的に安価であり、また、複数の国を跨ぐ移動であったため、ロシアにいる多くの外国人労働者を滞留させ、また、不法移民化させる原因にもなった。陸上国境の管理は甘く、公式の運用状況と現

実とは乖離がある。それでも、陸上国境の閉鎖は、ロシアに新型コロナウイルス感染拡大前から在留していた多くの外国人の帰国を困難にするとともに、近隣諸国からの労働供給を著しく制約した。

経済活動が縮小するなか、外国人労働力に依存する農業部門においては深刻な外国人労働力不足が露呈した。新型コロナウイルスの拡大に伴う外国人労働力供給の停滞は、農業における生産計画の下方修正に帰結する。その事例として、本稿では、中国人労働力依存の強いロシア極東の中露国境農業地帯の大豆生産に着目し、国境閉鎖に伴って中国人経営者や農業労働者が春の播種時期に入国できなかったがために、大幅に播種面積を減らす結果となったことを明らかにし、新型コロナウイルス感染拡大に伴う

国境閉鎖の影響が自然災害を凌駕するダメージを地域の農業に与えたと論じた。2021年3月以降の外国人労働力の供給は、新型コロナウイルス感染拡大前の趨勢に戻っている。今後の外国人労働力供給には不安はなくなっているものの、前述のユダヤ自治州地元メディア EAOMedia.ru の記事にあるように、ユダヤ自治州の農業担当者が2020年の外国人労働力不足の経験から、いま一度地域の農業労働者の育成の必要性を訴えていることに注目したい。新型コロナウイルス感染拡大に伴う人の移動の停滞は、管理されたより柔軟な外国人労働者受け入れの重要性とともに、外国人労働者に依存せずに地域産業を維持する未来を探ることが、これからは続くコロナ危機への対応に不可欠であるとの教訓を与えたようである。

(謝辞)

本稿は、科学研究費助成事業国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「国際制裁下ロシアの国家、地域及び企業社会:日米露共同研究プロジェクト」(課題番号:19KK0036)、科学研究費助成事業挑戦的研究(萌芽)「中露国境資源地域のポジショナリティ研究:資源係争地ローカル・モデルの帰納的構築」(課題番号:18K18538)、及び、人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「北東アジア地域研究」の成果である。

<参考文献>

- 新井洋史・志田仁完(2021)「COVID-19のロシア経済への影響と政府の対応:2021年6月」『北東アジア情報ファイル』、No. EJ2101、環日本海経済研究所。
- 岩崎一郎(2021)「ロシアにおける経済活動と新型コロナウイルス感染拡大」『ERINA REPORT (PLUS)』、第162号、pp. 22-34。
- 堀江典生(2021)「多国間自由貿易と人の移動の自由:EU、EAEU、WTOからの省察」『比較経済研究』58(2)、pp. 5-29。
- ADB (Asian Development Bank) (2021) *A Road Map for Shymkent-Tashkent-Khujand Economic Corridor Development*, Asian Development Bank.
- Cosma, Valer, Cornel Ban, and Daniela Gabor (2020) "The Human Cost of Fresh Food: Romanian Workers and Germany's Food Supply Chains," *Review of Agrarian Studies*, Vol.10(2), pp.7-27.
- IOM (International Organization for Migration) (2021) *IOM COVID-19 Impact on Points of Entry: Bi-weekly Analysis 23 June 2021*, IOM.
- Lusk, Jayson, and Ranveer Chandra (2021) "Farmer and Farm Worker Illnesses and Deaths from COVID-19 and Impacts on Agricultural Output," *PLOS One*. doi: 10.1371/journal.pone.0250621.
- Ryazantsev, Sergey, Zafar Vazirov, Marina Khramova, and Alexey Smirnov (2020) "The Impact of the COVID-19 Pandemic on the Position of Labor Migrants from Central Asia in Russia," *Central Asia and the Caucasus*, Vol.21(3), pp.58-70.
- Денисенко М., и В. Мукомель (2020) Трудовая миграция в России в период коронавирусной пандемии, *Демографическое обозрение*, Vol.7(3), pp.84-107.
- Иванов, Дмитрий, и Мария Левина (2021) О правовых возможностях ограничения трудовой миграции в рамках Евразийского экономического союза: от теории к практике в условиях пандемии COVID-19, *Демографические исследования*, Vol.1(2), pp.77-85.
- Ломовцева А., и Е. Пятаева (2020) Обеспечение продовольственной безопасности Российской Федерации в условиях пандемии, *Вестник Прикамского социального института*, Vol.1(85), pp.91-95.
- Потапова, А. (2021) Подходы к обеспечению потребности в сезонных работниках сельского хозяйства за счет трудовых мигрантов в условиях COVID-19, *Экономическое развитие России*, Vol.28(3), pp.32-41.
- Рязанцев, С., И. Молодикова, и А. Брагин (2020) Влияние пандемии COVID-19 на положение мигрантов на рынках труда стран СНГ, *Балтийский регион*, Vol.12(4), pp.10-38.
- Флоринская, Ю. (2020) Трудовая миграция в РФ на этапе закрытия границ, *Мониторинг экономической ситуации в России: тенденции и вызовы социально-экономического развития*, Vol.7(109), pp.14-19.
- Хасанова Р., Ю. Флоринская, Н. Зубаревич, и А. Бурдяк(2020) Демографическая ситуация и социально-экономическое положение регионов в апреле 2020 г. (по результатам регулярного Мониторинга ИНСАП РАНХиГС), *Экономическое развитие России*, Vol.27(6), pp.80-100.

COVID-19 Pandemic and Migrant Workers in Russia (Summary)

HORIE Norio

Professor, Center for Far Eastern Studies, University of Toyama

Collaborative Researcher, ERINA

The movement of people across national borders has been severely restricted due to the COVID-19 pandemic, and a fresh supply of migrant workers crossing into Russia from neighboring countries was cut off for one year starting April 2020. The entry of foreigners was consolidated at airports and halted at land borders. The supply of foreign workers who newly entered in Russia was limited in 2020, but many who had arrived before the pandemic remained unintentionally, were allowed to stay legally, and often had their legal status restored with amnesty. As for industry, the agricultural sector struggled to secure foreign workers in 2020. In the soybean-producing regions of the Russian Far East, the inability of Chinese agricultural workers and managers to migrate had a negative impact on production, surpassing the effect of natural disasters like the floods of 2019. Restrictions on the movement of people across national borders caused by the COVID-19 crisis led many foreign workers in Russia to overstay and/or live precariously without employment and, at the same time, caused far-reaching damage in certain industries due to the shortage of migrant workers.

Keywords: COVID-19 pandemic, Migrant workers, Borders, Russia

JEL Classification Codes : F22, I18, J15, J61

ロシアにおける経済活動と新型コロナウイルス感染拡大

一橋大学経済研究所教授・ERINA 共同研究員

岩崎一郎

要旨

新型コロナウイルスが巻き起こす疫病災禍に対して、ロシアは、経済活動の強力な抑制という政策手段を選択しない世界有数の国である。このため同国は、経済活動のウイルス感染拡大効果の検証を可能にする貴重な社会実験の場を提供している。本稿は、ロシア連邦構成主体の月次および四半期パネルデータを用いて、如何なる経済活動が、どの程度の感染拡大効果を発揮するのかを実証的に検証した。分析結果は、一般市民をより多く巻き込む経済活動や一般市民の消費・社会活動をより鼓舞する経済活動であればあるほど、新型コロナウイルス感染度により大きなインパクトを及ぼすという筆者の予想を強く裏付けるものであったばかりではなく、経済活動が新型コロナウイルス感染度を変動せしめるまでの時間差は、その種類や様態によって非常に様々であること、また、経済活動と新型コロナウイルス感染拡大の経路や強弱は、ロシア地域の間で大きく異なり得ることをも明らかにした。これら一連の分析結果は、現在および将来の疫病対策にとって重要な政策的示唆を含蓄している。

キーワード：新型コロナウイルス感染拡大、経済活動、動学的パネルデータ分析、ロシア

JEL Classification Codes: C33, E32, I15, I18, R11

1. はじめに

新型コロナウイルスは、中国から世界各国へ瞬く間に広がり、今現在も国際社会を大いに揺るがしている。無論、中国に隣接するロシアも、この未曾有の疫病災害からの被害を受けている。しかしながら、国際通貨基金 (IMF) およびロシア経済産業省の2020年6月予測が、同国の2020年国内総生産 (GDP) 実質成長率を、それぞれマイナス6.6%およびマイナス5.0%と見込んでいたことを鑑みれば (IMF, 2020; 日本経済新聞2020年6月4日付朝刊)、実際の経済的被害はそこまで深刻にはならなかった。事実、ロシア連邦国家統計局によれば、ロシアの2020年 GDP 成長率は、対前年度比で実質マイナス3.0%に止まり、世界金融危機 (いわゆるリーマン・ショック) を発端とするマクロ経済ショックの激しい打撃を受けた結果、景気が著しく後退した2009年のマイナス7.8%に匹敵するほど、新型コロナウイルス感染問題がロシア経済にもたらす悪影響は大きいだろうと見た筆者および多くの専門家の予想は、よい意味で裏切られた (安達・岩崎、2021)。なお、国家統計局が速報値として公表した2021年第1四半期および第2四半期の GDP 対前年同期比実質成長率は、各々マイナス

1.0%およびプラス10.3%であるから、2021年の経済活動も比較的安定的に推移していると云える。

このようなロシアにおける予想外に良好な経済情勢は、同国内の新型コロナウイルス感染被害が比較的軽微であった結果では勿論ない。実際、2020年末時点のロシアにおける新型コロナウイルス感染者数は、308万5107人 (人口1万人当たり210.2人) に達したが、2020年累積感染者数で、ロシアは、米国、インド、ブラジルに次ぐ「世界第4位の感染大国」 (志田、2021) という実に不名誉な称号を得ているのである。なお、新型コロナウイルスに感染して死亡したロシア市民は、2020年累計で、5万6144人 (人口1万人当たり3.8人) というのが公式の発表値である。しかし、このコロナ感染死者数は過小評価の恐れが高いことが、ロシア政府部内からも問題視されており、コロナ禍前後の月別死者数の比較に基づく推定では、ロシアの真のコロナ感染死者数は、ブラジルやインドのそれにも匹敵する水準にあるという (新井・志田、2021)。つまり、感染者数でも死者数でも、ロシアが被った人的な疫病被害は、世界屈指の深刻さだと云えるのである。

以上の状況にも拘わらず、ロシア経済が、我が国や欧米の先進諸国経済との比

較において、より安定的に推移している最大の理由は、国内経済活動の維持を優先するロシア政府の政策方針にあると云って決して過言ではない。プーチン政権の新型コロナウイルス感染症対策の内容と経緯は、新井・志田 (2021) の報告に譲るが、ロシアでは、国内での感染事例が確認され始めた非常に早い段階では、有給の「非労働日」という事実上のロックダウンを含む緊急事態的措置を相次いで実施したものの、感染拡大がやや収まった2020年5月上旬以降は、一転して、企業経営や生産・流通活動の阻害を招くような政策措置は、今日まで殆ど全く実施していない。この間、感染防止を目的とする制限措置の決定権限は、連邦から地方へと移譲されたが、連邦構成主体政府 (共和国、自治州、自治管区、地方、州、連邦市) も、その大多数は、経済活動には中立的な対策に政策範囲を限定しているのが実情である。

経済活動に急ブレーキをかけまいとするロシア政府の政策態度は、市民の生活意識にもはっきりと反映されている。実際、ロシア在住者や同国への出張者は、感染拡大第2波 (2020年9月~2021年2月) の際にも、モスクワでは、「企業はできるだけ在宅勤務を移行させるよう求められただけで、現在は「呼びかけ」というレベルにとど

まっている」(齋藤、2021)、モスクワ市内の商店やレストランは「ほぼ通常の営業体制」(三村、2021)であり、ウラジオストクでは、新型コロナウイルス感染問題から「工業、農業、建設業、輸送業などは全く影響を受けていない」(フジヤトフ、2021)などと、異口同音に語っている。新型コロナウイルス感染を防止するために、経済活動を強力に抑制することで、国民生活を困窮させるようなことは一切行わないとするロシア政府の方針を、市民の側も一定の理解を以て受け止め、可能な限りコロナ禍以前と同様の経済生活を送ろうとしているというのが、この国のありのままの姿であろう。

以上に述べたロシアの現状、即ち、新型コロナウイルス感染防止のために、政策的に経済活動が抑制されないという状況は、ロックダウンやその他の移動・就労制限を含む緊急事態的措置を以て、経済活動を強力に制御している我が国やその他多くの国々では検証しがたい問題の分析、つまり如何なる経済活動が、人から人への新型コロナウイルスの感染を、どの程度拡大する効果があるのかという問題の検証を可能にする。この世界的にも稀有な状況を貴重な社会実験の場と捉え、筆者は、本稿において、経済活動の新型コロナウイルス感染拡大効果という課題に、動学パネルデータ分析という手法を以て接近する。

本稿の構成は、以下の通りである。次節では、2020年年度データを用いて、新型コロナウイルス感染状況と経済活動実績の関係を検討する。第3節では、経済活動の新型コロナウイルス感染拡大効果を検証するための方法論とデータを解説する。第4節では、分析結果を報告し、第5節で、主な研究成果と筆者の結論を述べる。

2. 2020年の新型コロナウイルス感染状況と経済活動実績

本節では、新型コロナウイルス感染状況と経済活動実績に関する2020年データを用いて、両者の関係を考察してみよう。ロシア連邦政府は、新型コロナウイルスの感染者数と死亡者数を逐次発表しており、連邦構成主体各々のデータも広く公開している。表1には、政府公開データに基づいて、ロシア連邦、連邦管区および連邦構成主

体別に、新型コロナウイルス感染者と死亡者の2020年総数と住民1万人当たり人数が一覧されている。新型コロナウイルス感染状況の地域比較は、本稿冒頭に紹介した新井・志田(2021)に詳しいから繰説に及ばないが、同表最下段に示した通り、全82連邦構成主体(データの制約上、ネネツ、ハンティ・マンシ、ヤマロ・ネネツを除く)の住民1万人当たり感染者(死亡者)数の平均および中央値は各々216.7(3.2)名および180.0(2.7)名であるが、標準偏差は126.8(2.2)と大変大きく、新型コロナウイルス感染度に著しい地域間格差が生じている点は、ここに強調しておきたい。

一方、2020年の経済活動実績について、ロシア連邦統計局は、本稿執筆時点(2021年8月)では、鉱工業生産、農業生産、固定投資、住宅建設および登録求人者数の5項目について、その対前年度成長率を、ロシア連邦、連邦管区および連邦構成主体別に公開している。表1には、新型コロナウイルス感染状況と共に、これら5項目の公表データが列挙されている。同表の通り、2020年の厳しい経済環境を反映して、鉱工業生産、固定資本および住宅建設の成長率は、ロシア連邦全体でマイナスに沈んだ。一方、農業生産と登録求人者数は、2019年よりもそれぞれ1.5%および16.6%増大した。ロシアにおける農業生産の疫病災禍に対する強靱性が確認できると共に、景況悪化という条件下での求人数の大幅な増加は、人口危機がロシアの労働市場に及ぼす極めて深刻な影響を感じさせる結果である。

しかし同時に、経済パフォーマンスという観点からの地域間格差は、新型コロナウイルス感染度に勝るとも劣らないのがロシアの特徴でもある。実際、ロシア全体ではマイナス成長に陥った鉱工業生産、固定投資および住宅建設で、前年度と同等の水準ないしプラス成長を実現した地域は、82連邦構成主体中それぞれ33、33および42地域に達し、逆にロシア全体ではプラス成長を達成した農業生産および登録求人者数において、2019年水準からの減少に直面した地域は、各々23および14地域に上るのである。地域間のばらつき程度は、標準偏差を平均で除して得られる変動係数を用いると容易に相互

比較できるが、住民1万人当たり新型コロナウイルス感染者および死亡者の変動係数が、それぞれ0.6および0.7であるとすれば、鉱工業生産、農業生産、固定投資、住宅建設および登録求人者数のそれは、-15.4、4.3、-7.3、-22.9、2.2と、前者の2変数よりも大幅に大きく、2020年経済活動実績に見るロシアの地域間差異は、非常に顕著であるといつてよいだろう。

さて、本稿の問題関心は、上記に概観した連邦構成主体別の新型コロナウイルス感染度と経済活動実績の間に、正の相関関係、即ち、経済活動実績が良好であればあるほど、新型コロナウイルス感染度も高いという関係が看取できるのか否かという点に他ならない。この問題を検討するために、住民1万人当たり感染者数と鉱工業生産対前年度比成長率を、それぞれ新型コロナウイルス感染度と経済活動実績の代表的指標に採用し、各指標の8分位数を基準として、各連邦構成主体を色分けした結果が、図1に示されている。同図(a)の通り、2020年を通じて相対的に高い新型コロナウイルス感染度に達した地域は、北西連邦管区、シベリア連邦管区および極東連邦管区に多く集まっている一方、沿ヴォルガ連邦管区やウラル連邦管区には他の地域よりも低い感染度で収まった地域が集まっている。他方、同図(b)によると、比較的良好な経済活動実績を実現した地域は、北カフカス連邦管区、南部連邦管区および中央連邦管区というロシア西部に集中している。この通り、図1からは、新型コロナウイルス感染度と経済活動実績の間に、予想される関係を見て取ることは出来ない。

そこで、次に、表1に掲げた経済活動実績指標5項目それぞれについて、極端に良好ないし劣悪だった地域(いわゆる外れ値)を除いて、住民1万人当たり感染者数との相関性を検証してみた。その結果は、図2に両者の散布図として表されている。同図の各パネルに描かれた点のばらつきからも、新型コロナウイルス感染度と各経済活動実績の間に、明示的な相関関係が看取できないのは明らかであろう。実際、そこに示されている近似線の傾きは、農業生産を別とすれば、非常にフラットであり、なおかつ近似線の決定係

数 (R^2) は、全パネルについて、極めて低い値を示しているのである。

図2の分析結果が、外れ値を除外し、なおかつ正規分布を想定したパラメトリックな接近法を採用したことによる誤謬である可能性に配慮して、外れ値を含めた全てのデータを利用し、かつ母集団分布の形に依存しないノンパラメトリック法での検証も行ってみた。具体的には、住民1万人当たり感染者数と5つの経済活動実績指標各々について、各連邦構成主体の順位 (rank) を用いるスピアマンおよびケンドールの相関係数を算出したのである (岩崎、2006)。この結果、住民1万人当たり感染

者数と、鉱工業生産、農業生産、固定投資、住宅建設および登録求人者数それぞれのスピアマン (ケンドール) の相関係数 $\rho(\tau)$ は、-0.0308 (-0.0210)、0.0685 (0.0466)、-0.0379 (-0.0241)、-0.0823 (-0.0636) および0.0010 (-0.0068) と大変小さく、その統計的有意水準 (p 値) も、各々0.785 (0.785)、0.559 (0.541)、0.737 (0.754)、0.465 (0.403) および0.993 (0.932) と非常に低いことが確認された。つまり、ノンパラメトリック法での検証も、ロシア地域の新型コロナウイルス感染度と経済活動実績の間に、統計的に有意な相関を一切見出さないのである。

以上の通り、表1の連邦構成主体別新型コロナウイルス感染状況および経済活動実績に関する2020年データを用いた簡便な分析からは、連邦構成主体レベルの経済活動と新型コロナウイルス感染状況との間に、明確な正の相関関係を見出すことは出来ない。この結果は、経済活動の維持乃至拡大が、人流の維持又は増大を介して、ロシア市民の間にウイルス感染を広げるという一般的直観とは大きく矛盾する。それが真実であるのか否かを、本稿後半ではより厳密な方法、即ち、動学的パネルデータ分析を以て再検証してみよう。

表1 ロシア連邦、連邦管区及び連邦構成主体の2020年新型コロナウイルス感染状況と経済活動実績

	2020年新型コロナウイルス感染状況 (名)				2020年経済活動実績 (対前年度成長率、%)				
	総感染者数	総死亡者数	住民1万人当たり感染者数	住民1万人当たり死亡者数	鉱工業生産	農業生産	固定投資	住宅建設	登録求人数
ロシア連邦	3,085,107	56,144	210.2	3.8	-2.6	1.5	-1.4	-1.8	16.6
中央連邦管区	1,310,592	20,047	332.4	5.1	5.2	3.7	-3.4	-2.3	2.5
ベルゴロド州	21,817	258	140.8	1.7	1.4	0.0	-4.5	-8.8	-20.0
ブリャンスク州	23,139	216	194.0	1.8	0.3	2.3	8.2	4.8	6.2
ヴラジーミル州	18,563	501	136.7	3.7	19.3	1.7	1.6	-2.6	20.9
ヴォロネジ州	46,205	1,145	198.8	4.9	3.8	-0.7	-15.7	-8.3	-6.5
イヴォノヴォ州	21,257	514	213.2	5.2	3.5	5.6	14.5	-0.1	26.8
カルーガ州	21,049	172	209.9	1.7	-0.8	3.6	-4.2	3.2	3.8
コストロマ州	15,001	234	236.8	3.7	-11.1	4.9	-4.8	22.0	5.0
クルスク州	20,798	303	188.4	2.7	1.7	5.6	-9.5	-7.5	31.6
リベツク州	16,029	258	140.7	2.3	2.2	6.6	0.7	-4.0	12.0
モスクワ州	155,330	2,899	202.0	3.8	9.2	1.1	-9.2	1.2	16.5
オリョール州	21,369	268	291.3	3.7	5.3	10.9	-8.6	46.1	21.4
リャザン州	18,158	159	163.8	1.4	6.3	14.5	-15.3	-19.0	19.5
スモレンスク州	17,052	333	182.4	3.6	5.0	-3.6	-14.2	3.3	62.5
タンポフ州	17,651	185	175.3	1.8	4.1	9.9	0.1	-24.1	8.7
ドヴェリ州	22,269	453	176.7	3.6	-3.5	-1.8	-17.3	2.6	28.2
トゥーラ州	22,845	750	155.8	5.1	12.4	8.9	-32.2	4.4	11.5
ヤロスラブリ州	22,291	190	177.8	1.5	-3.3	-1.0	-6.6	-6.6	-0.5
モスクワ連邦市	809,769	11,209	638.7	8.8	5.1	-39.2	1.7	-3.8	-9.7
北西連邦管区	486,118	10,571	347.7	7.6	-3.0	3.0	-0.3	-5.9	20.8
カレリア共和国	27,545	160	448.6	2.6	2.2	0.4	9.0	4.7	25.7
コミ共和国	30,353	575	369.9	7.0	-7.0	14.8	11.5	-14.7	7.7
アルハンゲリリスク州	43,327	439	381.2	3.9	-7.8	1.3	-4.8	12.5	19.5
ヴォログダ州	23,435	425	201.9	3.7	2.3	0.2	-5.7	-14.6	4.4
カリーニングラード州	17,792	174	175.7	1.7	-6.5	9.4	-8.2	20.6	-3.6
レニングラード州	23,832	254	127.0	1.4	-1.4	0.1	5.2	-18.9	13.2
ムルマンスク州	36,106	651	487.0	8.8	-1.8	4.0	4.8	-27.8	39.9
ノヴゴロド州	18,309	99	306.9	1.7	-1.6	-5.2	-18.2	-1.5	150.0
ブスコフ州	23,295	100	372.1	1.6	-1.1	8.9	7.9	-5.9	21.8
サンクトペテルブルク連邦市	242,124	7,694	448.5	14.3	-1.8	na	-2.6	-2.9	21.1
南部連邦管区	191,570	4,874	116.3	3.0	-1.0	-4.7	-1.5	1.2	27.6
アディゲ共和国	11,025	92	238.1	2.0	5.1	14.1	-16.9	0.4	290.0
カルムイク共和国	14,782	200	545.2	7.4	-7.9	-8.5	120.0	-13.5	60.5
クリミア共和国	25,187	509	131.7	2.7	-0.2	-15.0	-11.8	-3.0	-2.3
クラスノダール地方	27,729	930	48.9	1.6	-3.0	-8.7	-0.3	-0.2	3.1
アストラハン州	19,010	385	189.0	3.8	-2.8	2.3	2.2	14.5	88.7
ヴォルゴグラード州	35,423	458	142.2	1.8	-0.7	1.7	-3.7	5.8	14.9
ロストフ州	51,651	2,061	123.0	4.9	1.7	-2.9	6.2	0.1	48.2
セヴァストポリ連邦市	6,763	239	150.6	5.3	-4.7	-13.7	-40.9	12.5	25.5
北カフカス連邦管区	122,303	2,489	123.2	2.5	6.5	-5.4	6.8	-2.9	35.5
ダゲスタン共和国	23,461	1,119	75.4	3.6	4.5	1.4	13.6	-6.0	480.0
イングーシ共和国	12,136	140	239.3	2.8	-1.7	0.1	-13.2	-37.4	90.4
カバルダ・バルカル共和国	15,825	263	182.2	3.0	11.0	10.0	3.6	5.4	14.7
カラチャイ・チェルケス共和国	15,126	41	324.9	0.9	-11.6	-7.6	-22.6	-39.9	1.7
北オセチア・アラニア共和国	12,010	101	172.4	1.4	24.7	14.1	-17.6	4.6	11.4
チェチェン共和国	8,668	92	58.6	0.6	11.4	-0.4	0.0	10.1	-2.0
スラヴォポリ地方	35,077	733	125.1	2.6	1.0	-18.1	12.7	2.7	32.7

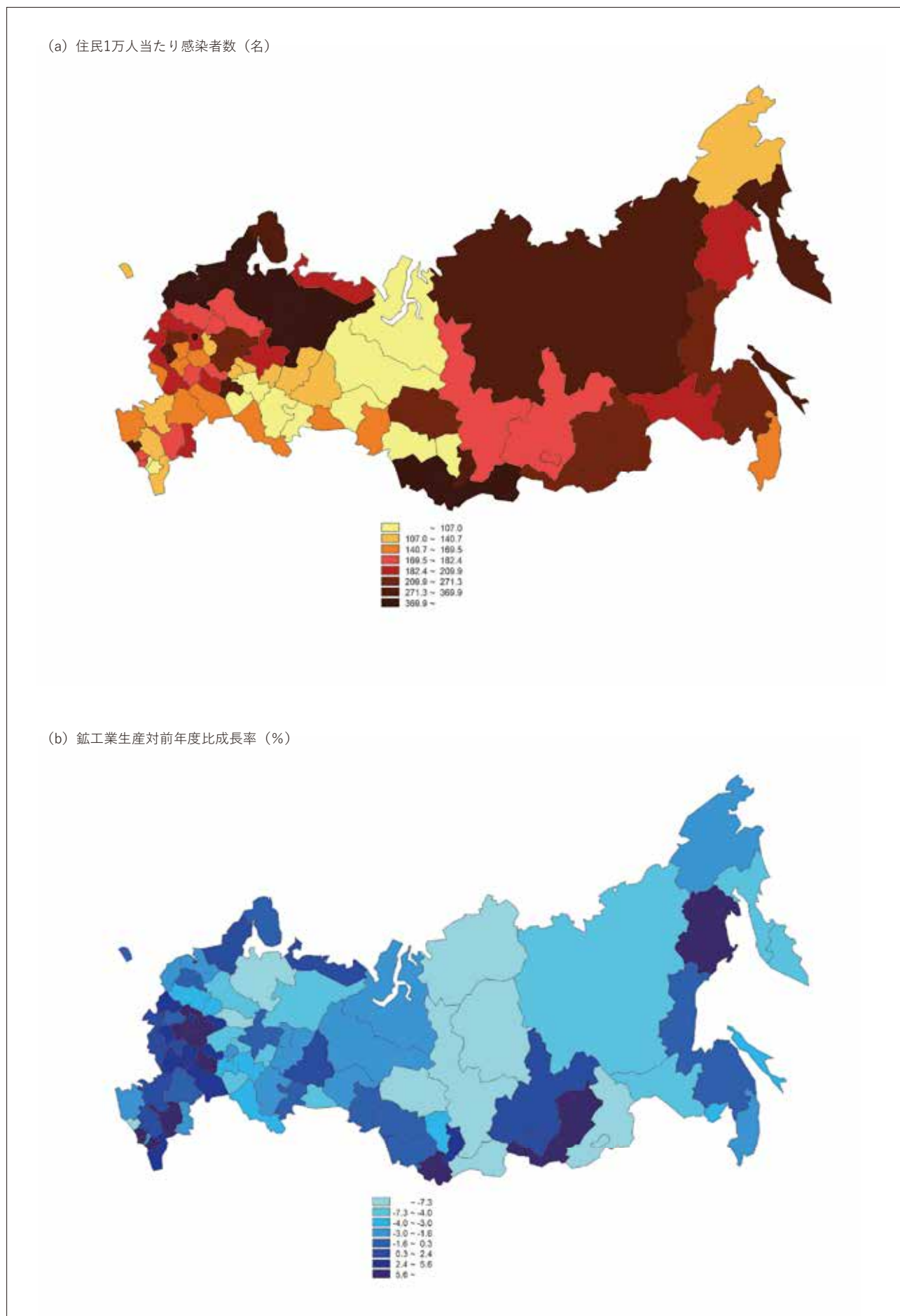
(続く)

(表1 続き)

	2020年新型コロナウイルス感染状況 (名)				2020年経済活動実績 (対前年度成長率、%)				
	総感染者数	総死亡者数	住民1万人当たり感染者数	住民1万人当たり死亡者数	鉱工業生産	農業生産	固定投資	住宅建設	登録求人数
沿ヴォルガ連邦管区	374,939	6,617	128.0	2.3	-3.4	6.6	-4.1	-2.3	21.1
バシトルコスタン共和国	19,064	142	47.2	0.4	-2.0	3.1	0.9	3.5	30.3
マリ・エル共和国	9,185	120	135.2	1.8	-6.4	4.1	23.5	-7.1	17.7
モルドヴィア共和国	13,489	95	170.7	1.2	2.4	6.2	-18.4	-6.8	19.1
タタールスタン共和国	13,284	182	34.0	0.5	-3.6	4.0	-8.9	0.2	15.6
ウドムルト共和国	19,634	385	130.8	2.6	-7.3	4.3	-2.9	5.6	36.7
チュヴァシ共和国	16,381	528	134.5	4.3	-2.4	5.0	-24.0	-12.0	-25.1
ベルミ地方	30,629	1,133	117.8	4.4	-3.0	5.0	-8.3	1.9	-7.4
キーロフ州	25,626	229	203.0	1.8	0.1	6.4	-13.4	-9.2	32.2
ニジニ・ノヴゴロド州	69,815	1,646	218.0	5.1	-6.6	4.7	20.6	4.7	38.6
オレンブルグ州	28,742	343	146.9	1.8	-4.0	7.4	-8.9	-2.6	21.6
ペンザ州	26,048	318	199.5	2.4	7.3	15.7	0.2	1.8	81.8
サマラ州	31,401	606	98.8	1.9	-4.5	7.3	-11.8	-23.9	11.5
サラトフ州	35,328	416	145.9	1.7	2.8	9.3	-3.6	-3.6	13.5
ウリヤノフスク州	36,313	474	295.3	3.9	-3.1	15.4	-5.3	1.5	27.8
ウラル連邦管区	128,644	2,415	104.1	2.0	-2.3	-7.0	3.3	1.7	34.3
クルガン州	11,992	170	145.0	2.1	-4.8	-14.1	-9.6	-1.1	48.5
スヴェルドロフスク州	58,582	1,509	135.9	3.5	2.3	-2.8	-9.9	-1.7	41.8
チュメニ州	23,365	198	62.2	0.5	-3.0	-2.3	6.4	5.3	26.0
チェリャビンスク州	34,705	538	100.1	1.6	-0.9	-10.7	0.1	1.5	36.6
シベリア連邦管区	274,239	6,839	160.2	4.0	-4.4	1.7	0.9	4.0	21.5
アルタイ共和国	13,822	98	627.8	4.5	21.4	-4.1	-39.0	-10.5	320.0
トゥヴァ共和国	14,758	157	450.8	4.8	-36.9	-1.1	-12.5	9.6	-21.1
ハカス共和国	17,552	258	328.5	4.8	3.1	1.1	-1.9	16.0	30.3
アルタイ州	32,912	877	142.0	3.8	-0.1	-3.7	2.9	9.1	27.9
クラスノヤルスク地方	46,513	1,705	162.3	5.9	-9.4	8.7	4.8	-8.4	30.6
イルクーツク州	40,519	1,220	169.5	5.1	2.2	3.1	3.7	5.0	23.8
ケメロヴォ州	25,749	468	96.9	1.8	-4.0	6.6	-11.5	7.7	-0.9
ノヴォシビルスク州	27,885	967	99.7	3.5	-0.5	2.5	1.4	10.3	30.9
オムスク州	30,111	871	156.3	4.5	-0.7	-0.2	13.6	-2.4	20.0
トムスク州	24,418	218	226.2	2.0	-9.3	2.9	-4.4	3.0	-14.0
極東連邦管区	196,702	2,292	240.8	2.8	-4.1	2.4	-12.6	-0.5	7.5
ブリヤート州	25,724	591	260.9	6.0	7.4	0.0	-3.6	2.8	5.1
サハ共和国	26,369	392	271.3	4.0	-5.1	0.6	-49.1	-10.9	-16.2
ザバイカリエ地方	27,239	386	257.0	3.6	-2.4	-1.0	20.5	-21.3	8.7
カムチャッカ地方	10,102	82	322.7	2.6	-5.7	3.2	21.2	52.3	59.2
沿海地方	29,287	375	154.5	2.0	-20.6	4.3	-9.5	15.4	11.6
ハバロフスク地方	35,081	203	266.6	1.5	-0.9	4.6	24.7	-24.3	14.3
アムール州	15,866	105	200.8	1.3	-4.6	1.4	-6.1	-24.0	6.0
マガダン州	7,006	65	499.9	4.6	5.6	3.5	-0.4	21.1	9.5
サハリン州	15,740	17	322.4	0.3	-3.4	5.8	-15.2	31.4	-24.5
ユダヤ自治州	3,750	72	236.9	4.5	-3.3	17.9	-6.7	-39.5	3.7
チュクチ自治管区	538	4	107.0	0.8	-1.9	1.4	9.1	32.3	26.7
連邦構成主体データ記述統計量									
平均	37623.3	684.7	216.7	3.2	-0.5	1.9	-2.6	-0.7	33.1
中央値	22992.0	310.5	180.0	2.7	-1.0	2.5	-4.0	0.1	19.3
標準偏差	91502.9	1504.3	126.8	2.2	8.0	8.4	19.2	15.9	71.9
最大値	809769.0	11209.0	638.7	14.3	24.7	17.9	120.0	52.3	480.0
最小値	538.0	4.0	34.0	0.3	-36.9	-39.2	-49.1	-39.9	-25.1

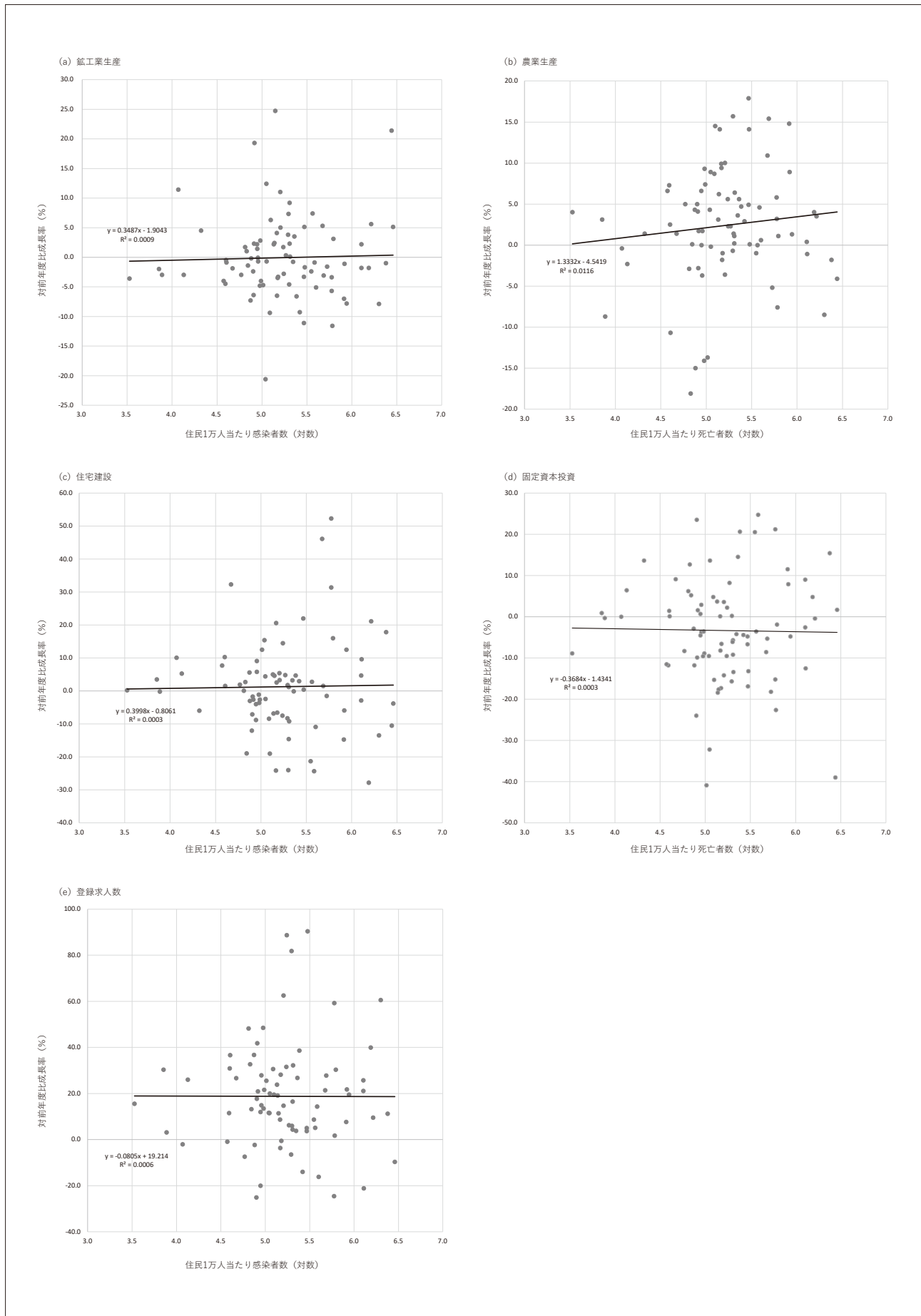
出所：ロシア連邦政府 (<https://stopkoronavirus.rf>) および連邦国家統計局 (<https://rosstat.gov.ru/>) の公表データに基づき筆者作成

図1 ロシア連邦構成主体の2020年新型コロナウイルス感染状況と鉱工業生産実績



出所: ロシア連邦統計局公表データに基づき筆者作成

図2 連邦構成主体別2020年新型コロナウイルス感染症と経済活動実績の散布図



出所：ロシア連邦統計局公表データに基づき筆者作成
注：外れ値を除く。

3. 経済活動の新型コロナウイルス感染拡大効果: 方法論とデータ

実を言えば、表1の年次データを用いた経済活動と新型コロナウイルス感染状況との相関関係の検証には、幾つかの大きな問題点がある。第1に、住民1万人当たり感染者数で測定された新型コロナウイルス感染度は、日々の経済活動以外の要因にも大きく左右される。例えば、人口の年齢構成や密度、公衆衛生や医学に関する市民の知悉度、地方政府の行政能力、社会インフラ、地理条件等である。ここに挙げた一連の要因は、2020年3月に新型コロナウイルスの市民感染が確認され今日に至る間、殆ど変動しないファクターであるため、「固定効果」(fixed-effects)と呼ばれるが、経済活動が新型コロナウイルス感染度に及ぼす影響を検証するためには、こうした地域レベルの固定効果を同時に制御する必要がある。

第2に、経済活動は、新型コロナウイルス感染度に影響を及ぼすと同時に、新型コロナウイルス感染度から影響を被る可能性が排除出来ない。本稿冒頭で述べた通り、ウイルス感染拡大を抑止するために、経済活動に急ブレーキをかけるような政策措置をほとんど採用しなかったロシアにおいても、それは否定しえない、このように、経済活動と新型コロナウイルス感染度が相互に影響を及ぼし合うような状況を、経済学では「内生的」(endogenous)な関係にあると表現するが、このような相互依存的関係が存在し得る場合、この内生性問題に対して適切な処置を施す必要がある。

また、表1の年次データでは考慮しえないその他の重要な考慮点として、ウイルス感染の「状態依存性」(state-dependency)がある。これは、ある期の新型コロナウイルス感染状況は、その直前の期の状況に強く依存することを意味する。ウイルス感染が短期間にエスカレーション的に拡大したり、急激に収束したりする性質を持つ大きな理由の一つである。いま一つの重要な考慮点は、経済活動が、新型コロナウイルス感染度に対して、一定の時間差を以て影響を及ぼすという意味での「タイム・ラグ効果」である。新型コロナウイ

ルスの発症は、最短でも感染から2週間程度経過した後であるという周知の事実は、経済活動の新型コロナウイルス感染拡大効果を検証する上で、このタイム・ラグ効果への分析的な配慮が必要であることを強く示唆している。

以上に列挙した一連の問題点、即ち、(a) 地域レベル固定効果の制御、(b) 経済活動と新型コロナウイルス感染度の内生性、(c) 新型コロナウイルス感染度の状態依存性、(d) 経済活動が新型コロナウイルス感染度に及ぼすタイム・ラグ効果、という4つの課題に対応すべく、本稿では、連邦構成主体のパネルデータを用いた状態依存動学モデルの推定を試みる。「状態依存動学モデル」とは、従属変数(被説明変数)のラグ項が、独立変数(説明変数)と共に回帰式の右辺に含まれているモデルである。より具体的には、 y_{it} を第*i*地域第*t*期の新型コロナウイルス感染度、 μ を定数項(切片)、 x_{it-1} を第*i*地域第*t-1*期の経済活動水準、 φ_i を第*i*地域の固定効果、 ε_{it} を攪乱項、 γ および β を推定すべきパラメータ(母数)とする次式は、状態依存動学モデルの基本型といえるものである。以下では、この(1)式をモデルタイプAと呼ぶ。

$$y_{it} = \mu + \gamma y_{it-1} + \beta x_{it-1} + \varphi_i + \varepsilon_{it} \quad (1)$$

以上の通り、モデルタイプAは、独立変数の1期ラグ項と地域固定効果を右辺に含むことで、上述の問題点(a)と(c)にそれぞれ対応し、経済活動水準の1期ラグ値を採用することで問題点(d)に対処すると共に、問題点(b)である新型コロナウイルス感染度との内生性(同時決定性)を回避している。なお、ラグ付き内生変数 y_{it-1} の制御は、回帰分析ではしばしば問題となる過小定式化バイアスの回避・軽減にも大いに効果がある(岩崎・雲、2019)。

新型コロナウイルス感染度にもたらす経済活動水準の効果が、モデルタイプAが想定する1期ラグ構造であるとは決して断定できない。そこで本稿では、経済活動水準のラグ付き3期移動平均を採用したモデルタイプB、並びに、1期ラグ値に加えて、2期および3期ラグ値も同時に推定するモ

デルタイプCを併せて推定する。下記(2)式および(3)式が、それぞれモデルタイプBとモデルタイプCを表現する回帰式である。

$$y_{it} = \mu + \gamma y_{it-1} + \beta \sum_{j=t-1}^{t-3} x_{ij} / 3 + \varphi_i + \varepsilon_{it} \quad (2)$$

$$y_{it} = \mu + \gamma y_{it-1} + \beta_1 x_{it-1} + \beta_2 x_{it-2} + \beta_3 x_{it-3} + \varphi_i + \varepsilon_{it} \quad (3)$$

以上に定式化された状態依存動学モデルの推定を巡る大きな問題点は、右辺に含まれるラグ付き内生変数が攪乱項と相関することである。加えて、この種の動学モデルは、攪乱項とラグ付き内生変数の相関による内生性問題をも孕んでいる(北村、2005)。本稿では、この問題を解決するために、Arellano-Bover/Blundell-Bondシステム一般化積率法(システムGMM)推定量を用いる。システムGMM推定量は、1階の階差をとって固定効果バイアスを修正する上、内生変数のラグ値を有効な操作変数として用いることにより、内生性バイアスにも対処する(柴田、2016)。なお、攪乱項の自己相関性は、Arellano-Bond検定により、操作変数が攪乱項との直交条件を満たしているか否かは、過剰識別制約に関するSargan検定により、それぞれを検証する。一般に、システムGMM推定量の利用が妥当であるためには、攪乱項の2階系列相関がArellano-Bond検定により検出されず、かつSargan検定が、モデルの過剰識別制約は有効であるという帰無仮説を許容することが求められる。

次に、上記3モデルの推定に用いるデータについて述べよう。一口に連邦構成主体の「経済活動水準」といっても、それは1種類の変数で容易に代理できるものではない。むしろ、経済活動が新型コロナウイルス感染度に与える影響の度合いは、その容態や範囲に応じて大きく異なるのが自然である。一般に、一般市民をより多く巻き込む経済活動や一般市民の消費・社会活動をより鼓舞する経済活動であればあるほど、新型コロナウイルス感染度により大きなインパクトを及ぼすと予想さ

表2 実証分析に用いる変数の定義及び記述統計量

変数名	定義	記述統計量 ¹⁾														
		全連邦			中央・北西連邦管区			北カラス・南連邦管区			治オウルガ・ウラル連邦管区			シベリア・極東連邦管区		
		平均	中央値	標準偏差	平均	中央値	標準偏差	平均	中央値	標準偏差	平均	中央値	標準偏差	平均	中央値	標準偏差
新型コロナウイルス感染症 ¹⁾	住民1万人当たり新型コロナウイルス感染者数(月次)	23.30	15.06	25.74	28.72	20.17	30.94	19.98	12.56	19.80	17.59	12.79	17.28	24.32	15.12	26.75
新型コロナウイルス感染症II ²⁾	住民1万人当たり新型コロナウイルス感染者数(四半期)	63.28	42.91	69.96	77.41	48.56	81.99	51.95	35.21	56.15	47.44	37.33	49.17	66.88	42.46	73.92
鉱工業生産高	鉱工業生産高対前年同期比成長率(%) (月次)	0.24	-0.30	13.81	1.86	1.35	12.47	3.27	0.20	19.06	-1.27	-1.45	9.19	-2.73	-2.50	13.85
建設業出来高	建設業出来高対前年同期比成長率(%) (月次)	8.92	-2.34	70.16	17.29	0.47	87.45	17.41	-0.97	88.89	1.62	-4.20	31.53	-1.71	-8.94	49.54
小売業売上高	小売業売上高対前年同期比成長率(%) (月次)	-3.52	-1.75	8.28	-3.01	-1.80	7.36	-3.82	-0.65	11.47	-4.05	-2.75	7.67	-3.50	-1.60	7.18
サービス業売上高	サービス業売上高対前年同期比成長率(%) (月次)	-11.52	-8.20	12.51	-11.73	-8.30	11.74	-10.03	-5.55	14.74	-12.49	-9.80	12.24	-11.41	-8.95	11.99
賃金	総賃金対前年同期比成長率(%) (月次)	1.38	0.60	12.27	1.31	0.70	11.65	1.42	0.80	13.12	1.37	0.50	11.47	1.45	0.55	13.19
雇用者数	総雇用者数対前年同期比成長率(%) (月次)	42.78	-19.09	407.40	25.60	-24.87	187.41	24.84	-15.61	188.86	126.97	-2.24	776.89	-0.38	-23.25	122.18
市場参入率	企業1000社当たり新規設立企業数対前年同期比成長率(%) (月次)	-8.82	-11.27	35.01	-8.13	-10.05	28.19	-5.96	-10.10	50.54	-13.34	-12.60	22.13	-7.70	-12.00	38.79
市場退出率	企業1000社当たり廃業企業数対前年同期比成長率(%) (月次)	29.66	-12.87	241.63	16.24	-10.21	84.53	116.93	-10.40	529.83	3.23	-17.33	79.11	8.78	-14.61	91.08
自己隔離指数 ³⁾	市民移動制限度(月次)	1.92	1.87	0.44	1.96	1.89	0.45	1.91	1.84	0.49	1.96	1.89	0.39	1.81	1.80	0.44
農業生産高	農業生産高対前年同期比成長率(%) (四半期)	2.20	1.88	10.89	3.04	1.88	10.36	-0.09	1.20	11.45	3.78	3.70	9.77	1.31	0.71	11.88
貨幣収入	貨幣収入対前年同期比成長率(%) (四半期)	2.49	3.10	4.59	2.30	2.45	4.32	2.10	3.30	6.30	2.20	3.00	4.25	3.30	3.40	3.65
求人数	登録求人数対前年同期比成長率(%) (四半期)	13.47	12.40	10.56	14.14	12.62	9.72	13.32	11.97	10.69	12.84	12.73	12.25	13.24	12.30	9.97

出所：ロシア連邦統計局及びヤンソックス公表データに基づき筆者作成

注1：鉱工業生産高以下、経済活動変数の記述統計量は1期ラゲ値を用いて計算したものの。

注2：回帰推定では、対数変換値を用いる。

注3：0から5までの値を取る。値が大きいほど、路上における人流が制約的であることを意味する。

表4 推定結果要約

(a) 全連邦													
経済活動変数	鉱工業生産高	建設業出来高	小売業売上高	サービス業売上高	賃金	雇用者数	市場参入率	市場退出率	自己隔離指数	農業生産高	貨幣収入	求人数	
モデルタイゾクA 1期ラジ	+	(+)	+++	+++	---	(-)	++	--	+++	(+)	+++	(+)	
モデルタイゾクB 3期移動平均	+++	(-)	+++	+++	---	++	+++	(+)	---	na	na	na	
モデルタイゾクC 1期ラジ	+++	(-)	+++	+++	(-)	(-)	+++	(-)	+++	na	na	na	
2期ラジ	+++	(-)	+++	+++	(+)	(+)	+++	(+)	---	na	na	na	
3期ラジ	+++	(-)	+++	+++	++	+++	+++	+	---	na	na	na	
N	819	819	819	819	819	556	819	810	729	153	155	155	
(b) 中央・北西連邦管区													
経済活動変数	鉱工業生産高	建設業出来高	小売業売上高	サービス業売上高	賃金	雇用者数	市場参入率	市場退出率	自己隔離指数	農業生産高	貨幣収入	求人数	
モデルタイゾクA 1期ラジ	(+)	(+)	+++	+++	---	---	+++	(+)	+++	-	+++	(+)	
モデルタイゾクB 3期移動平均	++	(-)	+++	+++	(+)	---	+++	+++	---	na	na	na	
モデルタイゾクC 1期ラジ	(+)	(-)	+++	+++	---	(-)	+++	++	+++	na	na	na	
2期ラジ	(+)	(-)	+++	+++	-	---	+++	++	---	na	na	na	
3期ラジ	++	(-)	+++	+++	-	---	+++	+++	---	na	na	na	
N	278	278	278	278	278	194	278	278	252	52	54	54	
(c) 北カワナス・南部連邦管区													
経済活動変数	鉱工業生産高	建設業出来高	小売業売上高	サービス業売上高	賃金	雇用者数	市場参入率	市場退出率	自己隔離指数	農業生産高	貨幣収入	求人数	
モデルタイゾクA 1期ラジ	(-)	(-)	+++	+++	---	(+)	(+)	--	(+)	(-)	+++	(-)	
モデルタイゾクB 3期移動平均	(-)	(-)	+++	+++	--	(-)	(+)	(-)	---	na	na	na	
モデルタイゾクC 1期ラジ	(-)	(-)	+++	+++	---	+	(+)	---	+++	na	na	na	
2期ラジ	(+)	---	+++	+++	---	-	++	(-)	---	na	na	na	
3期ラジ	(+)	(-)	+++	+++	---	-	(+)	(+)	---	na	na	na	
N	147	147	147	147	147	91	147	147	126	27	27	27	
(d) ヴァーナルガ・ウラル連邦管区													
経済活動変数	鉱工業生産高	建設業出来高	小売業売上高	サービス業売上高	賃金	雇用者数	市場参入率	市場退出率	自己隔離指数	農業生産高	貨幣収入	求人数	
モデルタイゾクA 1期ラジ	+++	---	+++	+++	---	(-)	(+)	+++	+++	+++	+++	+++	
モデルタイゾクB 3期移動平均	+++	(-)	+++	+++	+++	+++	+++	+++	---	na	na	na	
モデルタイゾクC 1期ラジ	+++	--	+++	+	(-)	(-)	(+)	+++	+++	na	na	na	
2期ラジ	+++	(+)	+++	+++	(+)	(+)	+++	+++	---	na	na	na	
3期ラジ	+++	(-)	+++	+++	--	+++	+++	+++	---	na	na	na	
N	189	189	189	189	189	128	189	189	171	37	37	37	
(e) シベリア・極東連邦管区													
経済活動変数	鉱工業生産高	建設業出来高	小売業売上高	サービス業売上高	賃金	雇用者数	市場参入率	市場退出率	自己隔離指数	農業生産高	貨幣収入	求人数	
モデルタイゾクA 1期ラジ	++	+	(+)	(+)	(-)	(-)	(+)	(+)	+++	+++	++	(+)	
モデルタイゾクB 3期移動平均	(+)	++	+++	+++	+++	(-)	++	(+)	--	na	na	na	
モデルタイゾクC 1期ラジ	++	++	+++	(+)	+++	(-)	(+)	+	+++	na	na	na	
2期ラジ	(-)	++	+++	+++	+++	(+)	++	(+)	(-)	na	na	na	
3期ラジ	(-)	+	+++	+++	+++	-	(+)	(+)	---	na	na	na	
N	205	205	205	205	205	143	205	196	180	37	37	37	

出所：筆者推定。推定に用いた変数の定義、記述統計量及び出所は、表2を参照

注：各記号は、次を意味する。+++：1%水準で有意に正、++：5%水準で有意に正、+：10%水準で有意に正。(+)：係数値は正だが統計的に非有意。--：1%水準で有意に負、-：5%水準で有意に負、-：10%水準で有意に負。(-)：係数値は負だが統計的に非有意。na：データ欠測のため推定不能。

れる。そこで、本稿では、この仮説を、新型コロナウイルス感染度を、利用可能なありとあらゆる経済活動変数に回帰することで検証する。この目的のために、筆者は、独立変数として、(a) 鉱工業生産高、(b) 建設業出来高、(c) 小売業売上高、(d) サービス業売上高、(e) 賃金、(f) 雇用者数、(g) 市場参入率、(h) 市場退出率の2020年3月から2021年4月を観察期間とする月次データおよび(i) 農業生産高、(j) 貨幣収入、(k) 求人数の2020年第1四半期から2021年第1四半期をカバーする四半期データに、(l) ロシアの有力IT企業ヤンデックス社が開発・公表している自己隔離指数の月次データを加えた合計12種類の変数を採用した。(a) から(k)までの一連の変数は、新型コロナウイルス感染度に対して正の効果を、残る自己隔離指数は、負の効果をそれぞれ及ぼすと予測する。(a) から(k)までの変数は、季節調整を目的に、その対前年度同期成長率を用いる。

従属変数は、住民1万人当たり感染者数として定義される新型コロナウイルス感染度の月次データおよび月次データから算出される四半期データの2種類を、独立変数の種類に応じて使い分ける。回帰推定に際しては、その対数変換値を用いる。これら従属変数および独立変数の変数名、定義および記述統計量は、表2の通りである。

4. 分析結果

前節に解説した方法論とデータを用いて得られた全連邦構成主体を対象とする分析結果は、表3の通りである。同表には、独立変数(経済活動変数)の種類毎に、モデルタイプA、B、Cそれぞれの推定結果が報告されている。なお、四半期データの場合は、データの制約上、モデルタイプAのみ推定した。

同表の通り、ラグ付き内生変数 y_{it-1} は、全30推定結果のいずれにおいても、1%水準で統計的に有意に正に推定されており、我々の経験的理解に違わず、新型コロナウイルス感染の状態依存性が、ここに強く示唆されている。月次データを用いた推定結果のラグ付き内生変数 y_{it-1} は、殆どの場合で0.40前後の係数値が与えられ

ており、四半期データの場合、係数値は、0.10から0.20の範囲を取っている。従属変数もラグ付き内生変数も対数変換が行われていることに考慮すると、こうした推定結果は、1月(1四半期)前の新型コロナウイルス感染度1%の上昇は、それのみで、当月(当四半期)のそれを、0.4(0.1~0.2)%押し上げることを意味している。この弾力性値は一見さほどでも無いと思わせるが、感染者数が2倍や3倍に増加した場合を想定すれば、新型コロナウイルスの人から人への感染が乱高下するには十分な水準であることが容易に理解できよう。

次に、分析の焦点である経済活動変数の推定結果に目を転じよう。鉱工業生産高の対前年度同期成長率で経済活動水準を代理した表3のモデル[1][2][3]において、経済活動変数 x には、その全てに対して、統計的に有意に正の係数値が付与されている。即ち、直近の過去に前年同期よりも高い鉱工業生産高を記録した連邦構成主体は、当期により高い新型コロナウイルス感染度に直面したといえるのである。モデル[1]に即すと、従属変数は対数変換値である一方、経済活動変数は対数変換されていないことに鑑みると、1月前の鉱工業生産高が、対前年度同期の水準よりも1%高いと、当期のウイルス感染度は、約0.28%上昇すると解釈できる。言い換えれば、鉱工業生産活動は、統計的に有意であるのみならず、実際的にも相当程度のウイルス感染拡大効果を発揮すると評価できるのである。

更に、モデル[2]および[3]の推定結果によれば、鉱工業生産活動は、直近の1月前のみならず、少なくとも3か月前から、波状的に新型コロナウイルス感染度に正の効果を及ぼすことが分かる。事実、モデル[2]は、鉱工業生産活動が過去3か月間を通じて前年同期よりも期間平均で1%高いと、当期のウイルス感染度が約1.8%上昇することを示しているし、また、モデル[3]によれば、2月前および3月前の生産活動実績は、1月前のそれよりも、より大きいインパクトを、新型コロナウイルス感染度にもたらしていると云えるのである。この通り、鉱工業生産活動は、高い確率で、なおかつ数か月のタイム・ラグ効果を伴って、ロシア地域のウイルス感染拡大に強い影響を及

ぼしていることが分かる。

同様の観点から、その他の推定結果を見比べてみよう。建設業出来高を独立変数に採用したモデル[4][5][6]において、その推定値は悉く統計的に非有意である。即ち、建設業出来高の係数値は、統計的に有意にゼロとは異なるといえず、従って建設活動のウイルス感染拡大効果は、全く認められないと云える。一方、小売業やサービス業の売上高で経済活動水準を捉えるモデル[7]から[12]では、独立変数が、ラグ構造の違いを超えて、1%水準という高い統計的有意性を以て正に推定されており、なおかつ、その係数値は、鉱工業生産高のそれよりも数倍大きい。つまり、ロシアにおいて、小売業・サービス業分野の活動は、鉱工業よりも遥かに強力なウイルス感染拡大効果をもたらしているのである。市場参入率のウイルス感染拡大効果を検証するモデル[19][20][21]も、鉱工業、小売業、サービス業と共に、ラグ構造の違いに依らず、統計的に有意に正の係数値を示した。その弾力性は鉱工業生産高のそれに比肩しており、企業の新規設立も、一般市民を含む多様なステークホルダーを巻き込むことで、人から人へのウイルス感染を助長していることが分かる。

賃金、雇用者数および市場退出率を独立変数とする一連のモデルは、その他の経済活動と比して、新型コロナウイルス感染度に及ぼすタイム・ラグ効果はより長い可能性を示唆している。事実、これら9つのモデルにおいて、有意に正に推定された変数は、ラグ付き3期移動平均および3期ラグに限られるのである。四半期データを用いたモデル[28][29][30]では、貨幣収入の1期ラグ値が有意に正に推定された。賃金を独立変数とするモデル[14]および[15]と整合的な結果であるといえよう。

自己隔離指数を独立変数に採用したモデル[25][26][27]では、筆者の予想に違わず、ラグ付き3期移動平均、2期ラグおよび3期ラグに、有意に負の係数値が付与されている。他の国々と同様に、ロシアにおいても、市民の外出自粛には、ウイルス感染拡大を食い止める効果が期待できるのである。ただし、賃金と市場退出率の1期ラグ値がそうであるように、自己隔離

指数の1期ラグ値は、筆者の予測に反する推定結果を示しており、その解釈は難しい。

連邦全体に見られる以上の傾向は、特定の地域に焦点を絞った場合でも再現されるのか否か、という点を検証するために、岩崎・雲(2019)に倣い、8連邦管区を、経済社会的に相似性の高い4地域グループに区分した上で、それぞれの地域グループ毎に、表3と同じモデルを推定してみた。表4には、表3に報告した推定結果の要約(a)と共に、(b)中央・北西連邦管区、(c)北カフカス・南部連邦管区、(d)沿ヴォルガ・ウラル連邦管区、(e)シベリア・極東連邦管区に分析対象を限定した場合の推定結果の要約が一覧されている。ここでは、推定に用いた経済活動変数の係数値について、その符号と統計的有意性を、モデルタイプA、B、Cのタイプ毎に、プラス記号、マイナス記号および括弧で簡略的に表している。

表4の各パネルを見比べれば一目瞭然であるが、全連邦を対象とした推定結果の全体を、ほぼそのまま再現する地域グループを一例も見出すことは出来ない。領土が広大で、経済社会の発展度という観点からも地理的な偏差が著しいロシアでは、連邦管区レベルであっても相互の異質性は大きく、それが、経済活動と新型コロナウイルス感染を繋ぐ経路の違いにも表出しているであろう。しかしながら同時に、小売売上高、サービス業売上高、自己隔離指数、並びに貨幣収入を独立変数に採用したモデルの推定結果は、全パネルを通じて大変近似的であり、従って、ロシア全土に亘り普遍的な感染拡大経路が存在することもまた事実である。他方で、それ以外のモデル、とりわけ鉱工業生産高、

賃金、雇用者数、市場退出率および農業生産高を、経済活動水準の代理変数に用いるモデルの推定結果は、地域グループ間で著しく異なり、なおかつ、経済活動が新型コロナウイルス感染拡大度にもたらす影響に関する筆者の予想に強く反する例もある。これらの地域グループの間で大きく異なる分析結果は、新型コロナウイルス感染経路に関する地域それぞれの実情を理解する重大なヒントを与えるものであり、連邦全土に普遍的な分析結果と相俟って、示唆に富んだ政策含意を提示していると云えるだろう。

5. おわりに

ロシア政府は、新型コロナウイルス感染症対策として、経済活動を強く抑制することにはしないという、我が国を含む世界の多くの国々とは対照的な政策方針を採用し、現在も首尾一貫してこれを堅持している。その結果、同国は、2020年累積感染者数で、世界第4位(2021年7月初時点では、米国、インド、ブラジルおよびフランスに次ぎ、トルコとほぼ並んで世界第5位)の感染大国という不名誉な評価を受けた半面、コロナ禍による景気後退は相対的に穏やかな程度に収めた。今次疫病災禍に対するロシア政府の対応の是非は、今後改めて問われることになるだろうが、クリミア併合を契機とする長年の経済制裁にも苦しむ同国政府が、国民生活をこれ以上犠牲にできないと判断したのは理解できる。歴史の評価を待ちたい。いずれにせよ、かかる苦しい状況に置かれたロシアは、経済活動のウイルス感染拡大効果を検証する貴重な機会を提供する有数の国である。本稿は、この人類にとって非常に悲しむべきことだが、学

術的には意義のある課題に取り組んだ。

連邦構成主体レベルの新型コロナウイルス感染状況と経済活動実績に関する2020年年次データでは、両者の間に明確な相関関係を見出し得なかったが、地域レベル固定効果の存在、経済活動と新型コロナウイルス感染度の内生性、新型コロナウイルス感染度の状態依存性、新型コロナウイルス感染度に及ぼす経済活動のタイム・ラグ効果という諸要因に対して分析的配慮を払う動学パネルデータ分析は、ロシア地域における経済活動の感染拡大効果を明確に捕捉した。分析結果は、一般市民をより多く巻き込む経済活動や一般市民の消費・社会活動をより鼓舞する経済活動であればあるほど、新型コロナウイルス感染度により大きなインパクトを及ぼすという筆者の予想を強く裏付けるものであったばかりではなく、経済活動が新型コロナウイルス感染度を変動せしめるまでの時間差は、その種類や様態によって実に様々であること、更には、経済活動と新型コロナウイルス感染拡大の経路や強弱は、ロシア地域の間で大きく異なり得ることをも明らかにした。これら一連の分析結果は、現在のみならず、将来の疫病対策にとっても有益な知見となることを期待して本稿を結ぶ。

なお、表3に報告したArellano-Bond検定およびSargan検定の諸結果が示している通り、本稿が推定した状態依存動学モデルには、攪乱項の自己相関性およびモデルの過剰識別制約という観点から、改善の余地が残されている。利用可能な月次・四半期データの種類は極めて限られており、従って、モデル拡張・改良の術は乏しいが、本研究結果の留保条件および今後の検討課題として書き留めておきたい。

(謝辞)

本稿は、科学研究費助成事業国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「国際制裁下ロシアの国家、地域および企業社会:日米露共同研究プロジェクト」(課題番号:19KK0036)の研究成果である。本研究に対する環日本海経済研究所の御支援に、この場を借りて謝意を表す。

<参考文献>

- IMF (International Monetary Fund) (2020) *World Economic Outlook: June 2020*, Washington, D.C.: IMF.
- 安達祐子・岩崎一郎 (2021) 「危機下ロシアの大企業体制と国家産業支配」『ERINA REPORT (PLUS)』、第159号、pp. 36-46。
- 新井洋史・志田仁完 (2021) 「COVID-19のロシア経済への影響と政府の対応:2021年6月」『北東アジア情報ファイル』、No. EJ2101、環日本海経済研究所。
- 岩崎一郎・雲和広 (2019) 「ロシア地域出生率の動態と決定要因:動学的パネルデータ分析」『経済研究』、第70巻第1号、pp. 30-53。
- 岩崎学 (2006) 『統計的データ解析入門 ノンパラメトリック法』、東京図書。
- 北村行信 (2005) 『パネルデータ分析』(一橋大学経済研究所研究叢書53)、岩波書店。
- 齋藤大輔 (2021) 「コロナ危機下のロシア社会情勢」『ERINA REPORT (PLUS)』、第160号、pp. 92-95。
- 柴田悠 (2016) 「政策効果の計量分析:一階階差 GMM 推定の手順と実際」『社会と調査』、第17号、pp. 106-111。
- 志田仁完 (2021) 「北東アジア動向分析 ロシア(極東)」『ERINA REPORT (PLUS)』、第158号、pp. 69-73。
- フジヤトフ・タギル (2021) 「ウラジオストクの生活と経済の状況」『ERINA REPORT (PLUS)』、第160号、pp. 95-96。
- 三村光弘 (2021) 「ウラジオストク・モスクワ出張記:渡航準備から帰国後の自己隔離まで」『ERINA REPORT (PLUS)』、第160号、pp. 97-104。

Economic Activities and COVID-19 Pandemic in Russia (Summary)

IWASAKI Ichiro

Professor, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University

Collaborative Researcher, ERINA

Russia is one of the few countries in the world that has not opted for the policy measure of strong suppression of economic activity in response to the epidemic disaster caused by the new coronavirus. Therefore, Russia provides a valuable forum for social experiments that allow us to examine the effect of economic activity on the spread of the virus. In this paper, we empirically examine the effect of economic activities on the spread of the virus using monthly and quarterly panel data of the constituent entities of the Russian Federation. The results strongly supported our prediction that economic activities that involve more peoples and those that stimulate more consumption and social activities of citizens have a greater impact on the level of coronavirus infection. We also found that the time lag between economic activities and the spread of coronaviruses varied greatly depending on the type and mode of economic activities, and that the pathways and intensity of economic activities and the spread of coronaviruses could differ greatly among Russian regions. These results have important policy implications for current and future epidemic control.

Keywords: COVID-19 pandemic, economic activities, dynamic panel data analysis, Russia

JEL Classification Codes : C33, E32, I15, I18, R11

コロナ禍に対峙する極東経済特区:企業の入居と退出の現状

ERINA 調査研究部部長代理・主任研究員

志田仁完

要旨

本稿の課題は、コロナショックが極東新型特区制度に与えた影響を分析することにある。筆者は入居企業台帳、国家統一法人登記簿、財務データを組み合わせたオリジナルのマイクロデータに基づいて、新型特区への企業の入居と退出がコロナショック前後に変化しているかを検討した。本稿の分析は次のことを明らかにしている。第1に、コロナショックにより特区入居企業数の増加テンポが減速した。入居企業の活動の動態も鈍化しており、実質販売収入の増加が鈍化した。第2に、特区から退出する企業が増え、特区退出企業の特徴がコロナショック前後で変わった。コロナ以前には、稼働段階にシフトする前に短期間で事業を撤退する企業が多かったが、コロナ禍中の2020年には、入居から数年にわたって堅実な活動実績を積み上げてきた企業の中からも急激に財務状況が悪化し、退出を余儀なくされる企業が出てきた。特区からの企業退出は2021年に急増していることから、コロナショックによる特区政策の影響は小さくない懸念がある。

キーワード：ロシア極東、経済特区、地域開発、先行開発区、COVID-19

JEL Classification Codes: O14, O22, O25, L52, L16, M32

1. はじめに

本稿の課題は、2020年初頭に発生し、現在も続くコロナ禍中にある極東特区制度の現状を把握することにある。ロシア政府は極東地域の開発を目的として、2014年末に「先行(社会経済)発展区」(Territoria sotsial'no-ekonomicheskogo operezhaiushchego razvitiia, 以下TOR)、2015年末には「ウラジオストク自由港」(Sbovodnyi port Vladivostok, 以下SPV)という新しい特区制度を導入した。本稿の筆者と共同研究者らは、この政策が実際に地域発展に寄与するかということに関心を寄せて、極東特区制度を継続的にモニターし、マイクロデータを用いながら、その活用状況の分析を行ってきた(新井・志田, 2018; 2019; 2020; 新井, 2019; カン, 2020; 志田, 2021; 菅沼・志田, 2019; Shida, 2021; Shida and Kan, 2021)。本稿もまたこれらの研究に連なるものである。

これまでの筆者らの研究から、コロナ禍以前における特区制度の活用状況は入退出の観点において次のように整理できる。極東特区制度は新規入居企業を継

続的に誘致しており、特区から撤退する企業は少ない。ただし、成功している特区は「ナデジジンスカヤ」、「カムチャツカ」、「チュコト」といったTORや、SPVの中でもウラジオストク市に限られており、入居企業の地理的な偏在性が確認される。入居企業数が少ない小規模TORは、もっぱら特区設立初期に入居した企業だけで運営されており、その後の企業入居がほとんどない。

2020年以降のコロナ危機はロシア経済にも大きな影響を与え、国内・国際両面の経済環境を大きく変化させた。ロックダウンによる中小企業への影響は小さくなく、ロシア政府はコロナショックに対して最も脆弱な存在である中小企業への対策を打ち出した¹。この危機の長期化は、極東開発に関する国家政策にも影響しうると考えられる。極東特区に現在入居している企業も、これから入居しようとする企業も、そのほとんどは小・零細企業であるため、コロナショックはまさに極東特区の新興企業に関わる問題であると言える。

このような状況の中で、今後も極東特区は企業を誘致しつづけることができる

うか? 入居した企業はコロナ禍からどのような影響を受けたのだろうか? 本稿はこの問題について、これまでと同様に、入居企業台帳、国家統一法人登記簿、財務データを組み合わせたオリジナルのマイクロデータに基づいて、現状を把握しようとする。特に、企業活動が弱化する中で、どのような既存入居企業が苦境に陥り、特区からの撤退を余儀なくされたかに注目する。次節において企業のTOR入居状況を、第3節ではTOR退出の観点から、コロナ禍中に直面した極東TOR制度の状況を観察し、現状を整理する。

2. TOR入居企業の状況

はじめに、極東・北極圏開発公社が公開している入居企業台帳²を用いて、企業の特区への入居数の推移と地理的な分布の観点から極東特区制度の活用状況の特徴づけていく(表1、図1)。

2021年7月6日現在、TORには603社、SPVには2319社、合計で2922社が入居した(退出企業数を含む)。年別の入居企業数は、2019年の120社から2020年

¹ 経済発展省ウェブサイト: https://economy.gov.ru/material/news/ekonomika_bez_virusa/; <http://covid.economy.gov.ru/> (2021年7月6日アクセス)。

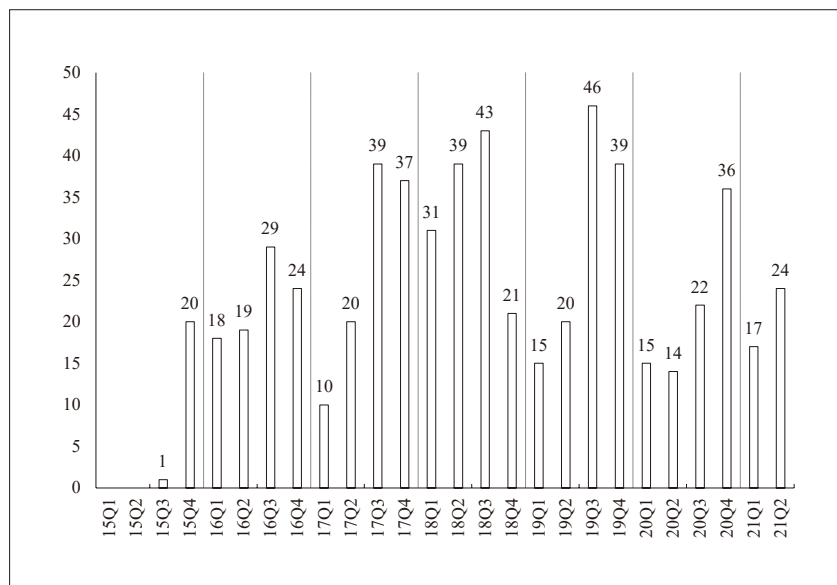
² 極東・北極圏開発公社ウェブサイト: <https://ercd.ru/upload/reestr-tor.pdf>; <https://ercd.ru/upload/reestr-spv.pdf> (2021年7月6日アクセス)。

表1 TORの入居企業の地理的分布

地域：社数、構成比			TOR	決定日	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	計	構成比
沿海地方	134	22.2%	ナデジジンスカヤ	2015/06/25	5	12	20	13	20	11	6	87	14.4%
			ボリショイ・カメニ	2016/01/28	-	6	7	7	3	2	-	25	4.1%
			ミハイロフスキー	2015/08/21	3	4	2	3	6	2	-	20	3.3%
カムチャツカ地方	127	21.1%	ネフテヒミチェスキー	2017/03/07	-	-	1	-	1	-	-	2	0.3%
			カムチャツカ	2015/08/28	1	18	18	42	23	15	10	127	21.1%
ハバロフスク地方	99	16.4%	ハバロフスク	2015/06/25	5	12	9	9	12	6	3	56	9.3%
			コムソモリスク	2015/06/25	4	2	14	8	3	4	-	35	5.8%
			ニコラエフスク	2017/04/19	-	-	5	1	1	1	-	8	1.3%
チュコト自治管区	64	10.6%	チュコト	2015/08/21	-	12	12	15	12	7	6	64	10.6%
サハ共和国 (ヤクーチア)	48	8.0%	ヤクーチア	2015/08/21	-	10	2	7	4	6	1	30	5.0%
			ユジナヤ・ヤクーチア	2016/12/28	-	-	6	6	4	-	2	18	3.0%
サハリン州	42	7.0%	ゴルヌイ・ボズドフ	2016/03/17	-	3	5	12	5	2	2	29	4.8%
			ユジナヤ	2016/03/17	-	3	1	3	1	1	-	9	1.5%
			クリール	2017/08/23	-	-	-	1	3	-	-	4	0.7%
アムール州	36	6.0%	ブリアムールスカヤ	2015/08/21	2	2	-	3	3	6	1	17	2.8%
			ペロゴルスク	2015/08/21	1	2	2	2	3	-	-	10	1.7%
			スポボドノイ	2017/06/03	-	-	2	2	3	2	-	9	1.5%
ザバイカル地方	28	4.6%	ザバイカリエ	2019/07/31	-	-	-	-	11	8	7	26	4.3%
			クラスノカメンスク	2020/09/09	-	-	-	-	-	1	1	2	0.3%
ユダヤ自治州	4	0.8%	アムーロ・ヒンガンスカヤ	2016/08/27	-	4	-	-	-	-	-	4	0.7%
ブリヤート共和国	12	2.0%	ブリヤーチア	2019/06/14	-	-	-	-	2	8	2	12	2.0%
ムルマンスク州	9	1.5%	スタリッツァ・アルクチキ	2020/05/12	-	-	-	-	-	5	4	9	1.5%
合計	603	100.0%			21	90	106	134	120	87	45	603	100.0%
参考：SPV	2319	-		2015/07/13	-	118	316	639	709	482	55	2319	-

出所：極東・北極圏開発公社の入居企業台帳 (https://erdc.ru/upload/reestr-tor.pdf; 2021年7月6日) に基づき筆者作成

図1 TOR入居業数の推移



出所：極東・北極圏開発公社の入居企業台帳 (https://erdc.ru/upload/reestr-tor.pdf; 2021年7月6日) に基づき筆者作成

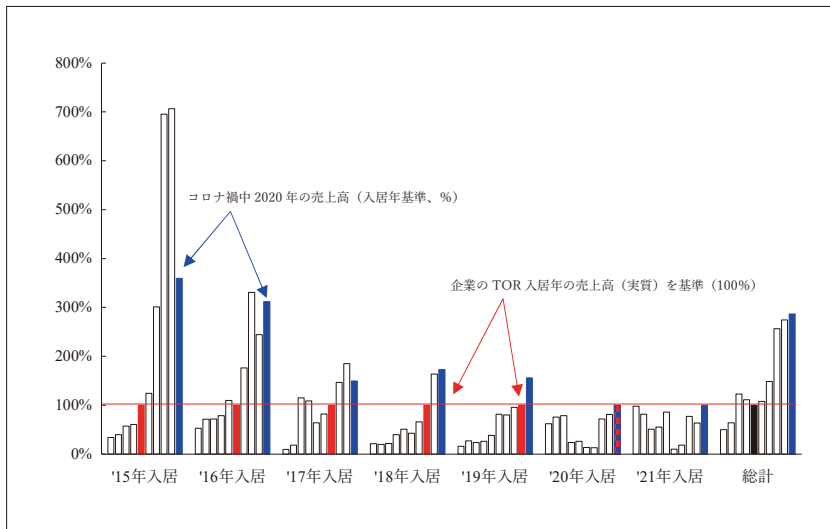
87社にまで減少したが、2021年上半期は41社(7月6日まで45社)の入居があり、これは2019年上半期の35社を上回る数値である。

四半期別のTOR入居企業数は2019年第3四半期に過去最多の46社となったが、2020年に入ると、大きく減少し、コロナ対策として制限措置が実施された2020年第2四半期には14社まで落ち込んだ。続く第3四半期は前年同期の半分の22社にまで落ち込んでいる。第4四半期および2021

年以降は入居企業数が回復傾向にあるとみられる。ここから2020年のコロナショックは企業のTOR入居を遅延させた、または思いとどまらせた可能性が考えられる。極東・北極圏開発公社は機関誌の中で、2019年3月から10月までのTOR入居申請数は192件、SPVは483件であり、2020年3月から10月の期間ではTOR147件、SPV337件であり、増加テンポが落ちていると述べている(Far East Development Corporation, 2020)。

地域別・TOR 別に入居企業数(表1)を見ると、23のTORのうち6のTORにおいて、2020年には1社も新規企業の入居がなかった。なお、ブリヤート共和国のセレンギンスクTORには今のところ1社も入居企業がないため、表1には記載していない。2020年以降に企業の入居数が多かったのは、カムチャツカ(25社)、ナデジジンスカヤ(17社)、ザバイカリエ(15社)、チュコト(13社)、ブリヤーチア(10社)、スタリッツァ・アルクチキ(9社)である。このうち、ザバイカリエ、ブリヤーチア、スタリッツァ・アルクチキは2019年以降に設置された新しいTORであり、特区制度最初期の企業入居と考えられる。これら3つを除くと、コロナ禍の中でも継続的に新規企業が集中的に入居しているのは、カムチャツカ、ナデジジンスカヤ、チュコトといった従来から入居企業数が多い大規模TORである。それ以外の中小規模のTORは入居企業の誘致に苦心している。この結果、入居企業数の分布の偏りはより大きくなった。2019年よりも前に設立されたTORのなかで、入居企業数のシェアが大きくなったのは、カムチャツカ、チュコト、ユジナヤ・ヤクーチアの3TORに限られる。続いて、入居企業の活動を財務データから特徴づける。財務データは、Rosstatが2011年以降に関してウェブサイトで開催している企業の会計財務報告から得られ

図2 TOR入居年別の実質販売収入総額(入居年=100%)の推移:2011~2020年



出所:会計(財務)報告国家情報リソース(<https://bo.nalog.ru/>)による公開情報(2021年9月12日現在)のデータに基づき筆者作成
注:赤色の棒グラフは、基準(-100)となる入居年である。総計(黒い棒グラフ)は2015年を基準とする成長指数。

る³。ここでは、企業の活動を販売収入(売上高、выручка)からみていく。図2では全入居企業の販売収入の合計をCPIで実質化し、TOR入居年別に示した。

図2に示される企業売上高実質総額(図中の総計)は、2011年から2020年にかけて一貫して増加している。これは入居企業数の増加と、TOR入居後の稼働段階への移行に伴うものであり、当然のことである。TORに入居した年別に企業売上高実質総額をみていくと、2015年入居企業に関しては、2019年までは活動が活発化して、入居年を基準(=100%)とすると、707%にまで増大した。しかし、コロナ禍中の2020年にはその半分の360%に縮小した。2016年入居企業は2018年まで増加し、2019年に減少し、2020年には2018年レベルまでは回復していない。2018年入居企業に関しては、2019年に販売収入が増加し、2020年の増加は非常にわずかにとどまっている。2015年から2020年までの実質販売収入の推移は安定的な増加傾向にはないため、コロナ禍が一定程度影響している可能性がある。

3. TOR退出の状況

表2に、2021年9月12日時点のTOR退

出(入居契約の解消、訴訟事例を含む)と企業の経営ステータスを整理した。「国家統一法人登記簿」(ЕГРЮЛ: Единый государственный реестр юридических лиц)には、企業の経営状況(Сведения о состоянии юридического лица: Сведения о прекращении юридического лицаなど)に関する記載がある。ここから、企業が「稼働中」(действующая)または「稼働停止」(не действующая)か、「倒産」(банкротство)や「清算」(ликвидация)またはそれらの「途中」にあるか(в процессе)、さらに合併や吸収、法人形態の変更などの「組織再編」(реорганизация)が行われているかに関して情報が得られる。

この経営ステータスの情報にもとづき、「倒産・清算・手続き中」や「経営悪化」の状況にある企業数を年ごとに集計した。「倒産・清算・手続き中」は、「清算」・「倒産」またはそれらの「途中」にあるステータスを意味する。「経営悪化」は筆者オリジナルの指標であり、「倒産・清算・手続き中」に先立って(または同時に)、経営ステータスの変更が起きた時点の企業数をカウントした。たとえば、2018年5月30日に入居契約を解消した「建設資材複合製造工場」(ポリショイ・カメニ TOR)は、

2018年5月7日に「清算」に入り、2019年3月27日に「倒産」の裁判所決定が出された。この場合、2018年時点で遅くとも「経営悪化」の状況が発生しており、2019年に入って実際に「倒産」した、とカウントした。TOR退出に関する合意や裁判所の決定の状況を開発公社が入居企業台帳に反映させるまでにはタイムラグがあるため、このような経営ステータスに関する情報は、企業が実際にTORで稼働しているのかを検討するうえで参考になる。

表2に示されるように、2021年9月12日までに極東・北極圏開発公社との入居契約を解消した企業は94社にのぼる。TOR退出企業数は2019年に25社、コロナ感染症の影響下にあった2020年に18社、さらに2021年では約半年ですです過去最大の27社であった。このことに加えて、注目すべき点は、2020年と2021年において、経営悪化や倒産・清算する企業の数が増えた点である。2020年に関しては、「倒産・清算・手続き中」の企業は前年の2倍に増え15社となった。このうち、2社に関しては、倒産・清算状況にあり、実際の稼働状況にないにも関わらず、TOR退出の記録は今のところない。2021年にはさらに、状況が悪化している。

このような退出した企業や経営悪化した企業の数増加は、コロナ禍の影響によるものだろうか。このことを検討するために、コロナ禍前の2017~2019年とコロナ禍中の2020年および2021年に関して、企業のTOR退出の状況をより詳細に見ていく。

2017年にTORから退出した企業は7社であった。このうち、「ネバダ・ナデジジンスカヤ」(ナデジジンスカヤTOR)と「ネバダ・ハバロフスク」(ハバロフスクTOR)の2社は極東小売大手の「ネバダ・グループ」傘下であり、TOR退出後の現在も稼働している。また、「アムール鋼構造プラント」(ペロゴルスクTOR)は、2017年の「売上総利益」(валовая прибыль: 売上収入-販売原価)は赤字となったが、TOR退出後には黒字に転じ、「経常利益」(чистая прибыль: 売上総利益+営業外収益-営業外費用-税等の支払い)

³ Rosstat ウェブサイト:https://www.gks.ru/accounting_report。データ収集は、企業情報収集サイトである SPARK-Interfax (<https://www.spark-interfax.ru/>) と rusprofile (<https://www.rusprofile.ru/>) を利用して、2021年8月から9月にかけて行った。

表2 極東 TOR における企業退出、倒産・清算、経営悪化した企業数の推移

	TOR		経営悪化 (丸括弧は再稼働、角括弧は TOR 未退出)	倒産・清算・手続き中 (角括弧は TOR 未退出)
	入居数	退出数		
2015	21	-	-	-
2016	90	-	1 (1)	-
2017	106	7	1 (0)	1 [0]
2018	134	17	11 (2)	3 [0]
2019	120	25	10 (0)	8 [0]
2020	87	18	17 (1)	15 [2]
2021	45	27	12 [4]	15 [4]
合計 (%)	603 (100%)	94 (15.6%)	53 (8.8%)	42 (7.0%)

出所: 極東・北極圏開発公社の入居企業台帳 (<https://erdc.ru/upload/reestr-tor.pdf>; 2021年7月6日; 2021年9月12日) および国家統一法人登記簿 (<https://egrul.nalog.ru/index.html>; 2021年9月12日) に基づき筆者作成注: 図中の「TOR 退出」は極東・北極圏開発公社の入居企業台帳に記載されている契約解除に関する情報 (2021年9月12日。裁判決定を含む) に基づく。「倒産・清算」および「経営悪化」は国家統一法人登記簿の情報に基づく (2021年9月12日)。国家統一法人登記簿には、企業の経営ステータスが稼働中、倒産、清算、稼働停止、またはこれらのステータスの経過状況や組織再編が区別して記載されている。「倒産・清算」は、倒産または清算済みの企業、もしくは手続き中の企業を意味する。「経営悪化」は、「倒産・清算・手続き中」に先立つ企業の経営ステータスの変更 (稼働中から倒産や清算、またはその手続き中へ、稼働中から稼働停止へ、または「稼働中」のステータスに戻らず倒産や閉業に帰結することになる「組織再編」) の時期を示す。「倒産・清算・手続き中」と「経営悪化」が同時にカウントされる場合もある。また、「企業経営状況が悪化」(清算や倒産の手続きに入った) した企業であっても、「稼働中」のステータスに復帰する場合がある。

も増加している。残りの4社のうち3社は、2017年までの入居時点で稼働にたどりつかず (販売収入がゼロまたは記載なし)、TOR 事業から撤退し、その後に倒産または清算した。これらの特区制度の初期の企業撤退の事例には、開発公社側によるインフラ設備等の整備の遅れが関係している (新井、2019)⁴。もう1社の海産物加工の「ユコン」(コムソリスク TOR) は、売上が2012年の1万7千ルーブルから2015年には4300万ルーブルに拡大したが、2016年には前年の1/3の1500万ルーブルに落ち込み、経常利益も2016年には前年の1/5に落ち込んだ。

2018年に TOR から退出した17社の企業のうち、現在も稼働中の企業は6社ある。そのなかでも、金属製品加工「コンクリート・ジャングル・アーキテクチャー」(ナデジジンスカヤ TOR) や化学肥料製造「ピソルビ・ブラゴベシチェンスク」(プリアムールスカヤ TOR) は現在も事業の継続が確認される。残りの11社に関しては、現在までに倒産・清算 (途中) となった企業である。そのうち8社は、TOR 退出までに実体的な活動に至っておらず (販売収入がゼロ、または記載なし)、そのうち4社は TOR 事業撤退以前に倒産・破産の手続きに

入った。また、それ以外の4社は、最長でも TOR 退出から2年程度で事業が終了している。倒産企業の中でも、重要であるのは「トレクス」(ハバロフスク TOR) である。同社は、極東 TOR 制度の2番目 (ハバロフスクで最初) の入居企業として、電炉の建設を予定していたが、2018年11月には TOR を退出し、買収した「アムールメタル」社に注力している (新井・志田、2019; 新井、2019)。なお、「アムールメタル」社は稼働中であるが、「トレクス」社自体は、2020年8月以降「倒産中」となっている。また、木材加工「アムール工業センター」(ペロゴルスク TOR) は「アムール木材工業」に事業継承された。2018年の TOR 退出に関しても、特区におけるインフラ整備の遅れが影響している。

2019年には TOR から25社が退出している。このうち、稼働中の企業は14社ある。この中で、海産物加工「アクアフィッシュ」(カムチャツカ TOR) は、2018年2700万ルーブル (売上総利益3300万ルーブル)、2019年1400万ルーブル (同2300万ルーブル)、2020年マイナス370万ルーブル (720万ルーブル) と経営状況が悪化しているが、活動中である。造船業・機械工業向け部品製造「RM スチール極東」(ハバ

ロフスク TOR) は、2019年1月に法人の住所がポリショイ・カメニ市に移り、同年11月には、サンクトペテルブルクを拠点とする「RM スチール」が所有権を手放し、社名が「インベストプロジェクト」に変更された。同社はこの間の2月に TOR を退出した。残りの11社が倒産または清算 (および手続き中) した企業であり、その中でも9社は財務データを見る限り、TOR 退出までに実体的な活動が観測できない。また、5社は TOR 退出よりも前に、企業の経営ステータスが倒産や清算 (途中) に変更されている。2019年の退出企業には、極東 TOR 入居企業第1号の「エプシロン2」(コムソリスク TOR) もあり (新井、2019)、同社は2020年2月に清算手続きに入っている。

以上のように、2017年から2019年にかけての事例を見ると、TOR を退出し、その後に倒産・清算した企業の多くは、TOR 入居時に活動が軌道に乗らずに稼働が得られない状況にあったケースが多いと考えられる。続いて、コロナ禍中の TOR 退出の事例についても詳細に見ていく。

2020年に TOR を退出した企業は18社であった。これに加えて、入居契約の解消に関する開発公社の登録データの情報は無いが、倒産・清算の手続きを進め、実質的に退出した (している) 企業が3社ある。その1社のホテル業「フリスタル・オゼロ」(カムチャツカ TOR) は2020年8月に「清算途中」にステータスが変化し、同9月「稼働中」、同11月「清算途中」となった。残りの2社のセメント・石膏生産「エステフノロギヤ」と木材加工「ロジステイク・レス」もそれぞれ6月と8月に「倒産途中」にステータスが変化した。これら3社を含めて、2020年の TOR 退出企業のうち、倒産・清算した企業は合計で9社となる。そのうち、6社に関しては、財務データからは、TOR 入居後の複数年にわたり一定の販売収入があり、また販売コストが発生するような活動が確認される。このうち、コンクリート製造「ストロイサービス DV」(ポリショイ・カメニ TOR) は2018年の時点で「清算途中」にあり、その後で TOR 退出と

⁴ EastRussia、「ТОРы покидают «якоря»」: <https://www.eastrussia.ru/material/tory-pokidayut-yakorya/> (2018年4月20日)。

なった。また、残りの3社のうち2社は個人事業主であり、財務データが得られず、そのうち、1人の個人事業主（漁業、チュコトカ TOR）は2018年に「清算途中」のステータスが示されている。

倒産・清算企業の状況を具体的にみると、その一例として、上記の木材加工「ロジスティック・レス」（コムソモリスク TOR）は2020年に大幅に減収している。同社は、2019年において29億ルーブルの販売収入があり、売上総利益は5100万ルーブルあったが、2020年にはそれぞれ7.6億ルーブルおよび2.5億ルーブルの赤字となり、経常利益の赤字が2019年1.4億ルーブルから2020年3.6億ルーブルに膨らんだ。同社に関しては、開発公社の入居企業台帳に契約解消の記載はないが、2020年8月時点で「倒産途中」のステータスに移っている。同様に、鉄道用部品製造の「インストール機械工場」（コムソモリスク TOR）の販売収入は2019年の1.1億ルーブルから2020年には2400万ルーブルに落ち込み、経常利益も1200万ルーブルの黒字から3600万ルーブルの赤字に転じ、2020年11月に TOR を退出し、2021年7月に「倒産途中」へとステータスが変わった。

他方で、2020年の TOR 退出企業の中には、「稼働中」のステータスを維持している企業が12社ある。この中には、航空機部品製造「プロメテフ・ナ・アムーレ」（コムソモリスク TOR）のように、販売収入が2019年の3300万ルーブルから2020年には38万ルーブルまで激減した企業もあるため、今後、倒産や清算を含め企業のステータスがどう変化するか注視する必要がある。

2021年に関しては、9月初時点で27社が退出済みであり、過去と比べて非常に急速に退出数が増加しているという点に特徴がある。さらに、TOR 退出の記録はないが、8社が「倒産・清算」（または途中）している。すなわち、潜在的に36社の企業が実際、または事実上 TOR を退出している状況にあるといっていよう。

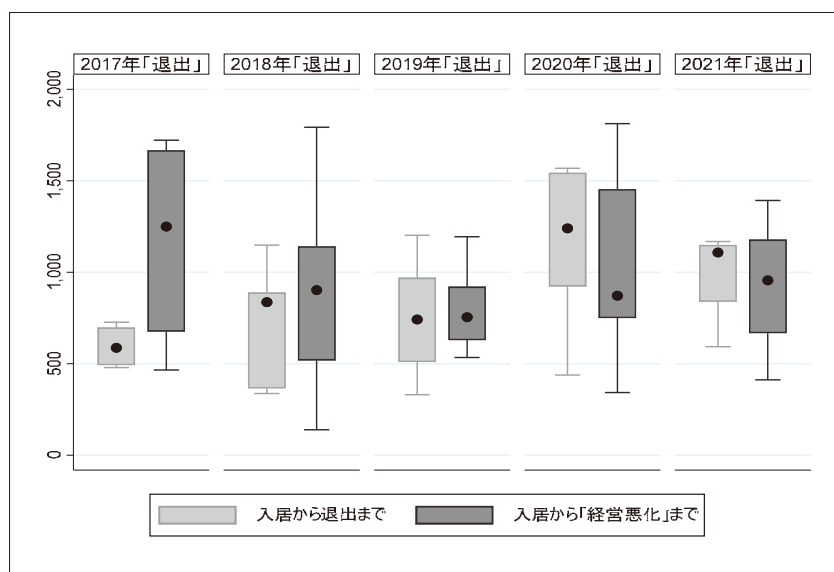
TOR 退出企業の財務や倒産・清算といった経営ステータスを見ていくと、2019年以前に関しては、TOR 事業が軌道に乗らずに経営状況が悪化した、または稼

働段階に至らずに撤退した企業が多い。2020年に関しては、経営状況が芳しいとは言えないとしても、一定の販売収入を得ていたような企業も退出し、さらに複数の企業において業績が急激に悪化する状況が生じている。そして、2021年には TOR 退出が急増している。

以上のことを踏まえ、退出企業の年ごとの特徴を、企業の活動日数という観点

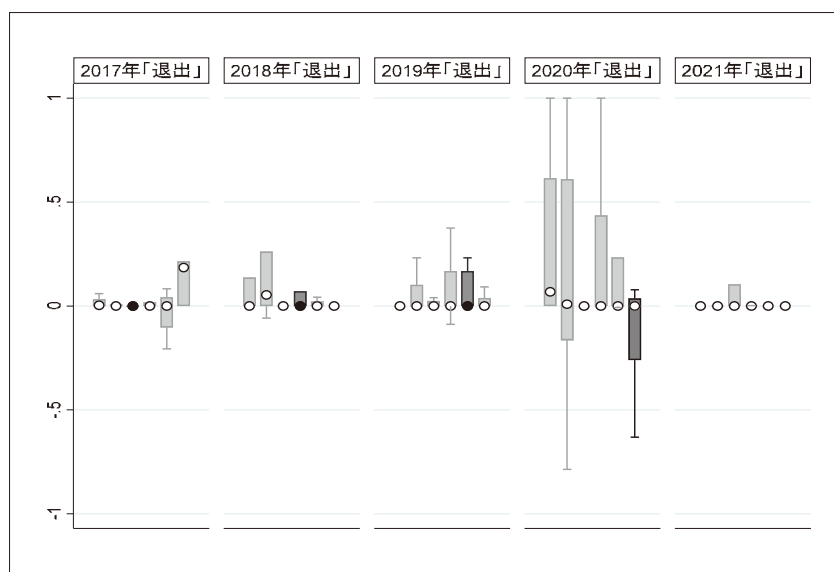
から比較したのが図3である。ここでは、TOR 入居から退出までの期間と、入居から「経営悪化」までの期間を、企業が事実上 TOR から退出した年ごとに比較している。すなわち、入居企業台帳に記されている契約解消と、契約解消の記載がない場合でも、倒産・清算している企業を事実上の「退出」として扱っている。ここでは、TOR 退出後に稼働している企業は除外し、倒

図3 「倒産・清算」企業のTORでの活動日数：「退出」年別の比較



出所：極東・北極圏開発公社の入居企業台帳 (<https://erdc.ru/upload/reestr-tor.pdf>; 2021年7月6日; 2021年9月12日) および国家統一法人登記簿 (<https://egrul.nalog.ru/index.html>; 2021年9月12日) に基づき筆者作成
注：入居企業台帳に記載のある契約解消（訴訟事例を含む）と、契約解消の記載はないが国家統一法人登記簿に「倒産・清算」（およびその途中）にある企業を、事実上の TOR 「退出」として扱っている。「入居から退出まで」は入居企業台帳の契約締結日から契約解消の日数を集計し、「入居から「経営悪化」まで」の日数は、入居企業台帳の契約締結日から「経営悪化」（表2注を参照）の日数を集計した。

図4 2015～2020年における「退出」企業の売上高利益率の推移：「退出」年別の比較



出所：極東・北極圏開発公社の入居企業台帳 (<https://erdc.ru/upload/reestr-tor.pdf>; 2021年7月6日; 2021年9月12日) および国家統一法人登記簿 (<https://egrul.nalog.ru/index.html>; 2021年9月12日) に基づき筆者作成
注：売上高利益率は、販売収入に対する売上高総利益の比率として計算した。

産・清算企業の計42社について比較した(2017年「退出」4社、2018年11社、2019年11社、2020年8社(退出は4社)、2021年8社(退出は4社))。

図3に示した箱ひげ図からは、2017～2019年に退出した企業の「入居から退出まで」の日数が、2020年と2021年よりも短い状況が見て取れる。無論、特区制度から時間がたつにつれ、活動期間が延びることは当然であり、また企業数が少ないため、厳密な分析は難しいが、TOR入居から退出までの平均年数は、2017年1.6年、2018年2.0年、2019年2.0年から、2020年と2021年にそれぞれ3.2年と2.7年に跳ね上がっていることから、2017～2019年には入居から比較的短い期間で、企業がTOR退出を決定している一方で、2020年にはある程度長期に活動していた企業もTOR退出を余儀なくされた状況が浮かび上がっている。同様のことが「経営悪化」までの日数からも見て取れる。なお、2017年「退出」企業の「入居から「経営悪化」までの日数の中央値が高いのは、「経営悪化」へのステータス変更が2020年と2021年に生じた企業が1社ずつあるためである。この2社は「サハ粘土採取場」(ヤクーチアTOR)と廃棄物収集「カルボン」(コムソモリスクTOR)であり、ともにTOR入居時も退出後も実質的な活動が確認できず、廃業に関する法的な処理が放置されていただけの可能性もある。

さらに、年ごとの退出企業の特徴を財

務状況の観点からも比較してみる。ここでは、販売収入に対する売上高総利益の比率としてあらわされる売上高利益率(利益率、profit margin)を用いた。ここでは事実上の「退出」企業に関して、「倒産・清算」の状況の違いを問わずに、すべて含めた箱ひげ図を作成した。図4からは、他の年に退出した企業と2020年に退出した企業の相違が一見してわかる。すなわち、2020年退出企業は、それ以前は一定の利益がある活動をしており、2020年に利益率が大きく減少している企業が多い。

以上のことを考慮すると、極東特区における企業活動に対してコロナショックは一定程度の負の影響を及ぼしている可能性が示唆される。

4. おわりに

本稿では、極東・北極圏開発公社の入居企業台帳、国家統一法人登記簿、財務データを用いて、コロナ禍における極東TOR活用状況を概観した。本稿の分析からはコロナショックにより特区入居企業数の増加テンポが減速したこと、入居企業の販売収入の増加テンポが鈍化していることが明らかになった。

また、本稿の分析は、コロナ禍の中で特区から退出する企業が増えていることを明らかにした。特に注目すべき点は、特区から退出する企業の特徴がコロナショック前後で変化した可能性があるという点にあ

る。コロナ以前の時期に退出した企業の中には、特区が提供すべきインフラ設備などの整備が不十分であることにより、早々に見切りをつけ、特区事業から撤退する企業や、稼働段階に移ることができずに、実質的な活動がないままに、活動を終了し、特区から退出したのちに、倒産や清算が行われる企業が多かった。しかし、コロナ禍中の2020年になると、特区入居から数年にわたって堅実な活動実績を積み上げてきた企業の中からも急激に財務状況が悪化し、退出を余儀なくされる企業が出てきた。

本稿執筆時点において、2020年以降に特区に入居した企業の中からは、経営状況が悪化した企業や、退出する企業は見られていない。2021年に入り、入居企業数が回復傾向にあるため、コロナショックの中で企業は特区事業に慎重になり、入居を遅延させた可能性がある。特区からの退出数は2021年において現在進行形で急増している。このことは、企業が入居から短期で退出するのではなく、コロナショック前に特区に入居し、数年にわたり特区事業を継続してきた既存企業が退出するケースが増えているということを示唆している。ようやく稼働した段階で、コロナ禍により急激に経営状況が悪化し、事業を撤退せざるを得ないケースが増えることは、特区事業にとって大きな打撃となり、地域開発政策としての特区の活用に懸念が生じる可能性がある。

(謝辞)

本稿の執筆にあたり、国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))(19KK0036)「国際制裁下ロシアの国家、地域及び企業社会:日米露共同研究プロジェクト」およびスラブ・ユーラシア研究センター共同利用・共同研究拠点「スラブ・ユーラシア地域研究に関わる拠点」から支援を受けた。謝意を表する。

<参考文献>

- 新井洋史(2019)「ロシア極東の特区における企業撤退に関する情報」『北東アジア情報ファイル』、2019年10月(EJ1901)。
- 新井洋史・志田仁完(2018)「ロシア極東経済の構造問題と北東アジア協力」河合正弘[編著]『北東アジアの経済成長—構造改革と域内協力』、日本評論社、pp. 199-237。
- (2019)「ロシア極東の経済特区における企業活動に関する基礎的分析」『ERINA REPORT (PLUS)』、第150号、pp. 28-51。
- (2020)「ロシア極東の経済特区の現状:2020年情報アップデート」『北東アジア情報ファイル』、2020年5月(EJ2001)。
- カン・ビクトリヤ(2020)「ロシアにおける地域発展政策の有効性:経済特区制度を中心に」『ERINA REPORT (PLUS)』、第153号、pp. 7-19。
- 志田仁完(2020)「ロシア極東地域の特区制度:初期の政策効果に関する企業財務データの分析」『ERINA REPORT (PLUS)』、第156号、pp. 24-41。
- 菅沼桂子・志田仁完(2019)「極東経済特区への外資進出状況:TORを中心に」『ERINA REPORT (PLUS)』、第149号、pp. 27-33。
- Far East Development Corporation (2020). *Korporatsiia razvitiia Dal'nego Vostoka*, No. 6(12). (in Russian)
- Shida, Y. (2021). "Special Economic Zones in the Russian Far East: Exploring the Role of the Anchor Investors in the Industrial Cluster," paper presented at the *ICCEES 10th World Virtual Congress 2021*, August 6, 2021.
- Shida, Y., and V. Kan (2021). "How Effective are Special Economic Zones in the Russian Far East: A Financial Assessment Using Firm-Level Data," *Prostranstvennaya Ekonomika = Spatial Economics*, Vol. 17 (1), pp. 36–65. (in Russian)

Russian Far East Special Economic Zones in the Face of the COVID-19 Pandemic: Resident Companies Moving In and Out (Summary)

SHIDA Yoshisada

Deputy Director and Senior Research Fellow, Research Division, ERINA

This paper aims to assess the impact of the pandemic on resident companies in the Russian Far East special economic zones. Using data of resident registers of the Far East Development Corporation, the Uniform State Register of Legal Entities, and the financial accounting reports, we trace the entry/exit of the resident companies and their economic conditions. Our analysis revealed the following. First, the Corona shock slowed down the pace of growth in the number of firms' entry into the special economic zones. The financial performance of resident companies in terms of revenue also dropped. Second, the number of companies that left the zones increased. Furthermore, the characteristics of such companies changed. Before the pandemic disaster, many companies had quickly departed the zones even before starting the actual operation. Contrastingly, amid the pandemic, the financial conditions of companies operating for years deteriorated rapidly and were forced to exit. In 2021, the number of companies that left the zones while facing financial difficulties significantly increased, raising serious concerns regarding the success and failure of regional development policies in the Russian Far East.

Keywords: Special Economic Zones, Russian Far East, Far East Development, Territory of Advanced Economic Development, COVID-19

JEL Classification Codes : O14, O22, O25, L52, L16, M32

インタビュー▶フジコーポレーション株式会社 代表取締役 藤井大介氏に聞く

「地域に根ざした中小企業の発展戦略 —不連続性への挑戦—」

— 先ず、貴社の沿革や主力製品など会社概要についてお聞かせください。

(藤井) 弊社は、1865年に「千歯」(稲や麦の脱穀用農具)の製造を開始したことがルーツとなっています。以来、脱穀機などの農業機械の製造・販売を中心に事業を拡大してきました。金属加工業が盛んな土地柄であったことも影響し、本社所在地が発祥地で地場に根付いた事業を展開してきました。現在の「フジコーポレーション株式会社」の社名となったのは、創業125周年を迎えた1990年です。2021年4月現在の従業員数は125名となっています。

弊社は、農業機械からはじまり、1972年からは除雪機(図4)、2000年からは乗用草刈機、高所作業機(図2)などの製造・販売を開始しました。現在、機械事業部では、売上の主力は除雪機となっています。弊社の得意とする除雪機は、家庭用より大きなプロ仕様のもので、こうした除雪機はニッチな分野です。弊社が製造している歩行型除雪機はプロ仕様も含め、18歳以上の人ならば操作可能で特別な免許は不要です。

図1 フジコーポレーション株のマスクットキャラクターであるサンタクロース



出所:フジコーポレーション(株)

図2 主に果樹園で使用される乗用草刈機と電動高所作業機



出所:フジコーポレーション(株)

個人客をはじめ、企業や市町村など行政もユーザーとなります。また、使用場所や降雪量、雪質などによって推奨するモデルが異なってきます。

— 貴社が除雪機を開発したきっかけやセールスポイントをお話ください。

(藤井) もともと弊社の農業機械の販売は国内の農業機械販売店(ディーラー)が行い、そこがメンテナンスも担っていました。降雪地域では冬季に農業機械はあまり売れませんが、冬場の商材を創るという観点から除雪機の開発・製造・販売につながりました。

弊社の除雪機のセールスポイントは、耐久性に優れ、固く締まった重い雪に威力を発揮する点です。1986年には日本の南極越冬隊でも使用され、その耐久性が証明されました。こうした技術力が評価され、2007年には北極圏のフィンランド・ロヴァニエミ市(北緯66度33分に位置)のクリスマス

ス財団によりサンタクロースの公認除雪機に認定されました(図3)。それ以来、サンタクロース(図1)は、弊社のマスコットキャラクターとしてカタログや制服等にも使用しています。このように弊社の除雪機が南極や北極圏で稼働し、優れた除雪機能を発揮していることは、国内外での販売における大きなセールスポイントになっています。

図3 ロヴァニエミ市サンタクロース村にて



出所:フジコーポレーション(株)

図4 大型ディーゼル除雪機



出所：フジイコーポレーション(株)

——貴社の海外展開について、新潟港の利用や外国人材の活用も含めてお話しください。

(藤井) 弊社では、基本的に県内・国内市場でのシェアアップに重点を置いており、輸出での売上は全体の3割程度に抑えています。これは、海外市場の不確実性、為替変動のリスク等を踏まえた対応です。

輸出は、弊社の社員が海外出張し、顧客(ディーラーやインポーター)と契約・輸出する直接貿易で行っています。主な市場はヨーロッパです。また、農機は東南アジアにも輸出しています。

ロシアについては、以前サハリンプロジェクトの現地企業に除雪機を納入した実績があります。シベリアや極東は市場性があると思いますが、商慣習など分からない点もあるので、現在、積極的なアプローチは行っていません。ヨーロッパのディーラーを通じて一部ロシアに納入されていると聞いています。

中国については、市場になり得ると思いますが、政治体制や商慣習等の違いによるリスクも大きいと考えており、現状、積極的に売り込みを図ることは考えていません。

総じて輸出については、カントリーリスクも含め極力リスクを回避する方策を取ることとしており、そのため、基本的に輸出相手国が親日的であるか否かが重要なポイントとなっています。

今回のコロナパンデミックにより、2020年春頃から社員が海外に出張出来なくなり、輸出についてはインターネットによる商談と

なっています。インターネットの利便性が増したこともあり、海外向けの契約はある程度カバー出来ています。しかしながら、やはり顧客のニーズを的確につかむには対面での商談がベストであり、一日も早いコロナの収束を願っています。

輸出に際し、出来るだけ地元の新潟港を利用したいと思いますが、欧州、東南アジア等への直行航路がなく、釜山経由ではリードタイムやコストがかかるため、横浜港を利用しています。

外国人材については、現在、日本国籍を取得しているバングラディッシュ人1名のほか、インド人、ミャンマー人、トルコ人各1名が働いています。弊社の場合、海外展開に必要という視点だけでなく、基本的に優秀で弊社で長く働きたい人材であれば、国籍は問わず採用します。ただし、外国人については、日本語によるコミュニケーションに支障がないことが条件になります。また、基本的に日本人も含め、政治と宗教を会社に持ち込まないことを昔から採用の絶対条件としています。もちろん採用後に必要に応じて外国人材を海外とのビジネス現場で起用することはあります。

図5 海外顧客の名称と所在地の方向を示す本社前のサイン板



出所：ERINA 撮影

——県央地域の将来展望について、ものづくり企業の視点から見た課題、行政に対する要望や提案、三条市立大学に期待することなどについてお話しください。

(藤井) 弊社の商品には県外や海外メーカーのエンジンを使用しています。エンジンは商品を構成する一番付加価値が高い部品であり、地域貢献の観点から、で

きれば県内生産のエンジンを使いたいと考えていますが、製作しているメーカーがありません。行政が産業政策を考える際には、エンジンの製造等、付加価値が高い分野に対する支援に重点を置いてもらいたいと思います。新潟県において、高付加価値のモノの生産が増えることを期待しています。

県央地域はものづくりが盛んな地域です。ただし、中小企業を中心に大企業の下請けとして部品を製作するメーカーはたくさんありますが、完成品メーカーが少ないと思います。このことは、県央を含め新潟県全域に言えることです。行政が産業政策を策定する際に、完成品を作る産業の育成に力を入れた方が良いのではないかと思います。現在の産業政策では、補助金により様々な事業を支援しています。しかし、行政として平等性を重視するあまり、重点分野が見えにくくなっているのではないのでしょうか。新しい産業に集中的に投資・支援を行った方が望ましいと考えます。また、行政として地場の製品・技術を率先して公共サービスに活用することも地場産業の育成につながるのではないのでしょうか。

地域発展のあり方として一例を紹介します。2001年に山形県鶴岡市に慶應義塾大学先端生命科学研究所¹が設立されました。慶應義塾大学は全国に用地を探しましたが、鶴岡市以外の地方都市は誘致に名乗りを上げなかったと聞いています。この研究所は細胞工学、分析化学、代謝工学、分子遺伝学、ゲノム工学や情報科学といった異分野の研究者が集まり、「統合システムバイオロジー」という分野の開拓を推進しています。この研究所が立地する「鶴岡市サイエンスパーク」は、鶴岡市が全国の地方都市と同様、人口減少が続く中で「長期的な視線で新たな知的産業を生み出す」ことを目的に開発しました。研究所設立から20年が経過した現在、研究を基に、6社のバイオベンチャー企業が誕生しています。その一つが「Spiber(スパイバー)」で、人工合成クモ糸繊維の量産化技術を確立し、新素材の衣料品への応用を進めています。こ

¹ 慶應義塾大学先端生命科学研究所ウェブサイト (<http://www.iab.keio.ac.jp/>) を参照。

うしたベンチャー企業に外国人も含め、若い優秀な人材が集まり、他県から鶴岡市への移住も進んでいると聞いています。また、研究所では、地元高校生が研究所の設備を使用し、研究することも奨励しています。研究成果等によっては慶応義塾大学に推薦し、東京で学んだあと、研究者として地元に戻るといったサイクルも作られています。

さらには国際会議が出来、海外の研究者も長期滞在できる洒落たホテルも研究所の職員がスピンアウトして作られています。

このように、地域の産業とは、関連性のない「不連続性の技術革新」が必要と考えています。

1982年に上越新幹線が開通した際、当時の燕三条駅の周辺は何もなく水田が広がっていました。鶴岡市の事例が県央のモデルになっていたのかもしれないと思うと少し残念です。

三条市立大学が開学しました。この大学が掲げる企業へのインターンシップを通じて、地域の産業に適した人材を育成していくという理念には賛同しますが、単に県央地域のものづくり企業に人材を供給するだけでなく、「不連続性」を重視した研究にも注力し、新たな技術を産み出し、

地元還元する役割も期待したいと考えています。

——「不連続性の技術革新」というお話がありました。最後に、今後の事業展開について抱負をお聞かせください。

(藤井)冒頭でもご紹介したように、弊社は1865年に農機具製造から操業を開始し、2015年に創業150周年を迎えています。この間、1972年には除雪機の製造販売を開始するなど、より社業を発展させてきました。この創業150周年という節目の年に「人を大切にする経営学会」²が主催し、経済産業省、厚生労働省などが後援する「日本でいちばん大切にしたい会社」³大賞の審査委員会特別賞を受賞しました。

また、弊社は、経済産業省が2012年度から始めた「ダイバーシティ経営企業100選」⁴で、2013年度を受賞企業に選定されました。ダイバーシティ経営とは、多様な人材を活かし、その能力が最大限発揮させる機会を提供することで、イノベーションを生み出し、価値創造につなげている経営と定義され、弊社は女性、外国人、高齢者の積極的登用や技術革新などの経営姿勢と実績が評価され、選定頂きました。

さらに、弊社は、2017年に経済産業省により「地域未来牽引企業」⁵に選定され、地域経済の中心となる担い手として地域経済を牽引していくことが期待されています。弊社としては、創業以来積み上げてきた技術や国内外のネットワークに加え、経営姿勢や技術革新などに対するこうした外部の公的評価を土台に、引き続き「不連続性」に対する挑戦を続けたいと思います。同時に、農業機械と除雪機を柱に社業の発展を通じた地域経済の活性化と社会貢献に取り組んでいく所存です。

(2021年7月27日 フジイコーポレーション(株)にて)

聞き手:ERINA経済交流部長 安達祐司
同 経済交流推進員 蔡聖錫

プロフィール
藤井大介(ふじい だいすけ)
 • 1983年10月
藤井農機製造(株)及び(株)フジイ商
会の代表取締役役に就任
 • 1990年
創業125周年を機に社名をフジ
イコーポレーション(株)に改め、代
表取締役として現在に至る

² 人を大切にする経営学会ウェブサイト (<https://www.htk-gakkai.org/>) を参照。

³ 同学会、2015年第5回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞 (<https://www.htk-gakkai.org/a0013/MyHp/Pub/Free.aspx?CNo=12>) を参照。

⁴ 平成25年度「ダイバーシティ経営企業100選」 (<https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/diversity/kigyos100sen/practice/pdf/10025.pdf>) を参照。

⁵ 地域未来牽引企業一覧 (https://www.meti.go.jp/policy/sme_chiiki_chiiki_kenin_kigyos/kigyos/pdf/15_niigataken.pdf) を参照。

イベント

国際人材フェア・にいがた2022開催報告

月日: 2021年7月10日(土)

場所: 朱鷺メッセ2階 スノーホール(新潟市中央区万代島6-1)

主催: 新潟県

共催: 新潟労働局

主管: 新潟県外国人材受入サポートセンター(新潟県行政書士会)、ERINA

ERINAは2021年7月10日(土)、朱鷺メッセ(新潟市中央区)において、新潟県内企業と外国人留学生を対象とした就職相談会「国際人材フェア・にいがた2022」を開催した。本事業は、地方における留学生向け就職相談会として2005年にスタートし、今回で17回目の開催となった。これまでの開催実績は表1の通りである。今回は県内企業17社と、県内在学中の留学生74人が参加した。

実施体制については、昨年と同様に新潟県が主催で、新潟県外国人材受入サポートセンター(新潟県行政書士会)が県から受託して、更にERINAが再受託する形で開催された。

■準備段階

新型コロナウイルス感染状況が続くなか、今年もコロナ対策を行い、開催に向けて準備を進めた。昨年開催した経験もあって、順調に準備を進めることができた。

留学生向けガイダンスについては、昨年と同様に事前に動画を録画して、インターネット上で配信した。ガイダンスの内容は以下の通りである。

①留学生の就職に伴う在留資格(ビザ)

- ・講演者
新潟県外国人材受入サポートセンター
管理責任者
新潟県行政書士会 国際業務委員長
南 直人氏

・内容

留学生が就職する際に取得する主な在留資格「技術・人文知識・国際業務」の内容や許可事例、または「特定活動(本邦大学卒業者)」(告示46号)の内容と具体例などについて詳細な説明がなされた。

②留学生 OB・OGによる就職・仕事・生活の体験談

- ・講演者
フジコーポレーション株式会社
サイフ・バドシャ氏

・内容

現在務めている会社、仕事内容、就職活動に関するアドバイスなどについて紹介を行った。

上記の動画²はイベント後もしばらくは公開する予定で、卒業予定の留学生にとって有益な情報になることを期待する。

■開催概要

- 月日 2021年7月10日(土)
- 場所 朱鷺メッセ2階 スノーホール
(新潟市中央区万代島6-1)
- 主催 新潟県
- 共催 新潟労働局
- 主管 新潟県外国人材受入サポートセンター(新潟県行政書士会)、公益財団法人環日本海経済研究所(ERINA)
- 協力 新潟地域留学生等交流推進会議、にいがた産業創造機構

表1 国際人材フェア開催履歴

年度	開催日	会場	参加企業	参加留学生	内定者
2005年	10月28日(金)	長岡商工会議所	9社	60名	5名
2006年	10月27日(金)	新潟市民プラザ	9社	53名	2名
2007年	9月21日(金)	新潟市民プラザ	14社	47名	3名
2008年	5月21日(水)	新潟市民プラザ	18社	69名	6名
2009年	5月22日(金)	新潟市民プラザ	8社	47名	1名
2010年	5月21日(金)	新潟市民プラザ	22社	59名	1名
2011年	6月23日(木)	新潟市民プラザ	19社	85名	4名
2012年	6月29日(金)	新潟市民プラザ	18社	86名	6名
2013年	5月30日(木)	新潟市民プラザ	16社	94名	4名
	6月8日(土)	アオーレ長岡	9社	22名	
2014年	6月18日(水)	新潟市民プラザ	20社	85名	3名
2015年	6月18日(木)	新潟市民プラザ	27社	80名	12名
2016年	6月17日(金)	新潟市民プラザ	24社	100名	6名
2017年	6月9日(金)	新潟市民プラザ	27社	81名	7名
2018年	6月2日(土)	朱鷺メッセ	35社	96名	10名
2019年	6月8日(土)	朱鷺メッセ	28社	119名	12名
2020年	9月18日(金)	朱鷺メッセ	12社	98名	0名
2021年	7月10日(土)	朱鷺メッセ	17社	74名	-
計(延べ)	-	-	332社	1355名	82名

※内定者は参加企業へのアンケート調査による結果。

¹ 2020年度の開催実績については、「国際人材フェア・にいがた2021開催報告」を参照。https://www.erina.or.jp/activities/business/job_fair/job_fair2021/report/

² 動画のURL:https://www.erina.or.jp/activities/business/job_fair/job_fair2022/

(NICO)、新潟県商工会議所連合会、新潟経済同友会、新潟県経営者協会、新潟県中小企業団体中央会、新潟県国際交流協会、ジェトロ新潟貿易情報センター、第四北越銀行、大光銀行

相談ブース 新潟労働局(外国人雇用管理アドバイザー)、新潟県外国人材受入サポートセンター(新潟県行政書士会)ピザ相談コーナー、外国人相談センター新潟(新潟県国際交流協会)の紹介コーナー
参加者 県内企業17社、留学生74名

■プログラム

13:00 主催者代表挨拶
13:05 就職相談会

就職相談会では留学生がそれぞれ関心のある企業のブースを訪問し、事前に用意したエントリーシート(参加申込書)を企業に提出、採用担当者から企業概要や採用方針などについて説明を聞き、相談を行った(写真1)。

写真1

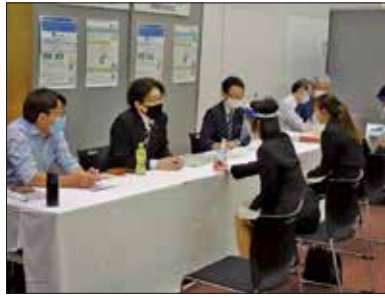


(出所) ERINA 撮影

これと並行して外国人の雇用に関する相談と在留資格変更手続に関する相談(新潟労働局および新潟県外国人材受入サポートセンター)を実施した(写真2)。

16:00 終了

写真2



(出所) ERINA 撮影

■開催結果

(1) 企業側

県内に事業所を持つ県外の企業も含め参加企業は17社、地域については新潟市に本社・支店を置く企業が7社(41%)で最も多く、次に柏崎市の企業が4社(24%)で、南魚沼市の企業が2社(12%)、村上市、燕市、上越市、佐渡市の企業各1社(6%)が出展した。

業種については製造業が9社(53%)、非製造業が8社(47%)であった。製造業のうち、機械製造業が4社(24%)、金属製品製造業が3社(18%)、食料品製造業が2社(12%)、非製造業は、IT、専門技術サービス、小売・卸売、建設、人材派遣、宿泊、飲食サービス、その他のサービスが各1社(6%)であった。

募集する職種については技術開発が9件(33%)で最も多く、次に海外取引業務が6件(22%)、通訳・翻訳が4件(15%)、企画事務が3件(11%)、法人営業と管理業務がそれぞれ2件(7%)、情報処理が1件(4%)であった。

採用形態に関しては正社員を募集する企業は15社(88%)、正社員あるいは契約社員の採用を予定する企業は2社(12%)であった。希望要件の語学能力については、英語が9社(53%)で最も多く、次に中国語が6社(35%)、その他に韓国語、ベトナム語、ネパール語等があった。

(2) 留学生側

参加留学生は74名、国・地域別では、

中国28名(38%)、ベトナム15名(20%)、ネパール8名(11%)、モンゴル7名(9%)、スリランカ、バングラデシュがそれぞれ3名(4%)、タイ、ミャンマーがそれぞれ2名(3%)、その他に台湾、インドネシア、スイス、ポーランド、ジンバブエの留学生が参加した。

学校別では、国際外語・観光・エアライン専門学校が17名(23%)で最も多く、新潟産業大学12名(16%)、新潟大学8名(11%)、新潟ビジネス専門学校、事業創造大学院大学、長岡大学がそれぞれ6名(8%)、国際大学、敬和学園大学がそれぞれ4名(5%)、上越教育大学が3名(4%)、その他に新潟食糧農業大学、長岡公務員・情報ビジネス専門学校、新潟会計ビジネス専門学校、上越公務員・情報ビジネス専門学校、フォーラム情報アカデミー専門学校、国際日本語カレッジ、新潟職業能力開発短期大学校などからの参加もあった。

参加者のうち、男性は35名(47%)、女性は39名(53%)で、理系は12名(16%)、文系は54名(73%)で³あった。

■アンケート結果(企業側・留学生側)

(1) 企業側

参加企業に対するアンケート結果⁴では、「本日のフェアは有意義でしたか?」という質問に対して、参加企業の13社(76%)が「有意義」と答えて、「本日のフェアで採用したい留学生はいましたか?」という質問に対して、3社(18%)は「すぐにでも採用したい留学生がいた」、14社(82%)は「今後試験や面接を重ねて検討したい留学生がいた」と答えた。

企業の留学生採用の理由(図1参照)は、「優秀な人材を確保するため」が76%で最も多く、次に「国際取引など語学力が必要な業務を行うため」が47%、「日本人だけでは十分な人材を確保できないため」が35%と続いた。留学生の採用は、国籍を問わず優秀な人材がいれば採用したいと考えている企業が多い。

留学生の資質や能力で最も重視するも

³ 理系・文系に関しては未記入が8件あった。

⁴ 企業アンケートの有効回答数は17社、回答率100%。

図1 留学生の採用理由について教えてください（複数回答）

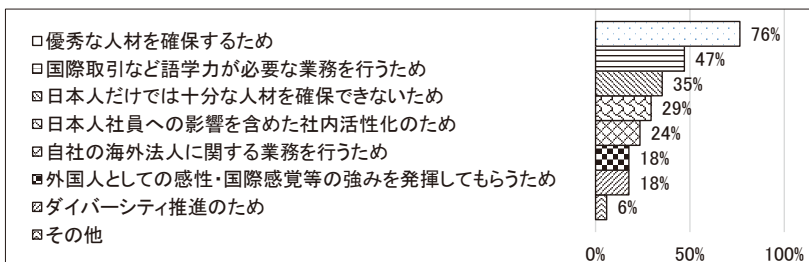


図2 留学生の資質や能力で最も重視するものを教えてください（複数回答、3個まで）

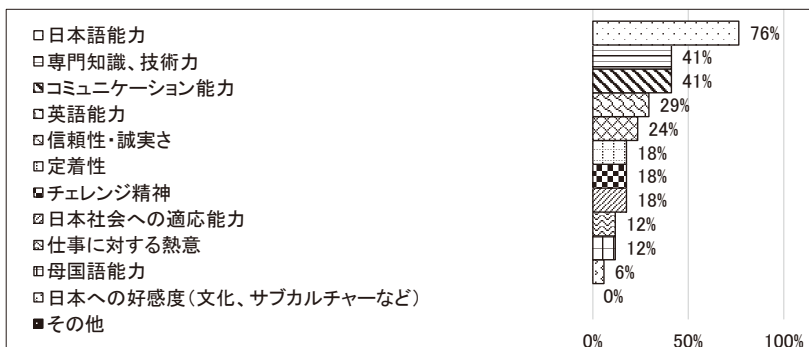


図3 留学生の就職活動において、大学等で指導して欲しいと思うものは何ですか？（複数回答）

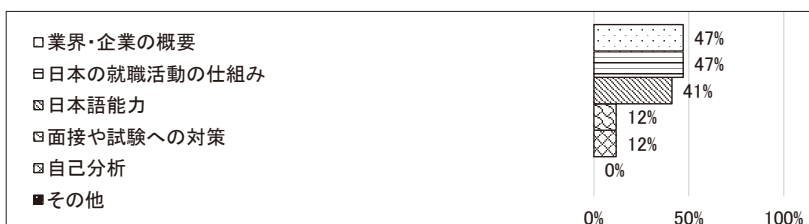


図4 留学生を採用して良かったことを教えてください（複数回答）

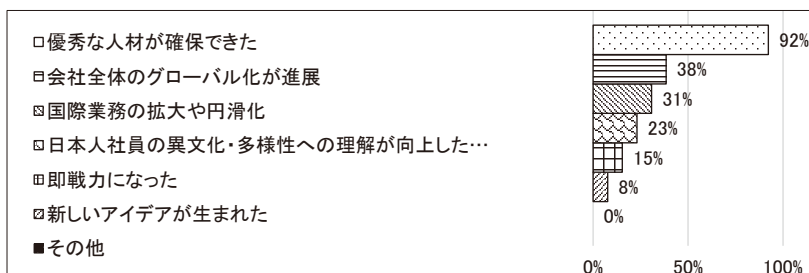
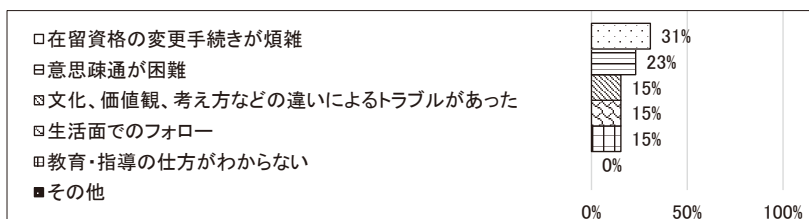


図5 留学生を採用して苦労したことを教えてください（複数回答）



の(図2参照)は、「日本語能力」が76%で最も多く、次に「専門知識、技術力」と「コミュニケーション能力」が41%、「英語能力」が29%の順だった。留学生の採用において、大半の企業が日本語能力を重視しており、他の要素に比べてその重要度が最も高いことが分かる。

「留学生の就職活動において大学等で指導してほしいことは(図3参照)」という質問に対して、「業界・企業の概要」と「日本の就職活動の仕組み」が47%、次に「日本語能力」が41%と回答が多かった。留学生向けの就職ガイダンス等では、日本の就職活動の仕組みが、留学生にとって理解しづらい内容が多いということに留意して説明を工夫する必要がある。

参加企業17社のうち、過去に留学生を採用したことがある企業13社に対して、採用後の状況について追加の質問を行った。

「留学生を採用して良かったことは(図4参照)」という質問に対して、「優秀な人材が確保できた」と答えた企業が12社(92%)で最も多かった。留学生の採用を通じて、求める人材を獲得できたと思う企業が多い。次に「会社全体のグローバル化が進展」が38%、「国際業務の拡大や円滑化」が31%、「日本人社員の異文化・多様性への理解が向上し、社内活性化に繋がった」が23%、「即戦力になった」が15%、「新しいアイデアが生まれた」が8%の順であった。

「留学生を採用して苦労したこと(図5参照)」という質問に対して、「在留資格の変更手続きが煩雑」が31%、「意思疎通が困難」が23%、「文化、価値観、考え方などの違いによるトラブルがあった」、「生活面でのフォロー」、「教育・指導の仕方がわからない」がそれぞれ15%であった。

その他の感想としては、「学生の前向きな姿勢に感銘を受けた。また、優秀な学生が多いと思った」、「行政書士や他の出展社と話し知識が増えた」、「新潟にこれだけの留学生がいるということを知っただけでも良かった」、「学生と話ができてよかった」、「色々な方々と情報交換ができて有意義だった」などの肯定的な意見が多く寄せられた。一方で、「ビザの変更が難しい」など、課題を抱えている企業もあった。

(2) 留学生側

留学生に対するアンケート結果⁵では、回答者の全員が「本日のフェアは有意義であった」、また、全員が「(検討を含めて)就職したい会社があった」と答えた。

日本で働きたい理由(図6参照)については、「日本語を使って仕事をしたいから」が75%で最も多かった。留学生にとって日本語を活用したい気持ちが強く、就職活動の最大の動機となっている。次に「日本企業の技術が高いから」が38%、「日本の文化・サブカルチャー(アニメなど)が好きだから」、「日本企業の人材育成は充実しているから」、「将来日本企業の海外拠点で働きたいから」がそれぞれ25%と回答が多かった。

就職したい業種(図7参照)については、「宿泊・飲食業」、「卸売・小売業」がそれぞれ46%、「製造業」が33%、「生活関連サービス・娯楽業」が25%と回答が多かった。参加者のうち、文系の留学生が多いので、海外との接点が多いホテル(宿泊)や商社(卸売)に憧れを持つ留学生が多いと推測する。

希望する職種について(図8参照)は、「通訳・翻訳」が63%、「販売・営業」が54%、「貿易業務」が50%と回答が多かった。こちらも、文系の学生の割合が多いので、個人が持つ語学力、国際的資質などを十分発揮できる通訳・翻訳や海外営業、貿易の仕事が人気ようである。

「就職活動で困ったこと」(図9参照)という質問に対して、「外国人留学生向けの求人が少ない」が67%で最も多かった。本来、留学生向けの求人情報が比較的少ないなか、コロナの影響で、更に情報が少なくなったのではないと思う。次に「日本語能力や日本社会の文化・習慣の理解に自信がない」が33%、「仕事内容が不明確」が25%、「就職活動の方法が分からない」が21%だった。

「就職を決める際に、最も重視していること」(図10参照)という質問に対して、「将来性がある」が63%、次に「外国人の採用に実績がある」が46%と回答が多かった。留学生が企業を選ぶ際に、安定性と外国人採用実績を重視することが分かった。ちなみに、今回の国際人材

図6 日本で働きたい理由は何ですか(複数回答、3個まで)

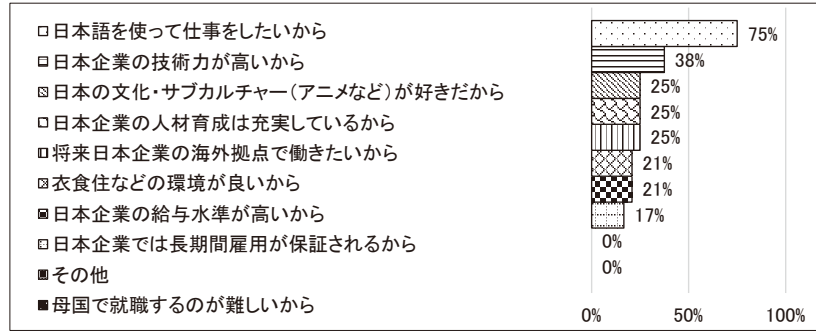


図7 入りたい企業の業種は何ですか(複数回答、3個まで)

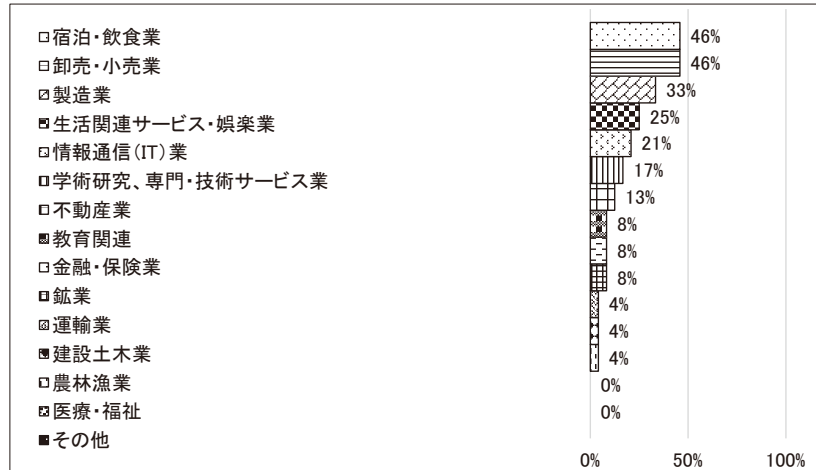


図8 やりたい仕事の内容は何ですか(複数回答、3個まで)

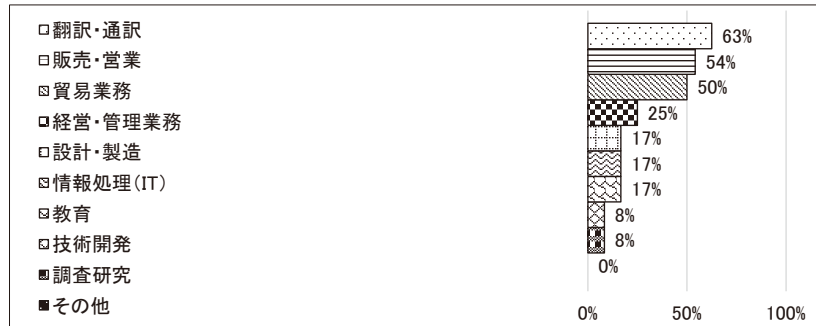
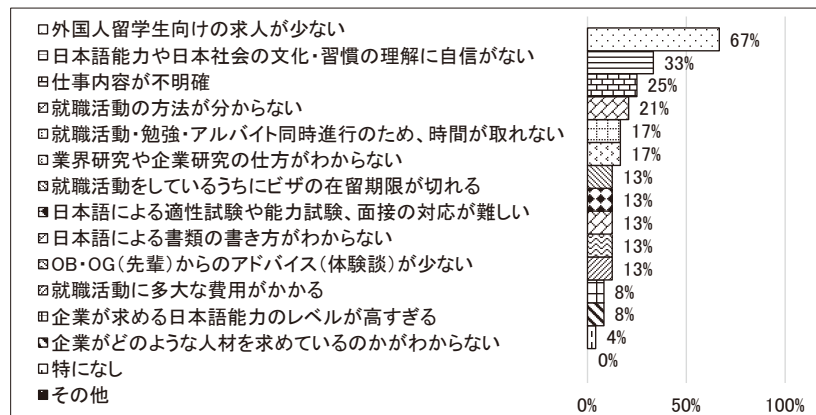
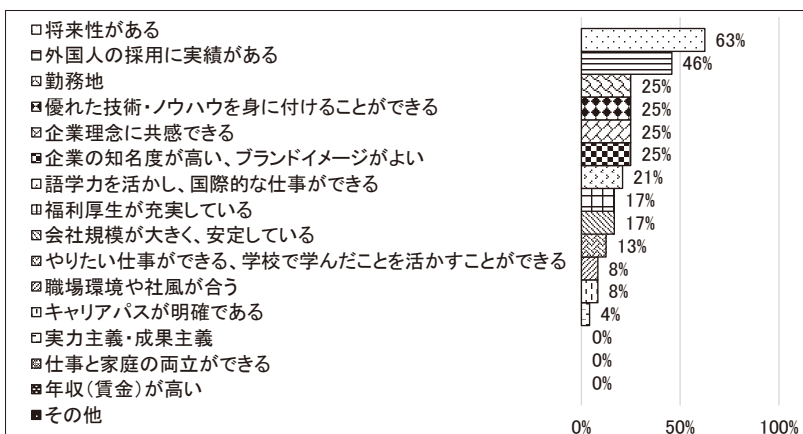


図9 就職活動で困ったこと、不安に感じたことを教えてください(複数回答、5個まで)



⁵ 留学生のアンケートの有効回答者数は24人、回答率32%。

図10 就職を決める際に、最も重視していることは何ですか
(複数回答、5個まで)



フェアでは、外国人社員が会社説明を行う企業があり、留学生の注目を集めた。

■終わりに

コロナ禍ではあるが、参加企業が去年に比べて3社増え、景況に回復の兆しが

見えてきた。また、一部の企業から事前に開催についての問合せがあり、留学生の採用ニーズがあることが分かった。ただし、コロナ前の状況に戻るには、まだ時間がかかりそうだ。

一方で、留学生の参加者は74人で、昨年より24人減少した。企業からの求人数の減少に加え、留学生の日本企業への就職意欲も低下していると思われる。

今後は、アフターコロナを見据えて、企業と留学生の参加意欲を高めるために関連機関と連携して、セミナー等の開催を通じて、情報発信を継続していく。一日も早くコロナが収束して、通常に戻ることを祈る。

(ERINA 経済交流部経済交流推進員
蔡聖錫)

ERINA Webセミナー

ウィズコロナ下の経済見通し—世界・日本・新潟

日時:2021年7月15日

開催方式:オンライン

ERINA Web セミナー「ウィズコロナ下の経済見通し—世界・日本・新潟」では、コロナ対策等により、国や地域で差が生じている中、今後の経済動向を「世界・日本」、「中国」、「新潟」の3つの視点から解説する内容とした。

〈講演1〉世界・日本経済の動向

株式会社三菱総合研究所 政策・経済センター研究員 田中康就

1. 世界経済の見通し

(1) コロナ危機下の世界経済

2020年はコロナ危機が発生し、世界金融危機を上回り5%を超えるマイナス成長となった。5%超のマイナス成長は2度の世界大戦と世界恐慌以来である。コロナ危機は過去のパンデミックと比較すると死亡率は低いが、経済的な影響は大きい。その理由は、無症状の人も感染力があるというコロナの特性にあると思われる。誰が感染力を持っているのか分からないため、全員が距離を取って生活しなければならず、飲食関連業界などの経済活動は大き

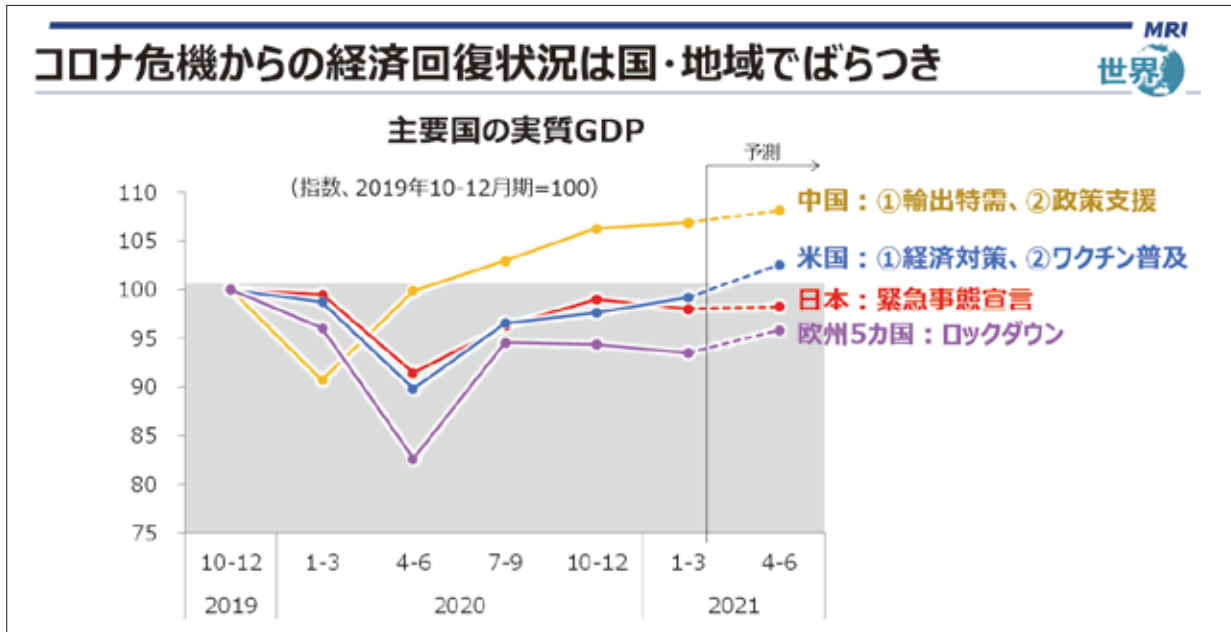
く縮小した。

2020年を前半と後半に分けてみると、後半の世界経済は回復基調にあるが、ばらつきが見られる。1つ目は、国・地域でのばらつきである。主要国の実質 GDP を見ると(図1)、中国はマスクやリモートワークの普及による電子機器の輸出特需、国内の自動車購入支援策、インフラ投資などでコロナ前を大きく上回る水準で推移している。米国は3回にわたる現金給付など大規模な経済対策と2021年以降のワクチンの普及により、2021年4-6月期にはコロナ前の水準まで回復しているという予想であ

る。一方、日本と欧州は緊急事態宣言やロックダウンの影響でコロナ前を下回って推移している。日本は米国に近い水準にあるが、コロナ前として設定している2019年の10-12月期は消費税増税により景気が押し下げられた時期なので、実態としては欧州に近い形になっている。

2つ目は業種間のばらつきである。世界主要国の企業利益の分布を見ると、業績が悪い業種は非常に悪いが、良い業種は非常に良い状況にある。悪い業種は従来型のエネルギーや娯楽サービス、飲食サービス業などであり、良い業種はデジタ

図1 主要国の実質GDP



プラットフォームやワクチンに関連するライフサイエンス、半導体、ネット通販関連などである。

3つ目は国内での雇用・所得環境のばらつきである。日本国内の生活者を対象に行った「コロナ前に比べて収入がどう変化したか」という弊社のアンケート結果によると、7割弱の世帯で「収入が不変」または「増加」している。つまりコロナの影響はすべての世帯に少しずつ影響したのではなく、一部の世帯に大きく影響している。所得別に見ると、低所得の世帯ほどコロナによる収入の減少幅が大きい。こうした傾向は米国でも見られ、高所得層では雇用がコロナ前よりも増えているが、低所得層では大きく落ち込んだ状態が続いている。

(2) 世界経済の注目点

① 経済活動の抑制がいつまで続くか

2021年の世界GDP成長率はコロナによって大きく押し下げられた2020年からの反動もあり、+5.6%と高めの伸びを予測している。国別では、米国や中国が高めの成長率となる見込みで、世界GDPは2021年半ばにはコロナ前の水準を上回る見通しである。2020年から2021年にかけては行動抑制が下押し圧力になる一方、

財政・金融政策が下支え要因となったが、2021年から2022年にかけてはワクチンの普及もあり、行動抑制も縮小し、消費と所得が同時に増加する自律的な回復に移っていくと見られる。

鍵となるのは集団免疫をいつ頃獲得できるかである。免疫の獲得の仕方としてはワクチンを接種して獲得する方法と、感染して獲得する方法の2つある。6月末時点において国別に見ると、米国と英国は感染者数とワクチン接種数がともに多く、既に6割程度の人が免疫を持っており、集団免疫にかなり近い。一方、ドイツと中国は4割程度にとどまっている。また、日本は感染者数が少なかったこともあり、免疫の獲得はワクチン頼みであるが、ワクチン接種のタイミングが遅かったこともあり、ワクチン接種数は人口の2割にも満たない状況である。今後、現状のワクチン接種と感染ペースが続いた場合、グローバルに見て、集団免疫はいつ頃達成できるかについて、機械的に試算すると、GDPシェアで見ると2021年末には80%、2022年末には95%の国で集団免疫を獲得でき、ほぼ世界的にも集団免疫を獲得できた状態になる見込みである。但し、高所得国や中所得国では2021年半ばには集団免疫を達成できる見込みである一方、低所得国

では集団免疫を獲得できていない見込みで、低所得国も含めたグローバルな人の移動が自由になるには暫く時間がかかりそうである。

② 米国経済と中国経済力の行方

米国経済についてはワクチンが普及しており、緩やかな回復傾向が続き、2021年半ば以降はGDPギャップがプラスの状態（供給よりも需要が強い状態）が続くと見ている。バイデン政権の動向を見ると、短期的な経済押し上げ策から中長期的な成長戦略に政策の重点が移りつつあり、今後は気候変動対策や老朽化したインフラの整備に力を入れてくるものとみられる。もともと、米国経済にとって先行きは緩やかな金融政策の見直しがりリスクとなる。GDPギャップがプラスで推移してきたこともあり、米国ではインフレ圧力が高まっている。また、株価の割高感も強まりつつある。米国経済は借金体質であり、金融政策の影響を受けやすい構造である。したがって先行きの米国景気を見る上で緩やかな金融政策の見直しと出口戦略がうまくいかどうかポイントになる。

一方、中国経済は成長率が高いが、足元ではやや減速感も出ている。国内の政策支援は2021年以降も続いているが、輸出の特需は一服しつつある。また、足

元では供給制約が中国の足かせになっている。資源価格が上昇する中、輸入が増加して企業を圧迫しているほか、半導体不足により自動車生産は前年比マイナスに転じている。

先行きの中国経済については、リスクは2つある。1つはインフラ投資を続けてきたことで大きく膨らんだ政府の債務残高である。インフラ投資が費用対効果の高い所にだけ行われていれば良いが、一部では非効率なインフラ投資が行われており、デフォルトも出てきている。債務残高が高まる中、デフォルトが次のデフォルトを呼ぶような状況になり、中国国内で金融危機に発展するリスクがある。2つ目は米中摩擦が激化し、米国や米国寄りの国から禁輸措置を取られることである。中国は現在、技術力を高めてきているがハイテク分野の一部は依然として自前で生産する力がない。半導体関連の本社所在地別の市場を見ると、ほとんどが米国・日本・韓国となっていて、生産は中国で行われていても実態としては海外の企業が生産している状況である。中国の半導体関連の調達を見ると、日本・米国・台湾・韓国・シンガポールなど米国寄りの国が約半数を占めており、今後米中摩擦が激化し、これらの国から禁輸措置を取られた場合には部品の調達などができなくなり、中国の生産にとって足かせとなる。

2. 日本経済の見通し

(1) 回復は道半ば

日本経済は、長い目で見ると次の3つが下押し要因になってきたと思われる(図2)。1つ目は2018年以降の米中摩擦によって成長率が押し下げられた。2つ目は2019年10月以降に消費税増税が行われ経済活動が落ち込んだ。3つ目は2020年にコロナ危機が発生し、GDPが大幅に減少した。2020年後半にかけては反動もあって回復してきているが、2021年に入って再びマイナス成長に転じており、コロナ禍での日本経済の回復は道半ばという状況である。4~6月期についても緊急事態宣言の延長で弱い回復にとどまる見込みである。

ただ、こうした中でも、いくつか前向きな動きも出てきている。

1つ目は、財輸出はコロナ危機前よりも強いということである。国別で見ると全体的に多くの国でコロナ前の水準まで回復してきており、特に中国向けが大幅に伸び輸出全体を牽引している。また、財別に見ると、リモートワークが普及してきたこともありパソコン向けの半導体の輸出が伸びている。

2つ目は企業向けサービス(BtoBサービス)の改善傾向が続いているということである。コロナ危機発生直後はその業績への影響が見通せず、新規の契約を一旦止める動きが広がった。しかし2020年後半以降は新規の契約を再開する動きもあり、BtoBサービスは改善傾向にある。また、輸出・生産が改善する中で物流関連のサービスや、卸しのサービスといった事業所サービスも大きく伸びてきている。直近では対事業所サービスはコロナ前の水準まで回復している。

3つ目は、財消費が底堅く推移していることである。1回目の緊急事態宣言が出された時期は百貨店が閉店したり、マスクが不足して外に出られないなど、消費したくてもできない状況が続いた。しかし2020年後半以降はそうした制約もなくなり、またコロナによってサービスを消費できない分、代わりに財を消費する動きが出てきて、財消費はコロナ前を上回る水準で推移してきた。

その結果、企業活動は回復傾向にあるが、業種間・企業間のばらつきが広がっている。図3は日銀短観の企業の業況判断を3つのグループに分けて見たものである。製造業については輸出が回復していることや国内での財消費が回復していることもあり、既に業況はコロナ前の水準まで回復している。またBtoBサービスが下支え要因となって外出関連以外の非製造業も緩やかではあるが改善傾向が続いている。一方、外出関連の運輸・郵便、対個人サービス・宿泊・飲食サービスなど外需関連の非製造業については大幅に悪化した状況が継続している。

こうした傾向は経済活動の分布からも見て取れる。足元ではコロナ前よりも経済活動が増加している業種はサービス業では40%、製造業でも45%となっているが、まだ約半数の業種では経済活動はコロナ

前を下回っている状況である。

具体的には、良い業種では、公共交通機関からマイカーへ動く動きがあり、自動車関連の販売が好調な他、在宅時間が延びる中、在宅生活の充実のため、家電販売関連も伸びている。またパソコンを見る時間が増えており、コンテンツ配信業務やサイト運営業務といったネット関連でも経済活動が伸びている。その他、不動産取引やネット通販なども伸びている。一方、製造業についてもリモートワークの普及によるネット環境整備に関連し無線通信機などが大きく伸びている。また、世界的な半導体需要の回復により電子部品や半導体の製造装置など、半導体関連の生産も伸びている。その他、在宅生活の充実を背景に、玩具や家事用の機器も伸びてきている。

良くない業種においても、コロナの影響が大きく出ている。サービス業については旅行などの観光関連や、劇団などの娯楽サービス、航空運輸業などの旅客運送や、パブレストラン・居酒屋などの飲食サービスで減少幅が大きくなっている。製造業についても外出が減る中で化粧品、皮革製品などの衣類・身の回り品や、リモートワークが進む中でオフィス機器や、外出が減って移動距離が短くなる中でバスや航空部品などの輸送機械で生産が大きく落ち込んでいる。

(2) 日本経済の注目点

① 防疫と経済のバランス

3回の緊急事態宣言時の外出行動の抑制を見ると、緊急事態宣言が発令されている期間は、発令対象地域で外出が減るだけでなく、対象でない地域でも外出が落ち込み、経済活動が縮小する傾向がある。こうした状況を改善するためには究極的にはワクチン接種による集団免疫を獲得する方法があるが、日本ではワクチン接種のペースが足元では加速しているものの累積で見ると遅れている。

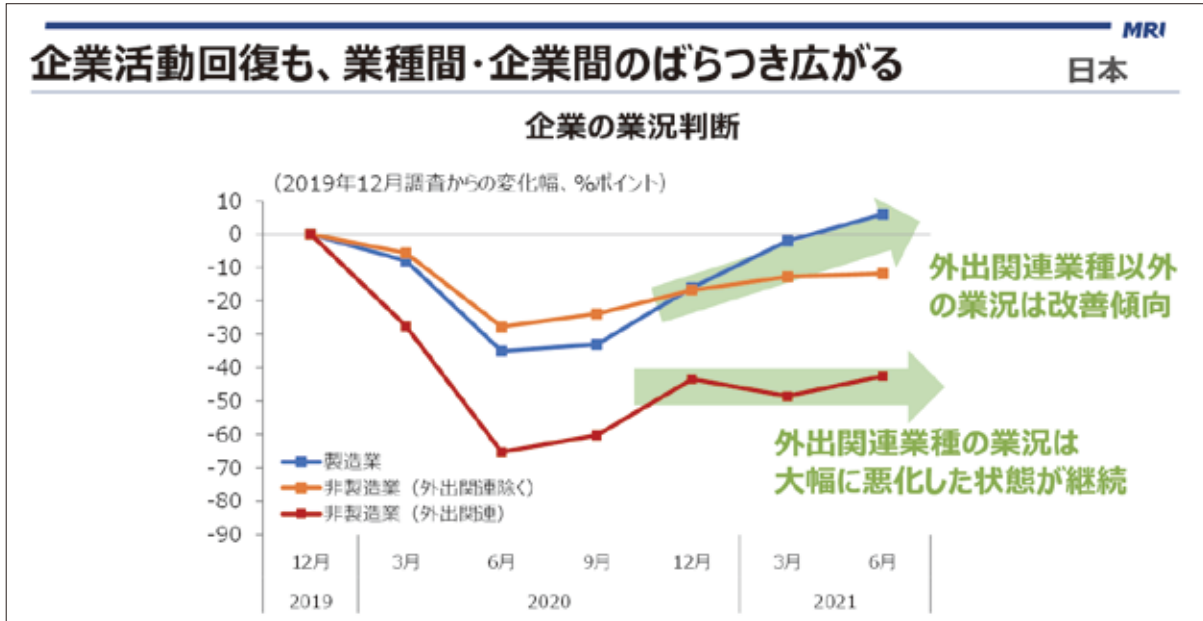
ワクチン接種ペースの国際比較を見ると、足元では他国に近い水準まで回復してきている。ただし、先ほども申し上げた通り、ワクチン接種の開始時期が遅かったこともあり、累積で見たワクチン接種数は他国に比べて大きく遅れている。今後、

図2 日本の実質GDP



注：網掛け期間は内閣府の基準による景気後退期。2018年10月以降の景気後退期は暫定。直近は2020年10-12月期。
出所：内閣府「国民経済計算」「景気日付基準」より三菱総合研究所作成

図3 企業の業況判断



注：全規模。外出関連は運輸・郵便、对个人サービス、宿泊・飲食サービス。
出所：日本銀行「短観」より三菱総合研究所作成

現在のペースでワクチン接種が進んだ場合、いつ頃集団免疫を達成できるかであるが、直近6月末では1日当たり100万回の接種ができており、今後もこのペースを維持できれば、免疫を獲得できた人の人口に占める割合は2021年10月までに5割、2021年末までに7割を達成することになる。ただし、今の接種ペースを維持できずに、例えば1日当たり50万回程度になってしまうと、集団免疫を達成できる時期は2022年の前半から半ばにまで遅れることになる。

ワクチン接種が進んだ場合、消費はある程度回復していくと思われる。免疫形成率が6割を満した米国における消費の動きを見ると、ワクチン接種が進んだ2021年以降、概ね改善傾向にある。衣類・アクセサリーや宿泊・飲食サービスについては足元6月の時点ではコロナ前よりも高い水準となっている。輸送サービスや娯楽サービスは6月時点ではコロナ前の水準まで回復していないが、ワクチン接種が行われた2021年半ばにかけては明確に改善傾向が見られる。2021年以降はワクチン接種だけではなく現金給付なども行われており、日本と米国で単純に比較はできないが、一つの参考にはなるだろう。

②過剰貯蓄の行方

実はコロナによって7割弱の人たちは世帯収入が増えているかまたは変わっていない。こうした中、外出自粛によって消費がしたくてもできないため貯蓄が高まっている。加えて、世帯収入が減っていない世帯にも一人当たり一律10万円の給付金が配られており、過剰貯蓄が積み上がっている。貯蓄率の推移を見ると、2020年は半ばにかけて貯蓄率が高くなっている。過剰貯蓄を普通の貯蓄率よりも多く貯蓄した額と定義すると、過剰貯蓄は2020年全体で約22兆円になる。消費支出に換算すると約7%となる。「過剰貯蓄がどのくらい消費に回るか」について弊社でアンケートを行ったところ、平均して約4割が消費に回るという結果であった。消費支出の7%程度の過剰貯蓄のうち4割程度が消費に回れば、消費が3%程度増加することが

期待される。支出先の内訳を見ると、室外娯楽や衣料品、自動車、リフォームを含む住宅、家具・家電と比較的ばらばらについている。但し、アンケートでは過剰貯蓄を消費に回すための条件についても聞いているが、「ワクチン接種率の向上」、「自分自身のワクチン接種」、「コロナ流行の収束」を条件にあげる回答が多く、過剰貯蓄が消費に回るためにもワクチン接種を進めていくことは大事になる。

③労働市場の回復

足元では労働市場の回復は遅れている。宿泊・飲食業、旅行業を含むその他サービス業、生活関連・娯楽業等、外出関連の業種ではコロナ前に比べて就業者が大きく減った状況が続いており、全体としても就業者数はコロナ前に比べて50万人程度減った状態が続いている。背景の一つには職のミスマッチがあると考えている。就業者数の前年差について産業別・職業別に見てみると、大きく減っている産業は宿泊・飲食業、製造業、生活関連・娯楽業である。増えている産業は医療・福祉、教育・学習支援業、情報通信業である。本来であれば宿泊・飲食業、製造業、生活関連・娯楽業で仕事を失った人たちが、雇用が増えている医療・福祉や情報通信業に移動できればよい。しかし、宿泊・飲食や生活関連等で仕事を失っている人たちは接客業や調理人といった職業の人たちであり、製造業で職を失っている人たちは生産工程の従事者である。一方、増えている人たちは医療では看護師であり、情報通信ではエンジニアであるため、ミスマッチが発生している。

実際の雇用者数と生産に見合った最適な雇用者数との差から計算した過剰雇用は、2021年の1-3月時点においても100万人以上おり、企業の中に過剰雇用として多くの労働者が保蔵されている。この内訳のほとんどは飲食・宿泊や旅行業、娯楽サービス産業の労働者で、こうした企業内に保蔵されている労働者も含めると職のミスマッチは大きい。今後は雇用調整助成金などで雇用を守るという方向から徐々にトレーニングなどをして、需要が減っ

てしまった産業から需要が増えている産業へ労働者を移動させていくことが重要になってくるだろう。コロナによって影響を受けている労働者は若い人が多いので、トレーニングによって労働移動していくことは有効である。

労働移動が進むとマクロ経済にとってもプラスになる。世界金融危機時の雇用調整速度とGDPの回復を見ると、雇用調整速度が速い国ほど世界金融危機時の経済の回復も早い。経済の回復を早める意味でも雇用調整を進めていくことは重要となろう。

④コロナ危機を契機とした企業の取り組み

大企業向けのアンケート調査によると、約5割の企業が「新たな製品やサービスの提供」、「サービスのデジタル化」など、事業の見直しが必要であると回答している。コロナ禍において経済活動が落ち込んでいるが、考え方によってはビジネスチャンスと言える。理由は、1つ目として、リモートワークの普及など今後数年間で起こるはずだった変化がコロナによって一気に起こり、現在の生活様式と既存のサービスの間にギャップが生じた。そこにビジネスチャンスがある。2つ目は、過剰貯蓄が高まっており消費者はお金を持っている。3つ目に、リモートワークが進む中、通勤時間が減っており、消費者は時間を持っている。4つ目に、資金調達環境は過去に比べると良い状況である。現在、大規模な金融緩和や財政政策が行われており、資金調達もしやすく金融環境は良いという状況である。

こうしたコロナでの生活の変化をビジネスチャンスとして、米国では起業が盛んに行われている。米国の新規ビジネス申請件数は、世界金融危機時はそれほど増えなかったが、コロナ禍における2020年には大きく増えている。日本企業も米国のようにコロナ禍をビジネスチャンスと捉えて新しい前向きな取り組みを実行できるかどうかは今後の日本経済にとっても重要な課題の一つであろう。

〈講演2〉中国経済の動向

ERINA 調査研究部研究主任 李春霞

1. 中国経済の動向

2020年に発生した新型コロナウイルス感染症の影響で中国経済は深刻な打撃を受けたが、政府の厳しい対策によりこれを抑え込むことに成功した。その結果、2020年の中国の実質 GDP 成長率は+2.3%で、プラス成長を実現できた。また、四半期毎の GDP 成長率を見ると(図1)、2020年の第1四半期は、実質 GDP 成長率は▲6.8%まで低下したが、昨年の第2四半期からプラス成長に転じ、今年の第1四半期は対前年同期比+18.3%、第2四半期は同+7.9%となった。ただ、2020年はコロナ感染症の影響で GDP の成長率が大きく低下し基準値が低いいため、2021年の第1・第2四半期の GDP 成長率は高い数値になっている。したがって前年同期比だけでなく、2019年同期を基準とした2年平均成長率を見る必要がある。このように見ると、2021年第2四半期の実質 GDP 成長率は前年同期比では+7.9%だが、2年間の平均成長率は+5.5%となり、第1四半期の2年間の平均成長率(同+5.0%)よりも0.5ポイント高く、GDP は拡大し続けている。また、2020年には消費が大きく落ち込んだが、2020年の第3四半期から消費の GDP 成長率への寄与度はプラスに転じ、2021年の第1四半期の GDP 成長率18.3%のうち、消費だけで11.6ポイント寄与している。

2020年は民間企業による固定資産投資の伸び率は低下したが、2021年は国有企業を上回り回復している。さらに2021年上半年の固定資産投資は2019年からの2年間の平均伸び率は+4.4%で、第1四半期よりも1.5ポイント高かった。また製造業に関しては2021年の第1四半期までは製造業の固定資産投資の2年間の平均伸び率は▲2.0%であったが、2021年上半年は前年同期比+19.2%、2年間の平均伸び率も+2.0%でプラスに転じた。

鉱工業企業の付加価値額も2020年は大幅に低下し、2020年の1-2月は前年同期比▲13.5%であったが、4月から回復し、

2021年6月には前年同月比+8.3%になっている。特にハイテク製造業の付加価値額は製造業全体よりも高い伸びとなった。さらに新エネルギー自動車、産業用ロボット、集積回路の生産量は2年間の平均伸び率はいずれも+30%を超えた。

2020年は、鉱工業企業の売上高および利潤の伸び率はマイナスであったが、2021年にはプラスに転じた。今年の1-5月までの一定規模以上(本業の年間売り上げ2000万元以上) 鉱工業企業の利潤総額は前年同期比+83.4%、2年間の平均伸び率は+21.7%となり、確実に拡大している。さらに工業稼働率は2020年の第1四半期には67.3%まで低下したが、その後は回復し2021年の第2四半期は78.4%になり、既にコロナ発生前のレベルを上回っている。

今後の中国の製造業が拡大するか否かを見るために製造業 PMI¹を見ていく。PMI は50を超えると拡大する見込みで、下回ると縮小する見込みである。2021年に、中国の製造業の PMI は50を上回っているものの、6月は5月より若干低下した。さらに製造業の新規輸出受注指数は5、6月に既に50を下回っている。このことから貿易に関しては減速の懸念があるといえる。また、非製造業の PMI は製造業よりも高いが、6月は5月より若干低下した。

中国の民間消費については小売売上高を見ていきたい。2021年上半年の社会消費品小売総額は2兆1904億元で、前年同期比+23.0%、2年間平均伸び率は+4.4%であった。消費形態で見ると、上半期の商品の小売総額は19兆192億元で同+20.6%、飲食業は2兆1712億元で同+48.6%増加し、2019年上半年のレベルに回復した。また、6月は5月より+0.7%増加した。なお、インターネットを通じて取引された小売額は6兆1133億元で同+23.2%、2年間平均伸び率は+15.0%であった。そのうち、実物商品のオンライン小売額は5兆263億元で同+16.5%となり、社会消費品小売総額の23.7%を占め、イ

ンターネット通販の成長は顕著である。

近年、中国とアメリカの間では経済摩擦が発生し、米中の対立が激化している。そうした中、中国政府は内需拡大を目指している。第14次5カ年計画(2021-2025年)では「双循環(二つの循環)」を発展の柱とした。「双循環」は国内循環を主体としつつ、国内と国外の二つの循環が相互的に促進する新たな発展パターンである。習近平総書記は中国共産党第19期中央委員会第5回全体会議(5中全会)で内需拡大と技術イノベーションの重要性を強調している。また、2035年に1人当たり国内総生産を中等先進国並みにするなどの長期目標を掲げた。米中対立が激化している中、中国政府は内需の拡大、技術の自立で安定成長を目指している。ただし、内需の拡大を実現するためには国民所得の増加が必要である。

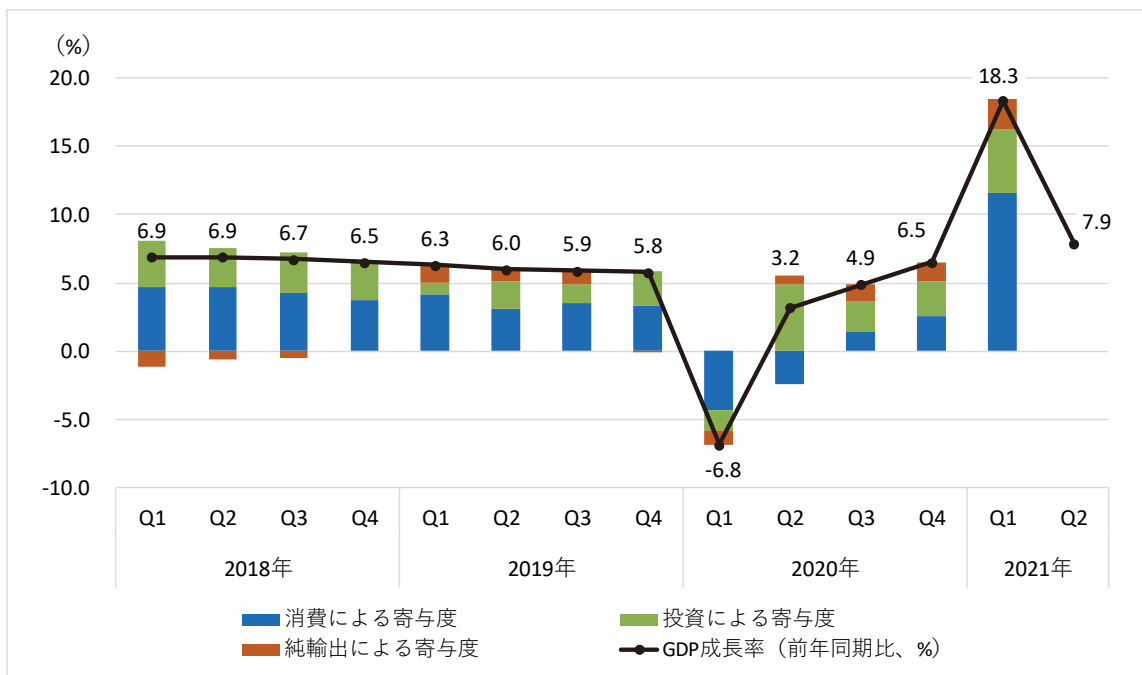
この点について、中国の1人当たりの可処分所得のデータを見ていく。1人当たりの可処分所得の伸び率は2020年第3四半期からプラスに転じた。さらに2021年の第1四半期は2019年の第1四半期と比べ+14.6%、2年間の平均伸び率では+4.5%で、既にコロナ感染症発生前を上回っている。ただしリスクもある。2021年上半年は、前年同期比は増加しているが、2年の平均伸び率は+5.2%である。これは2021年間の上半期の実質 GDP 成長率である+5.3%よりも若干低い。したがって、中国政府は内需拡大を実現するためには国民の可処分所得を高める必要がある。これは中国の一つの課題であると思う。

次に失業率を見ていく。ここでの失業率は農村部を含まず都市部だけの失業率である。昨年2月の失業率は6.2%という高い数値であったが、その後は低下し続け、今年6月の失業率は5.0%となり、既にコロナ発生前の2019年のレベルまで戻った。

米中経済摩擦が激化しているが、2020年中国への海外直接投資(FDI)の総額は増加した。近年、中国国内の件費

¹ 中国製造業購買担当者景気指数。

図1 四半期ごとのGDP成長率



出所: 中国国家统计局のデータに基づき作成。

が高くなってきたので、米中経済摩擦が発生する前に既に低付加価値の産業は中国からASEANなどへ移転する動きがあった。米中摩擦が発生後、この動きが加速している。ただ、付加価値が高い産業への投資は活発である。例えばサムソンは中国国内のスマートフォンやPCの生産工場を閉鎖したが、中国西安の半導体工場への投資を拡大している。スマートフォンやPCなどの製造業は付加価値が高いと思われるが、部品などを海外から輸入し組み立てをすれば生産できるが、国内で発生する付加価値は高くない。つまり、海外からの中国への直接投資は付加価値の高い産業や製品に変わっている動きが出ている。

また、国連貿易開発会議(UNCTAD)が2021年6月に公表した「World Investment Report 2021」によれば、2020年世界の海外直接投資は前年比▲34.7%、対アメリカは同▲40.2%となった。このような中、対中国は5.7%増加した。これは昨年、中国はコロナ感染症からいち早く回復したことに加え、中国国内のマーケットは大きく、

外国企業にとっては魅力があるからだと思う。中国商務部の統計によれば、2020年の対中直接投資(実行ベース、銀行・証券除く)のうち、サービス業向けは77.7%を占めている。ハイテクサービス業への投資は前年比+28.5%であった。そのうち研究開発とデザインサービス業へは78.8%も増加した。全体的に見れば昨年の中国への外国直接投資は付加価値が高い産業への投資が増加したという動きがあった。

2020年の対外貿易額は2019年よりも伸びた。米中対立の中、対米輸出・輸入は増加した。2021年の1-5月の対米輸出は+38.9%、対ASEAN輸出は+29.3%、対EUは+27.9%であった。

2. 中国経済の展望

中国経済が成長を持続できるのか。まず、コロナ感染症の影響を見る必要がある。7月13日現在、中国のコロナワクチン接種回数は既に14億回となった。一部の地域ではコロナ感染者が出ているが、政府はすぐに厳しい対策や住民全員に対するPCR検査の実施などによって抑え込ん

でいる。したがって短期的には影響はあるが、昨年のような大きな影響はないと思う。

次に、2020年8-9月にジェトロが実施した日系企業に対する調査によれば、36.6%の日系企業は「中国での事業を拡大」、55.6%の企業は「現状維持」と回答している。「中国での事業縮小、あるいは第三国へ移転する」と回答した企業の割合は極めて低い。今年は半導体不足などの影響もあり工業生産などに関してはリスクがあるが、経済は拡大傾向にあると思う。

最後に中国のGDPの成長率予測について説明していきたい。中国政府が打ち出した2021年のGDP成長率の目標は6.0%以上であるが、これは控えめな数値であると思う。IMF、OECD、また世界銀行が発表したGDP成長率の予測値を見ると、中国の今年のGDP成長率は8.4または8.5%になるという予測値になっている。

総じて言えば、課題があるが、中国経済は成長しつづけると思われる。

〈講演3〉新潟県経済の現状

一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター 主管研究員 近由夏

1. 新潟県経済の規模、産業構成

はじめに新潟県経済の基本的な情報を共有したい。

新潟県の県内総生産は最新のデータによると2018年度で約9.1兆円である。2006年度からの推移を見てもGDPは大体9兆円前後で推移している。経済成長率で見ると、2018年度は前年度比+1.2%である。全国および関東ブロックと比較すると、残念ながら新潟県のGDP成長率は下回ることが多い。また、新潟県の産業の特色は、全国、関東ブロックと比べ第1次および第2次産業の割合が高く、第3次産業の割合が低いことである。

2. 「県民」からみた新潟県経済（個人消費、所得）

新潟経済社会リサーチセンターでは、新潟県経済の基調判断を「一部に弱さが見られるものの、持ち直しつつある」としている。

はじめに個人消費、所得について見ていく。

私たちは新潟県内の勤労者400人（有効回答400人）を対象に、年2回定期的にアンケート調査を実施し消費動向を調査している。今年4月に実施したアンケート調査結果を中心に見ていく。

収入の推移を見ると、半年前と比べて収入が「増えた」と回答した割合は4.8%、「減った」と回答した人の割合は22.8%で、収入CSI¹は▲18.0となった（図1）。依然低水準にあるものの、3期ぶりの上昇となった。一方、消費支出は半年前と比べて「増えた」と回答した人の割合は15.0%、「減った」と回答した人の割合は17.0%で、消費支出CSIは▲2.0となった。新型コロナウイルスの影響により2期連続でマイナス圏ではあるが上昇している。しかし、先行きの消費支出は県内の勤労者はやや慎重な見方をしていく。これらの結果か

ら、「収入」と「個人消費」は最悪期を脱し、新型コロナウイルスの前に戻りつつあると言える。

ただ、その中身を見ていくと新型コロナウイルスの影響前と比べると大きな変化が起きている。半年前に比べた生活の変化を見ると、「自宅で過ごす時間」、「キャッシュレス決済」、「動画配信サービス」、「料理・自炊」、「オンラインショッピング」などで「増えた」という回答が多かった。その一方で「減った」と回答した中で多い項目は「外食」、「友人とのコミュニケーション」、「百貨店・大型商業施設・ショッピングモールの利用」などであった。これらのことから生活の中心が自宅になっているのが分かる。自宅での生活を便利にするもの、自宅で過ごす時間を充実させるようなサービスを利用する動きが新潟県内でも広がっている。一方、外出や対面関連の時間が大きく減少している。

次に、新潟県の個人消費の現状を統計などで確認したい。

図2は経済産業省が発表している商業動態統計の中で、小売業関連の数字を足し合わせたものである。5月は前年比+1.9%で、3カ月連続の増加となった。推移を見ても高い水準で新潟県もモノへの消費という点では非常に堅調だということが分かる。

新潟県のサービス業関連のデータがないので、県内企業へのヒアリング調査した中からサービス関連企業の声を紹介したい。ホテル・旅館では、「平日はお客様が来ないので休館としている。その間、従業員には自宅待機してもらっている」、「ランチは動きがあるものの、ディナーは予約が入らない」。また、飲食店では、「少人数での利用がほとんどで、会社など団体の宴会予約が全くない状況である」、「時短要請があったときは、夜の利用客の減少が顕著だった」などサービス関連企業に

としては厳しい状況が窺える。

3. 企業からみた新潟県経済（生産活動・設備投資・雇用）

今年5月に実施した新潟県内の企業1000社へのアンケート調査結果（645社から回答）を中心に、県内の生産活動、設備投資、雇用状況を見ていく。この調査も先の消費動向調査同様年2回定期的に実施しているものである。

景気の現状および先行きを見るBSI²は2021年4-6月期▲22.0となり、前期2021年1-3月期の▲18.4からは若干低下したが、前々期2020年10-12月期の▲37.8から大幅に改善し、2019年7-9月期（▲10.4）以来の水準まで回復した。

BSIを業種別で見ると製造業は2021年に入って改善が顕著になっている。一方、非製造業は足元の4-6月は低下している。業種間でばらつきが出ているが、先行きは製造業・非製造業、共に低下していく。

鉱工業生産指数は4月は98.8で前月比+1.1%となり、4カ月連続の上昇となった。一方、全国の5月の指数は前月から▲5.9%と低下した。これは半導体不足による自動車などの減産の影響と思われる。

新潟県の主要業種別に生産指数を見ると、大きく上昇しているのは化学と汎用・生産用・業務用機械である。この2つは海外からの受注増加に伴って大きく上昇している。そして新潟県の基幹産業である金属製品は個人向けを中心に好調に推移している。生産活動は海外や個人向けが牽引する形で持ち直している状況である。

続いて設備投資について見てみる。企業動向調査アンケート結果によると、設備投資額は2021年度の計画は前年度実績から+0.7%でほぼ前年度並みの計画になっている。2020年度は▲10.7%と大きく減少したが、足元では下げ止まりが見られる。

¹ CSI (Consumer Survey Index) アンケートの回答結果を指数化したもので、「増えた・増えそう」と回答した人の割合から「減った・減りそう」と回答した人の割合を差し引いた数値のことをいう。CSIは、収入・消費支出が増加（改善）基調か減少（悪化）基調かといった「変化の方向」と、拡張・後退が速いか遅いかといった「変化のテンポ」を示すものである。

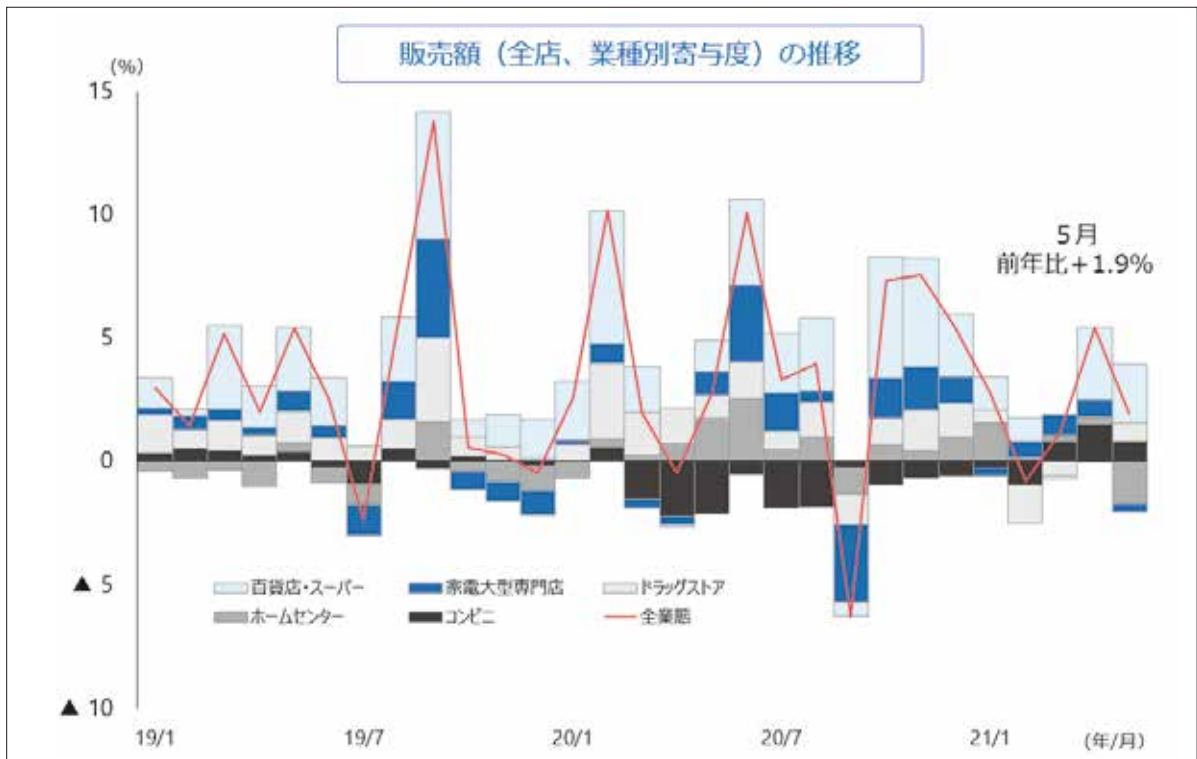
² BSI (Business Survey Index) アンケートの回答結果を指数化したもので、業況あるいは先行きの見通しなどが「良い」か「悪い」かという質問に対して「プラス（良い・過剰等）」「中立（不変等）」「マイナス（悪い・不足等）」の3つの選択肢を用意して、「プラス」と回答した企業の割合から「マイナス」と回答した企業の割合を差し引いた数値のこと。

図1 消費動向調査(2021年夏期)



出所：一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター「新潟県消費動向調査2021年夏期」

図2 個人消費関連の指標



出所：経済産業省「商業動態統計」

設備投資の目的で一番多いものは「既存機械・設備の入れ替え」で、2021年度の計画は2020年度の実績と比べても上昇している。その他、2020年度に比べて上昇しているのは「情報化(IT)投資で、背景には政府のDX化などの推進があると思われる。

アンケートの中で毎回「経営上の問題点」についての質問をしている。新型コロナウイルスの影響が出てから今回が3回目の調査となるが、回答を見ると新型コロナウイルスが企業に与えている影響の変化が分かる。例えば今回一番多かったのは「生産・受注・売上不振」で52.7%であった。これは新型コロナウイルスの影響を受けてから変わっていない。新型コロナウイルスの影響を受けてすぐに実施した1年前の5月の調査では、「先行き見通し難」が60.8%と非常に高かったが、次第に影響が分かってくるまで今回は48.1%まで下がっている。その一方で、経営上の問題点として上昇してきているものが今回2番目に多い「人材不足」で52.4%となっている。受注などが改善している業種もあり、「人材不足」が顕在化している。そして、今回の特徴として挙げられるのが「仕入れ価格の上昇」で前回の15.0%から足元で32.6%と高い割合になっている。このように、新型コロナウイルスの影響があった後の状況の変化に伴い、経営上の問題点にも変化が見られた。

そしてこの2番目に挙がっている「人材不足」についてであるが、雇用BSI(今の雇用の状況が「過剰」と答えた方から「不足」と答えた方の割合)は▲23.4となっている。これは3期ぶりの低下で雇用が不足の傾向に転じたと言える。要因は製造業が大きく低下したことによる。この雇用が不足傾向に転じたということを有効

求人倍率から確認したい。新潟県の5月の有効求人倍率は1.30倍で前月から0.04ポイント上昇している。これは3カ月連続の上昇である。しかし、求人数は、前年は新型コロナウイルスの影響があって大きく減少した。この状況は多くの業種で戻りつつある。ただ、この新規求人の数は2年前の2019年の新規求人数から2020年は新型コロナウイルスで大きく落ち込み、2021年はやや持ち直したが、2019年と比較すると水準はまだ低いままにとどまっている。

アンケートの中に自由回答欄を設けているので、新潟県内企業の生の声を少し紹介したい。業況が良いと回答いただいた一般機械製造の企業では、「中国を中心に海外からの工作機械関連の需要が活発である」という意見があった。その一方、木材・木製品を製造している企業からは、「木材の供給が極端に細っている。価格の上昇のみならず調達も難しい」ということで、新聞などでもウッドショックという言葉を目にすることあるかと思うが、こうした影響は県内企業にも出ている。そして非製造業・大型小売店からは業況が良いということで、「まとめ買いなどは落ち着きつつあるものの内食需要の高止まりが続いている」といったような声がある一方で、ホテル・旅館などからは、「Go Toトラベル事業の延期があった後、今年1月から再度売上高が減少して先が見えない」という声や、飲食店からは「売上高が一昨年の数字に戻らない中で助成事業が縮小されると経営がさらに厳しくなる」とした声がある。

4. 終わりに

新潟県経済にも企業業績の回復が業種間で速度や程度に違いがあることが鮮明になっている。業績が改善しているところ

もあれば、厳しい状況が続いているところもある。例えば海外向けの受注増加などから製造業は改善が続いているが、その一方、新型コロナウイルスによる制約が残っているためサービス業などでは厳しい状況が続いている。そして先行きを考えても新型コロナウイルスの影響が長期化していることや、足元で材料価格の高騰などが起きているため、新潟県内企業の先行きの見通しについては慎重な見方をすると多いように思われる。こうしたことから、私たちは「新潟県経済持ち直してはいるがそのスピードは緩やかなものになる」と判断している。

最後に今後の新潟県経済見ていく上でのポイントを2点挙げたい。

短期的にはワクチン接種の進捗状況、国や自治体による助成制度や雇用調整助成金の延長が続いているが、これがどうなるのかである。そしてGo To事業も延期になっているが、再開の時期なども注目される。そして足元では県民割などは再開をしている。こうした効果などを見ていく必要があると思う。

さらに中長期的な視点に立って新潟県経済考えると、働き方、価値観などが新型コロナウイルスの影響で多様化してきている。「地方で働く」とことや「地方で暮らす」とことなど、地方に関心が高まり首都圏への一極集中から地方へ分散する動きがある。こうしたところを新潟県が取り込んでいけるか、というところがポイントになると思う。

今、新潟県内でも再開発事業など魅力ある街づくりへの取組が各自自治体で進んでいる。新潟県に人が集まることで経済は活性化する。今、「ウイズコロナ」と言われている状況から次の「アフターコロナ」を見据えた動きに注目していきたい。

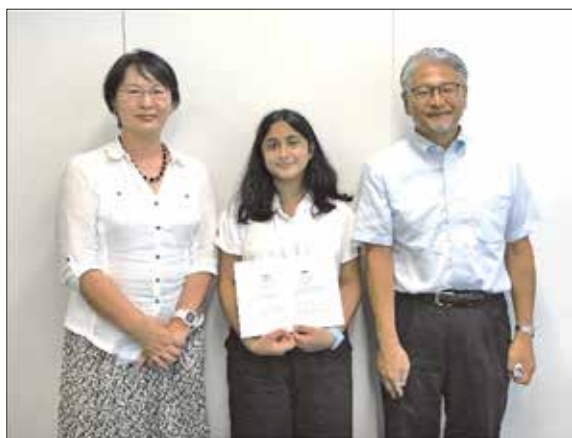
活動報告

インターンシップ報告

ERINA は、北東アジア地域経済の発展の促進や日本と地域の協力の強化に向けて、情報を発信し、調査研究や経済交流事業に取り組んでいる。北東アジア地域経済を専門とするシンクタンクとして活動する中で、その専門的な知識やノウハウを社会に還元すべく、研究業務に従事する機会を提供するとともに、北東アジア経済に対する理解を深める目的で、大学院生をインターンとして受け入れてきた。インターンシップの受け入れに際しては、調査研究部の研究員がメンターとして指導し、研究上の相談に応じている。

2003年にこのインターンシップ事業を開始して以来、すでに数多くの日本人および外国人のインターンシップを受け入れている。新潟大学、国際大学、東京大学、島根県立大学、モンレー国際大学院、モスクワ大学など様々な場所から大学院生が ERINA に滞在し、研究業務を体験している。また、彼ら／彼女らの専門分野も、現代社会、国際関係、経済、環境、自然科学と多岐にわたる。

今回は、インドから国際大学（新潟県南魚沼市）に留学しているバラリ・ルデュラキーさんをインターンシップとして受け入れた。ルデュラキーさんは大学では国際関係、特に紛争後の地域における行政構築について研究しており、様々な調査研究手法等を学ぶために ERINA でのインターンシップを選択した。モンゴルの経済と発展、そして気候変動に関する国際交渉の研究を行っているエンクハヤル・シャクダル主任研究員がメンターとなり、その指導の下で調査研究し、その成果を ERINA で報告した。



インターンシップは、特に卒業後すぐに就職を希望している学生にとって、その国の職場風土を理解する最も良い方法の一つです。7月5日から8月12日まで、私は ERINA でインターンシップをする機会をいただきました。このインターンシップに応募した理由は、調査研究と分析の分野で経験やスキルを習得し、日本の職場風土を理解したいと考えたからです。現在、私は国際大学の修士課程に在籍しています。国際大学には様々な国から来た学生達がいるため、様々な文化体験ができま

す。何人かの先輩方と話してみても、実りの多い夏休みを過ごすため、インターンシップに参加することに決めました。新潟市に滞在することで、大学がある小さな町とは違う都会的な生活スタイルを経験することができました。このことで日本に対する私の見方が大きく変わりました。

私はインドの北東部出身で、幼少期からずっと日本とその活気溢れる文化に興味を持っていました。日本への進学を決める前はアミティ大学ウツタルプラデシュ校に在学し、国際関係学部を卒業しました。ア

ミティ大学では国際関係学について非常に多くの有益なことを学ぶことができましたが、現在進行中の世界的な問題について東アジアの観点から見るという部分が抜け落ちていました。こうした理由から、日本への進学を決断しました。今在学している国際大学では国際関係や外交についての日本の視点を理解することができ、この分野に関する自分の興味を絞り込むことができました。

ERINA での1か月半のインターンシップを通して、調査研究を行うということはどう

いう意味なのか理解を深めることができました。エンクバヤル・シャクダル主任研究員の下で、研究調査の様々な手法や、自分の研究テーマを固めていくための様々な考え方を習得することができました。私の研究テーマは北東アジアとは直接関係していませんが、エンクバヤル主任研究員は色々と助言してくださり、また適切な指導のお陰で研究報告のための準備を進めることができました。エンクバヤル主任

研究員から学んだことはとても有意義な経験になりました。インターンシップ期間中はERINAの皆さんもとても協力的で親切でした。公私に渡る交流を通して、職場エチケットを学ぶこともできました。

1か月半に及ぶ新潟市での滞在でありとあらゆる経験ができました。週末には街中を散策して楽しみ、白山公園や白山神社、新潟市の博物館などへよく出かけました。街中で食事をしたり新しいレストランを見つ

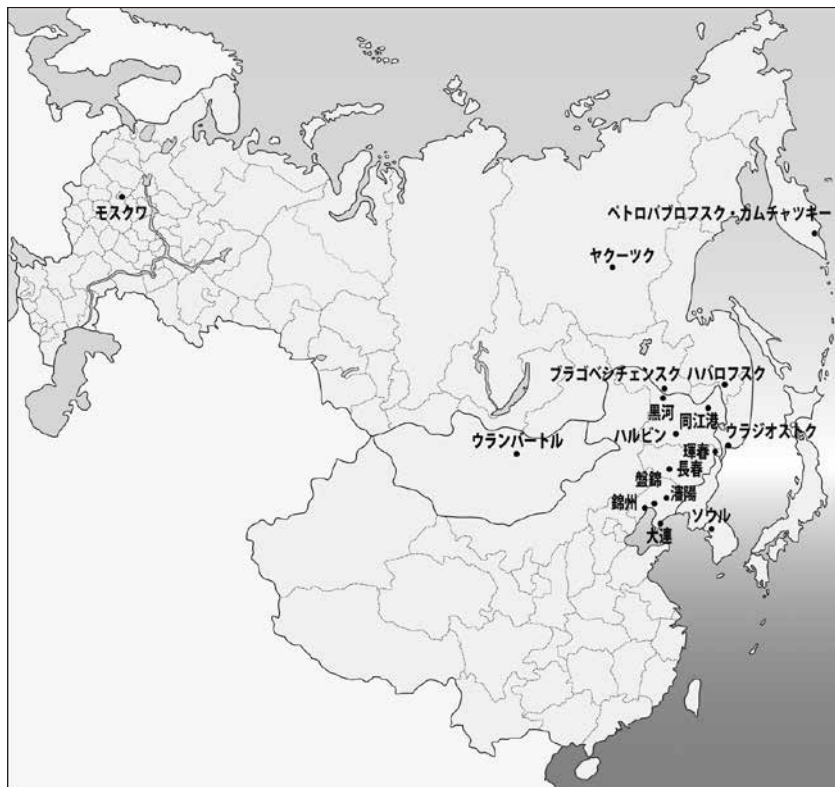
けたりしたのは、大きな思い出になりました。全体的に、新潟はとても快適で活気あふれる都市だと感じました。インターンシップ期間中サポートして下さったエンクバヤル主任研究員とERINAの皆さんには感謝しています。非常に有益で実りある夏季インターンシップ研修となりました。

(国際大学国際関係学研究科

バリリ・ルデュラキー)

海外ビジネス情報

海外ビジネス情報 MAP



■ロシア極東

「極東の1ヘクタール」プログラムが北極圏も対象に
(ロシースカヤ・ガゼータ 6月28日)

プーチン大統領が「極東の1ヘクタール」プログラムの対象を北極圏に拡大する法律に署名した。この新法によって、現在のプログラム参加者が最初の1ヘクタールの開拓に成功した場合に、さらに1ヘクタールをもらえる可能性が開かれた。

土地の開拓に成功して所有地にした、あるいは貸与期間を延長した「極東の1ヘクタール」プログラムの参加者は、2021年8月1日から、もう1ヘクタール受け取ることができる。

さらに、このプログラムの対象地域がロシア連邦の北極圏に広げられる。ムルマンスク州、ネネツ自治管区、ヤマロ・ネネツ自治管区、クラスノヤルスク地方23自治体、アルハンゲリリスク州、コミ共和国、カレリア共和国で土地を取得することができる。土地が提供される具体的な地域は地元当局が定める。

最初の半年間、北極圏の土地を取得できるのは、該当する連邦構成主体と自治体の住民登録者だけだが、2022年2月1日からはロシアの国民、さらに祖国自主帰還事業の参加者も同様のチャンスを得る。

口極東と北極圏で投資アクセラレーター始動

(ロシースカヤ・ガゼータ 6月29日)

極東・北極圏開発省は、プログラム「極東・北極圏コンセッション」の枠内で投資プロジェクトに帯同する投資アクセラレーターの始動を発表した。

投資アクセラレーターとは、オンラインで発起人からの申請を蓄積し、パートナーと資金提供を募るメカニズムのことだ。

投資アクセラレーターに申請書を送ることができるのは、ロシア極東と北極圏にインフラ施設の整備・建設を計画している企業や、インフラ施設の建設が必要な極東連邦管区・北極圏の構成主体だ。

申請されたプロジェクト案件は極東・北極圏開発公社の審査を受けたあとに、各

地域、銀行、開発機関、コンサルティング会社を交えた検討のために作業部会に送られる。

「つまり、アクセラレーターとは、官民連携のメカニズムを活用してロシア極東でプロジェクトを実行するための「ワンストップ窓口」だ」と極東・北極圏開発省のアナトリー・ポブラコフ次官は述べた。

アムール川経由の中口の物流が再開
(EastRussia 7月5日)

アムール州でアムール川の中口国境経由の物流が再開しつつある。増水していた水位が安定し、7月6日からブラゴベシチェンスクー黒河間の運行が再開している。

アムール州経済発展省の発表によると、中国側は、増水時に損傷した検問所のインフラを迅速に復旧させた。両国間の物流は、公衆衛生・防疫規則を守りつつ、増水前の状態に戻るとみられている。

アムール州の中国・ロシア国境経由の交通は河川増水のため6月21日から中断していた。

極東連邦大に新学長

(ヴォストーク・メディア 7月7日)

極東連邦大学の学長代行にアレクセイ・コシェリ氏が任命されたことが、ロシア科学・高等教育省のウェブサイトで公表されている。ワレリー・ファリコフ大臣が関連省令に署名した。アレクセイ・コシェリ氏は1989年12月18日生まれ、ボログダ出身。モスクワ大学法学部卒。

この人事は、7月2日（モスクワ時間）に明らかとなったニコライ・アニシモフ学長の退任を受けたもの。アニシモフ氏はモスクワの名門大学の一つ、高等経済学院の学長代行に任命された。

サハリンとクリルの空気がきれいになる
(「論拠と事実」サハリン州版 7月8日)

サハリン州は、プーチン大統領の指令による全国的CO₂排出量削減の試行地となった。関連法案がすでにロシア連邦政府に提出済みだ。試行期間は2021年か

ら2025年まで。大気中への温室効果ガス（GHG）排出量削減に寄与する技術／テクノロジーを導入・定着させるために必要な環境の醸成を目的としている。

「この試行によって大幅な環境が改善されるだろう。なぜなら、我々は石炭やディーゼル燃料の使用を事実上、拒否することになるからだ。2025年までに世界で最初にカーボンニュートラルを実現する地域となるという目標を掲げる」と、サハリ州のワレリー・リマレンコ知事は述べた。

サハリ州のGHG排出は主に、石炭、石油、ガスの産出による。燃料・エネルギー産業の占める割合は94%強。残りは、「製造」、「農業」、「ごみ／廃棄物」だ。また、サハリ州の森林によるGHG吸収の数値はロシア平均の2倍だ。サハリ州環境省は年内に2020年のインベントリ（温室効果ガス排出・吸収量）を行うことにしている。

韓国と口極東を結んで30年 (EastRussia 7月8日)

ロシアの物流大手FESCOは、定期航路「フェスコ・コリア・エクスプレス」（FESCO Korea Express, FKXP）でロシア極東と韓国の港を結んで30年になる。この航路は「コリア・ソビエト・ダイレクト・ライン」（Korea Soviet Direct Line, KSDL）として1991年7月6日に運航を開始した。

FESCOの発表によると、同社は現代商船（HMM）とプロジェクトを推進してきた。1991年から1996年までKSDLは朝鮮半島とロシア極東を結ぶ唯一の航路だった。2005年から2008年にFESCOはシベリア鉄道を使ったコンテナの複合一貫輸送を積極的に展開するようになり、それが航路をさらに発展させる起爆剤となった。「フェスコ・コリア・エクスプレス」という名前になったのは2019年。現在この航路の船は、ポスト・ヌイ港とウラジオストク港、韓国・釜山港に寄港している。

「FESCO統合輸送」社ウラジオストク支社のレオニード・シリャブツォフ支社長によれば、この航路で約1500TEUの貨物が毎週配送されているという。

「フェスコ・コリア・エクスプレスはFESCOと現代商船の長期提携の見本だ。我々

はビジネスにおける高度な基準、輸送サービスの品質と安全性を重視する姿勢を共有している。その結果、長年にわたり、海運市場で申し分のない評判が保たれている」と支社長は述べた。

口極東を便宜上4経済区域に区分け (タス通信 7月11日)

極東・北極圏開発省が、経済発展の取組み方に応じて極東連邦管区を4つに分けるようになったことを、アレクセイ・チュコフ大臣がタス通信に語った。

「特に重要なのは、これが決して行政区分ではない、ということだ。これは計画・企画、投資プロジェクト、投資の誘致戦略、労働資源計画という視点から経済を4つの市場に分けるということだ。したがって、極東連邦管区の経済発展の計画や管理運営の問題を検討する際、ザバイカル部、辺境部、島嶼部、北部という4つの地域フィルターを通してそれをを行うのが妥当で効率的だろう」と大臣は述べた。

ザバイカル部にはブリヤート共和国、ザバイカル地方が入る。大臣によれば、これらの地域では住民のほとんどは小さな村に住んでおり、中国やモンゴル側からすれば、大きな居住区はなく人口密度も低い。

辺境部は、ユダヤ自治州、アムール州、ハバロフスク地方、沿海地方という、中国、日本、朝鮮半島の経済の影響を強く受ける地域だ。大臣によれば、ここでは水産資源の加工と農産品の輸出を成長させる必要がある。

「3つ目は島嶼部で、ここに入るのはサハリとカムチャツカだ。カムチャツカは地理的には半島だが、経済的には島嶼だ。そこに行ったり、貨物を運んだりするには海路か空路を使うしかなく、経済的な意味でカムチャツカと大陸は地続きではない。カムチャツカとサハリは島嶼経済、なによりもまず、観光だ」と大臣は述べた。

「北部に当たるのはサハ共和国（ヤクーチア）、マガダン州、チュコト自治管区だ。永久凍土があり、極度に厳しい気候条件に置かれ、人口密度が低く、北方航路の問題を抱えるこれらの地域では、極北、北極圏の地理的特徴を考慮して様々な決定が下されることになるだろう」と大臣は述べた。

担当副首相は口極東産木材を シベリアで加工するよう提案 (EastRussia 7月12日)

ビクトリア・アブラムチェンコ副首相はチタ市で開かれた会合で、ロシア極東産の木材をシベリアで加工し、そのための輸送費の国家支援策を策定するよう要請。極東・北極圏開発省と産業商業省がこの支援策を7月30日までにまとめる。

ロシアのメディアRBCの報道によると、ロシア極東では企業が約400万立方メートルの木材を輸出しているが、それを加工する能力は十分ではない。

極東連邦管区には、低級材やパルプ用材、余剰材をリサイクルできるパルプ製紙コンビナートが一つもないため、これらの木材は輸出に回されている。欧州部やシベリアでは複数のパルプ製紙工場が操業している。

アブラムチェンコ副首相の要請にしたがい、これまで中国に輸出されてきた未処理木材の最も有効な活用方法を考え出さなければならない。未処理木材は国内でペレット（固形燃料）に加工できる。このことに対してシベリアの起業家たちが関心を持っている。

首相が副首相を各連邦管区の 監督官に任命 (EastRussia 7月19日)

ミハイル・ミシュスチン首相は副首相をロシアの各連邦管区のスーパーバイザー（監督者、監視人）に任命した。ロシア極東連邦管区のスーパーバイザーには、ユーリー・トルトネフ副首相が任命された。ロシアのメディアRBCの報道によると、スーパーバイザーたちは国家評議会および大統領府属戦略的発展・ナショナルプロジェクト評議会と緊密に連携。各地の社会経済発展を担当する。

トルトネフ副首相のほかにも、ビクトリア・アブラムチェンコ（シベリア連邦管区）、タチアナ・ゴリコワ（北西連邦管区）、ドミトリー・グリゴレンコ（中央連邦管区）、ユーリー・ボリソフ（ウラル連邦管区）、アレクサンドル・ノヴァク（北コーカサス連邦管区）、マラト・フスマリン（南連邦管区）、ドミトリー・チェルヌイシェンコ（沿ヴォルガ連邦管区）が新たな役職に任命された。

中国の大手企業が沿海地方の インフラ事業への参画を検討 (インターファクス 7月19日)

CRCC 国際投資グループ(中国鉄建、CRCC 系列)が沿海地方の大型インフラプロジェクトに参画する可能性を探っている。極東・北極圏開発省の発表によると、極東・北極圏開発省のガドジマゴド・グゼイノフ次官とCRCC 国際投資グループのファン・ユンファン社長が提携の見通しについて話し合った。

ウラジオストクで9月初旬に開催予定の第6回東方経済フォーラムでの協議や、今後も面談を継続することで合意した。

CRCC 国際投資グループは、中国第二の大手国営建設会社、CRCC の投資プラットフォームだ。中国鉄建(CRCC)は鉄道・地下鉄・道路・検問所・トンネル・住宅の建設、プラント設備製造、設計等に従事している。ロシアでは、モスクワで一連のプロジェクトを実施している。

ロシア政府は国内外企業の千島列島 への誘致を検討 (コメルサント・デイリー 7月27日)

ミハイル・ミシュスチン首相は、外国資本を誘致するための新たな提案を携え、クリル諸島(北方領土を含む千島列島)に到着した。これらについては、大統領との話し合いの後、最終的な判断が下される。

政府は、先行社会経済発展区(TOR)に設定された特別待遇措置の充実を主張している。クリルの開発を加速化するために、島々での関税免除区域の創設、投資家の租税の減免が検討されている。

沿海地方に約千人の北朝鮮人が 足止め (インターファクス 7月27日)

国境封鎖のため、900人余りの北朝鮮国民が沿海地方に足止めされている。

ロシア内務省沿海地方支部は同入国管理部の情報として、7月20日現在で沿海地方に969人の北朝鮮国民が滞在しており、そのうち619人が「留学」、50人が「ビジネス」、ビザ無しベースの公用パスポートの入国者が275人だと伝えている。

新型コロナウイルス感染状況の悪化と、ロシアと北朝鮮の間の旅客便の無期運休

によって出国が不可能となっている。大統領令によって北朝鮮国民の沿海地方滞在期間のカウントが停止され、一時的交通規制の解除日から90日後にカウントが再開されることとなっている。

第2バイカル・トンネルが開通 (タス通信 7月28日)

プーチン大統領は7月28日、第2バイカル・トンネルの開通式にリモート出席した。開通式には、作業員、技術者、ロシア鉄道、工事を請け負った「USK Most」グループの関係者も出席した。

大統領は、第2バイカル・トンネルの開通により、バイカル・アムール鉄道(BAM)の輸送力は大幅にアップし、経済界にとって新たな可能性を開くであろうと述べた。

BAMとシベリア鉄道の拡張近代化事業の課題は、アジア圏における世界経済の発展にとって戦略的性格を帯びている、と大統領は指摘。第2バイカル・トンネルの建設にかかわった技術者、専門家に謝意を表明した。大統領は、このトンネルの開通はシベリアおよびロシア極東の全地域の経済・社会発展の一層の起爆剤になるであろうと述べた。

シベリア鉄道の新しいトンネルが着工 (EastRussia 7月30日)

アムール州でシベリア鉄道の新しいトンネルが着工した。新しいケラクスキートンネルは2024年を目途に完成が予定されている。

アムール州政府の発表によると、この全長926メートルのトンネルは老朽化したトンネルの代わりに建設される。それによって、列車の運行速度とこの区間の輸送力の向上が見込め、ザバイカル鉄道では最長のトンネルとなる。

「大統領が数日前、BAMの最大級のバイカル・トンネルの開通式に出席した。一方、我々はケラクスキートンネル工事の発破掘削作業開始に立ち会った。今年はBAMの複線化工事も始まり、これらの事業はすべて、一つのチェーンとなっている。課題は、BAMとシベリア鉄道の拡張とロシア極東の先行的発展の加速化だ」と知事は述べた。

EEF-2021外国人出席者の入国後 の隔離が免除 (インターファクス 8月9日)

タチヤナ・ゴリコワ副首相率いるロシア連邦新型コロナウイルス対策本部が、9月2~4日にウラジオストクで開催される第6回東方経済フォーラム(EEF)の外国人参加者の入国手続を承認したことを9日、開催機関の「ロスコンgress」が発表した。

広報資料によると、「入国ルールはサンクトペテルブルク国際経済フォーラム2021で有効とされた手順に基づいている。EEF-2021の招待状をもつ外国人参加者はロシアの領事館で単発の短期ロシア入国ビザの発給を受けることができる」。

EEF-2021の外国人参加者はロシア上陸後の隔離・待機が免除される。国境を通過するためには、現在有効なパスポートとロシア入国ビザ、ロシア上陸に先立つ72時間以内に受けたPCR検査陰性のロシア語か英語の証明書、EEF-2021招待状のコピーあるいはビザサポートレター(飛行機への搭乗のため)、ロシア国内で有効な医療保険が必要だ。

カムチャツカの LNG ターミナルの 建設は中国企業が受注 (NEDRADV 8月9日)

連邦単一会社「ロスモルポルト」社が主催する入札で、(株)中国交通建設(China Communications Construction Company:CCCC)モスクワ支社がノヴァテク社のカムチャツカのLNGターミナル建設を受注した。同社が唯一の応札会社だった。

入札条件にしたがい、CCCCは2022年10月31日を期限に浮体式ガス貯蔵施設の錨地と「Ship-to-Ship」の積替え錨地、タンカー用運河、灯台、その他の施設を湾内に建設しなければならない。入札の開始価格は190億ルーブルだった。

沿海地方産大豆の輸出が4倍強に拡大 (EastRussia 8月12日)

沿海地方では2021年上半期にアジア太平洋諸国への大豆輸出が4.4倍に拡大。また、農産品の輸出総額は10億ドルを上回った。

沿海地方政府の発表によると、沿海地

方産の大豆の買手は主に中国、韓国、台湾、日本だった。全51万7千トン（1億7640万ドル相当）だった。これは昨年同期の4.4倍だ。

ロシアは水素製造の拡大強化を志向 (NEDRADV 8月12日)

ロシア連邦政府は国内の水素エネルギー発展構想を承認した。これは産業創出の目標、戦略的構想、重要方策を定めている。

このなかで水素は、低炭素経済の発展と環境への影響の低減のために利用できる有望なエネルギー資源として認識されている。現在、世界の水素製造は75%が天然ガス、23%が石炭、2%が電解に由る。

水素エネルギー発展構想は、少なくとも3つの水素製造産業クラスターを地方に創設することを想定している。例えば、北西クラスターは水素のEU諸国向け輸出と、輸出志向型企業のカーボンフットプリントの軽減を目指している。東部クラスターは水素のアジア向け輸出と、運輸業とエネルギー産業のインフラ整備を担保する。北極圏クラスターの創設は、ロシア北極圏の電力供給を目的としている。

新構想は3段階で実現される。第1段階（2021～2024年）は水素産業クラスターの創設とパイロット事業の始動。2024年までに国内でエネルギー資源として水素の供給が始まり、最大で20万トンの純水素が輸出される。

第2段階（2025～2035年）では、輸出水素の大規模工場の建設が予定されている。輸出量は200万トンにまで拡大する（楽観的な予測値は1200万トン）。

第3段階（2036～2050年）では、再生可能エネルギー源を原料として水素を製造し、その原価を化石燃料由来の水素の原価に近づける。この際、ロシアは水素の輸出大国の一つとなり、輸出量は2050年までに1500万トン（楽観的目標値は5千万トン）に達する。

サハの原発建設に国民福祉基金からも資金拠出 (EastARussia 8月16日)

ロシア政府は国民福祉基金から国営「ロスアトム」社の小型原子炉開発計画

に資金提供することを決定した。このプログラムに、サハ共和国（ヤクーチア）ウスチ・クイガ村の発電所プロジェクトが入っている。この発電所は、キュチュス金鉱山で使われる。

「コメルサント・デイリー」紙によると、ロシア国内のへき地向けの小型原子炉の建設のために連邦予算から240億ルーブル、国民福祉基金から559億ルーブルが支出される。プログラムの実施期間は2024年までだ。国民福祉基金の資金は返却ベースで拠出され、これらを受け取るのは8事業に限られている。「新たな原子力」構想の主な目的は、出力300メガワット以下の（小型）陸上原子炉を開発し、建設することにある。ヤクーチアの原発もこれに含まれている。建設工事は2024年に着工し、2030年の運転開始が予定されている。

ガスプロムが新会社を設立 (Finmarket 8月24日)

「ガスプロム・キャピタル」社は、「ガスプロム国際プロジェクト」社と共同で新会社「ガスプロム・サハリン・ホールディング」社を設立することを発表した。

社名はガスプロムグループのもう一つの重要企業、オランダのGazprom Sakhalin Holdings B.V.に由来する。グループは同社を介してサハリン2の事業主体Sakhalin Energy Investment（サハリン・エナジー）の支配株を保有している。

オランダとの二重課税回避協定の破棄が決定された後、ガスプロムは持株会社と設計会社をロシアに登録しなおすことを検討している。ガスプロムは、カーニングラード、あるいはルースキー島の特別行政区制度を活用する可能性も視野に入れている。

サハリン2としてサハリン沖のビルトン・アストフスコエ鉱区、ルンスコエ鉱区が開発中だ。事業主体はサハリン・エナジー。その株主はガスプロム（50%+1株）、ロイヤルダッチ・シェル（27.5%+1株）、三井物産（12.5%）、三菱商事（10%）だ。

■中国東北

日中産業園、瀋陽で着工 (遼寧日報 6月18日)

6月16日、瀋陽高新区で万科中日産業園の建設が始まった。これは中国・ドイツハイエンド装備製造産業園（瀋陽）に続いて、瀋陽市が総力を挙げて建設する対外開放のためのプラットフォームだ。万科中日産業園は既に、東芝、三菱、パナソニック、ローソンなど大手日系企業25社と協力協定を締結している。

瀋陽高新区に建設される万科中日産業園は、渾南区にある高新技術産業開発区・自主イノベーション示範区・自由貿易試験区の利点を生かし、医療・健康、省エネ・環境保護、都市消費の面から生産・生活・生態の「三つの“生”を一体化」させた国際的な産業園の建設を目指す。さらに、ハイエンド産業プロジェクトや国際コミュニティ、日本風な商店街、国際的なブランド教育が集積する産業園の建設に力を入れている。

中国—欧州（黒龍江省）新ルートが開通

(黒龍江日報 6月24日)

6月23日、黒龍江航運集団有限会社傘下の輸送船団が35コンテナを積載し、同江港からロシア・ハバロフスク港に向かった。ハバロフスクで貨物は積み替えられ、シベリア鉄道でモスクワまで輸送される。この新しいルートは、コルガス・エレンホト・満洲里・綏芬河などを経由する既存の中欧班列ルートに続くものであり、重要である。

航運集団はこれまで、同江港の発展を推進するため、「一帯一路」イニシアチブを活用し、国内とロシア極東地域の水運と鉄道の一貫輸送に力を入れてきた。水運輸送が可能なことや口岸を有するという黒龍江省の利点のおかげで対ロシア貿易のルートとしての機能が高まり、中欧班列の新ルートとして開通された。開通した中欧班列・同江ルートは、北東アジア経済圏とヨーロッパ間の新たな物流輸送となり、「一帯一路」沿線国とのスムーズな貿易を支えることになるだろう。

長春自動車博覧会が7月9日に開幕 (長春日報 6月26日)

7月9日から18日まで、第18回中国（長春）国際自動車博覧会が「賦能美好生活（すばらしい生活もさらなる活力を与え

る)」をテーマとして開催する。

今年の長春自動車博覧会は、「メイン会場+サブ会場」の形で行われる。メイン会場の長春国際会議展覧センターは、展示面積が20万平方メートルを超え、展示する自動車も1400台に達するという。メイン会場には室内展示ホール9カ所と屋外展示エリア4カ所が設置された。室内展示エリアの9つのホールとして、自動車文化体験館、超豪華自動車館、BMW展示館、ベンツ展示館、高級車展示館、日韓合併ブランド展示館、国産ブランド展示館、輸入車ブランド展示館、中国第一汽車集団館が設けられた。

瀋陽—ソウル間の貨物便が開通

(遼寧日報 6月30日)

6月29日、瀋陽—ソウル間の貨物便が開通し、約10トンの越境EC貨物を積んだ貨物輸送専用機が瀋陽市桃仙国際空港を出發した。この貨物便は遼寧自由貿易試験区瀋陽エリアが、ロンドン、ロサンゼルス、サンフランシスコに次いで4番目に開通した国際定期便である。これによって、新たな国際貨物輸送ルートが増え、瀋陽市、遼寧省の製造業の輸出を促進する。

瀋陽—ソウル間の貨物便は週3回の運航を予定しており、瀋陽遠達サプライチェーン管理有限会社と羅布長風サプライチェーン管理(上海)有限会社が運営する。青島経由で海運に積み替え瀋陽に輸送する従来のルートと比べ、新路線は輸送コストを約20%削減し、輸送時間も大幅に短縮するため、消費者の満足度を高めるだろう。

2021大連輸出入商品交易会が開幕

(遼寧日報 7月3日)

7月2日、「幅広い友好交流、貿易促進、市場開拓、ウィンウィンの実現」をテーマに「2021(第34回)大連輸出入商品交易会」が大連世界博覧広場で開幕し、46の国・地域から8500種類の選りすぐりの商品が展示された。

今回の展示面積は1.5万平方メートルで、電子医療機器、健康・高齢者向け商品、食品・日用品、ファッションアパレル製品、インテリア商品のほか、文化・観光についてもの展示もあり、商談、政策プロモーション、

ライブコマース、文化パフォーマンスなどのイベントも行われる予定だ。

今回の交易会は、2020年11月に開催された中国国際輸入博覧会に世界各地から出展した企業・関係者と連携して実施される。大連のこの交易会では、中国国際輸入博覧会の「6日+365日」というワンストップ取引サービスプラットフォームが初めて導入され、「品質の選択」、「健康を楽しむ」、「オンラインサービス」という3つのテーマが掲げられている。ドイツ・イタリア・フランス・スペイン・日本など15カ国から58種類の輸入品が展示される。さらに、大連市の行政間連携都市の朝陽市・湖北省興山県・新疆石河子市・チベットのソク県・貴州省六盤水市の農産品や特産品・名産品なども展示する予定だ。

大連、「グリーン経済の支柱」となる新産業を育成

(遼寧日報 7月9日)

大連市は、各分野の資源を統合し、水素エネルギー産業の構築を急いでいる。現在、水素製造・燃料電池リアクター・制御システムなどの重要な分野とその産業化が加速しており、国産技術に支えられた完成度が比較的高い水素エネルギー産業チェーンができています。

大連市は水素エネルギー産業の発展を、産業構造の高度化と質の高い発展の実現のために重要な事項であるとしている。大連市は、水素エネルギー産業の発展計画や産業に関連する基準を作成し、「産学研用(生産者・教育機関・研究機関・使用者)」連携プラットフォームを構築し、「大連水素エネルギー産業発展促進協会」、「遼寧省汽車(自動車)工程技術学会」などNGO組織の設立を推進し、水素エネルギー産業の発展を促進するための環境を整えている。

大連市水素エネルギー産業発展促進協会は47の団体会員から構成されており、水素エネルギー産業チェーンのすべての部分をカバーしている。招商局集団、航空宇宙科学技術集団、中国建銀投資、中国石油化学工業集団(Sinopec)、中国石油天然気集団(CNPC)、国家電力投資集団、国家開発銀行など多くの中央の大企業・国有企業と戦略的協力を結んでいる。

第一段階として、大企業とともに1000億元を投資して、太平洋地区を大連市の水素エネルギー産業の「エンジン」としていく。

今後、大連市は、水素エネルギー市場の消費需要を開拓し、水素燃料電池商用車のコストの削減を推進し、技術の革新を支援し、伝統的自動車産業から新エネルギー自動車産業へ産業構造を変革させ、水素エネルギー産業をグリーン経済の支柱産業としていく。

内モンゴル自治区の希土類溶融亜鉛メッキ鋼板が量産化へ

(内モンゴル日報 7月20日)

内モンゴル冶金産業の持続的発展の鍵はイノベーションにある。先頃、内モンゴル自治区にある最大手工業企業の包頭鋼鉄(包鋼)集団の薄板工場で、SGCC-Reタイプの希土類溶融亜鉛メッキ鋼板が初めて量産され、包鋼の希土類製品が充実した。

今後は、希土類鋼製品の種類をさらに充実させ、市場開拓を進め、継続的に市場への影響力を強化していく。

東北陸海新ルート、錦州—盤錦港間の連絡道路が着工

(遼寧日報 7月20日)

7月19日、総投資額1.9億元におよぶ東北地域の錦州と盤錦の港を結ぶ陸海新ルートの建設が始まった。

関係者によれば、この連絡道路は、錦州市の陸海新ルート建設の重点プロジェクトで、総距離11.865キロ、時速60キロの走行で設計されている。これにより、110キロの迂回距離が短縮される。この連絡道路の完工は、凌海市の海洋経済の発展に役立つだけでなく、錦州・盤錦市の交通インフラの相互通行を実現し、両地域の産業発展・資源共有・市場の共同建設・文化交流に積極的な役割を果たしていくだろう。

今年に入り、東北陸海新ルートの建設は、遼寧省の「第14次5カ年計画」に記載され、錦州市は有利な立地条件「中区(中心区域)」として優位性を実現し、6市盟(訳注:陸海新ルート沿線の錦州市・阜新市・朝陽市・シリンゴル盟・赤峰市・通遼市)が協力できるようなオープンプラットフォームと、法制度が整った市場志向の国

際的なビジネス環境を提供する予定だ。特に錦州港で30万トン級船舶が航行するための水路改築・拡張工事、中国北方エネルギー基地など、総投資額100億元を超えるプロジェクトが着工されてから、錦州港の臨港産業の新旧交替がますます加速している。

第6回新材料博覧会、9月2日開幕 (黒龍江日報 7月23日)

黒龍江省貿易促進会は、第6回中国国際新材料産業博覧会(略称:新博会)を9月2日から4日までハルビン国際コンベンションスポーツセンターで開催すると発表した。

新博会の展示面積は2.3万平方メートルで、1100個の国際標準ブースが設置され、国内の有名な新材料企業、ハイエンド・専用設備製造企業、先進材料生産企業、材料工芸設備技術と科学器材および実験室設備企業、高等教育機関、科学研究所、業界団体やと香港・マカオ・台湾地域や国外の関連企業が出展する。国内外の新材料分野専門家やバイヤー企業などが参加し、行政の関連部署や業界団体、関連企業のトップ、関係国の中国駐在の公館関係者なども招待を受けて参加する。

博覧会では「先進基礎材料」、「最先端新材料」、「重点革新的材料」、「新材料産業発展のための重要設備」、「重要工芸技術イノベーションの成果」の5分野の展示が設けられる。

道路の無人化スマート施工 (黒龍江日報 7月26日)

黒龍江省建設集団・龍建路橋が請け負う国道213号の施工現場では、多くの舗装機、ロードローラーなどの大型機械設備を使った工事が行われていたが、運転席には誰もいなかった。龍建路橋の3段階の路面舗装の作業をするために黒龍江省の道路・橋梁施工業界で無人化施工スマート機器設備が最初に導入された。

無人化施工のためのスマート機器設備には、自動運転や遠隔操作による地固めや工事の可視化などの技術が使われており、高精度の北斗衛星測位や慣性航法技術、障害物識別技術による信号発信、全工程協調送受信(CoMP)などを使うことで施工効率やコスト、質、安全、制御、監

督管理の6つの課題を解決できる。

現場の施工者によれば、従来の機械設備に比べ、無人化施工のスマート機器設備による作業に明らかな優位性がある。第一に、人の操作によって発生する舗装漏れや過度のローラー作業、機器設備の過度の摩耗などの問題が解決され、作業の正確性が高まり、燃油消費量が削減される。第二に、現場の人員を削減し、悪天候でも最長で20時間の工事を行うことで、効率性を大幅に向上させられる。第三に、施工データや道路の状況をすべてデータ化することができる。

錦州港—ロシア、貿易直行便が初出航 (遼寧日報 8月10日)

8月9日、錦州港207番バースに停泊中の船舶「HUI FA」は、外国貿易ルート「錦州港—ロシア・ポスターチヌイ港」として初めて出港した。

「HUI FA」は、4日間かけてロシアのポスターチヌイ港までの1200海里を航行する。ポスターチヌイ港で陸揚げされたコンテナは、ロシア・シベリア鉄道を經由し、ドイツのハンブルグなど、ヨーロッパのいくつかのベース・ポートまで輸送される。一方、沿線地域の木材やパルプなど良質な資源が中国国内へ輸入される。これは錦州港が1990年に開港して以来、初めて開通した国外貿易のコンテナ輸送ルートである。

中国とロシアを結ぶ「同江中口鉄道大橋」のレール敷設完了 (黒龍江日報 8月18日)

アムール川にかかる「同江中口黒龍江鉄道大橋」の建設現場で、中国とロシアのレールの継ぎ目の添え木が設置された。これにより、中国とロシアを結ぶ最初の鉄道橋のレール敷設が完了し、鉄道全線の開通に向けて基礎が築かれた。

この新しい鉄道橋は、黒龍江省の同江市とロシアのニジュネレンスコエ市の間にかかっている。

鉄道橋は、南側は東北三省に接し、中国全土につながり、北側は同江口岸とロシアのニジュネレンスコエ口岸を經由してロシアの極東鉄道につながり、西側はシベリア鉄道を經由してヨーロッパまでつながる。この鉄道橋の完成によって、中口の鉄

道輸送ルートが増えただけでなく、ヨーロッパに通じる新しいユーラシア—貫輸送大ルートができる。

■モンゴル

新モンゴル大統領が宣誓 (MONTSAME 6月25日)

6月9日にモンゴル国大統領に選出されたフレルスフ氏が25日、国会議員、憲法裁幹部、最高裁幹部、閣僚の面前で宣誓を行った。

6月9日に成立した選挙で初めて任期6年のモンゴル国大統領が選出された。モンゴル人民党から出馬したフレルスフ氏は82万3326票(67.6%)を獲得した。

宣誓式の後、ウランバートルの中央広場ではモンゴル軍のパレード分隊が新大統領を祝った。

ユニセフの事業で幼稚園が開園 (MONTSAME 6月29日)

ユニセフとモンゴル教育科学省は2019年から、24時間営業幼稚園のサービス向上プロジェクトを推進している。このプロジェクトの枠内で、韓国こども財団とスイス開発協力局から資金援助を受けて、ウランバートル市バヤンズルフ地区(ガチュールト集落)に新しい幼稚園が開園した。

この幼稚園の定員は100人で、建物には多層フィルターの自動換気システムや電気ヒーター、ディーゼル式補助電源、人体に無害な省エネソリューションが使用されている。さらに、この幼稚園は洗濯機や調理用設備も備えている。

モンゴルに新しい国際空港が開港 (MONTSAME 7月5日)

日本政府の特別円借款で建設された新しいチンギス・ハーン国際空港が正式に開港した。MIAT モンゴル航空の成田(東京)行きが開港出発第一便となった。

「この空港の開港は我が国の発展にとって大きな意味を持っている。モンゴルに新しい物流拠点ができる」とフレルスフ大統領はオープンセレモニーで明言した。

新空港はウランバートルから南へ50キロメートル、トゥブ県のフシギーン・フンディに位置する。最大で年間300万人の乗降客

の受入れが可能とされている。

首相が製油所建設工事を視察 (MONTSAME 7月5日)

オユンエルデネ首相はドルノゴビ県出張中にアルタンシレー郡の製油所建設工事を視察した。

この工事を実施している国営「モンゴル製油所」社のアルタンツェツェグ COO は、首相に現状を説明した。年間に150万トンに精製する製油所建設の建設資金は、インド政府からの特別ローン(12億3600万ドル)によって調達されている。

このプロジェクトは5つに分かれており、現時点では設計、企画、組織、非生産設備の建設が行われている。オフィスや教育センター、消防署、応急救護所、修理所、ラボ、倉庫に加えて、工場の敷地内には水源からの地下水汲み上げのための給水システムが建設される。

モンゴル製油所社のプロジェクトの仕上げは、サインシャンドの職員住宅の建設だ。この定員550世帯の居住区は11の建物(オフィス、会議場、食堂、救急医療センター、商店、公共サービス、学校、幼稚園)で構成される。現在、町の居住部分の85%の工事は完了している。第1期の住宅建設は6月に竣工の予定だったが、コロナ禍で延期となった。

米モの協力について首相と大使が協議 (AsiaRussiaDaily 7月15日)

12日、モンゴルのオユンエルデネ首相とマイケル・クレチェスキ駐モンゴル米国大使が面会した。この面談でオユンエルデネ首相は、戦略的パートナーシップの枠組において米モ協力が大きく発展していることを高く評価した。

米国は、新型コロナ感染対策として170万ドル、衛生・防護用品、人工呼吸器50台およびその装置の操作講習のための費用として20万ドルをモンゴルに支援した。

「モンゴルは250万回分のファイザー・ビオンテック製ワクチンの購入契約を締結することができ、パンデミック克服のための国民の免疫獲得の活動を行っている。世界で3回目のワクチン接種の治験が始まっており、モンゴル政府もそれを国民に呼びかけるつもりだ」とオユンエルデネ首相は述

べ、協力の継続を米国側に呼び掛けた。

オユンエルデネ首相は汚職等犯罪取締りでの協力の強化をモンゴル政府が強く希望していることについても言及した。首相は、モンゴルの腐敗認識指数が世界で第111位であり、それを2桁台に引き上げていくために、米国と積極的に協力していく姿勢を表明した。

クレチェスキ米国大使は、汚職撲滅について喜んでモンゴルと協力すると話し、民主主義を守り、良い統治を行うために、腐敗の抑制は重要だと重ねて述べた。

中モ首脳が電話で会談 (MONTSAME 7月17日)

モンゴルのフレルスフ大統領と中国の習近平国家主席が16日、電話会談を行った。この会談でフレルスフ大統領は、モンゴル大統領当選とナーダム祭りの祝辞に対し、中国国家主席に感謝の言葉を述べた。大統領は、中国共産党100周年に対する祝意も、習主席に伝えた。

電話会談で両国首脳は、両国関係や地域・国際協力に係る幅広い話題について意見を交換し、モンゴルと中国の包括的戦略的パートナーシップの今後の進展において連携する姿勢を表明した。両国首脳は、コロナ禍の厳しい状況でモンゴルと中国が感染対策において積極的な協力と効率の連携ができたことに満足し、ハイレベルでの相互訪問と、両国の政党間の交流強化の重要性への強い意志が示された。

両国首脳は、それぞれの戦略や開発プログラムを実行し、両国の貿易額100億ドルを向こう数年で達成するために協力を活発化し、国境検問所でのパンデミック防止策の改善によって正常な経済貿易協力を維持することを約束した。

鉱業、インフラ整備、農業の大型プロジェクトの実行、さらにそれらが、人々の生活水準の向上にとって重要であると、両国首脳は指摘。習主席は、中国はモンゴルが提示した協力のプロジェクトとプログラムを支援し、モンゴルからの食品輸入を増やすと述べた。両国首脳は、環境保護での協力の深化がこの地域の国々の利益に寄与すると述べ、砂漠化・砂嵐対策のために複数のプロジェクトを実施する方

針を表明した。両国首脳は、モンゴル・ロシア・中国の経済回廊計画の実現の前進に言及し、モンゴル経由のロシア発中国向けガスパイプラインの建設プロジェクトの過程で関連企業のサポートを約束した。

韓国の医療系企業関係者がモンゴルに進出 (MONTSAME 7月23日)

エンフォールド保健大臣は7月22日、韓国企業「K2BIO」社の社長および副社長と面会した。これはK2BIO社の2回目のモンゴル訪問になる。

この面談で韓国側は、国家社会保健センターと提携契約を締結したことに触れ、モンゴルに支社を開設する計画を表明した。K2BIOはPCR検査キットをモンゴルで製造し、自社の技術を無償で提供し、「デルタ」と「アルファ」の変異株の発見に取り組む。

日本がモンゴルの新型コロナ対応に800万ドル支援 (MONTSAME 8月2日)

日本は、無償資金協力「新型コロナウイルス感染症危機対応緊急支援計画」として8億8300万円(約800万ドル)をモンゴルに供与する書簡に署名している。これにしたがい、国際協力機構(JICA)がちかく、ワクチン輸送用機材をモンゴルに提供する。

モンゴルなどの開発途上国は新型コロナウイルス感染予防ワクチンの輸送の問題を抱えている。とりわけワクチンの輸送にはコールドチェーン(低温輸送網)が必要となる。

モンゴルへの支援については、7月19日にJICAとモンゴル政府がウランバートルで調印した文書に記されている。これは、日本政府による各国への新型コロナウイルス感染症危機対応緊急支援事業の一環だ。

国産ガラス製品で輸入代替 (MONTSAME 8月5日)

「エルデスプラズム」社はガラス・ガラス製品製造団地の5年間の管理運営許可を取得した。これを受けて内閣は、クリーン技術と最先端技術を用いた新しい工業

団地のインフラ整備のため、エルデスプラズム社を法律面でサポートするよう、関連省庁に指示した。

モンゴルはガラスおよびガラス製品を100%輸入しており、その約8割は中国からだ。2020年の時点でモンゴルは、21種類、5500万ドル相当のガラス製品を輸入している。

新しい工業団地の生産力は、年間5千万ドルのガラス製品の輸入代替を可能にする。まず、日量68.8トンを生産するガラス容器／びん工場の操業が予定されている。さらに、工業団地の建設文書では、最終品製造用にウランバートルのガラスごみのリサイクル率を最大30%にすることになっている。

ガラス工場は年間480億トゥグルグの収益を上げ、国と現地におよそ100億トゥグルグを納税し、380人余りの新規雇用を創出すると、期待されている。

インドが製油所建設用機材輸入の問題解決を要請

(MONTSAME 8月11日)

モンゴルのアマルサイハン副首相は10日、インドの駐モンゴル大使と面会し、製油所が予定通り稼働されるかについて意見交換した。

インド大使は、製油所建設に必要なプラントや資材をインドから輸入するため、税関と関連省庁の連携を改善するための一定の措置を講じるよう、要請した。

アマルサイハン副首相は、モンゴル政

府は製油所の段階的稼働に必要なあらゆる措置を講じると述べた。新型コロナウイルス感染拡大によって、貨物やプラントが国境で留め置かれ、建設資材が値上がりしたため、製油所の工事に支障が出ている。

中モ国境の経済特区が始動

(MONTSAME 8月16日)

ザミンウド郡における自由経済特区の創設が国会で可決されたのは2004年。しかし、それ以降、この構想は思うように実現されなかった。しかし先週末、アマルサイハン副首相、駐中国モンゴル大使、駐モンゴル中国大使を筆頭に、政府と国会の代表者を交えて開所式が行われた。

副首相はスピーチで、「モンゴル政府はザミンウド自由経済特区の活性化と、投資家に好適な環境の整備に注力していく」と述べた。

ザミンウド自由経済特区の広さは900ヘクタール。2011年の基本計画によると、公的資金や外国からの特別ローンを使って、362ヘクタール相当の建物やインフラが2015年までに完成、引き渡されるはずだった。現時点では48ヘクタールの土地に新しい道路、下水道システム、上水道ステーション、送配電ステーション、熱供給発電所が、モンゴルと中国の政府間合意の枠内で5880万ドルの特別ローンで建てられた。今後は製造業、交通、運送、観光などの成長が期待されている。

モンゴルとスロベニアが自動車輸送の協定に署名

(MONTSAME 8月20日)

8月18日、スロベニアの首都リュブリャナで、モンゴルとスロベニア共和国が旅客・貨物の国際自動車輸送に関する協定を締結した。モンゴルのバトゥンガラグ駐スロベニア大使とスロベニアのスタンisラフ・ラシチャン外務次官が協定書に署名した。

スロベニアはシェンゲン圏内にあり、人口約210万人、EUとOECDに加盟している。

両国の昨年の貿易取引金額は1460万ドルで、この協定が両国間の直通輸送の成長と貿易の拡大を促進するものと期待されている。

韓国でのモンゴル人船員の研修が再開

(MONTSAME 8月24日)

新型コロナウイルスの世界的感染拡大により2年間にわたって中断していたモンゴル人船員の研修が韓国海洋水産研修院で再開された。7月にモンゴル船員協会の作業チームが韓国研修院の幹部と面会した際に、韓国でのモンゴル人船員の研修の継続を要請した。

船員研修プログラムの再開が合意され、モンゴル人船員10名が、8月23日から海事について学ぶため韓国に派遣された。

研修の終了後、船員たちは実習を行う。実習は、研修の重要な段階の一つで、韓国周辺の外洋域で行われる。

北東アジア動向分析

●中国(東北三省)

2021年上半期の東北三省主要経済指標

中国国家统计局の発表によると、2021年上半期の中国の国内総生産(GDP)は、53兆2167億元(名目値)であり、実質GDP成長率は前年同期比12.7%となった。そのうち、2021年上半期の東北三省の域内総生産(GRP)と実質GRP成長率は、遼寧省が1兆2641億元で前年同期比9.9%増、吉林省が6083億元で同10.7%増、黒龍江省が5991億元で同10.3%増となった。

2021年上半期における三省のGRPの産業別の内訳をみると、遼寧省の第1次産業の付加価値額は866.3億元で前年同期比6.0%増、第2次産業は4951.8億元で同10.4%増、第3次産業は6823.1億元で同10.1%増となった。吉林省の第1次産業の付加価値額は410.4億元で同6.1%増、第2次産業は2205.3億元で同13.8%増、第3次産業は3467.8億元で同9.5%増となった。黒龍江省の第1次産業の付加価値額は528.7億元で同7.9%増、第2次産業は1923.8億元で11.1%増、第3次産業は3538億元で10.3%増となった。東北三省における第3次産業の付加価値額の成長率は2020年のマイナスからプラスになった¹。そのうち、遼寧省の飲食業は同38%増、宿泊業は同61%増となり、吉林

省の宿泊飲食業は同35.7%増となった。これは中国が徹底した感染対策を行ったことにより、コロナ禍にあってもサービス産業が正常化していることを示している。

東北三省の工業生産の動向をみると、2021年上半期の一定規模以上の工業企業(年間売上高2000万元以上)の付加価値増加率は、遼寧省が11.5%増、吉林省が16.0%増、黒龍江省が12.1%増になった。さらに、主な産業部門別の数値をみると、遼寧省では自動車製造業が同26.7%増、一般設備製造業が21.8%増となり、吉林省では医薬品製造業が同42.3%増、食品製造業が同15.6%増となった。

投資については、2021年上半期における遼寧省の固定資産投資額(農家投資を除く:以下同じ)は前年同期比8.6%増、吉林省は同15.9%増、黒龍江省は同15.2%増であった。固定資産投資額の産業別の内訳をみると、遼寧省の第1次産業は前年同期比31.6%増、第2次産業は同1.7%増、第3次産業は同11.3%増であった。吉林省の第1次産業の固定資産投資額は同50.2%増、第2次産業は同10.5%増、第3次産業は同17%増であった。黒龍江省の第1次産業の固定資産投資額は同58.7%増、第2次産業は同7.9%増、第3次産業は同17.2%増となった。いずれの地域でも第1次産業の固定資産投資額が大幅に増加したことが示された。

消費動向をみると、2021年上半期の社会的消費財小売総額は、遼寧省が4582.4億元で前年同期比17.1%増、吉林省が1931.4億元で同18.8%増、黒龍江省が2472.7億元で同24.8%増となった。消費者物価指数(CPI)は、遼寧省が前年同期比0.8%上昇、吉林省が同0.3%上昇、黒龍江省が同0.1%上昇した。

貿易動向をみると、2021年上半期の輸出入額は、遼寧省が3715.3億元で前年同期比13.6%増、吉林省が791億元で同30.2%増、黒龍江省が931.5億元で同18.4%増となった。三省とも、輸出入額の伸び率は2020年通年のマイナスからプラスになった。

新型コロナウイルスとフードサプライチェーン

コロナ禍の影響を受けて、世界の食品サプライチェーンの安定性に不安が広がっている。食料の収穫や流通が滞り、食料システムはかつてないほど脅威にさらされている。世界銀行の報告書によれば、コロナ禍はほぼすべての国の所得の低い脆弱な世帯に打撃を与え、その影響は2021年から2022年まで続き、デルタ株の感染流行が加わったことにより、おそらく2022年以降も続く予想している(世界銀行、2021)。

新型コロナウイルス感染発生・流行初期は、各国の食料貯蓄と国際農産品貿易

	単位	2019年				2020年				2021年上半期			
		中国	遼寧	吉林	黒龍江	中国	遼寧	吉林	黒龍江	中国	遼寧	吉林	黒龍江
経済成長率(実質)	%	6.1	5.5	3.0	4.2	2.3	0.6	2.4	1.0	12.7	9.9	10.7	10.3
工業生産伸び率(付加価値額)	%	5.7	6.7	3.1	2.8	2.4	1.8	6.9	3.3	15.9	11.5	16.0	12.1
固定資産投資伸び率(名目)	%	5.1	0.5	▲16.3	6.3	2.9	2.6	8.3	3.6	12.6	8.6	15.9	15.2
社会的消費財小売額伸び率(名目)	%	8.0	6.1	3.4	6.2	▲3.9	▲7.3	▲9.2	▲9.1	23.0	17.1	18.8	24.8
輸出入収支	億ドル	4,215.1	▲142.0	▲94.6	▲166.4	5,350.3	▲189.4	▲106.8	▲124.6	2,496.6	▲92.7	▲69.3	▲80.8
輸出伸び率	%	0.5	▲2.6	▲0.6	18.8	3.6	▲15.3	▲10.3	3.2	28.1	20.5	21.5	17.7
輸入伸び率	%	▲2.8	▲5.0	▲5.7	4.2	▲1.1	▲5.8	1.1	▲22.5	25.9	9.1	32.8	18.6

(注)前年比

工業生産は、一定規模以上の工業企業のみを対象とする。2011年1月には、一定規模以上の工業企業の最低基準をこれまでの本業の年間売上高500万元から2,000万元に引き上げた。

2011年1月以降、固定資産投資は500万元以上の投資プロジェクトを統計の対象とするが、農家を含まない。

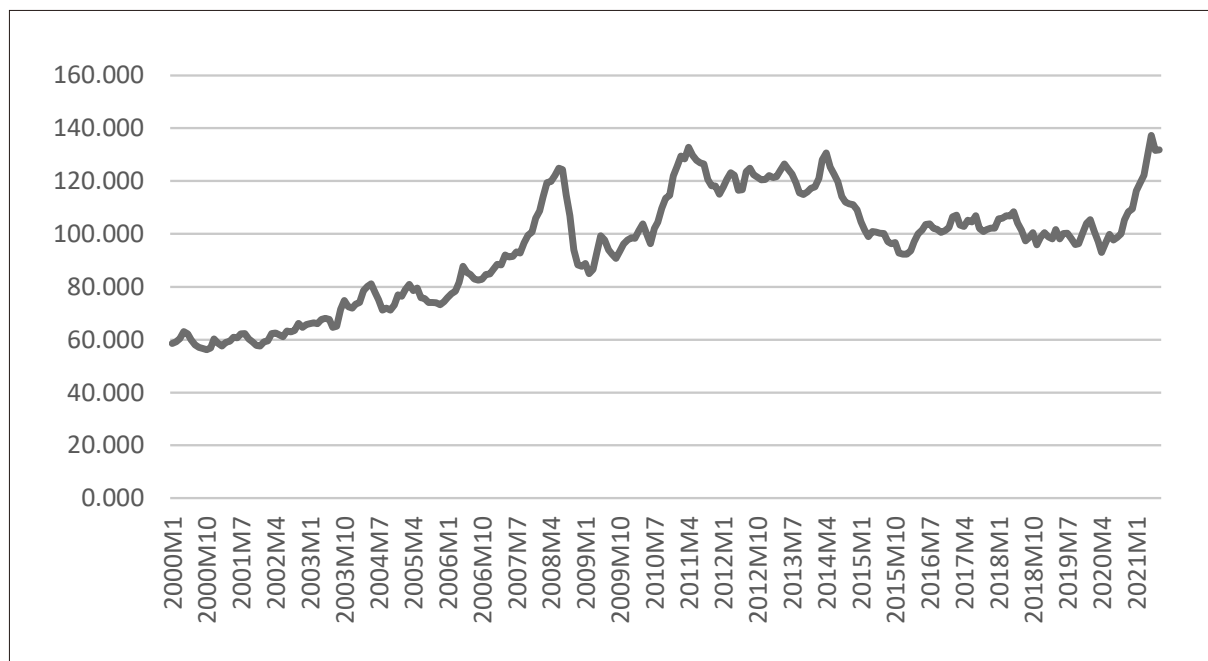
2019年以降の貿易データは公表値が元建てであったことから、輸出・輸入の伸び率は公表されている元建て数値の伸び率、貿易収支は元建て貿易収支の数値を人民銀行公表の期末為替レート

(2019年12月末:7.0128、2020年12月末:6.5434)によりドル建てに修正したものである。

(出所)中国国家统计局、商務部、遼寧省統計局、吉林省統計局、黒龍江省統計局ウェブサイトならびに黒龍江日報、遼寧日報、吉林日報、人民銀行の資料より作成。

¹注:吉林省2020年年間の第3次産業の付加価値額の成長率は0.1%であった。

図 世界の食品価格指数の推移



(出所) IMF のデータより、筆者作成。

注: 2016=100、食品価格指数は穀物、植物油、肉、魚介類、砂糖、その他の食品(リンゴなど柑橘類以外の果物、バナナ、チャナ(豆類)、魚粉、落花生、牛乳などの乳製品、トマトなどの野菜)が含まれている。

の支援により、食料流通側と消費側には影響があったが、供給側への影響は少なかった。新型コロナウイルスの発生後の2カ月以内(2020年3月18日から5月11日)、22カ国が1つ以上の食品の輸出制限を開始し(Laborde 等, 2020)、食品輸入関税を引き下げて国内食品価格を下げる対応策を実施した。その後、感染の更なる拡大により、肥料や飼料などの生産要素のサプライチェーンの中断と農業従事者のウイルス

感染により、供給側への影響も大きくなり価格も上昇している。図によると、世界食品価格指数は2020年8月から9カ月連続で上昇し、過去10年では最も早いペースである。これは、各国の農業安定生産と食料流通における国際協力を強化する必要があることを示している。

ERINA 調査研究部研究員
董琪

参考資料

1. 世界銀行 2021 <https://www.worldbank.org/en/topic/agriculture/brief/food-security-and-covid-19>
2. Laborde, David, Abdullah Mamun, and Marie Parent, "Food Export Restrictions in the Era of COVID-19," Food Security Portal (Washington: International Food Policy Research Institute), May 20, 2020.

●ロシア(極東)

2021年上半期のロシア極東経済

極東地域は、コロナショックからの回復が遅れている地域である。

2021年上半期の鉱工業生産高は、ロシア全体で前年同期比4.0%増であり、極東3.9%増との差は小さい。しかし、コロナ前の2019年上半期を基準とすると、ロシア全体の2.2%増に対して、極東は0.8%増にとどまる。その他にロシア全体の水準を下回った連邦管区は、北西(0.2%増)とシベリア(4.5%減)であり、急速に回復したのは中央(28.4%増)や北カフカス(10.1%)であった。前年同月比で見ると、北カフカス

はコロナ禍にあっても2020年と2021年に一貫して鉱工業生産が増加し、中央地域も2020年4月(2.1%減)を除けば生産の増加が続いた。対照的に、極東は、ロシア国内で最も大きな生産縮小を経験した地域となった(2020年7月に16.3%減)。このように、ロシア国内では、生産面の地域格差はコロナショックにより拡大している。

極東地域の中でも、沿海地方は、2020年第2四半期と第3四半期に生産が大きく落ち込み、2021年に入ってようやく生産が回復しつつある。その一方で、2020年にはコロナショックの影響がそれほど顕著に表れなかったチュコト自治管区やサハリン州における鉱工業生産は2021年に入って

縮小傾向にある。

2021年上半期における極東地域の採掘部門の生産指数は、前年同期比で2.3%増(2019年同期比で0.1%減)であり、ブリヤート共和国15.0%増(同3.8%減)、アムール州18.2%増(同13.4%減)、サハリン州11.7%増(同11.1%減)において落ち込みが大きく、サハ共和国28.0%増(同15.8%増)で大きく増加した。同じく、製造業の生産指数に関しては、極東全体で前年同期比11.6%増(2019年上半期比で1.9%増)であり、ブリヤート共和国30.8%増(同37.3%増)、沿海地方44.9%増(同4.4%減)、チュコト自治管区44.2%減(同69.2%減)というように地域差が大きい。

投資面では、極東でも回復する傾向が見られ、2021年上半期の固定資本投資の伸びはロシア全体の7.3%増を上回る14.9%増となった。特に、ザバイカル地方、カムチャツカ地方、チュコト自治管区において投資の伸びが著しい。

生産や投資の状況とは対照的に、家計に関わる分野に関して、極東の状況はロシア全体と同様に推移し、2021年第1四半期に続いて第2四半期も小売売上高が増加し、消費者物価指数は低位で推移している。しかし、実質貨幣可処分所得の伸び

は、ロシア全体の2.4%増に対して、極東は0.4%減少した。ここにも極東経済のコロナショックの負の影響がより顕著に見られる。

ERINA 調査研究部部長代理・主任研究員
志田仁完

鉱工業生産高増減率(前年同期比%)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	19-1-3月	19-1-6月	19-1-9月	20-1-3月	20-1-6月	20-1-9月	21-1-3月	21-1-6月
ロシア連邦	0.2	1.8	3.7	3.5	3.4	▲2.1	3.2	3.2	3.6	3.0	▲1.7	▲2.6	▲1.3	4.0
極東連邦管区	4.4	3.4	3.1	5.4	6.6	▲4.0	3.3	5.5	6.9	1.2	▲3.0	▲5.5	▲1.1	3.9
ブリヤート共和国	0.9	▲11.1	1.3	2.4	11.6	13.2	▲1.2	6.1	16.4	16.9	5.1	6.9	6.4	8.2
サハ共和国	5.8	0.8	2.5	7.6	11.3	▲4.7	3.1	9.1	11.8	1.5	▲8.6	▲8.7	11.9	25.4
ザバイカル地方	▲1.2	4.8	3.7	3.8	5.6	▲0.6	▲1.1	2.6	5.2	5.4	3.7	▲0.7	0.0	▲0.2
カムチャツカ地方	3.4	10.1	5.7	12.8	▲4.5	▲5.7	2.2	4.1	▲4.1	5.2	7.9	▲8.4	▲4.7	▲4.2
沿海地方	▲9.5	6.0	18.7	▲3.6	18.2	▲19.5	▲15.4	14.5	19.2	▲11.0	▲25.9	▲26.2	24.9	30.8
ハバロフスク地方	▲0.6	8.4	9.1	0.3	2.5	0.5	2.2	3.3	2.7	3.5	4.1	0.3	▲3.9	▲0.9
アムール州	▲9.3	▲4.0	5.3	▲2.4	9.9	▲4.3	▲2.1	▲2.4	0.5	5.3	4.5	▲1.7	▲3.1	▲3.1
マガダン州	6.4	1.9	7.7	9.6	12.6	5.7	22.3	14.6	11.3	1.1	3.3	6.5	2.2	2.9
サハリン州	11.9	5.9	▲0.1	6.4	2.8	▲3.1	6.3	2.8	3.9	1.0	1.2	▲2.6	▲13.5	▲10.8
ユダヤ自治州	▲18.1	▲0.5	60.4	14.9	2.6	2.4	▲6.0	0.7	1.3	13.3	5.0	2.8	▲7.2	▲10.5
チュコト自治管区	2.6	▲8.3	▲9.8	0.4	5.8	1.0	1.3	4.0	5.3	2.7	3.8	1.0	▲1.6	▲6.8

(出所)省庁間統一情報統計システム(UISISデータベース、2018年7月26日)；ロシア連邦国家統計庁ウェブサイト最新値(2021年9月23日)

固定資本投資増減率(前年同期比%)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	19-1-3月	19-1-6月	19-1-9月	20-1-3月	20-1-6月	20-1-9月	21-1-3月	21-1-6月
ロシア連邦	▲10.1	▲0.2	4.8	5.4	2.1	▲1.4	0.5	0.6	0.7	1.2	▲4.0	▲4.1	2.0	7.3
極東連邦管区	▲1.1	▲1.2	10.8	6.2	8.8	▲12.6	▲5.7	▲2.6	0.6	▲9.9	▲8.6	▲6.5	2.0	14.9
ブリヤート共和国	▲9.7	▲15.2	21.0	6.8	43.5	▲3.6	4.5	49.4	21.0	6.3	▲1.5	15.5	6.8	4.4
サハ共和国	▲0.6	29.0	36.0	1.9	0.2	▲49.1	▲11.1	▲20.2	▲10.4	▲43.4	▲39.2	▲33.8	▲1.4	41.6
ザバイカル地方	3.5	6.5	5.9	▲11.4	▲1.2	20.5	▲14.6	▲9.1	▲12.9	31.5	52.9	35.1	53.0	30.8
カムチャツカ地方	▲19.5	48.5	3.0	▲5.4	9.7	21.2	▲6.9	6.0	0.5	1.1	28.5	49.4	38.4	11.5
沿海地方	▲5.6	▲12.6	▲1.4	3.6	17.2	▲9.5	5.1	▲1.9	▲6.7	21.4	6.6	5.2	▲9.6	▲16.0
ハバロフスク地方	▲21.7	▲2.1	▲1.5	13.5	15.2	24.7	▲1.8	0.9	3.8	22.8	19.4	24.0	▲8.5	17.0
アムール州	28.9	15.5	40.9	15.4	26.5	▲6.1	23.9	20.2	24.7	▲10.8	▲1.0	▲5.7	36.3	19.8
マガダン州	33.1	▲34.3	4.0	27.9	▲33.1	▲0.4	▲52.1	▲52.1	▲51.4	▲16.1	▲10.5	3.0	28.5	47.7
サハリン州	▲4.4	▲21.4	▲17.1	4.8	1.0	▲15.2	▲15.1	16.6	14.4	9.4	▲18.7	▲18.6	▲43.6	▲13.4
ユダヤ自治州	12.9	1.3	▲21.6	43.7	▲13.1	▲6.7	1.5倍	41.1	0.0	▲48.3	▲36.1	▲30.2	56.9	20.2
チュコト自治管区	56.2	▲17.2	▲0.1	35.7	49.1	9.1	▲2.7	60.7	38.7	68.0	23.7	29.8	130.0	77.1

(出所)ロシア連邦国家統計庁ウェブサイト最新値(2021年3月9日)；省庁間統一情報統計システム(UISISデータベース、2021年9月10日)；『ロシアの社会経済情勢(2019年4月、7月、10月；2020年4月、7月、10月；2021年4月、7月)』(ロシア連邦国家統計庁)

小売販売額増減率(前年同期比%)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	19-1-3月	19-1-6月	19-1-9月	20-1-3月	20-1-6月	20-1-9月	21-1-3月	21-1-6月
ロシア連邦	▲10.0	▲4.8	1.3	2.8	1.9	▲3.2	1.8	1.7	1.4	4.3	▲6.4	▲4.8	▲1.6	10.2
極東連邦管区	▲1.5	▲2.3	2.0	3.3	3.3	▲2.5	2.1	2.2	2.5	2.1	▲6.0	▲5.0	0.2	9.9
ブリヤート共和国	1.7	▲3.0	▲1.0	0.2	1.0	▲0.7	0.1	0.1	▲0.6	0.0	▲2.7	▲1.1	▲4.3	4.4
サハ共和国	2.1	▲0.6	0.1	5.2	4.6	▲3.8	3.3	3.2	3.8	2.2	▲15.8	▲8.3	▲0.8	17.3
ザバイカル地方	▲9.1	▲2.6	▲0.3	1.2	0.7	▲3.9	2.0	1.7	1.3	1.3	▲6.2	▲4.8	▲1.0	7.6
カムチャツカ地方	▲4.7	▲4.3	0.5	3.2	3.4	▲1.2	1.7	2.4	2.4	0.2	▲3.1	▲2.2	5.0	11.0
沿海地方	2.5	▲3.3	3.2	5.9	6.3	▲5.7	2.0	2.5	3.9	0.2	▲9.6	▲10.6	2.6	16.6
ハバロフスク地方	▲4.7	▲0.3	2.7	2.3	2.3	0.1	2.2	2.0	2.0	2.7	▲4.0	▲3.9	1.4	8.3
アムール州	▲5.0	▲3.3	2.2	2.8	1.5	▲0.7	2.6	2.7	2.5	1.8	▲2.4	▲1.9	▲0.6	2.7
マガダン州	▲7.8	0.0	0.4	1.5	0.1	▲2.7	3.0	2.3	0.3	0.3	▲5.8	▲6.5	2.2	10.9
サハリン州	▲3.9	▲4.2	1.0	2.9	3.8	▲1.5	2.5	3.1	3.9	8.8	0.4	1.1	▲2.1	2.4
ユダヤ自治州	▲3.2	▲8.4	▲1.7	4.0	3.8	▲5.0	3.0	2.7	2.4	1.0	▲10.4	▲7.6	▲1.5	9.7
チュコト自治管区	5.0	5.1	6.9	1.5	3.0	1.2	▲0.1	0.1	0.7	1.1	0.8	1.4	0.4	1.7

(出所)ロシア連邦国家統計庁ウェブサイト最新値(2021年4月19日)；『ロシアの社会経済情勢(2019年3月、6月、9月；11月；2020年3月、6月、9月、11月；2021年3月、6月)』(ロシア連邦国家統計庁)

消費者物価上昇率(前年12月比%)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	19-1-3月	19-1-6月	19-1-9月	20-1-3月	20-1-6月	20-1-9月	21-1-3月	21-1-6月
ロシア連邦	12.9	5.4	2.5	4.3	3.0	4.9	1.8	2.5	2.3	1.3	2.6	2.9	2.1	4.2
極東連邦管区	12.0	5.4	2.1	3.8	3.9	5.0	1.7	2.5	3.1	1.1	2.4	3.1	1.5	3.0
ブリヤート共和国	10.7	4.2	2.1	5.0	4.1	6.0	2.2	3.2	3.2	1.7	3.4	4.2	1.7	4.5
サハ共和国	10.5	6.0	4.4	2.7	4.2	4.0	1.6	2.7	3.6	0.4	1.6	2.5	1.2	2.9
ザバイカル地方	14.3	5.0	2.5	4.0	3.8	5.3	1.7	2.8	3.0	1.8	3.3	3.6	2.4	4.5
カムチャツカ地方	12.6	5.7	2.1	3.4	2.5	3.3	1.6	2.0	2.0	0.7	1.7	2.3	1.9	3.2
沿海地方	11.9	4.8	1.8	4.2	3.2	5.0	1.4	1.9	2.4	1.0	2.3	3.0	1.6	2.9
ハバロフスク地方	13.1	6.1	2.6	4.0	4.2	4.9	2.2	2.8	3.5	1.1	2.4	3.0	1.3	2.6
アムール州	12.8	5.0	1.7	4.6	4.8	7.2	1.8	2.7	3.6	1.6	3.2	4.4	0.8	2.3
マガダン州	13.1	3.7	3.1	4.7	2.6	5.0	1.1	1.7	1.8	0.9	2.1	3.0	1.6	3.5
サハリン州	10.6	4.8	2.2	2.8	3.5	5.0	1.2	1.8	2.2	1.2	2.1	2.8	0.8	1.8
ユダヤ自治州	11.1	6.7	2.5	4.6	4.7	6.1	1.7	3.0	4.0	1.6	3.6	4.1	1.6	3.8
チュコト自治管区	11.1	5.9	2.8	4.9	3.8	1.9	4.2	3.2	3.3	1.3	1.7	1.5	1.3	5.7

(出所)省庁間統一情報統計システム(UISISデータベース、2021年9月11日)に基づき作成

実質貨幣所得増減率(前年同期比%)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	19-1-3月	19-1-6月	19-1-9月	20-1-3月	20-1-6月	20-1-9月	21-1-3月	21-1-6月
ロシア連邦	▲3.6	▲4.5	▲0.2	1.4	1.7	▲2.6	▲2.0	▲0.4	0.9	0.9	▲3.1	▲3.6	▲2.8	2.4
極東連邦管区	▲2.0	▲4.8	▲0.3	0.1	1.9	▲2.3	▲0.6	1.6	1.0	0.4	▲2.0	▲2.4	▲3.6	▲0.4
ブリヤート共和国	1.1	▲6.0	▲2.1	▲0.8	▲0.7	▲2.4	▲9.7	▲4.5	▲3.0	0.3	▲1.5	▲2.3	▲4.6	▲1.9
ザバイカル地方	▲4.8	▲6.7	▲1.1	2.9	1.9	▲1.6	▲2.2	1.9	3.3	0.6	▲1.2	▲0.8	▲5.0	1.3
サハ共和国	0.4	▲2.3	▲0.5	3.3	2.2	▲2.2	5.1	3.2	1.7	0.4	▲3.5	▲3.2	▲3.9	▲1.5
カムチャツカ地方	▲2.8	▲5.4	▲0.4	5.1	3.9	0.0	0.8	2.6	3.0	1.5	1.4	1.0	▲1.8	0.8
沿海地方	▲2.3	▲5.7	▲0.2	3.8	1.9	▲3.0	0.9	4.1	3.1	0.7	▲3.0	▲4.0	▲2.9	0.1
ハバロフスク地方	▲2.6	▲4.5	▲2.2	1.5	0.7	▲3.8	▲0.7	▲1.6	▲2.4	▲1.0	▲3.4	▲4.5	▲5.5	▲2.0
アムール州	▲3.9	▲7.9	1.1	2.4	1.7	▲1.0	▲1.7	0.8	0.6	1.8	▲0.9	▲1.5	▲0.1	0.6
マガダン州	▲2.7	▲6.1	2.3	4.4	3.1	0.5	▲1.9	4.2	0.0	3.7	0.2	1.2	▲0.5	0.2
サハリン州	1.6	▲2.5	▲1.0	4.7	5.6	▲2.5	3.3	6.4	3.8	0.0	0.4	0.4	▲4.4	▲2.3
ユダヤ自治州	▲6.4	▲10.8	▲2.8	▲0.4	1.2	▲1.1	▲3.7	0.9	0.2	▲1.1	▲2.3	▲1.7	▲8.5	▲1.3
チュコト自治管区	▲2.8	▲2.6	3.6	4.3	1.5	5.1	▲2.1	0.0	0.2	3.3	4.4	5.5	5.8	6.5

(出所)省庁間統一情報統計システム(UISISデータベース、2021年4月30日)。四半期データは『ロシアの社会経済情勢(2019年4月、7月、10月;2020年4月、7月、10月;2021年4月、7月)』(ロシア連邦国家統計庁)

平均月額名目賃金(ルーブル)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	19-1-3月	19-1-6月	19-1-9月	20-1-3月	20-1-6月	20-1-9月	21-1-3月	21-1-6月
ロシア連邦	34,030	36,709	39,167	43,724	47,867	51,352.0	43,944	46,210	46,057	48,377	49,600	49,426	51,984	54,587
極東連邦管区	43,164	45,786	48,952	51,667	56,437	60,358.0	51,357	54,274	54,181	56,250	58,335	57,896	59,767	63,145
ブリヤート共和国	28,386	29,969	32,237	36,047	39,115	41,800.0	35,585	37,918	37,495	39,300	41,153	40,176	41,725	43,856
サハ共和国	54,631	59,000	62,206	68,871	73,402	77,178.0	66,053	71,182	69,722	71,574	74,841	73,133	75,524	80,855
ザバイカル地方	30,931	32,654	34,848	40,740	43,896	47,172.0	39,679	41,869	41,682	42,787	45,102	44,935	45,674	47,980
カムチャツカ地方	57,404	61,159	65,807	73,896	80,448	85,623.0	69,156	75,876	77,176	75,195	81,237	81,438	80,232	88,184
沿海地方	33,807	35,677	38,045	42,199	46,867	50,105.0	42,703	44,749	44,759	47,688	48,475	48,389	49,736	52,466
ハバロフスク地方	38,041	40,109	42,465	47,153	50,213	53,113.0	46,695	48,638	49,054	50,374	51,808	51,038	54,005	56,812
アムール州	32,902	33,837	37,368	42,315	47,234	52,430.0	43,367	45,414	45,489	48,511	49,995	50,390	53,817	56,053
マガダン州	65,996	69,769	75,710	85,631	94,856	102,843.0	81,250	89,470	88,442	89,315	96,568	96,163	99,010	106,134
サハリン州	61,311	64,959	68,496	77,499	87,418	92,518.0	82,434	84,166	84,227	89,496	90,907	90,248	92,067	93,401
ユダヤ自治州	30,896	32,165	34,409	39,242	42,400	46,237.0	39,193	41,049	41,132	43,411	45,353	45,529	45,034	47,940
チュコト自治管区	79,531	86,647	91,995	98,864	107,107	120,641.0	100,172	104,954	103,998	109,305	116,485	116,411	122,877	128,889

(出所)ロシア連邦国家統計庁ウェブサイト最新値(2021年9月1日)。四半期データは期間平均値

●モンゴル

モンゴルの経済は、COVID-19パンデミックの影響によって、引き続き大きな打撃を受けている。政府は「非常事態宣言」を2021年末まで延長した。2021年9月6日の時点で、モンゴルは国内で23万6274件のCOVID-19の感染と968人の死亡を記録した。同時に、人口の64.7%が完全にワクチン接種されており、ブースターショット

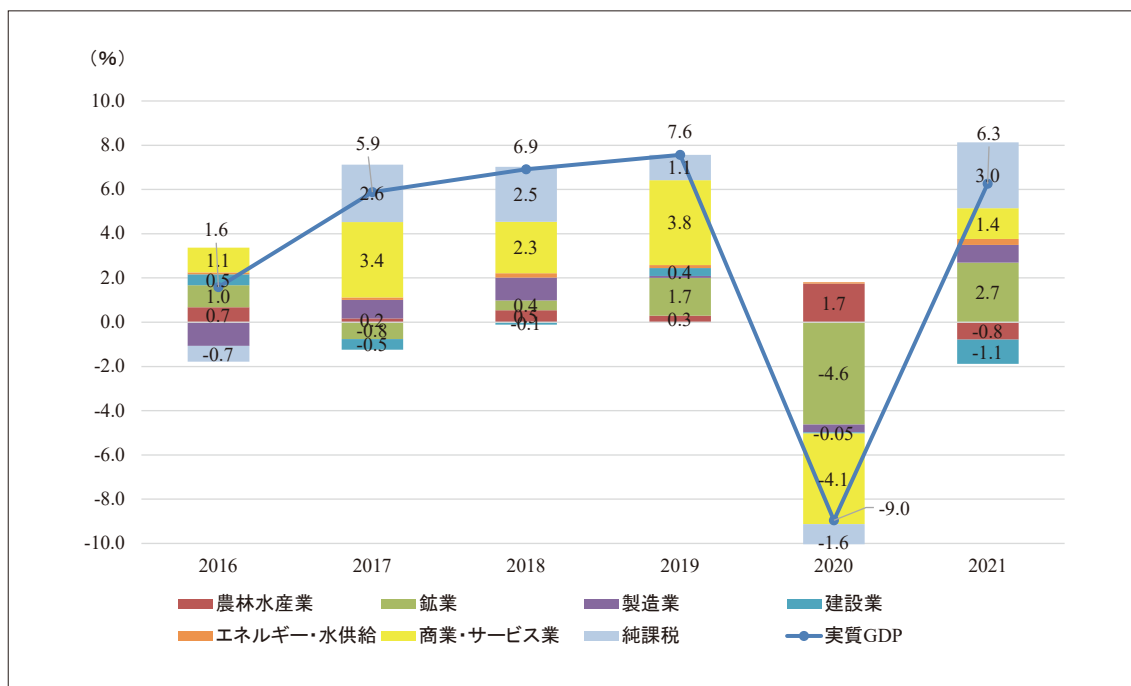
ト(3回目の接種)が今年の8月に始まった。2021年には、経済活動は1年前よりも加速したが、COVID-19の発生が継続的に拡大しているため回復が妨げられている。モンゴルは2021年6月9日に大統領選挙を行い、現在の与党であるMPPの候補者で元首相のU. Khurelsukh氏が、多数の票を得て第6代の大統領となった。

マクロ経済

モンゴルの実質四半期GDPは3四半期連続で拡大した。2021年第2四半期の前年同期比成長率は0.6%、2021年上半期の前年同期比成長率は6.3%であった。第2四半期の季節調整済み実質GDPは、前期より5.1%低下した。

2021年上半期において建設と農業を除くすべての部門の生産は前年を上回った。鉱業と純課税が成長への最大の貢

図 実質GDP成長率と部門別寄与度(各年上半期)



(出所) モンゴル国家統計局

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2020年 1Q	2020年 2Q	2020年 3Q	2020年 4Q	2021年 1Q	2021年 2Q	2021年 6月	2021年 7月	21年 1-7月
実質 GDP 成長率(対前年同期比:%)	1.5	5.6	7.7	5.6	▲4.6	▲10.1	▲8.2	▲2.6	1.0	14.8	0.6	-	-	-
鉱工業生産額(対前年同期比:%)	▲0.3	5.1	6.4	1.7	▲1.6	▲13.1	▲11.6	0.2	10.9	66.2	49.6	39.1	38.3	55.1
消費者物価上昇率(対前年同期比:%)	0.8	4.3	6.8	7.3	3.7	6.1	3.6	2.4	2.7	2.5	6.1	6.6	7.4	4.8
登録失業者(千人)	344	25.5	25.0	20.8	18.1	19.4	19.6	17.8	18.1	-	-	-	-	-
失業率(%)	10.0	8.8	7.8	10.0	7.0	6.6	6.6	7.3	7.6	8.8	8.4	-	-	-
対ドル為替レート(トゥグルグ)	2148	2441	2473	2664	2813	2757	2799	2847	2851	2850	2850	2849	2849	2850
貨幣供給量(M2)の変化(対前年同期比:%)	21.0	30.5	22.8	7.0	16.3	3.8	5.5	9.8	16.3	22.9	29.8	29.8	26.5	26.5
融資残高の変化(対前年同期比:%)	6.1	9.6	26.5	5.1	▲4.9	▲1.8	▲4.6	▲4.4	▲4.9	2.9	10.3	10.3	12.3	12.3
不良債権比率(%)	8.5	8.5	10.4	10.1	11.7	10.7	11.0	11.4	11.7	11.5	10.2	10.2	10.2	10.2
貿易収支(百万 USドル)	1,558	1,863	1,137	1,492	2,277	▲126	494	851	1,064	477	373	129	53	903
輸出(百万 USドル)	4,916	6,201	7,012	7,620	7,576	1,036	1,792	2,319	2,429	2,000	2,111	788	630	4,742
輸入(百万 USドル)	3,358	4,337	5,875	6,128	5,299	1,162	1,299	1,468	1,366	1,524	1,737	660	577	3,838
国家財政収支(十億トゥグルグ)	▲3,660	▲1,742	3	▲756	▲4,539	▲276	▲1,922	▲541	▲1,800	▲96	▲973	▲203	239	▲831
国内貨物輸送(対前年同期比:%)	20.0	15.3	14.6	7.4	1.1	▲6.3	▲8.8	1.9	17.0	15.7	0.7	-	-	-
国内鉄道貨物輸送(対前年同期比:%)	7.9	9.1	13.5	13.5	10.3	10.8	12.6	13.1	5.0	4.0	1.5	7.2	▲10.2	1.1
国内道路貨物輸送(対前年同期比:%)	78.4	33.6	17.3	▲6.6	▲24.5	▲54.5	▲68.8	▲19.9	73.1	94.1	257.0	458.8	-	-
成畜死亡数(対前年同期比:%)	132.0	▲38.8	197.0	▲58.0	85.0	89.2	78.0	78.4	98.0	87.9	78.3	-	-	-

(注) 消費者物価上昇率、登録失業者数、貨幣供給量、融資残高、不良債権比率は期末値、為替レートは期中平均値。

(出所) モンゴル国家統計局『モンゴル統計年鑑』、『モンゴル統計月報』各号 ほか

献者であり、商業・サービス業および製造業がそれに続いた。ただし、建設業の生産は2020年第2四半期以降、5期連続で減少し続け、2021年上半年期には1.1ポイントのマイナス成長の原因となった。農業部門の生産高も2020年第4四半期以降、3期連続で減少し続け、上半期には0.8ポイント、マイナス成長に寄与した。この生産の低下は、主に悪天候による成家畜の損失の増加に関連していた(図1)。

支出面では、2021年上半年期のGDPは前年比6.2%増であったが、家計や企業への政府刺激策の減少や事業活動の低迷により家計収入が減少したため、最終消費は前年比8.9%減少した。しかし、この期間の総資本形成は前年比44.7%増加し、輸出と輸入はそれぞれ前年比14%と5.4%増加した。

実質鉱工業生産(GIO)は引き続き回復し、2021年第2四半期には鉱業生産高の回復に牽引されて前年比49.6%増加した。GIOは7月に前年比38.3%上昇した。2021年第2四半期の鉱業部門の生産高は前年同期比81.4%増加したが、製造業および公益事業部門の生産高は前年同期比0.2%、前年同期比14.7%増加した。しかし、COVID-19パンデミックを封じ込めるためのさまざまな国境を越えた制限による輸入の困難のために、生産投入を輸入に大きく依存している製造業の生産は以前よりも低かった。現在の価格での鉱業の売上高は、2021年第2四半期に前年比72.3%増加し、その82.6%が輸出であった。

2021年第2四半期の年間消費者物価指数(CPI)上昇率は6.1%であったが、7月にはさらに7.4%に上昇し、政府の目標インフレ率である6%を上回った。食品とノンアルコール飲料の価格上昇がCPI上昇の主な要因であり、輸送の上昇がそれに続いた。これらの項目は、CPI全体の上昇の3.2ポイントと1.7ポイントの原因であった。パンデミックによりサービス需要が低迷したため、財のCPIの上昇はサービスのCPIよりもはるかに高かった。2021年7月

のCPIは前年比8.8%上昇したが、サービスのCPIは前年比3.1%上昇した。

モンゴルの通貨トゥグルグの為替レートは、2021年第2四半期に1米ドル=2850トゥグルグと比較的安定しており、輸出は引き続き回復し、輸入は低迷を続けた。

マネーサプライ(M2)は、2021年7月末時点で27.1兆トゥグルグ(95億3000万米ドル)を占め、現地通貨で26.5%、米ドルで25.9%増加した。経済を刺激することを目的としたローン金利を助成する政府のプログラムが続いているため、2021年7月末のローン残高は19.5兆トゥグルグに増加し、前年比12.3%増加した。2021年7月には不良債権の割合が10.2%に減少したものの、不良債権総額は前年比2.1%増となり、事業環境の改善は見込めない。

国家予算は2021年1-7月期に8310億トゥグルグの赤字となったが、1年前の2.5兆トゥグルグからは改善している。収入と助成金の合計は前年比56.7%増で7.66兆トゥグルグを占め、支出と純貸付の合計は前年比14.9%増加して8.49兆トゥグルグに相当した。税収入は前年比50%増加し、非税収入は前年比2.3倍に増加したが、外国からの助成金は2倍に増加し、347億トゥグルグまたは1220万ドルになった。燃料税などの特別目的の収入を除いて、すべての税目で税収入が増加した。同時に未来遺産基金と安定化基金に7085億トゥグルグと2992億トゥグルグがそれぞれ割り当てられた。予算支出の増加は、主に経常支出の前年比25.9%の増加に起因しており、資本支出は前年比33%減少した。ただし、対外債務による純貸付は前年比48.1%増加した。

外国貿易

2021年1-7月期、モンゴルは141カ国と貿易を行い、対外貿易の総売上高は86億ドル、輸出入はそれぞれ47億ドル、38億ドルで、9億340万ドルの黒字を記録した。輸出と輸入はともに前年比で増加し、輸出は前年比25.2%増加し、輸入は前年比30.5%増加した。総輸出の84.3%を占める

鉱業品は、前年比62.1%増加した。しかし、非貨幣用金の輸出は前年の5分の1に減少し、2億1800万ドルとなった。石炭と銅精鉱の輸出は、期間中にそれぞれ11億ドルと16億ドルとなり、前年同期を上回った。

2021年1-7月期、中国への輸出は全体の91%を占め、また中国からの輸入は全体の38.9%であった。2番目に大きな輸出先はスイスで、全体の3%を占め、実質的に非貨幣用金の輸出であった。次に大きな輸出先は韓国とロシアで、それぞれ全体の2%と1.3%を占めている。

同時にロシアは2番目に大きな輸入元で、日本がそれに次いでいた。これらの国々からの輸入は、期間中、全体の26.9%と6.8%に相当した。モンゴルの唯一のEPAパートナーである日本からのモンゴルの輸入は2億6230万ドルであったが、日本への輸出はわずか796万ドルであった。韓国は4番目に大きな輸入元であり、輸入額は1億6850万ドルで全体の4.4%に相当した。

輸送

2021年上半年期の総貨物輸送量は、すべての鉄道、道路、航空貨物の輸送量に支えられ、前年比7.9%増加した。期間中、鉄道貨物の輸送量は前年比2.7%増加し、道路貨物の輸送量は前年比50.9%増加した。しかし、2021年7月の鉄道貨物の輸送量は、国内貨物、輸出貨物、通過貨物の輸送量がそれぞれ低かったため、前年比10.2%減少した。道路輸送による輸送量は1240万トンで、2021年上半年期には前年比47.5%増加した。同時に、航空貨物の輸送量は国際輸送に支えられて8.3%増加した。しかし、COVID-19のパンデミックに関連する制限により、航空輸送は引き続き大きな打撃を受け、乗客の輸送量は期間中に前年比81.9%減少した。

ERINA 調査研究部主任研究員
エンクバヤル・シャクダル

● 韓 国

マクロ経済動向

韓国銀行（中央銀行）が7月27日に公表した2021年第2四半期の成長率（速報値）は、季節調整値で前期比0.7%となり、前期の同1.7%を下回った。需要項目別に見ると内需では、最終消費支出は同3.6%で前期の同1.3%を上回った。固定資本形成は同▲0.6%で前期の同2.5%からマイナスとなった。その内訳では建設投資は同▲2.5%で、前期の同1.3%からマイナスとなった。設備投資は同0.6%となり、前期の同6.1%から低下した。外需である財・サービスの輸出は自動車、液晶ディスプレイが減少して同▲2.0%となったが、伸び率は前期の2.0%から低下した。一方で財・サービスの輸入は金属と化学製品の増加により同2.8%となっている。

2021年第2四半期の鉱工業生産指数伸び率は季節調整値で前期比▲1.2%となり、前期の同3.4%からマイナスに転じた。月次では季節調整値で、2021年6月に前月比2.5%、7月に同0.0%となっている。

2021年第2四半期の失業率は季節調整値で3.7%であった。月次では2021年6月に3.7%、7月は3.3%となっている。

2021年第2四半期の貿易収支（IMF方式）は185億ドルの黒字で前期の196億ドルから減少している。また4月の貿易収支は76億ドルの黒字であった。

2021年第2四半期の対ドル為替レートは1ドル=1121ウォン、月次では2021年6月に同1122ウォン、7月に同1145ウォン、8月に同1161ウォンと推移している。

2021年第2四半期の消費者物価上昇率は前年同期比2.5%であった。月次では2021年6月に前年同月比2.4%、7月に同2.6%、8月に同2.6%と推移している。2021年第2四半期の生産者物価上昇率は前年同期比6.2%であった。月次では2021年6月に前年同月比6.6%、7月に同7.1%であった。

2021年及び2022年の経済展望

韓国銀行は8月28日に経済見通しを発表した。2021年の成長率は4.0%と高い伸びを予測した。これは2020年の実績▲0.9%から大きな回復となる。また2022年の成長率は3.0%としている。2021年の成長率については、前半が実績値で前年同期比3.9%、後半が予測値で同4.0%としている。

2021年の成長率を需要項目別に見ると、内需はまず民間消費がコロナ禍の影

響を脱し、2.8%となり、2020年実績の▲5.0%からプラスに転ずる。一方、設備投資は半導体需要の増大によるIT部門の伸びを反映して8.8%となり、2020年実績の7.1%に続き高い水準を維持する。建設投資においては、住宅建設投資は年後半に回復が予測される。また非住宅建設投資も段階的な回復が予測される。さらに公共投資による土木投資の伸びにも助けられ、建設投資全体では0.9%となり、2020年実績の▲0.4%からプラスに転ずる。外需である輸出は世界経済の回復による半導体需要の高まりにより8.9%となり、2020年実績の▲0.5%からプラスに転ずるとしている。

2021年の失業率については3.9%で2020年の4.0%から低下するとしている。雇用者数の増加は20万人で2020年の22万人の減少から増加に転ずると見込んでいる。2022年については、失業率は3.8%、雇用者数の増加は24万人としている。

一方、2021年の消費者物価上昇率は2.1%で、2020年の0.5%から上昇すると予測している。2022年については1.5%としている。

ERINA 調査研究部主任研究員
中島朋義

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	20年 7-9月	10-12月	21年 1-3月	4-6月	21年6月	7月	8月
実質国内総生産(%)	2.9	3.2	2.9	2.0	▲1.0	2.1	1.1	1.7	0.7	-	-	-
最終消費支出(%)	3.0	3.1	3.7	2.9	▲2.4	0.1	▲1.1	1.3	3.6	-	-	-
固定資本形成(%)	6.6	9.8	▲2.2	▲2.8	2.6	▲1.4	1.8	2.5	▲0.6	-	-	-
鉱工業生産指数(%)	2.2	2.5	1.5	▲0.1	0.4	6.0	2.9	3.4	▲1.2	2.5	0.0	-
失業率(%)	3.7	3.7	3.8	3.8	4.0	3.8	4.1	4.4	3.7	3.7	3.3	-
貿易収支(百万USDドル)	116,462	113,593	110,087	79,812	81,945	26,202	30,614	19,628	18,545	7,618	-	-
輸出(百万USDドル)	511,926	580,310	626,267	556,668	516,604	132,100	146,104	145,641	156,150	53,635	-	-
輸入(百万USDドル)	395,464	466,717	516,180	476,856	434,659	105,898	115,490	126,013	137,605	46,017	-	-
為替レート(ウォン/USDドル)	1,160	1,130	1,101	1,166	1,180	1,188	1,116	1,115	1,121	1,122	1,145	1,161
生産者物価(%)	▲1.8	3.5	1.9	0.0	▲0.5	▲0.5	▲0.2	2.4	6.2	6.6	7.1	-
消費者物価(%)	1.0	1.9	1.5	0.4	0.5	0.6	0.4	1.1	2.5	2.4	2.6	2.6
株価指数(1980.1.4:100)	2,026	2,467	2,041	2,198	2,873	2,328	2,873	3,061	3,297	3,297	3,202	3,199

(注) 国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、鉱工業生産指数は前期比伸び率、生産者物価、消費者物価は前年同期比伸び率、株価指数は期末値
国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、鉱工業生産指数、失業率は季節調整値
国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、生産者物価、消費者物価は2015年基準
貿易収支、輸出入はIMF方式、輸出入はfob価格
(出所) 韓国銀行、統計庁他

●朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)

両江道でジャガイモの植え付け終了

2021年5月31日発『朝鮮中央通信』によれば、両江道でジャガイモの植え付けが終了した。

朝鮮労働党中央委員会 第8期第1回政治局会議開催

2021年6月5日付『労働新聞』によれば、朝鮮労働党中央委員会第8期第1回政治局会議が6月4日、党中央委員会の本部庁舎で行われた。政治局会議には、朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員会の委員と党中央委員会政治局の委員、委員候補が参加した。金正恩総書記が、会議を司会した。

会議は、党中央委員会第8期第2回総会で手配した2021年度の党と国家の主要政策の実行の実態を中間総括し、経済活動と人民の生活において切実な懸案を解決するのに必要な追加的な国家的対策を立てるために、党中央委員会の総会を招集する問題を主要議案として討議した。

金正恩総書記は、現在の不利な主・客観的条件と環境によって国家活動の順調な発展は多くの挑戦と制約を受けているが、第8回党大会が非常に高揚させた全党と全人民の思想的熱意と自力更生の闘争気風によって、計画した多くの事業が将来を見通して促進されていることについて肯定的に評価し、今年の上半期の主要政策課題の部門別実行の実態を概括、分析した。

金正恩総書記は、今の時点で党中央委員会の総会を招集し、上半期の国家活動全般の実態を正確に総括して、偏向的な問題を適時に正すための追加的な対策を講じるのが必要であると強調した。

金正恩総書記は、現在の内外の情勢の下で党と政府がいつもより重大な使命と責任を負って努力の限りを尽くさなければならないと述べ、現局面で党の指導的役割を非常に強めて経済活動と人民の生活を安定、向上させるための頑強な闘いを繰り広げなければならないと述べた。

朝鮮労働党中央委員会政治局は、党中央委員会第8期第3回総会を6月上旬

に招集することに関する決定を採択した。

党中央委員会政治局はまた、党中央委員会の部署機構改編問題をはじめ、党中央委員会の総会に提起する案件について深く研究、討議し、上程された議案を承認した。

党中央委員会と道党委員会 責任幹部の協議会

2021年6月8日付『労働新聞』によれば、金正恩総書記が同月7日、党中央委員会の本部庁舎で党中央委員会と道党委員会責任幹部の協議会を招集した。

趙甬元朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員会委員、金徳訓内閣総理と党中央委員会の書記、部長、各道党責任書記が協議会に出席した。

協議会では、党中央委員会総会を控えて今年の下半期の主要政策の実行で提起される具体的実態を部門別に集中点検し、それを解決する上での実務的問題を討議した。

金正恩総書記は協議会で、国家経済活動と人民生活保障に関する当面の問題を調べて検討し、その実行のための重要な課題を手配し、現情勢に対処した党中央の各部署と政府機関、各道党委員会の活動および研究方向について指摘し、党中央委員会総会を契機に国家経済活動と人民生活の安定において実質的な転換をもたらすための構想を披歴したとのことである。

朝鮮労働党中央軍事委員会 第8期第2回拡大会議開催

2021年6月12日付『労働新聞』によれば、同月11日、朝鮮労働党中央軍事委員会第8期第2回拡大会議が平壤市の朝鮮労働党中央委員会本部庁舎で行われた。

金正恩総書記が、党中央軍事委員会第8期第2回拡大会議を指導した。

拡大会議には、朝鮮労働党中央軍事委員会の委員、朝鮮人民軍の各軍種司令官と軍団長、人民軍党委員会の執行委員、党中央委員会の当該部署のメンバーが出席した。

朝鮮労働党中央軍事委員会拡大会議では、最近、急変する朝鮮半島周辺の情

勢と朝鮮革命の内外環境の要求に即して革命武力の戦闘力をいっそう高め、国家防衛活動の全般において新たな転換をもたらすための重要な課題が提示され、組織問題が討議された。

金正恩総書記は会議で、現情勢と人民軍の活動実態について分析し、人民軍が恒久的にとらえていくべき戦略的課題と革命武力の強化、発展のための方途を明らかにした。

金正恩総書記は、人民軍が国の自主権と安全をしっかりと守り、党と革命事業、国家と人民の利益、社会主義建設を防衛する神聖な使命と任務を全うするためには党の軍建設路線と方針を寸分の狂いもなく頑強に貫徹し、高度の臨戦態勢を徹底的に堅持すべきであると強調した。

拡大会議では、一部の軍種、軍団級単位の指揮官を解任および転任し、新しく任命する組織問題が取り扱われた。

北朝鮮各地で温泉の探査

2021年6月15日付『朝鮮新報』によれば、北朝鮮各地で温泉の探査が行われており、2020年だけでも黄海南道三泉郡三泉邑地区と黄海北道谷山郡文陽里、咸鏡南道金野郡、咸鏡北道明川郡で、2021年に入って平安北道雲山郡、慈江道東新郡、両江道普天郡、江原道法洞郡、南浦市温泉郡温泉邑地区で新たな温泉が発見されたとのことである。

朝鮮労働党中央委員会 第8期第3回総会開催

2021年6月15日、16日、17日、18日、19日付『労働新聞』によれば、朝鮮労働党中央委員会第8期第3回総会が同月15日～18日に開かれた。

今回の総会は、朝鮮労働党第8期第2回総会が手配した2021年度の党と国家の主要政策の実行状況を中間総括し、経済活動と人民生活の切実な懸案に対する解決対策を立て、現在の情勢に合わせて国家的な重大事業を強力かつ正確に推し進める問題を討議、決定するために、開かれた。金正恩総書記が、総会を指導した。

総会には、党中央指導機関のメンバー以外に党中央委員会部署の活動家、省、

中央機関、武力機関の活動家、道級指導の機関と市・郡、連合企業所の責任活動家がオブザーバーとして出席した。

金正恩総書記が、党中央委員会政治局の委任によって総会を司会した。

金正恩総書記は会議でまず、全党が党大会の決定貫徹のための初年の活動計画を確定し、その実行に進入した時から現在まで、党と国家活動で肯定的な成果が収められたし、わが人民の革命的熱意が湧き上がっていることについて高く評価した。今年に入って、革命闘争の主・客観的条件と環境はより困難になったが、上半期に工業総生産額の計画を144%、昨年同期比125%に超過遂行し、現物量的にも多く成長しているのをはじめ、国の経済が全般的に興っていると述べた。

金正恩総書記は、現在われわれの前に横たわっているいろいろな困難と難関のために国家計画と政策的課題を遂行する過程に一連の偏向も生じたと指摘した。特に、農業部門で昨年の台風の被害のため穀物生産計画を未達成したことによって現在、人民の食糧状況が緊張していると述べ、今回の総会でその解決のための積極的な対策を出さなければならないと述べた。金正恩総書記は、今こそ、朝鮮革命特有の生命力である百折不撓の革命精神と自力更生、刻苦奮闘の闘争気風が最大に必要な時であると強調し、全党と全人民の高揚した闘争氣勢をいっそう高調させて今年の政策的課題を無条件に完遂するための徹底した対策を立てようとするのが今回の総会を招集した基本趣旨であると述べた。

金正恩総書記が、総会で討議する議案を提議した。総会では、(1) 主要国家政策の上半期の実行状況総括と対策に関する問題、(2) 今年の農業に力を総集中する問題、(3) 非常防疫状況の長期性に徹底的に備える問題、(4) 現在の国際情勢に対する分析とわが党の対応方向に関する問題、(5) 人民生活を安定、向上させ、党の育児政策を改善、強化する問題、組織問題が主要議案として上程された。党中央委員会の委員は、上程された議案に対して全員一致で決定した(後に(6) 育児問題と(7) 党中央指導機関メンバーの2021年上半期の党組織・思想生活状

況総括が追加)。

総会では、第1の議案に対する討議が行われた。上半期の主要政策的課題の実行状況に対する実態資料と党的、国家的に早急に対策を立てるべき問題が総会に報告された。金徳訓内閣総理が、今年に経済部門に提示された政策的課題の実行状況について、朴正天朝鮮人民軍総参謀長が人民軍の事業について、金才竜党中央委員会部長が反社会主義、非社会主義との闘争状況について詳細な報告を提起した。

金正恩総書記が、第1の議案討議で上程された問題に対する重要な結語を述べた。金正恩総書記は結語で、人民経済の各部門と単位の上半期の活動状況を詳細に分析、総括し、実際の変化と発展志向的な結果を必ず成し遂げ、5カ年計画遂行の確固たる保証をもたらす上で提起される部門別の課題と方途を提示した。金属、化学、電力、石炭、建設・建材部門をはじめとする基幹工業部門と軽工業、水産、都市経営、国土環境保護部門など、各部門で達成した成果と経験は拡大し、現れた偏向と欠点は克服しながら、経済の作戦と指揮を責任をもってよく行い、先進科学技術に徹底的に頼って今年の経済計画を無条件に完遂することについて述べた。教育と保健医療、文学・芸術をはじめとする文化建設の複数の部門で、現実的条件と政策的要求に合わせて活動を革新的に手配し、展開して、社会主義制度の優越性をより高く発揚させなければならないと強調した。朝鮮式社会主義の前途と人民の運命がかかっている反社会主義、非社会主義との闘争をいっそう攻勢的に実質的に展開していく上で指針とすべき原則的問題を明らかにした。金正恩総書記は、党活動の革新と強化は党と革命隊伍の威力を鋼鉄のように打ち固め、革命と建設に対する党的政治的指導を確固と保障することにつながると述べ、現在、党活動を深化、発展させる上で提起される重要な課題を明示した。

金正恩総書記は、第1の議案に対する結語を終えながら、全ての部門、全ての単位で党と革命に対し担っている聖なる責任と本分を深く自覚し、百倍に奮発、奮闘して今年の戦闘目標を輝かしく完遂しなけれ

ばならないと強調した。

総会では、第2の議案に対する討議が行われた。

李哲萬党中央委員会部長が、現在までの営農活動実態について具体的に報告した。金正恩総書記は、農業を立派に営むのは現在、人民に安定した生活を提供し、社会主義建設を成功裏に促すためにわが党と国家が最も重大視し、最優先的に解決すべき戦闘的課題であると述べ、昨年の農業の教訓と今年の不利益な条件から全党的、全国家的な力を農業に総集中するのが切実であると述べた。よりひどくなっている災害性異常気象の影響を克服することを今年の穀物生産目標達成の要の問題とし、農業部門と気象観測部門が互いに緊密に協同して自然災害を最小限にとどめるための対策を立て、各部門でこの事業を強力に支援することについて重要に言及した。

総会では、非常防疫状況の長期性に徹底的に備える問題を第3の議案に討議した。金正恩総書記は、国家非常防疫活動の現在の実態を分析した報告を聴取し、悪性ウイルスによる世界的な保健危機が日を追って引き続き悪化している状況の下、国家的に必ず解決すべき急務について明確にした。金正恩総書記は、非常防疫状況の長期化は国家非常防疫活動での最大自覚、強い規律順守気風の長期化であると同時に、経済全般を維持し、人民の食衣住を保障するための闘いの長期化であると述べ、現在の状況に即して国家的に防疫態勢を完璧に堅持し、経済指導機関が非常防疫という不利な環境の中で、それに即して経済活動を緻密に手配することに関する課題を提示した。これとともに、全ての党組織と政権機関が人民の生活上の要求を適時に円滑に解決してやる活動に優先的な力を入れることについて特別に強調し、軽工業と水産業をはじめ人民の生活に直結した部門で生産を増やすための革命的な対策を立てた。総会の参加者は、金正恩総書記の綱領的な結語の内容を深く刻み付けて自分の部門、自分の単位に提起される課題を必ず完遂するという一念を抱いて問題の討議に真摯に臨んでいる。

2日目の会議では1日目の会議で行った

金正恩総書記の綱領的な結語に指摘された上半期活動総括の分析に立脚して下半期の活動課題を偏向なく成果的に押し進めるための具体的な研究討議のために部門別分科を組織し、研究および協議会をおこなった。党中央委員会政治局常務委員会委員と政治局委員が分科別研究および協議会を指導した。

金属、鉄道運輸分科、化学工業分科、電気、石炭、機械工業分科、建設建材分科、軽工業分科、農業分科、非常防疫分科、反社会主義、非社会主義闘争分科、党活動分科に分けられて行われた研究および協議会では、本総会に諮る決定書草案を研究し、科学性と現実性の保証された対策案と計画数値を確定する活動を行った。

第3日目の会議では、第2日目に続いて行われた分科別の研究および協議会で、下半期に遂行すべき実質的かつ動員的な課題と実践的方途が十分に討議された。総会は、総合された建設的な意見を審議し、今年に示達された主要国家政策的課題を徹底的に実行するための追加的な対策的問題を反映した決定書と、全党、全軍、全人民が今年の農業に力を集中して穀物生産計画を無条件に完遂することに関する決定書を一致可決で採択した。

総会は、現在の国際情勢に対する分析とわが党の対応方向に関する問題を第4の議案として討議した。金正恩総書記は、最近、国際政治舞台で起きている主な変化と朝鮮革命の対外的環境について概括し、評価を下した。特に、新しく発足した米行政府のわが共和国に対する政策動向を詳細に分析し、今後、対米関係において堅持する的中した戦略・戦術的対応と活動方向を明示した。

金正恩総書記は、わが国家の尊厳と自主的な発展・利益を守り、平和的環境と国家の安全を頼もしく保証するためには対話にも対決にも全て準備ができていなければならないと強調した。金正恩総書記は、重要な国際および地域問題に関する党と共和国政府の対外政策的立場と原則を表明し、わが国家の戦略的地位と能動的役割をいっそう高

め、有利な外部的環境を積極的に整えていくことについて述べるとともに、時々刻々変わる状況に鋭敏かつ機敏に反応、対応し、朝鮮半島の情勢を安定的に管理していくことに力を注がなければならないと明らかにした。

総会は、第5の議案として現在の実情で人民生活を安定、向上させるために優先的に解決すべき問題を討議した。

金正恩総書記は、人民に安定した生活を保障し、困難を適時に解決してやるのはわが党と国家が最も重大事として掲げる活動原則であると述べ、数回にわたる協議会を通じて直接調べた人民生活の実態資料とその改善のための実践的な対策について具体的に言及した。

金正恩総書記は、わが党が神聖に掲げている為民献身の理念は実際に骨を削り、肉をえぐりながら人民の生命と生活に責任を持ち、無条件な奉仕で人民を奉じる実践の指針であり、行動の基準であると述べ、党が困難な時であるほど人民の中にもっと深く入って丈夫な柱になり、常にそばで苦楽を共にし、人民の福利のために全てをささげて闘わなければならないと強調した。

金正恩総書記は、現在、人民が最も関心を持ち、願う切実な問題を早急に解決するための決定的な施行措置を取ろうとするのが今回の総会の中核事項であると言明し、人民生活の安定に少しでも寄与するという衷心をもって自ら署名した特別命令書を発令した。

総会の全ての参加者は、全国の人民の運命と生活に対する責任感と献身奉仕精神が盛り込まれた金正恩総書記の重大決心と決断を熱狂の拍手で支持、賛同した。

総会では、党の育児政策を改善、強化する問題が第6の議案として討議された。

金正恩総書記は、祖国の未来である子どもを丈夫に立派に育てることより重大な革命事業はなく、数千数万金をかけてでもより改善された養育条件を整えてやるのはわが党と国家の最重要政策であり、最高の宿願であると強調した。

困難であるほど子どもにもっと真心を尽くし、その愛の力で共産主義の未来を目指して頑強に前進するのが朝鮮革命の前進方式、発展方式になるべきだと述べ、こ

の地に生まれる子ども、育ちゆく次世代が幼い時から立派な環境で満足に食べ、すくすくと育つなら今後20年、30年後にはそれだけわが社会によりいっそう躍動する生氣と活力が溢れるようになり、共和国の国力が成長し、強化されるようになるであろうと胸熱く述べた。

金正恩総書記は、子どもの成長、発育において託児所、幼稚園の時期が最も重要な年齢期であると述べ、国家的負担で全国の子どもに乳製品をはじめ栄養食品を供給することを党の政策に樹立することに言及し、その実行のための具体的な課題と方途を提起した。

そして、全ての活動家が子どもの実の親になった気持ちで託児所、幼稚園の幼児を満足に食べさせることに格別な関心を払い、党の育児政策の貫徹に実質的に寄与することで、党と革命、祖国と人民に対する忠実性を検証してもらおうべきだと切々と強調した。

総会では、金正恩総書記の提起を大きな衝動と激情の中で審議し、全幅的な支持と賛同の中で関連の決定書を全員一致で採択した。

全ての会議参加者は、総会で討議、決定された重大政策を徹底的に実行していくという決意を固めた。

総会の第4日目の会議では、第7の議案として党中央指導機関メンバーの2021年上半年期の党組織・思想生活状況を総括した。まず、党中央指導機関メンバーの上半期の党生活状況に関する資料が通報された。提起された資料を聴取しながら指導機関のメンバーは、朝鮮労働党の中核として信じ、負った重任を責任をもって遂行するために奮闘することを願う全ての党員と人民の期待にこたえられなかった自責の念に駆られて自身の党生活状況を全面的に深刻に反省した。

金正恩総書記は、第8回党大会で新しく選挙された党中央指導機関が党と人民に厳かに誓約したが、もはや指導機関メンバーの活動と生活で重大な問題が発露していることについて一つひとつ指摘した。

金正恩総書記は、指導機関のメンバーが任された歴史的責任を全うするためにはどんな覚悟と活動態度で活動し、自身を思想的・精神的に、文化的・道徳的に修養

するためにいかに努力しなければならないのかを細心に教えた。

金正恩総書記は、指導機関のメンバーが上半期に現れた欠点から深刻な教訓を汲み取り、今回の総会を契機に党大会が高く掲げた以民為天、一心団結、自力更生の理念を再び深く刻み付け、いっそう自覚、奮発して、受け持った責務を忠実に遂行することに力を尽くすことについて強調した。そうするには、革命の前世代のよういかなる厳しい環境の中でも党中央の決定を徹底的に受けとめて無条件に貫徹し、党の本態を守り抜くために一身をためらうことなくなげうつ真の革命家にならなければならないと述べた。

人民が社会主義の恩恵を一つでももっと肌で感じられるようにするために自分の血と汗を惜しみなくさげるといふ覚悟と、いかなる場合にも人民の利益に抵触することはしないという決心で大衆の中に入る一歩一歩の歩みが党と大衆の血縁的関係を厚くし、人民に信念と鼓舞を与える重要な政治的活動になるようにすべきであると懇ろに頼んだ。

金正恩総書記は、わが党が革命の戦闘的参謀部、人民の忠僕党としての本分を全うする上で先頭に立つべき人は党中央指導機関のメンバーであると述べ、今回の総会で討議、決定した主要政策的課題を一寸の狂いもなく徹底的に実行することに知恵と情熱をことごとく尽くすことについて切々と述べた。

総会は、第8の議案として組織問題を討議した。

党中央委員会の政治局委員、委員候補を召還および補欠選挙し、党中央委員会の委員、委員候補を召還および補欠選挙したし、国家機関の幹部を解任および任命した。

金正恩総書記が、総会を締めくくった。

金正恩総書記は、党中央指導機関のメンバーの情熱的な参加と限らない責任感によって、今回の総会が活動を円滑に遂行し、歴史的な重大な任務を果たせるようになったと述べ、全ての指導機関のメンバーが総会の全期間、党と国家の全般活動の討議に積極的に真剣に熱中したことと謝意を表した。

金正恩総書記は、わが党は堅忍不拔

の闘志で革命の前に横たわった現在の難局を必ず切り抜けるであろうし、今後、いかなる試練が一段と厳しく横たわっても、いささかも変心することなく金日成主席と金正日総書記の革命思想と偉業に最後まで忠実であることを党中央委員会を代表して厳かに宣誓した。

総会の全ての参加者は、非凡で、かつ特出した英知と洞察力、昼夜を分かたぬ思索と献身で朝鮮式社会主義の前進と発展を力強く導く不滅の指針と威力ある実践的武器をもたらし、全党の党員と全国の人民に限りない信念と鼓舞的力を与えてくれた金正恩総書記を仰いでこの上ない感謝のあいさつをささげながら、金正恩総書記の思想と指導に一意専心で従っていくという忠誠の誓いを込めてとどろく拍手と熱狂の歓呼の声を上げた。

朝鮮労働党中央委員会 第8期第3回総会公報

2021年6月19日付『労働新聞』は、朝鮮労働党中央委員会第8期第3回総会の公報を掲載した。内容は以下の通り。

朝鮮労働党中央委員会第8期第3回総会で補欠選挙された党中央委員会の政治局委員、委員候補は次の通り。

党中央委員会政治局委員

太亨徹

党中央委員会政治局委員候補

ウ・サン Chol

朝鮮社会主義女性同盟第7回大会

2021年6月22日付『労働新聞』によれば、朝鮮社会主義女性同盟第7回大会が同月20日と21日、平壤で行われた。大会では、総括期間に女性同盟の活動状況が全面的に分析、総括され、女性同盟が社会主義建設の偉大な新しい勝利を目指す闘いで革命的な女性組織としての使命と任務を全うしていくようにするための課題と実践方途が討議されたとのことである。

大会には、各級女性同盟組織で選挙された代表者が参加した。党、行政、武力機関の活動家が、オブザーバーとして出席した。李日煥党朝鮮労働党中央委員会書記、リ・ドソン朝鮮労働党中央委員会部長と女性同盟中央委員会の執行委員、各道女性同盟委員長、武力機関で女

性同盟の活動につかさどる活動家、模範的な女性同盟の活動家と中核的な女性同盟員、関係部門の活動家が幹部壇についた。

開会が宣言されると、朝鮮民主主義人民共和国国歌が奏楽された。大会では、執行部と書記部を選挙した。

大会は、次のような議案を承認した。

1. 朝鮮社会主義女性同盟中央委員会の活動総括
2. 朝鮮社会主義女性同盟中央検査委員会の活動総括
3. 朝鮮社会主義女性同盟規約の改正について
4. 朝鮮社会主義女性同盟中央指導機関の選挙

大会では金正恩総書記が朝鮮社会主義女性同盟第7回大会参加者に送った綱領的書簡「女性同盟は朝鮮式社会主義の前進発展を奮い起こす力強い部隊になろう」を李日煥書記が伝達した。

金正恩総書記は、書簡で党中央委員会第8期第3回総会が行われた直後に開催された今回の大会が革命の一翼を担った朝鮮人女性運動の位置と任務を再認識し、女盟同盟員を党に忠実な革命家、堅実な愛国者に育て上げるうえで転換的な契機になるであろうという期待を表明し、党中央委員会の名で熱烈に祝った。

金正恩総書記は、ただ朝鮮労働党を自分の運命のすべてと固く信じ、従い、社会主義祖国に勝利と栄光を捧げるために限りない献身の努力を尽くすわが女性と女盟同盟員の高潔な精神世界と屈することのない闘争は、わが党と人民の大きな誇りになっているとしながらこれまで5年間の闘争の道程で燃える愛国の熱情で祖国と人民、次代の前に明確な功績を刻んだことについて評価した。

金正恩総書記は、社会主義建設の新しい高揚期、激変期を開くための革命的進軍で女性同盟が自分の戦闘力を一段と向上させ、すべての女盟同盟員を党大会と党中央の重要決定貫徹へ奮い立たせることによってわが革命に活力を増し、全人民的総進軍を力強く推し進めなければならないと言及しながら現時期、朝鮮民主女性同盟組織の前に提起される課題と方途を提示した。

大会では第1の議案「朝鮮社会主義女性同盟中央委員会活動総括」に関する報告をチャン・チュンシル女性同盟中央委員会委員長が行った。報告者は、朝鮮労働党第8回大会が示した進軍方向に沿って新しい力動の時代、前進の時代を開いていく路程で朝鮮社会主義女性同盟第7回大会が開かれたことには女性同盟が前世代女性の発揮した英雄的闘争精神を継いで党の紐帯、頼もしい援助者としての役割を立派に果たすことを望む党中央の信頼と期待がこもっていると語った。彼女は金正恩総書記が総決期間、卓抜した指導と慈父のような愛で女性同盟がチュチェ革命の新時代の要求に即して自分の戦闘力をあまねく轟かすように賢明に導いたことについて言及した。金正恩総書記は今から5年前、女性同盟第6回大会参加者に歴史的な書簡を送って女性同盟の活動をわが革命とチュチェの女性運動発展の合法的な要請に即して強化、発展させる不滅の大綱領を与えてくれたと彼女は強調した。報告者は、金正恩総書記が女性同盟がすべての女盟同盟員を真の金日成・金正日主義者に育てることで重点を置き、5大教育をはじめとする思想教育を強力に、攻勢的に繰り返し広げていくように精神的に指導したことについて言及した。白頭の未踏の雪道、烈風を先頭に立ってかきわけわが党の革命伝統で武装するための活動を革命の戦略的課題と提示した金正恩総書記は、白頭山地区革命戦跡地に関する冬季踏査熱風を巻き起こして女性同盟の活動家たちと女盟同盟員が白頭山精神で生き、たたかうように導いた。金正恩総書記は新たな環境と条件に合わせて思想教育を改善していく貴重な教えを与え、積極的な対策を講じてくれて女盟同盟員を党と革命、社会と集団のために献身する女性革命家に育てるうえで新しい転換が起きるようにした。

報告者は金正恩総書記が女性同盟が組織強化の強風を起こして各級女盟同盟組織を組織性と規律性の強い戦闘的組織に作り上げるよう導いたことについて言及した。「全同盟が初級団体を補助しよう」というスローガンの下で基層組織強化に向けた整然な事業体系が立てられ、典型を創造し、追い越し、見習い、経験交

換運動が力強く繰り広げられて組織強化の炎が激しく燃え上がるようになった。金正恩総書記は、女盟同盟組織は女盟同盟員の社会的・政治的生命を党とつないでくれる血幹だという古典的定式化でその位置と役割をはっきりと明らかにし、同盟の隊伍をしっかりと整えるように導いた。

報告者は、金正恩総書記が女性同盟組織が社会主義建設に資する大衆運動をねばり強く展開していくように指導してくれた不滅の業績について言及した。金正恩総書記は、女性同盟突撃隊活動で人民経済各部門と重要建設場で勤労の偉勲を轟かしている女性の愛国的所行を高く評価してくれ、社会主義競争熱風、集団的革新を起こすための方向と方途をことごとく教えてくれた。軍事力強化と社会と集団、同志たちのための道で女盟同盟員がやり遂げた活動を貴く推し立て、あらゆる情をみな注いでくれた金正恩総書記の愛と信頼はほんとうに限りない。

報告者は党第7回大会で提示された課題を貫徹するための女性同盟活動で収められた成果は全的に女性同盟が党の偉業に限りなく忠実なように親しく導いてくれた金正恩総書記の偉大な指導の結実であると強調した。彼女はすべての参加者と全国女性の一様な忠誠の心を込めて主体的女性運動の偉大な開拓者、指導者である金日成同志と金正日同志に深甚な敬意を表し、卓越で、洗練された指導で女性同盟を党の偉業を忠実に支えていく威力ある政治組織、力強い力量と強化、発展させてくれる金正恩総書記に最大の光栄と最も温かいあいさつを謹んで捧げた。

報告者は、女性同盟の前には党第8回大会が打ち出した闘争綱領を実現するための総進軍で大衆的政治組織としての戦闘力を高く宣揚しなければならない榮譽ある任務が提起されていると語った。彼女は、革命の新しい高揚期、激変期の要求に即して女性同盟が時代の前に担った使命と任務を立派に遂行するために同盟活動で根本的な転換をもたらすための実際の対策を講じなければならないとし、総括期間、同盟の活動で発露された欠陥と原因を資料的に分析総括した。

報告では党の指導業績を固守し、輝かすための事業で明確な改善をもたらすこ

とができなかった問題、同盟組織強化のキーポイントを正しく捉えて同盟内部の活動に注力しなかった問題、反社会主義、非社会主義との闘争を大衆自身の活動に転換させて強い調子で展開できなかった問題、社会主義経済建設に寄与する大衆運動を積極的に手掛けられなかった問題などが深刻に批判された。原因は、同盟の活動家が同盟内部活動、思想教育を革新的に展開しないところにあり、同盟活動で形式主義と消極性を克服することができず、事業体系と秩序を整然に立てないことにあると指摘した。

報告者は、各級女性同盟組織が党大会決定を体して女性同盟の活動で根本的な転換をもたらすための闘争に総邁進することについて言及した。金正恩総書記の唯一的指導体系を確立する活動を生命線と堅持して深化させ、党の指導を忠実にしたがる女性政治組織の本態を確固と固守すべきである。指導業績単位の先駆者的役割を強めて党の指導業績を固守し、輝かし、同盟活動のすべての面で明確な結実を成し遂げなければならない。

報告者は、女盟同盟員に対する教育活動と組織生活指導を綿密にして取り掛かりわが党の革命思想でしっかり武装させ、党中央の周りに思想意志的に、道徳・信義的にしっかり結束させ、党の路線と方針貫徹へ力強く動員することについて強調した。女性同盟組織では思想教育を攻勢的に繰り返し広げてすべての女盟同盟員を真の革命家、白頭山精神の体現者、真の愛国忠臣に育てることに総力を集中すべきである。女性同盟芸術激励隊と女性同盟解説隊の役割を強めて新しい5カ年計画実行の突破口を開くための闘争の主要戦域で火線式政治宣伝、生産鼓舞活動を活発に展開することによって社会の革命的雰囲気を高調させなければならない。初級女性同盟組織と市、郡女性同盟組織で幹部の陣容を質的に強め、彼女たちが同盟員を導いていくうえで中核的役割を果たすように水準と能力を高めるための活動を計画的に推進するべきである。女性同盟組織で実践を通じて生命力の発揮されている忠誠の模範初級女性同盟委員会、忠誠の模範女性同盟初級団体獲得運動をより活発に繰り返し、忠誠の模範団

体称号を獲得した初級女性同盟組織がその榮譽を引き続き輝かして行くようにすべきである。同盟内に革命的規律と秩序を徹底的に確立し、すべての幹部が重い荷物を背負って高い活動能力と熱情、投身体力を発揮すべきである。すべての女性同盟の活動家が同盟活動の実務に精通し、学習を通常にねばり強くおこない同盟活動でなんでもできる博識家、実践家になるために積極的に努めなければならない。

報告者は、反社会主義、非社会主義的現象を根絶し、社会主義的生活様式を徹底的に確立することについて言及した。女性同盟組織では、反社会主義、非社会主義的現象を掃き捨てるための革命的な思想攻勢、攻勢的な防御、強力な闘争に組織の力を最大に発揮し、同盟員大衆をこぞって奮い立たせなければならない。女盟同盟員の中で遵法意識を高める活動を強力に展開し、肯定の力で不正義を根こそぎ取り除き、不純な毒草を根絶すべきである。

報告者は5カ年計画実行に資する女性同盟突撃隊活動と善行運動を活発に手掛けることについて言及した。金属、化学、電力工業部門工場、企業所が位置した地域と平壤市5万世帯住宅建設場をはじめとする主要な建設場場で女性同盟組織が生産正常化と近代化、対象建設と国土管理事業に資するいろいろな大衆運動を力強く展開し、生産鼓舞活動の太鼓の音を高く響かせなければならない。

報告者はすべての女盟同盟員が祖国の将来を担っていく次代を育てる母親としての責任と役割を果たすことについて強調した。女性同盟組織では、家庭教育がうまくいってこそ学校教育、社会教育もうまくいくということを自覚し、子女教育活動で新しい改善をもたらさなければならない。女性同盟の活動家と女盟同盟員は育つ新世代を集団主義思想と愛国主義、高尚な人生観を身につけた社会主義的人間に育てることを党と祖国の前に担った気高い任務と見なし、子女に対する立派な教育者としての役割を円満に遂行してすべての家庭を革命的な軍人家庭、科学者家庭、愛国者家庭に作らなければならない。

報告者はみな金正恩総書記の周りに鉄鋼のように団結して社会主義の偉業

の新しい勝利に向けて力強く闘おうと訴えた。

大会では第1の議案定に対する討論が行われた。

平壤市女性同盟組織代表のリ・ヒャンスク、キム・ヨンエ、ソン・ミョンエの各氏、平安南道女性同盟組織代表リ・ブンヒ氏、咸鏡北道女性同盟組織代表チェ・ギョンエ氏、両江道女性同盟組織代表チョン・ソルギョン氏、江原道女性同盟組織代表チェ・ミョンスク氏、黄海南道女性同盟組織代表リ・ヨンオク氏、平壤市女性同盟組織代表キム・インスク氏、咸鏡南道女性同盟組織代表トン・ミニョ氏、人民軍女性同盟組織代表ソン・ウヘ氏が討論した。

南浦市女性同盟組織代表キム・ヘヨン氏、羅先市女性同盟組織代表チェ・ヒャンスン氏、慈江道女性同盟組織代表リ・ジョンファ氏、黄海南道女性同盟組織代表シン・ヨンエ氏、平安北道女性同盟組織代表リ・スクヒ氏、開城市女性同盟組織代表キム・ギョンスム氏が書面討論を提起した。

討論では総括期間、同盟活動で収められた成果と経験、現れた欠陥とその原因が分析総括された。討論者は、思想教育を単位の特性と大衆の審理に即して実効性あるようにおこない、典型単位創造熱風、社会主義競争熱風の中に同盟組織の戦闘力を強めてきた成果と経験を言及した。組織・政治事業を方法論あるようにおこない数多くの女盟同盟員が人民経済主要部門に進出したことについて「一人はみんなのために、みんなは一人のために」というスローガンを高く掲げてチョンリマ時代の女性のように互いに助け、導きながら団結した力で鉄鋼材増産に資する善行を探しておこなったことに対する経験が紹介された。

討論では、同盟思想活動において形式主義を克服することができず、大衆運動に対する組織と指導を正しくできなかった問題、反社会主義、非社会主義的現象を掃き捨てるための闘争を強く展開しなかった問題をはじめ女性同盟活動で現れた欠陥が批判された。討論者は、新しい決心と覚悟のもとで奮発して同盟活動を党の思想と意図通りにおこなう決意を披れきした。討論を注意深く聞きながら参加者は、図式と硬直、旧態依然な活動方式を徹底的に

克服し、革新的な眼識と進取的な活動振りで仕事を大胆に革新することに革命偉業に対する忠実性と革命家的姿勢があることを深く刻んだ。

大会では第2の議案「朝鮮社会主義女性同盟中央検査委員会活動総括」に関する報告に続いて討論が行われ、決定書が全会一致で採択された。

大会では第3の議案「朝鮮社会主義女性同盟規約改正について」が討議された。革命発展の要請と女性同盟建設原理に合うように修正、補充された朝鮮社会主義女性同盟規約改正に対する報告に続いて決定書が代表者の全会一致で採択された。

大会では第4の議案「朝鮮社会主義女性同盟中央指導機関選挙」を討議した。朝鮮社会主義女性同盟中央委員会を選挙した。推薦された女性同盟中央委員会委員および委員候補の候補者全員が代表者の全員賛成で女性同盟中央委員会委員および委員候補に選挙された。

女性同盟中央委員会第7期第1回総会が行われた。李日煥朝鮮労働党中央委員会書記が女性同盟中央委員会第7期第1回総会の結果を発表した。女性同盟中央委員会執行委員会が選挙された。女性同盟中央委員会委員長にキム・ジョンソン氏、副委員長としてチャ・ヒョンオク氏、リ・ヒャンスク氏、ソン・ミョンエ氏、リ・ヘウム氏が選挙された。民主女性同盟中央委員会組織委員会が構成された。朝鮮社会主義女性同盟中央検査委員会委員長、副委員長、委員たちが選挙された。女性同盟中央委員会部長が任命された。

大会は新たに選挙された第7期女性同盟中央指導機関メンバーとして大会決定書草案作成委員会を選挙し、委員会は第1の議案に対する決定書草案を総合的に審議した。

大会では金正恩総書記の書簡に提示された綱領的課題を貫徹するための活動内容と代表者の創意的で、建設的な提議が補充、反映された第1の議案に対する決定書が全会一致で採択された。

大会は歌謡「金正恩将軍命を賭して死守する」の奏楽で終わった。

朝鮮労働党中央委員会

第8期第2回政治局拡大会議開催

2021年6月30日付『労働新聞』によれば、朝鮮労働党中央委員会政治局は、党と国家の重要政策的課題の実行で現れた一部の責任幹部の職務怠慢行為を重大に取り扱い、全党的に幹部革命の新たな転換点をもたらすために同月29日、党中央委員会の本部庁舎で拡大会議を招集した。

朝鮮労働党総書記である金正恩総書記が、会議を指導した。政治局拡大会議には、党中央委員会政治局常務委員会の委員と政治局の委員、委員候補、党中央委員会の活動家、省、中央機関の党・行政責任活動家、各道党責任書記と各道人民委員長、市・郡と連合企業所の党責任書記、武力機関、国家非常防疫部門の当該の活動家が出席した。

金正恩総書記は、議案の討議に先立って党中央委員会の総会直後に政治局拡大会議を招集することになった目的に言及した。

金正恩総書記は、国家の重大事を受け持った責任幹部が世界的な保健危機に備えた国家非常防疫戦の長期化の要求に応じて組織・機構的、物質的および科学技術的対策を立てるべきだという党の重要決定の実行を怠ることによって、国家と人民の安全に大きな危機を醸成する重大事件を生じさせたことと、それによって招かれた重大な結果について指摘した。

金正恩総書記は、党大会と党総会が討議、決定した重大課題の貫徹にプレーキをかけ、妨げる重要因子は、幹部の無能と無責任感であると厳正に分析し、幹部の中で現れる思想的欠点とあらゆる否定的要素との闘争を全党的にいっそう力強く繰り広げることと言及した。

金正恩総書記は、わが党と革命の前進を妨げる基本障害物、歯止めが何かをことごとく暴き、幹部陣容の現実態に警鐘を鳴らして全党的な集中闘争、連続闘争の序幕を開くところに今回の会議の真の目的があると述べ、本会議で討議することになる各案件を提起した。

党中央委員会政治局は、上程された案件を一致可決で承認した。

政治局拡大会議では、党決定の実行

で現れた党および国家幹部の非党的行為から深刻な教訓を汲み取ることに關する問題が主要議案として討議された。

政治局会議では、資料報告があった。報告では、全党の党員と人民の大いなる信頼と期待、党と革命に対し担っている崇高な責任と使命に背いて党の決定と国家的な最重要課題の遂行を怠った一部の責任幹部の職務怠慢行為が詳細に通報された。また、全党の組織的意思、至上の命令である党中央の決定、指示を貫徹するために最大の慎重さを期して苦心奮闘せず、ことなかれ主義と消極性にとらわれて党の戦略的構想の実現に障害をきたし、人民生活の安定と経済建設の全般に否定的影響を及ぼした過ちの重大さが辛辣に分析された。

会議では、党中央委員会の各総会で討議、決定した重要課題の貫徹で無知と無能力、無責任感を発露させた幹部に対する鋭い批判が行われた。討論に参加した党中央指導機関のメンバーは、歴史的なわが党大会の権威を断固と守り、5カ年計画の確固たる展望を開く上で要の意義を持つ2度の党総会の決定を無条件徹底的に、献身的に実行すべき責任幹部が党中央の構想と指導の実現に害毒の結果を及ぼすようになった思想的根源について党的原則から政治的に鋭く分析、批判した。彼らは一様に、党中央の政治的信任と期待を受けて党と国家の重要職務を受け持っている責任幹部らが現在、祖国と人民の安全、死活がかかっている国家非常防疫システムの持続的強化と国の経済活動と人民生活の安定を重大に阻害したことに深く指摘した。

各討論者は、党総会が決定、示達した国家的な政策を歪曲実行した彼らの無能と無責任な活動態度は単なる実務的過ちではなく、党と国家の苦衷を一身を賭して自分自身が軽減させるという自覚に欠けていることから生じた激甚な怠慢、怠業行為であると強く糾弾した。

会議の参加者は、活動家の保身と消極性、主観と独断がわれわれの前進を阻み、党と人民の利益を害する主たる歯止めであるという深刻な教訓を汲み取り、職位をとわず党的修養と鍛練をいっそう強化すべき必要性を改めて痛感した。

会議では次に、党の決定に対する態度と観点が不透明で、敗北主義に陥って受け持った事業を革命的に展開していない中央と地方の一部の活動家に対する資料通報があったし、彼らを党的に、法的に徹底して検討、調査し、当該の対策を立てることに関する決定が承認された。

金正恩総書記が、綱領的な結語を述べた。金正恩総書記は、第8回党大会以降、党中央指導機関のメンバーをはじめとする幹部、各級単位の活動家の責任と役割の重要性がいっそう浮き彫りになっていると述べ、革命が前進し、環境が厳しいほど、幹部陣容の精幹化に優先的な力を入れるべき必要性和わが党の幹部政策の重要改善方向に言及した。金正恩総書記は、党と国家の指導幹部の中で現れた非党的行為の重大さに対する党中央委員会の見解を披歴した。現在、幹部の根深い無責任感と無能力こそ、党政策の実行に人為的な難関を生じさせ、革命事業の発展に莫大な障害を及ぼす主たるプレーキであることについて深刻に指摘し、幹部は自身に対する要求度を強め、非常な責任感と実務能力をもって課された責務を全うしなければならないと強調した。

金正恩総書記は、幹部の中で普遍的に現れている熱しやすく冷めやすい活動態度と経験主義と古い思考観点について深刻に批判した。金正恩総書記は、幹部が自身の政治的・実務的資質を向上させ、革命的活動作風と風貌を身につけるために絶え間なく努力せず、党組織が幹部に対する組織的統制と教育を強化しなければ、党決定の実行で牽引力が落ちるのはもちろん、党の重要政策課題が正確に実現しないということについて指摘した。わが党が党創立の初期から堅持している仁徳政治と包容政策は決して、幹部のためのものではなく、平凡な勤労人民大衆に該当する政策であると述べ、党は活動する真似をするだけで心から国と人民を心配せず、地位維持をする幹部をかばう権利が絶対にならぬことを明確にし、幹部の非革命的な闘争姿勢と観点、行為を克服するための攻勢的かつ持続的な、強力な闘争を展開する意志を明らかにした。

金正恩総書記は、今回の政治局拡大会議の精神に立脚して、わが党の幹部政

策を改めて研究、考察すべき必要性和重要な問題点に言及した。今こそ、先鋭に提起される経済問題を解決する前に、幹部革命を起こすべき時であると述べ、わが党が自己発展の全行程で終始一貫重視し、推し進めてきた幹部革命は朝鮮革命の現局面に合わせていっそう度合い強く、優先的に深化させなければならない全党的な重大課題であると言明した。

金正恩総書記は、対幹部活動体系と方法を発展する現実の要求に伴わせ、幹部自身が革命的修養と鍛練を絶えず強化することについて強調した。特に重要なのは、幹部が自分の政治意識を目的意識的に高めることであると述べ、幹部なら当然、自分の党の路線と政策を熟知して党的・国家的眼識で現実と提起される問題を正確に透視することができ、そこから自分の取り分を探してその実現のために闘うことのできる観点と活動気風を身につけるべきであると指摘した。幹部の政治意識を高めるためには、党生活を通じた教育と鍛練も強めなければならないと述べ、幹部は誰かが統制し要求してよりも、党と革命のために、自分の党組織の戦闘力強化のために、自分自身の政治的生命のために党組織・思想生活に誠実に参加して革命的に修養、鍛練すべきであると述べた。

金正恩総書記は、党の決定は朝鮮革命の前進方向を明らかにした組織的意思、闘争綱領であり、その実行の責任は幹部の肩の上に載せられていると述べ、幹部が党の決定を骨が砕けても無条件に貫徹する革命的気風を体質化することと言及した。

金正恩総書記は、幹部革命においてわが党が特別に注目を払うのは、活動作風と道徳品性であると述べ、全ての幹部が自分の活動作風と道徳品性にわが党の権威とイメージが載せられていることをつねに銘記すべきであると指摘した。

金正恩総書記は、各級党組織が幹部陣容を忠実性において、そして革命性、人民性、実力において充実に準備された人々で精幹化、精鋭化することについて重要に強調した。

会議では次に、組織問題が取り扱われた。党中央委員会の政治局常務委員会委員、政治局委員、委員候補を召還お

び補欠選挙し、党中央委員会の書記を召還および選挙したし、国家機関の幹部を転動および任命した。

金正恩総書記が習近平総書記に祝電

2021年7月1日付『労働新聞』によれば、金正恩総書記が中国の習近平総書記に中国共産党創立100周年に際して祝電を送った。祝電の内容は次の通り。

北京

中国共産党中央委員会総書記
中華人民共和国主席
習近平同志

私は、中国共産党創立100周年に際して朝鮮労働党の全ての党員と朝鮮人民、そして私自身の名で尊敬する習近平総書記と中国共産党の全ての党員と中国人民に熱烈な祝賀と温かい同志的あいさつを送ります。

中国共産党の創立は中華民族の運命開拓と中国の社会主義偉業の遂行において画期的意義を持つ歴史的出来事でした。

中国共産党は血みどろの闘争で革命の勝利を収め、人民が主人となった新しい中国をうち建てたし、歴史のあらゆる風波を切り抜けて中国特色の社会主義の道を開拓し国家の富強と人民の幸せをもたらしました。

第18回党大会以降、習近平総書記は、中国共産党と中国人民を導いて初歩的に富裕な社会の全面的な建設と貧困を完全になくすための闘いで画期的勝利を収めたし、世界的な保健危機を成功裏に克服し、国の総合的威力と国際的地位を非常に高めました。

数千年の歴史にあったことのない変革と奇跡を記した中国共産党の100年史は、党の指導と中国特色の社会主義こそ、中華民族の復興を実現する最も正確な選択であり、保証であることを実証しました。

朝鮮の党と人民は、中国の社会主義建設で収められている全ての成果を自分の事のようにうれしく思っています。

こんにちは、中国共産党と中国人民は新

時代の中国特色の社会主義思想の旗印を高く掲げ、社会主義現代化国家を全面的に建設する新しい歴史的道程に入りました。

中国共産党に対する敵対勢力の悪辣な誹謗中傷と全面的な圧迫は断末魔のあがきに過ぎず、何をもってしても金正恩総書記の周りに結集し新たな勝利を目指して力強く前進する中国人民の前途を阻むことはできません。

朝鮮の党と人民は、社会主義建設を促し、国の主権と領土保全、世界の平和を守り抜くための中国共産党の偉業を確固と支持するとともに、中国人民が総書記の指導の下で中国の夢を実現するための闘いで引き続き立派な成果を収めるものと確信します。

こんにちは朝中両党、両国は、複雑多端な国際情勢下でも、社会主義、共産主義偉業の正当性に対する信念を固く持ち、戦闘的友誼と血縁的紐帯の威力で、際際する難関と困難を果敢に切り抜け、より輝かしい未来に向けて邁進しています。

朝鮮労働党と中国共産党は、帝国主義に反対し社会主義を建設する長い闘争過程で生死苦楽を共にし、誇らしい親善の歴史をつづってきた真の同志であり、戦友です。

朝鮮労働党は中国共産党としっかり団結し、時代の要求と両国人民の念願に即して朝中親善を新たな戦略の高さへと昇華発展させて、わが両党の共同の偉業である社会主義建設が、いかなる情勢の変化と挑戦にも微動だにせず、活力をもって前進するように力強く促していきましょう。

習近平総書記が健康で、責任ある活動でさらなる成果を収めることと、中国共産党の指導の下で中華人民共和国が隆盛、繁栄し、中国人民が幸せであることを心から願います。

朝鮮労働党総書記

朝鮮民主主義人民共和国国務委員長
金正恩

最高人民会議常任委員会 第14期第15回総会開催

2021年7月2日付『労働新聞』によれば、最高人民会議常任委員会第14期第

15回全員会議が1日、平壤の万寿台議事堂で行われた。

崔竜海最高人民会議常任委員会委員長が、総会を執行した。パク・ヨンイル最高人民会議常任委員会副委員長、高吉先書記長をはじめとする最高人民会議常任委員会の委員が、全員会議に出席した。最高人民会議常任委員会と内閣事務局、省、中央機関、司法・検察、社会安全機関の当該の活動家が傍聴した。

総会では、朝鮮民主主義人民共和国金属工業法、化学工業法、機械工業法、麻薬犯罪防止法の採択と朝鮮民主主義人民共和国朝鮮人参法の修正、補足に関する問題が議案として上程された。最高人民会議法制委員会が審議された当該各法と修正・補足案の基本内容に関する報告があった。金属工業法、化学工業法、機械工業法、麻薬犯罪防止法には、国の基幹工業部門に投資を集中して生産基盤をより強固に築き、金属、化学、機械製品の生産、供給および販売、条件保障に関する制度と秩序を確立して、国家の経済発展戦略、経済政策を徹底的に実行し、国家社会制度の安定と人民の生命・健康を害する違法行為を未然に防ぐための条項と、当該法の履行において提起される原則的問題が具体的に明示された。

修正された朝鮮人参法には、朝鮮人参の栽培と買取り、加工、販売、輸出などについて規制した部分がより細分化、具体化されたし、法違反行為の重大さの程度に応じた処罰内容と、刑事的責任まで負わせるという条項が補足された。

総会では、上程された議案に対する研究・討議に基づいて、最高人民会議常任委員会政令「朝鮮民主主義人民共和国金属工業法を採択することについて」「朝鮮民主主義人民共和国化学工業法を採択することについて」「朝鮮民主主義人民共和国機械工業法を採択することについて」「朝鮮民主主義人民共和国麻薬犯罪防止法を採択することについて」「朝鮮民主主義人民共和国朝鮮人参法を修正、補足することについて」が、全員一致で採択された。

総会は、最高人民会議常任委員会と内閣、関係機関で遵法教育をさまざまな

形式と方法で行ない、法執行のための施行規定、細則を法定法の要求に即して作成、示達し、法的闘争を強力に展開して、党大会と党中央委員会の各総会で提示された課題の貫徹を法的に保証することについて強調した。

金正恩総書記が錦繡山太陽宮殿を訪れる

2021年7月8日付『労働新聞』によれば、金正恩総書記が7月8日零時、錦繡山太陽宮殿を訪れた。朝鮮労働党中央委員会政治局員と党中央指導機関メンバーが参加した。金日成主席と金正日総書記の立像に金正恩総書記が捧げる花かごが献じられた。

朝鮮労働党中央委員会、朝鮮民主主義人民共和国國務委員会、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議常任委員会、朝鮮民主主義人民共和国内閣の名義による花かごが献じられた。

金正恩総書記は、参加者と共に金日成主席と金正日総書記の立像を仰いで気高い敬意を表した。

金正恩総書記と習近平総書記の祝電交換

2021年7月11日付『労働新聞』によれば、金正恩総書記が、中国の習近平総書記に祝電を送った。祝電の内容は次の通り。

北京

中国共産党中央委員会総書記

中華人民共和国主席

中華人民共和国中央軍事委員会主席

習近平同志

私は朝中友好、協力および相互援助に関する条約締結60周年に際して、朝鮮労働党と朝鮮民主主義人民共和国政府と人民そしてわたし自身の名で金正恩総書記と金正恩総書記を通じて中国共産党中央委員会と中華人民共和国政府、中国人民に熱烈な祝賀を送ります。

朝中友好、協力および相互援助に関する条約の締結は、反帝・自主、社会主義を目指す道で血潮で結ばれた朝中友好を強固な法律的基础の上で長期的に発展

させていこうとする、両党、両国政府、両国人民の確固たる意志を万邦に誇示した歴史的な出来事でした。

これまで60年間、朝中両国は歳月のあらゆる風波の中でも生死苦楽を一緒にし、共同偉業のための闘争で変わることなく支持し、物心両面にわたって協力しながら、誇らしい友好の歴史を刻み込んできました。

近年、前例なく複雑多端な国際情勢の中でも、朝中間の同志的信頼と戦闘的友誼は日々厚くなっており、伝統的な朝中友好は新しい推進力を受けて、政治、経済、軍事、文化をはじめとする各分野でより高い段階へ全面的に昇華発展しています。

朝中友好、協力および相互援助に関する条約は、敵対勢力の挑戦と妨害策動がより悪らつになっているこんにち、両国の社会主義の偉業を守り、促し、アジアと世界の平和と安定を保障するうえでいっそう強い生命力を発揮しています。

朝中友好・協力関係を新しい時代の要求と両国人民の念願に即して絶えず強化発展させていくことは、わが党と政府の確固不動の立場です。

わが党と政府と人民は今後も、両国の貴重な共同の富である朝中友好をこの上なく大事にし、社会主義、共産主義を建設する聖なる一路において、中国共産党と中国政府、中国人民と固く手を取合って進むでしょう。

私は中国党と人民が、尊敬する金正恩総書記の指導の下で、中国特色的社会主義建設で刮目に値する成果を成し遂げ、党創立100周年を盛大に慶祝したことについてとてもうれしく思い、社会主義現代化国家を全面的に建設し、中華民族の復興を実現するための活動で引き続き大きな前進を成し遂げることを願います。

習近平金正恩総書記が健康で、国の繁栄と人民の幸福のための責任ある活動でより大きな成果を収めることを心から願います。

朝鮮労働党総書記

朝鮮民主主義人民共和国國務委員場

朝鮮民主主義人民共和国武力最高司令官

金正恩

チュチェ110(2021)年7月11日平壤

中国の習近平総書記が金正恩総書記に祝電を送った。祝電の内容は次の通り。

平壤

朝鮮労働党総書記
朝鮮民主主義人民共和国国務委員長
朝鮮民主主義人民共和国武力最高司令官
金正恩元帥

尊敬する金正恩総書記、

私は、中朝友好、協力および相互援助に関する条約締結60周年に際して中国共産党と中国政府、中国人民を代表してそしてわたし自身の名であなたとあなたを通じて朝鮮労働党と朝鮮政府、朝鮮人民に熱烈な祝賀と心からの祝福の挨拶を送ります。

1961年、中朝老世代指導者たちは遠く先を見通して、中朝友好、協力および相互援助に関する条約を締結する戦略的決断を下すことによって、両国人民が血潮で結んだ戦闘的友好を強固なものにし、両国の長期的な友好協力を促すための重要な政治的、法律的基础を築きました。

これまで60年間に中朝双方は、条約の精神にのっとり互いに固く支持し、手を取合い、肩を組み闘いながら、両党、両国間の兄弟的な伝統的友好を強化してきたし、社会主義偉業の発展を促し、地域と世界の平和と安定を守り抜きました。

近年私は、金正恩総書記と幾度にわたる対面を通じて、両党、両国関係の発展の展望を設計し、中朝友好の時代的内容を豊かにする一連の重要な共通の認識を成し遂げました。

今世界的に、百年ぶりに初めての大変化が急速に起きています。

私は金正恩総書記と共に、戦略的意志疎通を強化して、中朝関係の前進方向をうまくとらえ、両国の友好・協力関係を絶えず新しい段階へと導いていくことで、両国と両国人民にさらなる幸福を与える用意があります。

われわれは数日前に中国共産党創建100周年を盛大に慶祝しました。

金正恩総書記が私に熱情的な祝電を送ってくれたことについて今一度謝意を表します。

こんにち朝鮮人民は一心団結して朝鮮労働党第8回大会決定貫徹に全力を尽くしています。

中国は、朝鮮が経済と人民生活を發展させ、社会主義建設偉業を力強く推し進めていることについて断固支持します。

金正恩総書記の指導の下で、朝鮮党と人民が必ず新しくさらなる成果を収めることを確信します。

貴国の隆盛・繁栄、人民の幸福と安寧を願います。

中国共産党中央委員会総書記

中華人民共和国主席

中華人民共和国中央軍事委員会主席

習近平

2021年7月11日北京

重要芸術団体の創作家、芸能人に対する国家表彰授与式

2021年7月12日付『労働新聞』によれば、国務委員会演奏団をはじめとする重要芸術団体創作家、芸能人に対する朝鮮民主主義人民共和国名誉称号と勲章の国家表彰授与式が同月11日、平壤の万寿台議事堂で行われた。

李日煥朝鮮労働党中央委員会書記、高吉先最高人民会議常任委員会書記長、スン・ジョンギョ文化相、重要芸術団体創作家、芸能人がこれに参加した。

朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議常任委員会政令を李日煥書記が伝達した。

国務委員会演奏団声楽俳優キム・オクチュ氏に朝鮮民主主義人民共和国人民俳優称号が授与された。

国旗勲章第1級

リ・ミョンイル、バン・チョルジン

国旗勲章第2級

パク・ミョンソン、カン・チョルボン、パク・ソンナム、キム・ウンイル、キム・ガンナム、キム・

ジュイル、パク・ヨンイル、チョ・ソリム、シン・ジュギョン、ペ・ソングク

国旗勲章第3級

アン・リョングォン、キム・ヒョンイル、キム・イェソン

授与式では、国務委員会演奏団団長兼指揮者であるリ・ミョンイル、声楽俳優キム・オクチュさん、勲功国家合唱団の作曲家パク・ソンナムの各氏が、決意討論をおこなった。

金正恩総書記が国家表彰を授かった重要芸術団体創作家、芸能人に会い祝福

2021年7月12日付『労働新聞』によれば、金正恩総書記が同月11日、国家表彰を授かった重要芸術団体創作家、芸能人に会って祝った。

金正恩総書記は、党中央の信任と人民の期待を心に刻んで革命的な創作創作気風でチュチェの音楽發展に特出した貢献をした重要芸術団体創作家、芸能人一人ひとりの手を温かく取って鼓舞、激励した。

金正恩総書記が中国における水害と関連し習近平主席に見舞いの口頭親書

2021年7月24日発『朝鮮中央通信』によれば、金正恩総書記が、中国の習近平国家主席に、最近、中国の河南省をはじめ複数の地域で洪水が発生して多くの人的・物的被害を受けたことを見舞いの口頭親書を送った。

金正恩総書記は、水害と関連して習近平主席に深甚なる見舞いを表し、犠牲者と遺族に深い哀悼の意を伝え、被害防止と復旧戦闘の第一線で献身奮闘している中国共産党の党員と中国人民解放軍の軍人に戦闘的あいさつを送った。

金正恩総書記は、水害の悪影響を一日も早く克服し、水害被災者を安定させるための習近平主席と中国共産党と人民の闘いを全面的に支持すると強調した。

金正恩総書記は、習近平主席の指導と中国共産党員と人民の献身的な努力によって被災地の人民が近いうちに自然の災難を克服し、安定した生活を回復すると

の確信を表明した。

「北南通信連絡線の再稼動に関する朝鮮中央通信社報道」

2021年7月27日発『朝鮮中央通信』は、北南通信連絡線の再稼動に関する次のような報道を発表した。

現在、全同胞は挫折と沈滞状態にある北南関係が一日も早く回復されることを切に望んでいる。

これに関連して北南の首脳は最近、数回にわたってやり取りした親書を通じて断絶している北南通信連絡ルートを復元することで互いに信頼を回復し、和解を図る巨歩を踏み出すことで合意した。

両首脳の合意に従って北南双方は7月27日10時から、すべての北南通信連絡線を再稼動する措置を取った。

通信連絡線の復元は、北南関係の改善と発展に肯定的な働きをすることになるであろう。

第7回全国老兵大会

2021年7月28日付『労働新聞』によれば、同日27日、第7回全国老兵大会が行われ、金正恩総書記が参席し、演説を行った。

大会には偉大な年代の主人公である祖国解放戦争参戦者と戦時功労者が出席した。また、英雄的共和国武力の将兵と新世代の青年大学生、革命学院の教職員、生徒が参加した。

崔竜海最高人民会議常任委員会委員長、趙南元朝鮮労働党中央委員会書記、金徳訓内閣総理の同志が幹部壇について。党と政府の幹部である李日煥、呉日晶、鄭京擇、金榮煥の各氏と各道党の責任書記が幹部席に就いた。朴正天、クオン・ヨンジン、李永吉の各氏をはじめとする武力機関責任幹部が共に席について。

第7回全国老兵大会開会が宣言されると、朝鮮民主主義人民共和国国歌が荘重に奏楽された。

金正恩総書記が熱情に満ちた意義深い祝賀演説「戦勝世代の偉大な英雄精神は立派に継承されるだろう」をおこなった。演説の内容は次の通り。

尊敬する参戦老兵の皆さん！

われわれがつねに尊敬し、鑑として押し立てる革命の大先輩である皆さんと再び席を共にし、わが祖国の偉大な戦勝節を慶祝することになったので、喜びと感激を禁じることができません。

わが国家と人民にとって年々歳々、胸を張って誇らかに追憶すべき偉大な戦勝の歴史は、千金万金をもってしても換えられない第一の財産です。

ことに、伝説的な英雄時代の主人公、生き証人である老兵たちをそばにいてくれて、たびたびお会いできることは、われわれの世代が享受する無上の幸運であり、光栄です。

私は、3年間の苛烈極まる戦火の中で奇跡的な戦勝の神話を生み出し、自分の時代を英雄的に輝かせたばかりでなく、今日はこのように健康な姿で戦勝節の行事に参席して下さった尊敬する老兵の皆さんと、全国の祖国解放戦争参戦者や戦時功労者たちに頭を下げて謹んで感謝の挨拶を送ります。

また、祖国の自主権と榮譽を守って青春も生命も惜しみなく捧げた人民軍烈士や愛国烈士に崇高な敬意を表し、堅忍不拔の力強い闘争の中で勝利の7・27を迎える全ての人民に熱烈な祝賀の挨拶を送ります。

併せて、わが祖国の最も厳しい時期に帝国主義侵略を撃退する同じ塹壕で貴い血を惜しみなく流した中国人民志願軍の烈士たちに崇高な敬意を表するとともに、志願軍の老兵の皆さんにも温かい挨拶を送ります。

尊敬する老兵の皆さん！

わが共和国の栄光に満ちた発展行路で革命の第2世である戦勝世代が積み上げた功績は、歴史的な高峰として高くそびえ立ち光り輝いています。

強大かつ美しいこの朝鮮の貴重な全てのは、皆さんが代表する偉大な世代の功績と一つにつながっています。

数千万人民の自由な生活と真のわれわれの制度、秀麗な山河と沃野千里、貴重な天然資源は、祖国の寸土をも血をもって守り抜いた無数の勇士たちの偉勲を離れては考えることができません。

1950年代の勇敢な祖国防衛者たちが

アメリカ帝国主義の強盗さながらの侵略を決死の覚悟で撃退したからこそ、今日に至る幾世代の子孫が奴隷の受難を知らず、自主的人民の尊厳を保つことができました。

アメリカ帝国主義をかしらとする追隨国の武力侵犯者を打ち破り、戦勝という驚異的な未曾有の出来事をもたらした戦勝世代の偉大な功績があったがゆえに、祖国の運命と未来が救われ、われわれ次世代は英雄朝鮮、英雄人民という偉大な名声と榮譽を譲り受けることができました。

同志の皆さん！

わが祖国の歴史に金文字で記された戦勝世代の功績の中で最も貴重で高価なのは、英雄的な闘争精神と氣風を創造したことです。

偉大な勝利と奇跡を生んだ闘争精神は、いくら歳月が流れても光を失わず、新しい勝利と奇跡を生み出す尽きせぬ源です。

戦勝世代が発揮した偉大な英雄精神を噛みしめてみると、その一つひとつは全て世人を驚嘆させ、心を揺さぶるものばかりです。

党と領袖のために、領袖に立てた誓いをあくまで守るために躊躇することなく最後の決戦に飛び込み、死地にあっても最高司令部に思いを馳せて、不死鳥のごとく勇敢に戦った人民軍戦士たちの剛毅な精神力は、世人を驚嘆させる戦勝の神話を生み出しました。

つねづね考えていることですが、老兵たちにお会いするたびに、祖国解放戦争の困難さと苛烈さ、敵撃滅の烈しい白兵戦がそのまま生き生きと感じられ、今日われわれが戦火の勇士のように闘っているのかを改めて自覚するようになります。

そうすると、当代の最も厳しい挑戦や危険にもめげず、不敗の強い精神力を発揮した偉大な年代の勝利者におのずから頭が下がります。

祖国の自由と独立のために、子孫の生活のために輝かしい偉勲を立てましたが、われわれの戦勝世代は、一度たりとも血潮を流した代価を望んだことがありませんでした。

戦争の傷跡をいやし、廢虚と化した国を復旧すべき大きな重荷を再び進んで担っ

たのは戦勝世代でした。

前線から戻ってきた勇士たちも、銃後で屈することなく戦った人々も、不幸や苦痛に耐え抜き、先に逝った戦友の遺志どおり、彼らの分まで10倍、20倍の仕事をより多く、より早くやり遂げるのを当然の道義や信義、本分と見なしました。

単なる復旧ではなく、より大きく、より立派に打ち立てて、復興建設でも朝鮮人の気概を示そうという金日成同志の呼びかけに応え、廃墟の中で自主強国の建設を始めた戦勝世代は、無から有をつくり出し、不可能を可能にしながら他人が1歩歩むとき10歩、100歩を歩みました。

気をゆるめることなく刻苦奮闘し、歳月を縮めた栄えある建設者たちによって、英雄朝鮮がチョンリマ朝鮮として一層光を放ち、富国強兵の近道である経済と国防の並進という歴史的課題が成功裏に実現しました。

わが党と人民が年代を継いで鑑として、党中央を絶対的に支持し、革命的大高揚をもって防衛する立派な闘争伝統と、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という気高い集団主義気風、共産主義的人間関係もこの偉大な革命世代が創造したものです。

戦勝世代の犠牲的かつ献身的な闘争があったがゆえに、廃墟の中でも人民がおり、領土があり、党と政権があれば、いくらでも新しい生活を創造し、豊かに暮らすことができるというチュチュの哲学が素晴らしい現実として実証されました。

社会主義建設の各年代に、われわれの参戦老兵や戦時功労者は、砲煙弾雨をくぐり、血を流して戦った戦火のあとのように生きているかをつねに自覚し、変わることなく服務の道を歩み続け、新しい世代も剛直で堅実に生き、闘うように導きました。

まさにこれが、われわれがこの上なく尊敬し感謝してやまない戦勝世代の高潔な精神世界です。

戦勝世代の偉大な英雄精神を受け継いだことによって、わが党と人民は何回もの戦争に匹敵する社会主義防衛戦の厳しい試練を乗り越えて、革命に提起された壮大な大業を勝利のうちに成し遂げることができました。

実に、われわれの栄えある朝鮮民主主

義人民共和国を誉れ高く守り抜き、代々孫々引き継ぐべき不滅の英雄精神を生み出した1950年代の祖国防衛者、祖国建設者こそは、末永く称えて見習うべきありがたい恩人であり、真の師匠です。

同志の皆さん！

わが人民と新しい世代には、偉大な戦勝世代の子孫という何ものとも比べようのない特別な矜持と自負があります。

戦勝世代の子孫としての榮譽ある使命は、偉大な領袖、偉大な党の指導の下に創造された偉大な勝利の伝統と英雄精神を立派に継承して、先達たちが守り抜き、打ち立てたこの国をより強大にし、限りなく繁栄させることです。

聖なるこの歴史的使命と本分をはっきりと自覚した世代は、絶対に衰退したり瓦解したりせず、勇敢に力強く前進するものです。

われわれは、新たな挑戦が立ちほだかり、膨大な課題が提起されるたびに、われわれより先に、今より大きな挑戦をはねのけ、課題を遂行してきた革命の老世代、戦勝世代を思い浮かべています。

今日、われわれにとって史上初の世界的な保健危機と長期的な封鎖による困難や隘路は、戦争状況に劣らない試練の峠となっています。

しかし、戦勝世代が最大の国難に直面して最大の勇気を発揮し、最大の勝利と榮譽をもたらしたように、わが世代もその立派な伝統を受け継いで、今日の厳しい試練をより大きな新しい勝利に変えるでしょう。

社会主義強国建設の道程で今より厳しい逆境に際会しても、われわれは決して瞬時も立ち止まらないでしょうし、戦勝世代の英雄精神を受け継いで打ち出した闘争目標を目指してねばり強く突進するでしょう。

戦火の勇士たちが貴い生命と替えたこの地、老兵たちが一生をかけて愛国の誠実な足跡を印してきたこの国土を、必ず全人民が何羨むことなく幸福を享受する復興強国に築いていくでしょう。

そのためにわが党は、戦勝世代の高貴な思想的・精神的富が全ての人民と人民軍将兵、新しい世代の血と肉になり、真の生活と闘争の栄養素になるようにするつもりです。

ひたすら自己の党のみを絶対的に信頼し、党の決定を命を捧げて貫徹した不屈の革命精神、自らの力と勝利を確信し、祖国が直面した生死存亡の危機に立ち向かって一身をためらわずに捧げた決死の犠牲的精神、苦難と試練を乗り越えて復旧と建設に奮起した不屈の闘争精神、困難な中でも互いに支え合い、助け合いながら社会主義の新生活を築いた高尚な集団主義精神が、今日の闘争と生活の中に脈打つようにするでしょう。

愛国衷情の素晴らしい教科書である、祖国解放戦争期と戦後復興建設期、チョンリマ大高揚期の赫々たる戦勝記と闘争記を誰もが忘れないようにし、戦時歌謡と創造や建設の歌謡が各職場と持ち場ずつねに響き渡るようにし、党政策貫徹の実践を通じて新しい奇跡と偉勳が引き続き創造されるようにするでしょう。

老兵の皆さん！

歴史的な朝鮮労働党第8回大会を契機に、朝鮮式の世界社会主義建設偉業は新たな激動の時代を迎えており、全国は高揚した意気込みで沸き立っています。

わが革命武力は、いかなる情勢の変化や威嚇にも対処できる万端の準備を整えており、英雄的な闘争精神と気高い政治的・道徳的風格をもって自らの威力を一層不敗のものに固めながら国家防衛と社会主義建設の最前線をしっかりと守っています。

数千数万の新しい世代の青年たちも、戦勝世代の立派な精神と気風を受け継いで、党が呼びかける部門に勇躍志願しています。

戦勝世代が血をもって勝ち取った革命の獲得物は強固であり、わが国家、われわれの社会主義偉業は洋々たるものです。

老兵たちが健康で長生きしてくれるだけでも、わが党と人民にとっては無限の力となり、朝鮮革命には大きな鼓舞となります。

偉大な祖国解放戦争勝利68周年に際して、われわれの尊い参戦老兵と戦時功労者の皆さんに今一度心からなる感謝の挨拶を送るとともに、同志たちの健康長寿を謹んで祈ります。

戦勝世代の偉大な英雄精神は永遠に光り輝き、代を継いでしっかり継承されるでしょう。

偉大な戦勝7・27万歳！
偉大なわが祖国—朝鮮民主主義人民
共和国万歳！

金正恩総書記が演説を終えると、再び嵐のような「万歳！」の歓呼の声が大会場を震撼し、花火が上がった。

習近平総書記が、金正恩総書記に答電

2021年7月30日付『労働新聞』によれば、中国の習近平総書記が金正恩総書記に答電を送った。内容は次の通り。

平壤
朝鮮労働党総書記
朝鮮民主主義人民共和国国務委員長
金正恩総書記

金正恩総書記は、中国共産党創立100周年に際して朝早く熱情に満ちる祝電を送って中国共産党が100年間、中国人民を団結させ、導いて収めた歴史的成果を高く評価してくれました。

これは、私自身と中国の党と人民に対する金正恩総書記と朝鮮の党と人民の友情を示すものです。

私は、中国の党と人民を代表して心からの謝意を表し、金正恩総書記と朝鮮の党と人民に心からのあいさつを送ります。

私はこの機会に、金正恩総書記が中国の河南省をはじめ一部の地域で豪雨の被害を受けたことに関連して私に特別に見舞いの口頭親書を送ってくれたことに謝意を表します。

中国と朝鮮はいずれも、共産党が導く社会主義国家です。新しい情勢の下で、中国側は朝鮮側と共に双方が成し遂げた重要な共通認識を立派に履行して中朝関係を立派に守り、立派に強固にし、立派に発展させていくことで、両国での社会主義偉業の遂行に寄与し、両国人民に幸福を与え、地域の平和と安定、発展と繁栄を成し遂げることに積極的に寄与するでしょう。

金正恩総書記が朝鮮の党と人民を導いて社会主義建設偉業の遂行でより新しく大きな成果を絶え間なく収め、活動がスムーズであることを願います。

中国共産党中央委員会総書記
中華人民共和国主席 習近平

朝鮮人民軍第1回指揮官、政治幹部講習会開催

2021年7月30日付『労働新聞』によれば、金正恩総書記の指導のもとで朝鮮人民軍第1回指揮官、政治幹部講習会が同月24日から27日まで平壤市の4・25文化会館で行われた。

朝鮮労働党中央委員会と朝鮮労働党中央軍事委員会は国家防衛力の中枢であり、わが党の革命的武力である朝鮮人民軍の軍事・政治的威力と革命的闘争精神をいっそう向上させ、党中央の重大な軍事戦略・戦術思想と変化した情勢の要求に合致する軍建設方向と方針を軍事・政治幹部に再浸透、体得させるために全軍軍事・政治幹部の大会合を組織した。

建軍史上、初めて開催された今回の講習会は、朝鮮人民軍の各級部隊、連合部隊、大連合部隊を朝鮮労働党の指導を忠実に従う鋼鉄の政治思想強兵、無敵必勝の戦闘隊伍につくり、この荣誉ある課題の遂行で軍事・政治幹部が中核としての責任と役割を果たすように覚醒、奮発させ、鼓舞、激励し、全面的に再武装させることに重点をおいて行われた。

講習会には、朝鮮人民軍各軍種、軍団、師団、旅団、連隊軍事指揮官、政治委員が参加し、朝鮮労働党朝鮮人民軍委員会執行委員会委員と朝鮮人民軍総政治局、朝鮮人民軍総参謀部、朝鮮民主主義人民共和国国防省の幹部が参加した。

金正恩総書記が講習会の開講の辞を述べて1日目の会議を指導した。講習会では報告があった。

クォン・ヨンジン朝鮮人民軍総政治局局長が報告を行った。報告者は、金正恩総書記がわが革命の重大で要の時期に戦勝節に際して全軍の軍種、軍団、師団、旅団、連隊の軍指揮官、政治委員の大規模講習会を催すようにしたことについて言及し、これには金日成同志と金正日同志の不滅の軍指導の業績を代を継いで輝かし、人民軍の中核である指揮メンバーを高い政治意識と革命的な活動作風、気高い道徳品性を身につけた党軍の真の軍事・

政治幹部に準備させようとする崇高な意図がこもっていると述べた。

報告では、党の軍事路線と政策を貫徹するための各級部隊と軍事・政治幹部の活動で現れている主な欠陥とそれを生じさせた原因が具体的に分析された。

報告者は、すべての参加者が党第8回大会決定と重要党会議で提示された政策的課題を体して各級部隊の戦闘力を全面的に強化し、今回の講習会を通じてその実現のための政治的・思想的、軍事実務的準備をいっそう固めることについて強調した。

講習会では討論が行われた。参加者は革命的党軍の軍事・政治幹部としての重大な使命と責任を再び自覚し、部隊強化の経験と教訓の反映された討論を真摯に傾聴した。

講習会の2日目には1日目の会議に続いて討論がおこなわれた。

討論に参加した部隊、連合部隊長、政治委員は、自分の部隊を戦火の英雄戦士たちの崇高な精神を受け継いだ党中央擁護の第一の決死隊に準備させ、一騎当千の鉄拳を練磨し、万端の決戦準備態勢を整えるための活動、軍人生活の改善と大建設戦闘で成し遂げた成果と経験に言及した。

討論では、戦闘・政治訓練と部隊の指揮・管理、軍人に対する教育活動をはじめ軍事・政治活動で現れている欠点が深刻に分析、批判された。

講習会では、党の軍事政策を忠実に支えて戦闘力強化と軍気確立、軍隊生活改善で先頭に立っている模範的な部隊に対する評価があった。

金正恩総書記は、党が打ち出した軍建設路線と方針の貫徹において現時期、人民軍に提起される重大で革命的な闘争課題と講習会で提起された問題に対する綱領的な結語を述べた。

金正恩総書記は結語でまず、建軍史上、初めてとなる全軍的な中堅指揮幹部の大講習を催した趣旨について述べた。

朝鮮人民軍第1回指揮官・政治幹部講習会は、歴史的な朝鮮労働党第8回大会が提示したわが革命武力の最精鋭化、強兵火路線と課題を正確に、徹底的に貫徹するうえで各級部隊の指揮官、政治幹部

の役割を画期的に強めるために組織されたと述べた。

金正恩総書記は、部隊、連合部隊長、政治委員はわが革命武力の根幹を成す中核軍事・政治幹部であり、最高司令部の作戦的企図に従って部隊を直接導いて戦う野戦指揮官、野戦政治活動家であると述べ、指揮官、政治活動家をりっぱに準備させ、絶えず再武装させるのはわが党が軍隊の現代化において一貫して維持する戦略的方針であると述べた。

金正恩総書記は、今回の講習会を戦勝節を選択して催したことに言及し、史上初めての挑戦と試練が重なり、一寸一寸を剛毅な意志と断固たる決断で切り抜けないとばならない、何よりも大事にして、こんにちの現実に再現すべきものが偉大な戦勝の伝統であると述べた。

革命の継承は単に代を継いで譲るものではなく、闘争精神の継承、力強く生きて高鳴る不屈の魂の継承であり、いくら歳月が流れても絶対に薄らいた裏退色されることなくより強烈に連綿と継承すべきものが戦勝世代の偉大な闘争精神であると言明した。

金正恩総書記は結語で、部隊、連合部隊、大連合部隊を強化するための総体的課題を提示した。各級人民軍部隊に提起される総体的課題は朝鮮労働党の偉業に限りなく忠実な不敗の戦闘隊伍につくることであると定式化し、これは各部隊を朝鮮労働党の思想と指導に絶対忠誠、絶対服従する政治・思想集団につくり、すべての作戦と戦闘、部隊管理と指揮官、兵士の軍務生活を朝鮮労働党の政策と方式通りに、党の意図通りに行っていくことを意味すると述べた。

人民軍は党の武装力であるだけに、すべての軍事・政治活動は当然、党の意志と力を表し、党の声と同じであるべきであり、党の要求を実践することになるべきであると強調した。

金正恩総書記は、人民軍の中に党の唯一的指揮体系を確立するための活動で堅持すべき原則的問題と課題について明らかにした。各級部隊で党政治事業と軍事活動のすべての契機と工程を党の思想と権威を擁護し、国家の安全を強化していく過程に確固と一貫させ、党中央の

命令指示を即時に受けとめ、決死の覚悟で貫徹する革命的軍風を徹底的に確立することについて重要に教えた。

金正恩総書記は、指揮官、政治幹部が敵のいかなる軍事挑発にも能動的かつ攻勢的に対処する準備を完成することに総力を集中すべきであると述べ、これは党とわが革命が人民軍に与えた至上の命令であり、だれも代わることができず、指揮メンバーが生命をかけて責任を負うべき焦眉の課題であると強調した。敵対勢力が狂信的で、執ような各種の侵略戦争演習を強化し、わが国家を先制攻撃できる能力を引き続き体系的に拡大し、軍費を増強している現状は、緊張激化の悪循環を根源的に終わらせようとするわが軍隊の決心と闘志をさらに撃発させていると述べた。すべての軍事・政治幹部が党と革命に対する忠実性と活動能力、活動結果を評価してもらう第一の基準は、戦時作戦・戦闘任務を正確に遂行できる準備を完成することにあるということも瞬時も忘れず、部隊の戦闘力強化に最大の拍車をかけることについて言明した。

金正恩総書記は結語で、各級部隊が訓練革命5大方針を堅持して訓練熱風を強く巻き起こす課題と、人民軍軍人により改善された軍務生活条件を保障するうえで提起される方途的問題を詳しく明らかにした。金正恩総書記は、軍隊内で思想教育をより強化する必要性に言及し、社会主義建設に動員された軍人が人民の幸せのための創造者、党に対する人民の信頼の念を守る哨兵、一心団結の城塞を築く一つの城石であるという誇りと自負心を抱くようにするのが重要であると述べた。軍人の中で軍民一致の伝統的美風を高く発揚するための教育活動をよく行って、彼らがいとも人民を実の父母、実の兄弟のように尊敬して愛し、人民の生命財産を命を賭して守るようすべしであると強調した。

金正恩総書記は結語で、軍事・政治幹部の資質と水準、責任性と役割を強めることについて特別に言及した。金正恩総書記は、わが党の願う軍指揮官、政治委員は徹底的に朝鮮労働党化された指揮メンバーであり、これは朝鮮労働党に限りなく忠実な伝統を受け継ぎ、朝鮮労働党に固有の巧みな作風と頑強な戦闘的気質を身

につけた軍事・政治幹部であると教えた。党中央に対する忠実性は革命的党軍人わが人民軍隊の指揮メンバーにとって第一生命、根本徴表になると述べ、部隊、連合部隊、大連合部隊長と政治委員はいかなる逆境と試練に直面しても永遠に自分の党と思想と志、運命を共にし、最後の一滴の血が残る時まで朝鮮労働党とわが革命のために断固と戦う真の信念と信義の人間になり、敵が名前だけを持っても戦慄する思想の強者、有名な勇将になるべきだと述べた。軍事・政治幹部は党第8回大会と党中央委員会総会、党中央軍事委員会拡大会議で提示された軍事・政治課題を一つ、ひとつ検討して寸分の狂いもなく貫徹すべきであり、率先垂範して軍人大衆を力強く奮い立たせるべきであると強調した。

金正恩総書記は、党性と政治意識は人民軍指揮メンバーの品格を規定する基本尺度であると述べ、軍事活動と党政治活動において提起されるすべての問題を党政策的線で正確に分析、判断し、処理することについて、党の思想と政策を熟知して党と呼吸と歩調を一致させるために目的意識的に努めることについて、党組織思想生活に自発的に誠実に参加することについてことこまかく明らかにした。

金正恩総書記はまた、軍事・政治幹部が高い実務的資質と頑強な戦闘的気質を身につけることについて教えた。すべての指揮メンバーが現在の水準と実力の限界点を突破するために血のにじむ努力をし、目標を高く立てて果敢な勇気と奮発力、尽きない熱情と闘志をもって明確な実績をあげていく実践家型の軍事・政治幹部、腕力の強い指揮メンバーになるべきであると述べた。軍事・政治幹部は党が任せた部隊を全軍に有名な部隊、一騎当千の戦闘隊伍につくる野心に満ちる胆力と気質を持ってすべての活動をスケールが大きく設計、作戦し、それを現実化するために限りない犠牲精神、献身的奉仕精神を発揮すべきであると述べた。

金正恩総書記は、軍事・政治幹部が思想的・意志的に、人間的に固く団結して軍・政融合をよく実現すべきであり、革命軍隊の指揮メンバーらしい巧みな作風と高尚な道徳・品性を体質化するために絶え間ない

努力を傾けるべきであると教えた。全軍強化において総政治局と総参謀部、国防省の位置と任務がたいへん重要であると述べながら金正恩総書記は、党中央が人民軍に提示した戦闘的課題を貫徹する方向へ党政治活動と軍事活動を確固と志向、服従させるための方途の問題を明示した。すべての部隊で呉仲洽7連隊称号獲得運動と3大革命赤旗獲得運動をはじめ各種の大衆運動をさらに迫力あるものに押し進めて指揮メンバーと軍人の政治的・思想的準備と精神的・道徳的品格に根本的な改善をもたらし、部隊の戦闘力を全面的に固めることについて強調した。

金正恩総書記は、わが革命武力の光栄に輝く勝利の伝統は党の指導に限りなく忠実な新しい世代の指揮メンバーの不屈の闘争と献身によってのみ立派に継承されて発展すると述べ、すべての軍事・政治

幹部がより奮発して全軍に党中央の唯一的指揮体系を徹底的に確立し、戦争に対処する準備を完成する事業と軍人生活改善に決定的な前進をもたらすとの確信を表明した。

金正恩総書記は結語を終えながら、みんなが嚮導のわが党、朝鮮労働党中央委員会の周りに一心同体となって固く団結して栄えあるわが祖国の安寧と永遠なる富強のために、偉大なわが人民のために、人民軍の強化、発展のために、わが革命の新しい勝利のために力強く闘っていこうと熱烈に呼びかけた。

その後、講習会参加者のための集中講習があった。講習では、戦勝世代の透徹した領袖決死擁護精神に見習って部隊らを党中央決死擁護の結晶体にしっかり固めていく問題、祖国解放戦争時期の人民軍勇士たちが発揮した不屈の祖国防衛

精神と英雄的な戦闘精神にいかなる形態の戦争にも対処できる万端の準備を整える問題、戦勝世代が創造した革命的な闘争気風、生活気風がすべての部隊に溢れるようにする問題が取り扱われた。

出演者は、全軍の軍事・政治幹部が戦火の日々、金日成同志の指導に限りなく忠実だった抗日バルチザン出身指揮官のように、ただ党中央しか知らない思想と信念の強者、党中央を決死擁護する第一護衛兵、党中央の命令と指示を無条件に貫徹する不屈の革命闘士にしっかり準備することについて解説した。

4日目には、金正恩総書記が、朝鮮人民軍第1回指揮官・政治活動家講習会の閉講の辞を述べた。

ERINA 調査研究部主任研究員
三村光弘

研 究 所 だ よ り

ERINA 日誌

- 8月1-4日 アメリカ農業応用学会「AAEA2021年度大会」参加・発表(4日)(オンライン、董研究員)
- 8月3-8日 国際中欧・東欧研究評議会(ICCEES)「2021年度世界大会」参加・発表(6日)(オンライン、志田調査研究部部長代理)
- 8月8日 国際大学「By Alumni, For Alumni: Continuing Education Series」講演(オンライン、エンクバヤル主任研究員)
- 8月17-31日 「IAAE 2021年度大会」参加・報告(オンライン、董研究員)
- 8月22-23日 Great European Foundation with the Support of the Green Economics Institute「3 day Feminist Climate Ambassadors Summer School」出席・講演(オンライン、エンクバヤル主任研究員)
- 8月28-29日 比較経済体制研究会「第40回年次研究大会」報告・参加(オンライン、志田調査研究部部長代理)
- 9月6日 Webセミナー「中国経済の現状と日系企業の動向—米中対立の中で」開催
後援:一般社団法人新潟県商工会議所連合会、新潟経済同友会
(オンライン、亜細亜大学都市創造学部 後藤康浩教授)
- 9月16日 第1回新潟県産農林水産物輸出戦略検討有識者会議出席(新井調査研究部部長)
- 9月22-25日 「2021年日中経済協力会議—於遼寧」【ERINA共催】(オンライン・瀋陽市)
- 9月23日 公益財団法人渥美国際交流財団関口グローバル研究会「『誰一人取り残さない』いかにパンデミックを乗り越えSDGs実現に向かうか—世界各国からの現状報告—」講師(オンライン、三村主任研究員)
- 9月23日 「2021年中関村ハイレベルシンクタンク連盟理事会」出席(オンライン、新井調査研究部部長、李研究主任)
- 9月25日 中関村グローバルハイレベルシンクタンクフォーラム(オンライン、新井調査研究部部長)
- 9月25日 「北東アジア学会第27回学術研究大会シンポジウム」司会(オンライン・ERINA 会議室、三村主任研究員)
- 9月26日 「北東アジア学会第27回学術研究大会」第三企画分科会(大国の地域経済—グローバル化における中規模都市の成長—)報告・座長(オンライン・NICO プラザ会議室、新井調査研究部部長)
- 9月26日 「北東アジア学会第27回学術研究大会」第三企画分科会(大国の地域経済—グローバル化における中規模都市の成長—)報告(オンライン・NICO プラザ会議室、志田調査研究部部長代理)
- 9月27日 2021中関村フォーラム技術移転大会「京津翼国際(日本)新エネルギー分野共同創造と産業連携マッ

チングイベント」参加支援(SnowBiz 株式会社 伊藤親臣社長)

編 集 後 記

1年前の156号(2020年10月)の編集後記を執筆した9月末において、新型コロナウイルス感染者数は世界で累計3千万人、死亡者数は百万人を超えていた。それから1年を経て、2021年10月初頭の感染者数は2億3千万に、死亡者数は5百万人に迫ろうとしている。一方で、世界全体ではワクチンの接種が60億回を超え、予防対策は進んでいるようである。状況は改善しつつあり、国際移動への制限も緩和されようとしていることを受けて、ERINA 所員もまた海外出張への準備にとりかかりつつある。ポストコロナのノーマルな、または新しいノーマルな生活への動きは国内でも世界でも地域差はあれ進んでいる。とはいえ、これほど深刻でありグローバルな重要性をもつコロナ危機の研究はようやく始まったところであり、これからが本番となるだろう。将来的な新しいパンデミックに備えるためにも、その重要性はより大きくなるだろう。本特集号はこの世界的な意義をもつコロナ危機を通してロシア経済をより深く理解しようとした。(S)

発行人 河合正弘
編集委員長 志田仁完
編集委員 新井洋史 安達祐司 新保史恵 高井弘明 土田知美
発行 公益財団法人環日本海経済研究所 ©
The Economic Research Institute for
Northeast Asia (ERINA)
〒950-0078 新潟市中央区万代島5番1号
万代島ビル13階
13th Floor, Bandajjima Building,
Bandajjima 5-1, Chuo-ku, Niigata City
950-0078 JAPAN
Tel: 025-290-5545 (代表)
Fax: 025-249-7550
E-mail: webmaster@erina.or.jp
URL: https://www.erina.or.jp/
発行日 2021年10月20日

禁無断転載

お願い

ERINA REPORT (PLUS) の送付先が変更になりましたら、お知らせください。

ERINA (公益財団法人環日本海経済研究所)

〒950-0078 新潟市中央区万代島5番1号 万代島ビル13階
Tel:025-290-5545 Fax:025-249-7550 E-mail:webmaster@erina.or.jp

<https://www.erina.or.jp>